

萩市文化財保存活用地域計画

令和 6 (2024) 年 11 月

目次

序章 計画作成の概要	4
1 計画作成の背景と目的	4
2 計画の位置付け	5
3 計画の対象	9
4 計画期間	10
5 計画作成の体制と経過	11
6 計画の構成	13
第1章 萩市の文化財を取り巻く環境	14
1 自然的環境	14
2 社会的環境	20
3 歴史的経緯	27
第2章 萩市の文化財保護の取組と萩まちじゅう博物館の実践	36
1 萩市の文化財保護の取組	36
2 萩まちじゅう博物館の取組	39
第3章 萩市の文化財（おたから）	45
1 文化財類型による把握	45
2 萩まちじゅう博物館により認定されたおたからの把握	60
第4章 萩市の歴史文化の特性と萩ものがたり	78
1 萩市の歴史文化の特性	78
2 萩ものがたり	81
第5章 保存・活用に関する将来像	106
第6章 文化財の把握調査に関する方針と措置	109
1 既存の把握調査の概要	109
2 把握調査の現状と課題	117
第7章 保存・活用に関する課題・行動目標・措置	119
1 文化財の保存・活用の課題	119
2 保存・活用に関する行動目標	121
3 行動目標を踏まえた保存・活用に関する措置	124
4 萩ものがたりに関連する保存・活用に関する措置	131
第8章 保存・活用の推進体制	144
1 計画の推進体制	144
2 計画の管理と評価	149
資料編 指定文化財一覧	150
未指定文化財一覧	159

1 計画作成の背景と目的

萩市の文化財の保存と活用は、先達から続く長い蓄積と先駆的な取組の上にあります。その端緒は戦前に遡り、大正時代にはわが地域の文化を守るための保存会が結成されるとともに、当時制定された法に基づき、明治維新に関連する偉人を顕彰する石碑が次々と建立され、これら偉人に関係する遺構などが次々と史蹟に指定されます。

一方、これらを巡る観光を萩の産業として活用しようという動きも早く、昭和に入ると萩市観光協会が発足し、昭和10（1935）年には萩市史蹟産業大博覧会が開催され、萩は史蹟観光の町として定着します。

戦後もこの流れは受け継がれ、その対象を城下町や街道沿いにも広げながら各種の文化財指定が続きました。その一方で、日本が高度経済成長期を迎える中、萩の町並みに日本の原風景が見出され、開通した新幹線のキャンペーンや創刊した女性ファッション誌によりこのイメージが全国に流布し、萩は一大観光地として全国に知られるようになりました。そして、この町並みを開発から守るために昭和47（1972）年に萩市歴史的景観保存条例を制定し、全国の先駆的な歴史都市とともに文化財保護法の改正による伝統的建造物群保存地区制度の創設をリードし、全国最初の地区選定を受けました。

こうした文化財の保存と活用に取り組む中で、萩には萩城下町を中心に市内全域に指定等を受けたものの以外にもたくさんの文化財が生活の中で息づいています。これら有形・無形の全ての文化財を「おたから」として把握し、官民が一体となって保全し、まちづくりに活かす活動として、平成16（2004）年から「萩まちじゅう博物館」に取り組んでいます。また、平成27（2015）年に萩反射炉等萩市の5資産を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産への登録を果たしました。さらに、平成30（2018）年には萩市、阿武町の全域と山口市阿東地域で構成される萩ジオパークが日本ジオパークに認定されました。

この間、日本社会は大きな転換期を迎え、萩市も人口減をはじめ多くの社会構造的な課題を抱えるようになりました。その一方で、観光資源としての活用や地域コミュニティの再生など、地域社会での文化財の保存と活用への期待はますます大きくなっています。こうした状況の中、平成30（2018）年に文化財保護法が改正され、文化財の保存・活用に関するマスタープランとアクションプランの両方の役割を担う「文化財保存活用地域計画」の制度が確立されたことから、今後の萩の文化財の保存と活用を萩のまちづくりの根幹に位置づけるための総合的な方針を定め、具体的な事業や施策等の措置を示した「萩市文化財保存活用地域計画」（以下、「地域計画」という。）を作成しました。

2 計画の位置付け

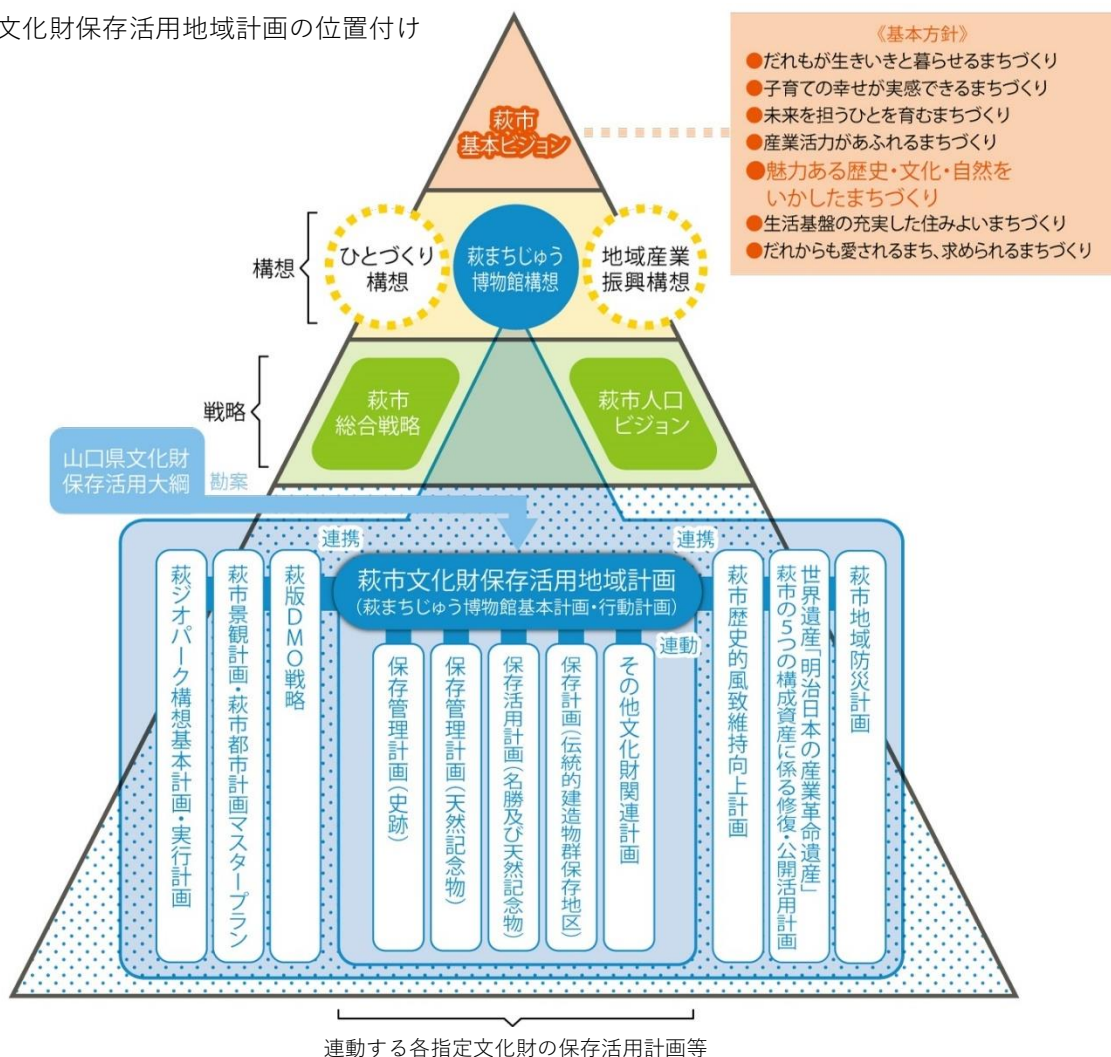
(1) 萩市文化財保存活用地域計画の位置付け

本計画は、文化財保護法第183条の3に定める「文化財保存活用地域計画」であり、萩市の政策体系の最上位に位置付けられる「萩市基本ビジョン」、特に7つの基本方針の1つである「魅力ある歴史・文化・自然をいかしたまちづくり」に関わる計画です。

そして、本計画は、萩市内の文化財の保存及び活用に関する総合的な計画であるとともに、「萩市基本ビジョン」を支える3つの構想の1つである「萩まちじゅう博物館構想」の基本計画・行動計画として位置づけます。つまり、文化財の保存及び活用を通じて「萩まちじゅう博物館構想」の基本理念である「萩の“おたから”を活かした協働によるまちづくり・観光地づくり」を実現するための、中長期的なマスタープランと具体的なアクションプランとして一体的な運用を行います。

一方、本計画は、「萩市基本ビジョン」のもと、萩市が目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示する「萩市人口ビジョン」、これを踏まえて萩市の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた第2期「萩市総合戦略」の内容を反映させた計画として、萩市全体の施策の中に位置づけます。

▽ 萩市文化財保存活用地域計画の位置付け



以上を踏まえた上で、本計画は、山口県が令和 2（2020）年 3 月に策定した「山口県文化財保存活用大綱」を勘案し、萩市歴史的風致維持向上計画（第 2 期）、萩版DMO戦略等の関連計画と連携を図りつつ、各種文化財の個別計画の上位計画として全体を束ねます。

（２）上位計画・関連計画の概要

① 市の行政計画

ア 主要構想

計画名	概要
萩まちじゅう博物館構想	● まち全体を屋根のない博物館と見立て、広く存在する歴史や自然などの“おたから”を保存・活用して、萩市のまちづくり、観光地づくりを推進していくための指針となるもの。萩市基本ビジョンを支える 3 つの構想の 1 つ。 ● 基本理念を「萩の“おたから”を活かした協働によるまちづくり・観光地づくり」とし、基本方針として「おたからの再発見・保存・活用・魅力発信」「おたからを通じた多様なコミュニティの形成・活動の推進」「おたからを活かした経済活動の推進」「おたからを活かす人材の育成」の 4 つを掲げる。
	〈計画期間〉令和 2（2020）年度～令和 9（2027）年度（8 年間）

※本計画は、萩まちじゅう博物館構想の基本計画・行動計画として位置づける。

イ 上位計画

計画名	概要
萩市基本ビジョン	● 萩市の将来像やまちづくりの方向性を市民と共有し、市民と行政が一体となって進めるまちづくりの指針。市の政策体系において最上位に位置付けられる計画で、各分野にわたる各種計画の基本となるもの。 ● めざすまちの姿を「暮らしの豊かさを実感できるまち」と設定。令和 9（2027）年の目標は「社会増減のマイナスを 100 人以内」「出生数を 200 人以上」。 ● 「萩まちじゅう博物館構想」など 3 つの構想が萩市基本ビジョンを支えているほか、基本方針として、「魅力ある歴史・文化・自然をいかしたまちづくり」のほか、7 つの方針を掲げる。
	〈計画期間〉平成30（2018）年度～令和 9（2027）年度（10年間）
萩市総合戦略（第 2 期） 萩市人口ビジョン	● 本戦略は萩市基本ビジョンにおいて、多岐にわたる政策と具体的な目標・取組を掲げた基本的計画として位置付けられ、また、まち・ひと・しごと創生法第 10 条に基づく萩市の地方創生に関する基本的な計画である。 ● 萩市基本ビジョンの 7 つの方針に沿って基本目標と具体的な施策、及び目標実現のための K P I が設定されており、P D C A サイクルのもと進行管理を実施している。 ● 人口ビジョンは、本市における人口の現状と将来の展望を提示するもの。
	〈計画期間〉令和 2（2020）年度～令和 6（2024）年度（5 年間）

ウ 連携計画

計画名	概要
萩市歴史的風致維持向上計画（第2期）	● 萩市における歴史的風致の維持・向上を図るための計画で、歴史まちづくり法により国から認定されている。歴史的風致とは、「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義される。 ● 萩市が維持・向上すべき歴史的風致として、（1）祭礼等城下の町内（まちうち）における歴史的風致（2）夏みかんに関わる歴史的風致（3）明治維新に関わる歴史的風致（4）茶道にみる歴史的風致（5）漁とその加工に関わる歴史的風致（6）萩市内の民間信仰に関わる歴史的風致 以上6つを設定。重点区域を定めた上で歴史的風致の維持向上に向けた取組をとりまとめている。 〈計画期間〉平成31（2019）年度～令和10（2028）年度（10年間）
世界遺産「明治日本の産業革命遺産」萩市の5つの構成資産に係る修復・公開活用計画	● 平成27（2015）年7月に開催された第39回ユネスコ世界遺産委員会において、萩市の5つの構成資産を含む「明治日本の産業革命遺産—製鉄・製鋼、造船、石炭産業—」が世界遺産に登録された。 ● 本計画は、構成資産の確実な保存と持続可能な活用を目指して、構成資産ごとに望ましい将来像を描き出し、その実現に向けた修復及び公開活用の方針と実施する事業を明示したもの。 〈策定〉平成30（2018）年
萩版DMO戦略	● 萩市観光協会は、地域の稼ぐ力を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役となる「日本版DMO」法人に登録された。 ● 本戦略では、「萩まちじゅう博物館で体感する ゆったり、じっくり観光」を取組方針とし、「萩発!! 情報発信力強化」「萩ブランド力の向上」「おもてなし力の高揚」の3つの経営方針と、「観光情報の発信強化」「萩まちじゅう博物館構想の推進」「外国人観光客の誘致拡大に向けた受入環境整備とプロモーション」「新たな観光プロダクトの発掘と磨き上げ」の4つの重点戦略を掲げている。 〈策定〉平成30（2018）年
萩市景観計画	● 景観計画区域及び景観形成方針並びに建築物や工作物の景観形成基準（高さ、形態、意匠、色彩等の基準）を定めることを役割とする計画。景観計画区域内で施主が建築物や工作物を建設する場合は、景観計画に定める景観形成基準に適合させる必要がある。 ● 萩市では、市域全域を重点景観計画区域と一般景観計画区域に分けて運用。重点景観計画区域には堀内地区、平安古地区、浜崎、佐々並市の伝統的建造物群保存地区や藍場川周辺の歴史的景観保存地区等 18箇所を指定し、一般景観計画区域は、市域のうち重点景観計画区域を除く全域としている。 〈策定〉平成19（2007）年 ※平成31（2019）年改訂

計画名	概要
萩ジオパーク構想 基本計画・実行計画	● 萩ジオパーク構想推進協議会は、平成 27（2015）年 4 月に設立し、萩市及び阿武町の全地域並びに山口市阿東地域でジオパーク活動を展開。 ● 本計画は、萩の大地でジオパークを展開する上での、目指すべき将来像とそれを実現するための活動の目標を掲げたもの。萩ジオパーク構想の将来像は、『地球の視点で「萩らしさ」が”見える”・”伝わる”まち』にすることとし、地球目線で「知る」「守る」「創る」「伝える」「繋がる」の 5 つで新たな価値観を創造する活動を行うこととしている。
	〈策定〉平成29（2017）年 ※実行計画は 4 年ごとに見直し
萩市都市計画 マスタープラン	● 本計画は、長期的な視点に立った都市の将来像や土地利用の方針を明らかにした「萩市の都市計画に関する基本的な方針」を示したもの。 ● 概ね 20 年後の都市像を展望して定めた方針であり、今後の社会経済情勢の変化を踏まえて概ね 10 年後に見直しを行うこととしている。
	〈策定〉令和 5（2023）年 3 月改訂 〈計画期間〉令和 5 年～令和 25（2043）年（20 年間）

エ 連動する各指定文化財の保存活用計画等

計画名
【保存管理計画（史跡）】 ● 史跡萩城跡、史跡萩城城下町、史跡木戸孝允旧宅保存管理計画 ● 史跡大板山たたら製鉄遺跡保存管理計画 ● 史跡恵美須ヶ鼻造船所跡保存管理計画 ● 史跡萩反射炉保存管理計画 ● 史跡松下村塾・史跡吉田松陰幽囚ノ旧宅保存管理計画 ● 史跡萩藩校明倫館保存活用計画 ● 史跡萩藩主毛利家墓所保存活用計画 【保存管理計画（天然記念物）】 ● 国指定天然記念物見島ウシ産地保存管理計画 【保存管理計画（名勝及び天然記念物）】 ● 須佐湾の保存管理計画 【保存計画（伝統的建造物群保存地区）】 ● 萩市堀内地区伝統的建造物群保存地区保存計画 ● 萩市平安古地区伝統的建造物群保存地区保存計画 ● 萩市浜崎伝統的建造物群保存地区保存計画 ● 萩市佐々並市伝統的建造物群保存地区保存計画

② 県の行政計画

計画名	概要
山口県文化財 保存活用大綱	● 県、市町、所有者等が相互に理解を図りながら、地域全体で同じ方針のもとに保存・活用に取り組む共通の基盤として大綱を作成。 ● 目指すべき将来像を「地域の伝統・文化の象徴である文化財が、まちづくりや地域活性化などに生かされながら後世に守り伝えられ、地域の伝統・文化を醸成していく。」と設定。また、保存・活用の3つの方針や、保存・活用を図るために講ずる措置として「1 文化財の調査・研究、指定等」「2 文化財の修理・整備への支援」「3 文化財継承の担い手の確保」「4 教育・人材育成」「5 効果的な情報発信」「6 地域活性化につながる効果的な活用」を定める。
	〈策定〉令和2（2020）年度

3 計画の対象

（1）対象とする地域

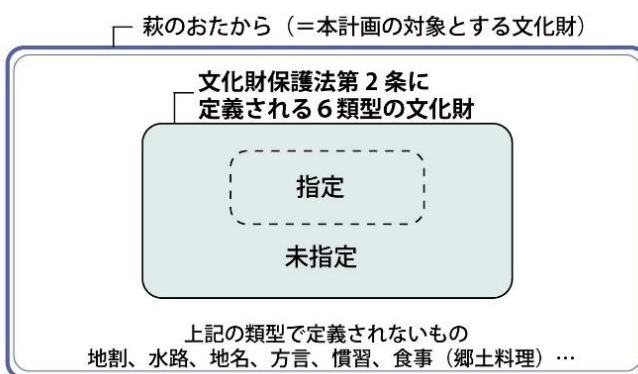
本計画が対象とする地域は、平成17（2005）年の合併により誕生した萩全域、（旧萩地域、川上地域、田万川地域、むつみ地域、須佐地域、旭地域、福栄地域）とします。

（2）対象とする文化財

本計画で対象とする文化財とは、文化財保護法（昭和25年法律第214号）第2条に定義されている、文化財の6類型（①有形文化財、②無形文化財、③民俗文化財、④記念物、⑤文化的景観、⑥伝統的建造物群）及び同法で保護の対象となっている土地に埋蔵されている文化財（埋蔵文化財）や文化財を次世代へ継承する上で欠かせない文化財の保存技術（選定保存技術）などの文化財の体系を基本とします。

これに加え、本市の掲げる萩まちじゅう博物館構想に基づき、上記の体系から零れ落ちる、例えば地割、水路、地名、方言、慣習、食事など①萩に由来する本物であること、②一定の間、継承されてきたものであること、という2つの要件を満たしたものも含めて萩の「おたから」と総称し、本計画の対象とする文化財の範囲とします。

なお、「おたから」については、「第3章 2（1）



△ 対象とする文化財の概念

萩の「おたから」とは」（60頁参照）で詳述します。

4 計画期間

- 本計画の計画期間は、令和 6（2024）年度から令和 15（2033）年度までの 10 年間とします。
- 上位計画である萩市基本ビジョンや萩まちじゅう博物館構想、萩市総合戦略の改定や社会情勢等の変化に対応し計画の見直しが必要な場合は、適宜見直しを行うものとします。
- 計画の変更、進捗管理、自己評価、認定の取り消し等について

①計画期間の変更

②市町村の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更

③地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更

こうした場合には、文化庁長官の変更認定を受けます。上記以外の軽微な変更を行った場合、当該変更の内容について山口県及び文化庁へ情報提供します。

▽計画期間と見直しの時期

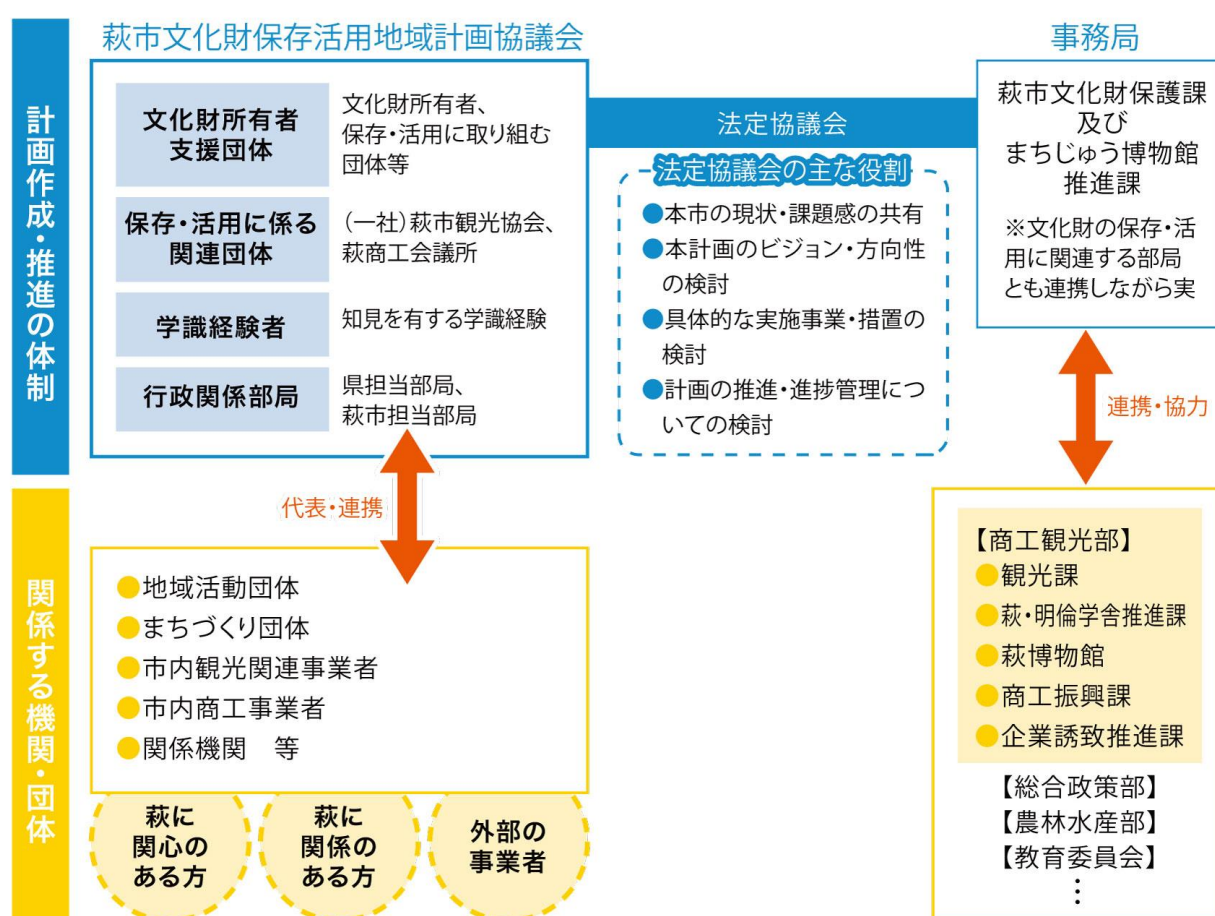
(年度)	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033			
萩市基本ビジョン	計画期間										次期計画					
萩まちじゅう博物館 構想	計画期間										次期計画					
第 2 期萩市総合戦略	計画期間				第 3 期計画					第 4 期計画						
萩市文化財保存活用 地域計画				計画期間										次期計画		
											適宜見直し					

5 計画作成の体制と経過

(1) 作成協議会の設置

- 市内の文化財所有者や文化財の保存・活用に取り組む団体、文化財の保存・活用に係る学識経験者、博物館の学芸員、観光や商工業の振興に関わる団体、県や萩市の担当部局等の団体を構成員とする「萩市文化財保存活用地域計画協議会」を設置し、意見交換・意見聴取をし、本計画を作成しました。
- 計画作成に係る事務局は商工観光部文化財保護課及びまちじゅう博物館推進課が担当し、文化財の保存・活用に関わる他部署、他課とも連携しながら課題・方針・措置の整理等の業務を行いました。

▽体制図



併せて、萩市の文化財の保存・活用に関する事項について調査・審議する「萩市文化財保護審議会」において、本計画について意見を聴取しました。

（２）計画作成に係る主な手法

▽計画作成に当たり実施した主な手法

	項目	内容
①	市実施業務の評価・整理	市が実施してきた文化財の保存・活用に係る業務の評価・整理を行う。
②	調査結果・史料等の整理・再編集	萩市の文化財に係るこれまでの調査結果や史料等を把握・整理し、歴史文化の特性についてまとめる。
③	各種団体へのヒアリング	文化財の保存・活用に取り組む団体の活動や課題と感じていること、今後の方向性等を把握するためのヒアリングを行う。
④	ワークショップ	文化財の保存・活用を実践している、または、興味のある事業者・団体・個人等を対象に、文化財の保存・活用の方針や講ずべき措置について意見交換を行う。
⑤	WEB アンケート調査	市内及び近隣市町、県内、近隣県在住者を対象に、萩市の文化財に対する関心度やイメージ等を把握する。

（３）計画作成の経過

- ・ 令和 5（2023）年 1 月 31 日 第一回 萩市文化財保存活用地域計画協議会
- ・ 令和 5（2023）年 3 月 29 日 第二回 萩市文化財保存活用地域計画協議会
- ・ 令和 5（2023）年 8 月 8 日 第三回 萩市文化財保存活用地域計画協議会
- ・ 令和 6（2024）年 2 月 20 日 第四回 萩市文化財保存活用地域計画協議会

- ・ 令和 4（2022）年 7 月 29 日 令和 4 年度 第一回萩市文化財保護審議会
- ・ 令和 6（2024）年 3 月 26 日 令和 5 年度 第一回萩市文化財保護審議会

6 計画の構成

本計画の構成は以下のとおりです。

▽計画の構成

中長期的なマスタープラン
(萩まちじゅう博物館構想 基本計画)

具体的なアクションプラン
(萩まちじゅう博物館構想 行動計画)

推進体制

序章 計画作成の概要

- 1 計画作成の背景と目的
- 2 計画の位置付け
- 3 計画の対象
- 4 計画期間
- 5 計画作成の体制と経過
- 6 計画の構成

第1章 萩市の文化財を取り巻く環境

- 1 自然的環境
- 2 社会的環境
- 3 歴史的経緯

第2章 萩市の文化財保護の取組と萩まちじゅう博物館の実践

- 1 萩市の文化財保護の取組
- 2 萩まちじゅう博物館の取組

第3章 萩市の文化財（おたから）

- 1 文化財類型による把握
- 2 萩まちじゅう博物館により認定されたおたからの把握

第4章 萩市の歴史文化の特性と萩ものがたり

- 1 萩市の歴史文化の特性
- 2 萩ものがたり

第5章 保存・活用に関する将来像

第6章 文化財の把握調査に関する方針と措置

- 1 既存の把握調査の概要
- 2 把握調査の現状と課題

第7章 保存・活用に関する課題・行動目標・措置

- 1 文化財の保存・活用の課題
- 2 保存・活用に関する行動目標
- 3 行動目標を踏まえた保存・活用に関する措置
- 4 萩ものがたりに関連する保存・活用に関する措置

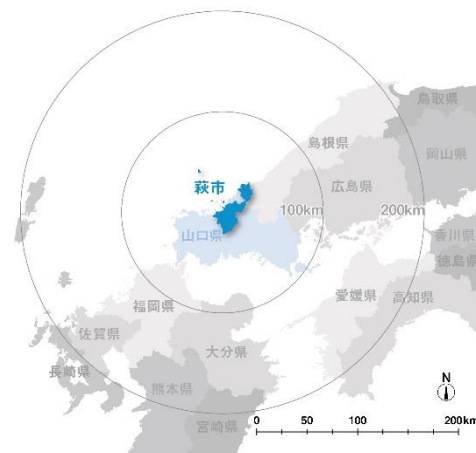
第8章 保存・活用の推進体制

- 1 計画の推進体制
- 2 計画の管理と評価

第1章 萩市の文化財を取り巻く環境

本章では、萩市の文化財が存在する前提として、これらを取り巻く自然的、社会的な環境という同時代的な観点と、これらが辿ってきた経緯という歴史的な観点から概説します。

なお、萩市の文化財又は文化財を理解する上で関連の深い事項について、**太文字**で示しています。



萩市位置図

1 自然的環境

(1) 位置

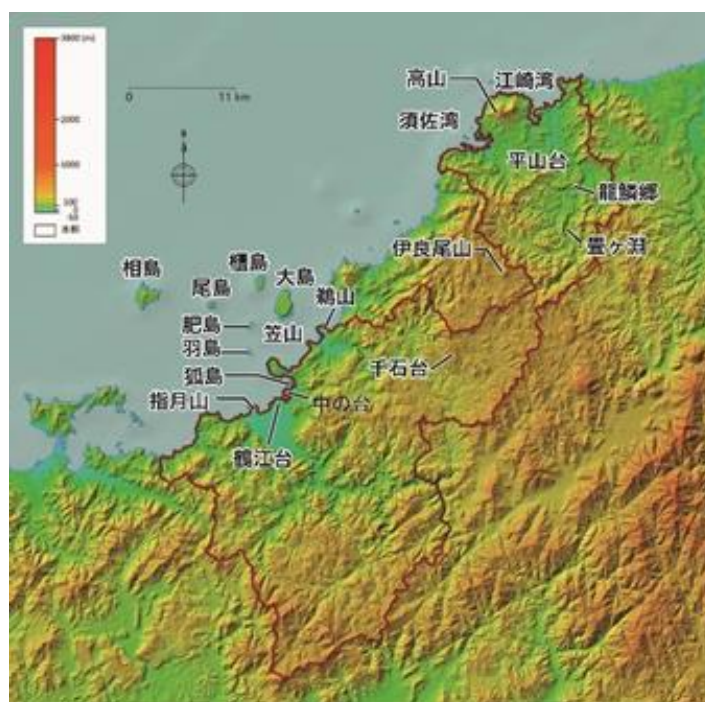
萩市は、山口県の北部に位置し、総面積は698.31km²で、県土の11.4%に当たります。市域は日本海に沿って南西から北東にかけて、東西40km、南北50kmに展開し、西側では長門市と美祢市に、南側では山口市、東側では島根県益田市と津和野町に接し、北部の日本海側では阿武町を取り囲むかたちで接しています。沖合には本土から約45kmの距離にある見島をはじめ、**大島**、**相島**、**櫃島**、**羽島**、**肥島**、**尾島**の六つの平らな火山島（**萩六島**）が点在しています。



畳ヶ淵の柱状節理

(2) 地形

萩市は、兵庫県から山口県を連なる中国山地の西端部に位置し、一帯には200mから500m程度の比較的起伏の小さい山地が、南側の市境界付近には標高600mを超える山々が連なっています。かつては火山活動の活発な地域であり、阿武町の南側からむつみ・福栄地域を経て萩沖の島々へと至る**阿武単成火山群**が存在し、この活動によって山間部では随所に溶岩台地が形成され、沿岸部においては笠山などの陸繋島を形成し、日本海に至っては**萩六島**を形成しています。また、田万川・須佐地域では、阿武町にある**伊良尾山**の噴火によって流れ出た一連の溶岩流は「龍が通った道」と呼ばれ、小川の**龍鱗郷**や弥富の**畳ヶ淵**では、それらが冷え固まる過程でできた柱状節理が広がる独特の景観を生み出しています。また、**千石台**や**平山台**など随所で台地を形成するとともに、その周辺では谷底平野が広がり、豊かな農の基盤となっています。



萩市の地形（国土地理院数値地図から作成）

こうした山がちな地形が、かつての海面上昇により海に沈んだため、沿岸部には断崖が続き、阿武川河口の萩三角州や三見川、大井川、須佐川、田万川などの河口に沖積平野があります。このうち、東側の萩三角州から大井にかけては、指月山を除き、阿武単成火山群により形成された鶴江台、中ノ台、狐島、笠山、鵜山などの陸繋島により出入りの多い複雑な海岸線を形成しています。また、西側の須佐湾から江崎湾にかけては、かつてマグマの隆起でできた高山の影響により生じた複雑な地形が海に沈んだために、岬や入江が入り組んだ複雑な海岸線を形成し、特に須佐湾一帯は国の名勝及び天然記念物に指定されています。



笠山から見た日本海に浮かぶ島々 左から相島、羽島、尾島、肥島、櫃島、大島

(3) 水系

萩市は、北側が日本海に面しているため、分水嶺を越える一部を除いて、いずれの河川も支流を束ねつつ北流して日本海に注ぎます。流域は西から三見川、庄屋川、大井川流域で構成され、阿武町を挟んで東はまてかた川、江津川、田万川流域で構成されます。

このうち最大の流域面積を誇るのが阿武川で延長82.2 km、流域面積694.8km²に及び、南接する山口市徳佐を源流として、山口市の生雲川、むつみ地域の蔵目喜川、旭地域の佐々並川、明木川などを集めて流れ、河口では松本川と橋本川に分岐し、萩城下町を育んだ三角州を形成します。また、流域のうち川上地域から山口市にかけての岩壁が切り立つ渓谷は、萩出身の画家である高島北海によって長門峡と命名され、国の名勝に指定されています。



阿武川



大井川



田万川

これに次ぐのは大井川で、延長 36.4 km、流域面積 122.0 km²です。大井川は隣接する阿武町の福田や宇生賀を源流とし、福栄地域の紫福^{しふき}を流れつつ**福井川**などの支流を束ね、河口では比較的広い沖積平野を形成したことから古代より阿武地域一帯の中心として繁栄しました。

一方、阿武町を挟んで東には延長28.9km、流域面積122.5km²の**田万川**があります。田万川は隣接する阿武町の福田や須佐地域の弥富を源流に**平山台**などを迂回するように流れつつ**鈴野川**などの支流を束ね、日本海に流れ込みます。なお、**須佐湾**に注ぐ**須佐川**と**江崎湾**に注ぐ**江津川**は、それぞれ独立した流域を持つ河川です。

以上の**阿武川・大井川・田万川**の3つの河川の流域で、萩市総面積の大半を占め、それぞれの流域ではこれらの河川を通じて、同じ生活圏を形づくっていました。

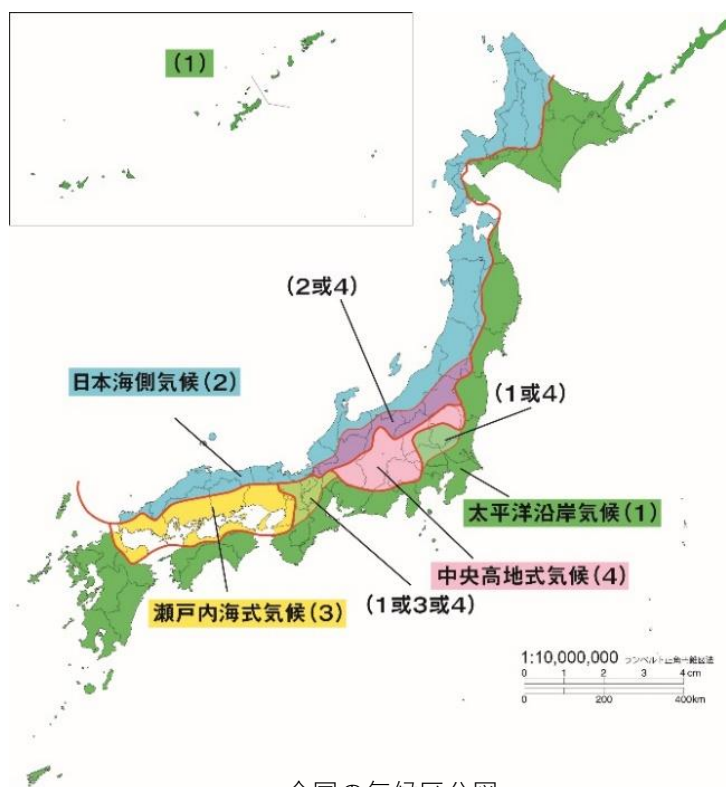
◆POINT◆ わたしたちの暮らしに繋がる大地の歴史

火山に育まれた萩の大地は肥沃な土壌で、トマトや大根、玉ねぎにスイカ、果実など、少量多品種の農作物が栽培されています。「萩ごぼう」「萩にんにく」といった萩の伝統野菜や、萩の特選ブランド肉「長萩^{ちやうしやう}和牛」「むつみ豚」の生産もあります。また、豊富な湧水による米栽培により、萩では酒づくりも盛んです。漁業も海底に沈んだ火山や溶岩が複雑な地形を形成することで、天然の好漁場となり、萩のブランド魚である「瀬つきあじ」「けんさきいか」「よこわまぐろ」のほか、のどぐろや金太郎など様々な魚介類が高い水揚げ量を誇っています。

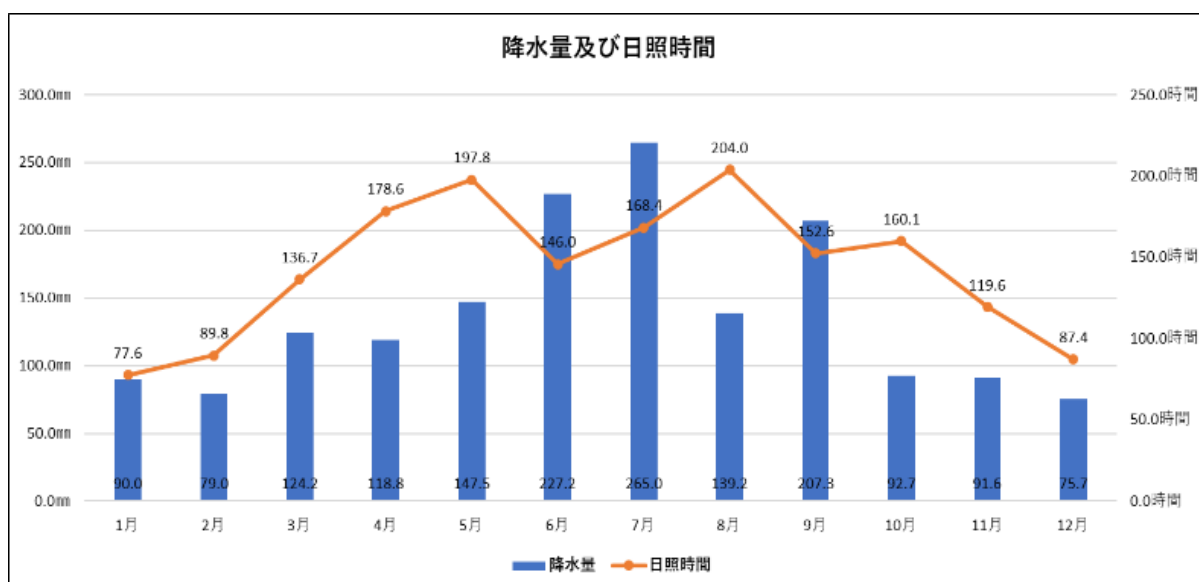
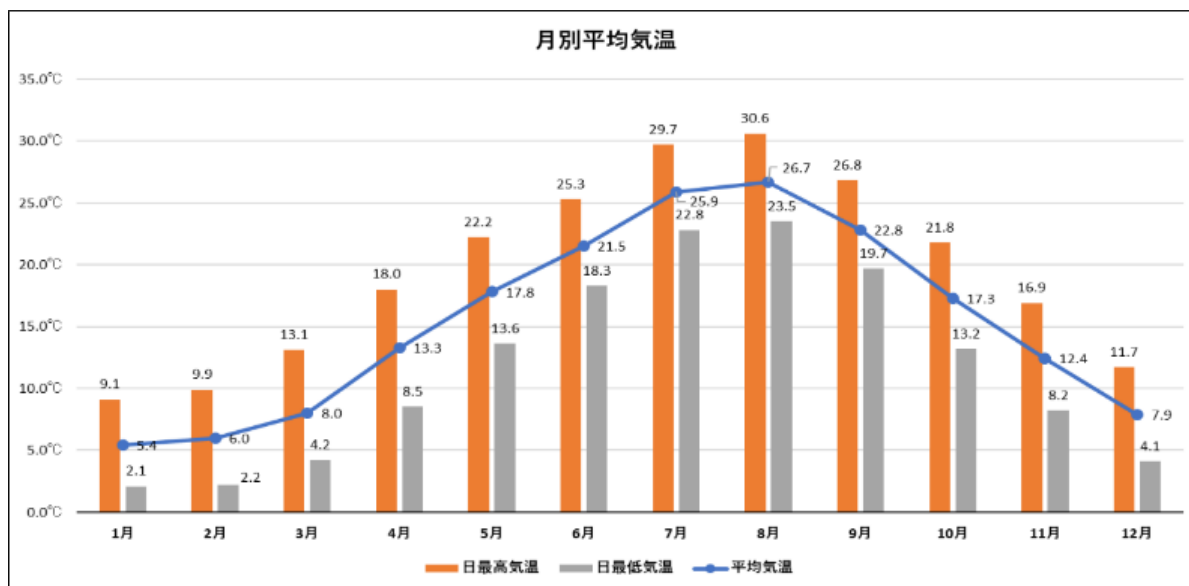
こうした山と海の幸に恵まれた萩では、萩城下の武家や商人、また農漁村に住まう人々に親しまれた郷土料理と家庭料理がたくさんあります。

(4) 気候

萩市の気候は、日本海側気候に分類され、冬には北西の季節風が卓越し、曇天の日が多くなり日照時間が少ないところに特徴があります。ただし、北陸から山陰東部のように日本海の湿った空気の流れ込む地域とは異なり、島根県石見地方から萩市にかけては、朝鮮半島が迫り、海域が狭いことから積雪量も少なく、かつ対馬暖流の影響も受けるため比較的温暖であり、九州北部と類似した傾向を示します。山間部に入るに従い、やや気温も下がり、積雪量も多くなります。年間を通じた平均気温は15～16度、年間の累計降水量は1,800～2,000mmです。



全国の気候区分図



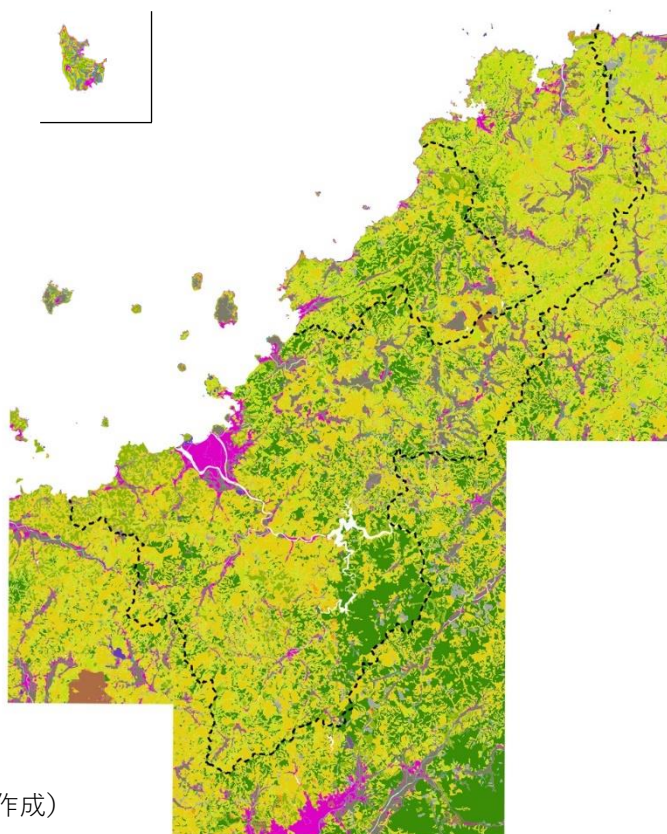
年間の気温、降水量（「気象庁のデータ：S56～H22」の数値を基に作成）

（５）植物

萩市は、市域の約81%、面積にして56,411haが森林に覆われています。原植生はシイ類・**タブノキ**・**カシ**類などが優占する常緑広葉樹林でしたが、先史以来の人間の生産活動により山地では**アカマツ林**、**コナラ林**、**マダケ林**などが卓越し、大井や萩三角州の海岸には**クロマツ林**も見られます。林種別には人工林が約41%、天然林が約55%、竹林が約4%を占めます。

一方において、一部の御立山や社寺林では、歴史的に伐採が制限されたため常緑広葉樹林が残り、巨樹も多く存在します。特に**指月山**は、原植生が良く残され極相を示す成熟した森林であることから国の天然記念物に指定されています。この他、**笠山**には約60種約25,000本の**ヤブツバキ**が自生し萩市の天然記念物に指定されている他、**コウライタチバナ自生地**が国の天然記念物の指定を受けています。また、かつては旧城下町とその周辺では、近代以降の萩の一大産業となった**夏みかん畑**が広がっていましたが、近年は面積が減少したものの萩の風物として親しまれています。なお、市の木は**ヒノキ**と**マツ**、市の花は**ツバキ**と**ハギ**、市の果樹は**ナツミカン**です。

- 01常緑針葉樹林
- 02常緑広葉樹林
- 03落葉広葉樹林
- 04植林地
- 05低木地
- 06湿地・河辺林
- 07草地等
- 08耕作地
- 09市街地



萩市の植生（萩市林政課作成）



菊ヶ浜の松林



ツバキ群生林



夏みかん畑

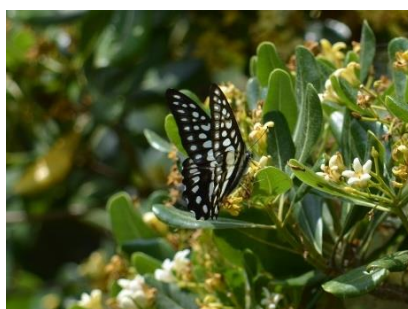
（６）動物

萩市は比較的温暖で豊かな植生に恵まれているため、陸上にはニホンイノシシやニホンノウサギなどの哺乳類、カワセミやシジュウカラなどの鳥類、アオダイショウやニホントカゲなどの爬虫類などが山林や森に広く生息しています。モリアオガエルやギフチョウなどは、萩市を含む山口県が関門海峡によって九州から隔てられた本州の西端にあるため、萩市辺りが分布の西限となります。指月山のミカドアゲハや見島^{ひびき}日崎のタダムシオイは、萩市の天然記念物に指定されています。萩市中心部から東部の山林の水環境に生息するアブサンショウウオは、名称に「アブ」（阿武）が冠せられるように萩・阿武地域固有の両生類です。また、豊かな溪流環境で知られる長門峡は、ルーミスジミという希少なチョウの国内有数の産地となっています。このように、萩市のいくつかの場所においては個性的あるいは独自の動物相が築かれていることも特筆されます。

萩沖の海に目を移すと、瀬や岩礁には「瀬つきあじ」として知られるマアジが、また、沖合の砂底にはアカアマダイやマフグなど萩のブランド魚をはじめとする魚介類が生息する豊かな漁場が形成されているほか、対馬暖流の影響でクロマグロやシュモクザメなども回遊してきます。冬期には浅い層が冷やされ、深い所との間で循環が起こってリュウグウノツカイやダイオウイカなど珍しい生物が沿岸に出没することがあります。さらに、萩沖の見島は、二枚の殻をもつ巻貝として知られるユリヤガイが日本で初めて生きた状態で発見された地として知られています。



アブサンショウウオ



ミカドアゲハ



ユリヤガイ（殻長5mm）

◆POINT◆ 豊かな萩の海のしくみ

萩の海の豊かさを作り上げている理由は大きく分けて2つあります。

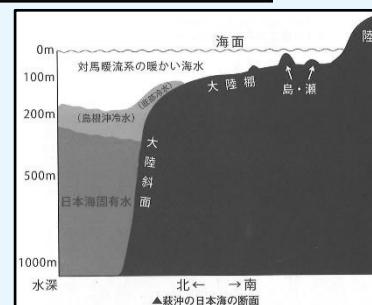
1つ目は、萩が日本海の南の出入り口近くに位置しているため、南の海から様々な生物を運んでくる対馬暖流の影響を受けやすい環境にあることです。

2つ目は、萩辺りの海底は浅くて平たい大陸棚になっており、その上に多数の島や瀬が散在していること。そこへ川を通じて付近の山地の栄養分が流れこむだけでなく、島や瀬のまわりに生じる潮流が水をかき混ぜるためプランクトンが発生し、それらはさまざまな魚介類の餌になっています。こうした理由により、萩の海には数千種類もの生物からなる巨大な生態系が形成されていると考えられています。

堀成夫『萩沖の魚たち（春・夏編）』萩ものがたり vol. 10、2006年



対馬暖流の流路



2 社会的環境

(1) 市域とその沿革

現在の萩市域及び阿武町域は、近世以前は長門国の西部を形成していました。近世に入り、萩城下町が建設され、萩藩の藩都として位置づけられます。萩藩は町奉行が治める城下町以外の在方は、^{さいばん}宰判と呼ばれるエリアを設定し、それぞれに勘場と呼ばれる代官所を置いて統治を行いました。萩市域は、萩城下町周辺から旭地域、川上地域は^{とうじま}当島宰判、むつみ地域から福栄地域、須佐地域、田万川地域は**奥阿武宰判**、浜崎と沖合の六島と沿岸の六浦は**浜崎宰判**に属していました。それぞれの宰藩内はいくつかの小村で構成され、これが一つの共同体として、現在でも行政区などに引き継がれています。

その後、藩制が廃止され、明治5（1872）年の大区小区制を経て、明治21（1888）年に市町村制が施行され、近世の萩城下町を母体として萩町が、宰判を構成した村を母体として各村が誕生しました。その後、いくつかの合併や昭和7（1932）年に萩市制が敷かれるなどの変化がありましたが、昭和30（1955）年の市町村合併（昭和の大合併）により、萩市、田万川町、須佐町、むつみ村、**福栄村**、**川上村**、**旭村**に集約されました。そして、この1市2町4村が平成17（2005）年に合併し、現在の萩市が誕生します。

◆POINT◆ 近世から今に残る行政区と多彩な文化

近世、萩城下町が建設された際に設定された宰判は、いくつかの小村で構成されていました。これらの小村は、一つの共同体として、現在でも行政区などに引き継がれています。また、日本海側の萩市、田万川町、須佐町、山間部のむつみ村、福栄村、川上村、旭村が合併したことで、萩市内には海側山側の多彩な文化が残っています。

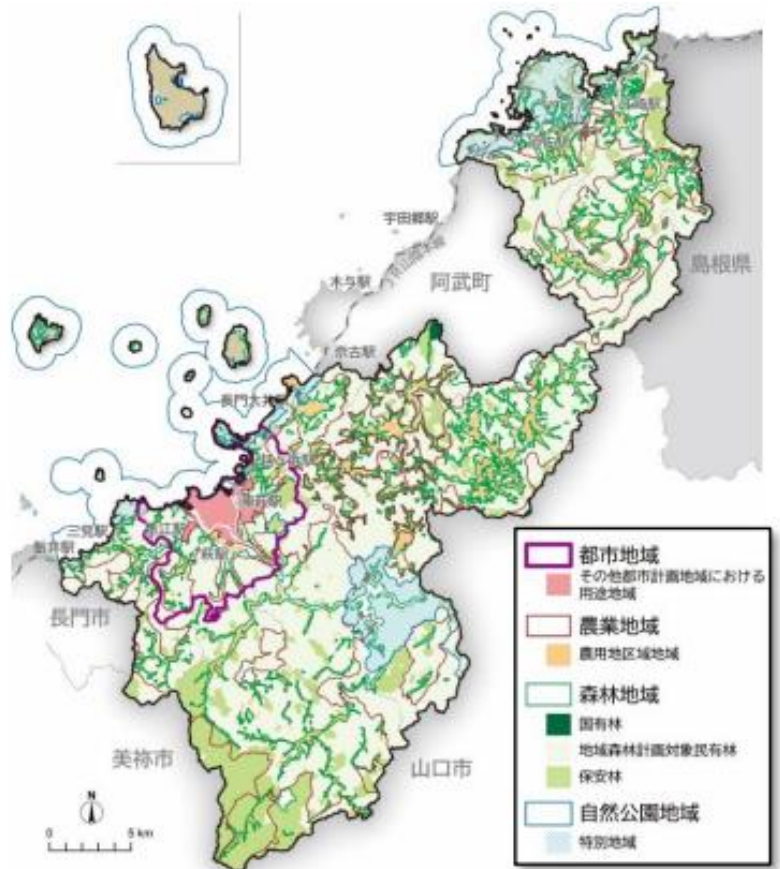
（２）土地利用と交通

萩市の土地利用は、市域の総面積698.31km²のうち、35,041haが山林で全体の81.8%を占め、田の利用が3,950ha（9.2%）、畑の利用が1,909ha（4.5%）、そして宅地の利用が1,060ha（2.5%）で構成されます。

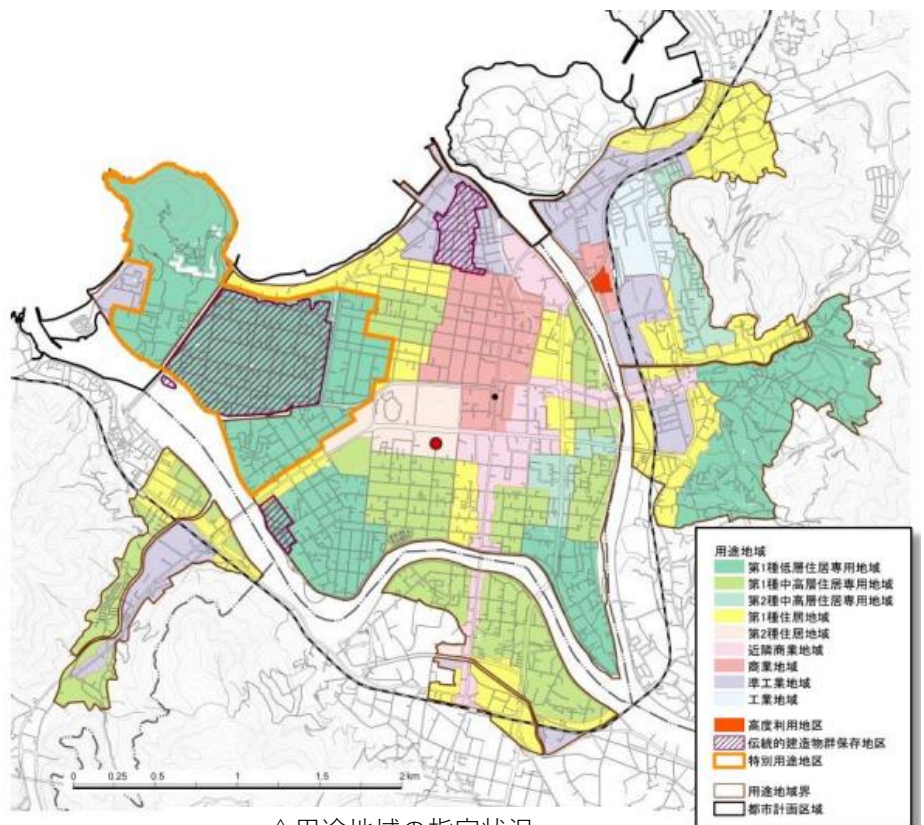
農地や宅地の分布を俯瞰すると、山間部では、河川沿いにできた谷底平野に農地が広がり、その山麓に農村集落が、沿岸の河口に漁業集落が点在します。そして、これらの集落の拠点として、かつての街道沿いの宿駅の役割を担った町場があります。

一方、萩市の中心部である阿武川河口の三角州一帯には、かつての萩城下町のエリアが現在の市街地ともほぼ一致し、この範囲に都市計画の用途地域が設定されています。設定された用途地域は、かつての武家地が第一種低層住居専用地域を主体として第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域などの住居系の用途が、かつての町人地が商業地域や近隣商業地域などの商業系の用途が充てられ、近世以来の用途がおおよそ継承されています。

また、近世の城下町辺縁部の蓮田や水田であった範囲には、市役所や消防署、警察署、図書館などの近代的公共施設が立地する他、近年は大型の商業施設や住宅地として開発され、結果として城下町の旧市街地が開発から守られることになりました。



△土地利用基本計画図



△用途地域の指定状況

資料：萩市都市計画総括図（R3）

これら地域を結ぶ交通は、古代の官道からはじまり、近世には萩城下町を起点とする萩往還^{せきしゅう}や石州街道^{あかまがせき}、赤間関街道が延び、近代に入ると道路や鉄道が整備されていきます。現在は、国道191号が東では益田市から山陰各地へ、西では長門から下関、さらには九州へと結んでいます。これと市街地の中心部で接続する国道262号が南に延びて県央部や県南部の都市と結んでいます。また、大正14（1925）年に萩駅まで開通した山陰本線が東西に走り、山陰から九州へと繋がっています。

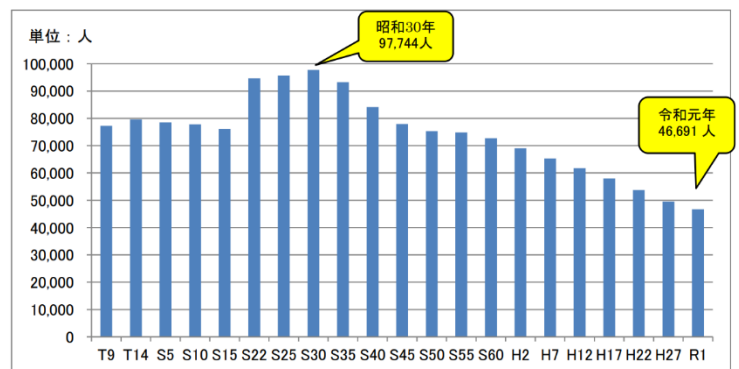
（３）人口

萩市の人口は、統計が残る大正中期から戦前は8万人弱で推移し、戦後に急増し、昭和30（1955）年頃には97,000人にまで増加しますが、この時をピークにその後は漸減し、近年は5万人を割り、約70年の間に半減し、令和6年8月末現在の人口は41,899人です。

地域別に見ると、萩地域は大正中期とほぼ同じ程度の人口を保っていますが、それ以外の地域では、いずれも大正中期の1/3以下にまで減少し、寺社の維持や祭礼の運営が難しくなっています。

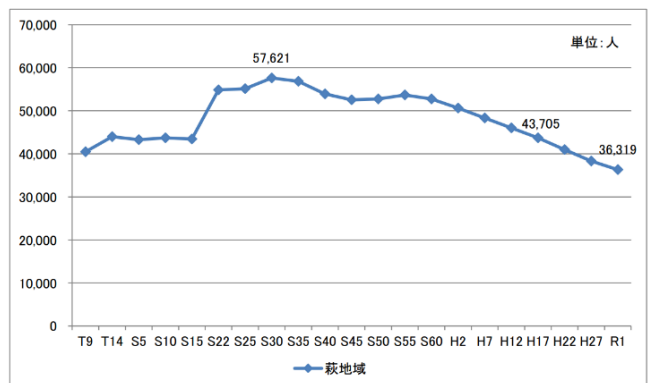
今後の人口推計によると、数年後に萩市の人口は4万人を割り込み、その後の社会情勢や施策による上下はあるものの、将来は確実に人口が減少し、令和42年には17,934人にまで減少することが予想されています。

このため、今後は文化財の保存と活用の担い手が減少することから、所有者や住民だけでなく、多様な立場の人と関係を築き、社会総がかりで文化財に関与していくことが求められます。



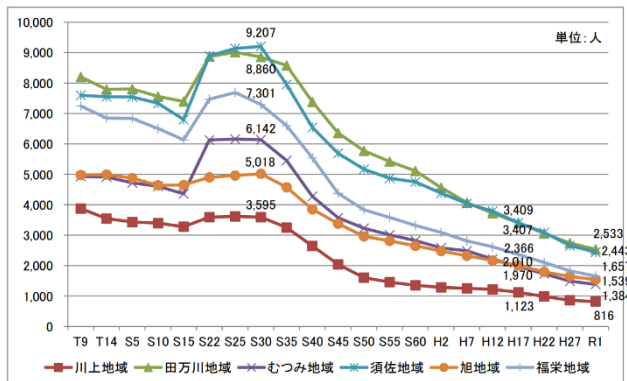
【出典】総務省「国勢調査」(T9～H27)、萩市「住民基本台帳」(R1)

① 萩地域の人口の推移



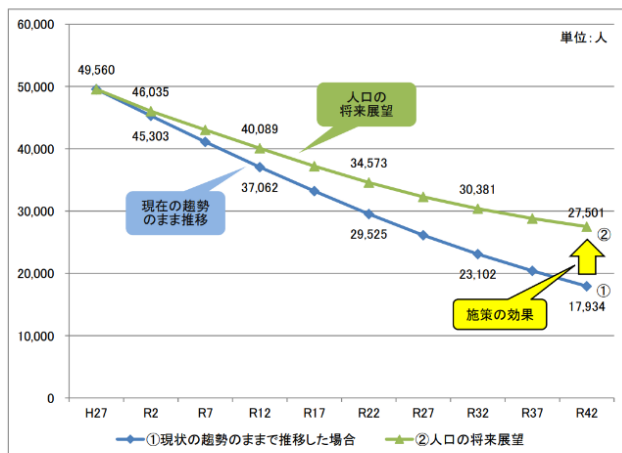
【出典】総務省「国勢調査」(T9～H27)、萩市「住民基本台帳」(R1)

② 川上・田万川・むつみ・須佐・旭・福栄地域の人口の推移



【出典】総務省「国勢調査」(T9～H27)、萩市「住民基本台帳」(R1)

（４）本市の将来人口の展望



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基にした市の試算

萩市の人口推移（『萩市人口ビジョン（改訂版）』令和2（2020）年、より転載）

(4) -1 産業（農業）

山がちな地形が広がる萩市であっても、川沿いの谷底平野や河口の沖積平野を中心に水田が広がり、水稻が農作物の中心です。その他、それぞれの地域の特性に合った多様な農業が市内全域で展開しています。山間部に点在する台地の肥沃な土壌と冷涼な気候を利用し、むつみ地域の千石台ではダイコン、田万川地域の平山台ではブドウやモモ、ナシなどの果実の栽培が盛んです。また、比較的標高が高く、夏季でも冷涼なむつみ地域を中心としたトマト、砂壤土で排水が良い大井ではタマネギ、水はけのよい火山灰土壌の段々畑が広がる相島ではスイカなど、これらは萩の特産品として認知されています。他にも生産量は少ないものの、三見のビワや一般のものより大きく「たまげなす」の名称でブランド化されている田屋ナスなども有名です。また、田万川地域の長門ゆずきちや川上地域のゆずなど、柑橘類の栽培も盛んで、川上のゆず自生地は国の天然記念物にも指定される由緒あるものです。明治に入り、禄を失った武士らによって栽培が始まったとされる夏みかんは、菓子やマーマレードなどの加工品も含め、近代の萩を支える一大産業となりました。

一方で、畜産も行われており、福栄地域の長沢台の肥沃な土壌と水で育った長萩和牛やむつみ地域で肥育されるむつみ豚の他に、国指定の天然記念物として産地指定されている見島ウシとホルスタインを掛け合わせた見蘭牛がブランド化されています。

(4) -2 産業（林業）

市域の8割が山林である萩市は、古くから林業が盛んでした。古代には東大寺の再建に当たり用材を伐り出したとの記録もあり、近代までは生活に必要な薪炭の供給地でもありました。建築用材や生活道具の素材として、様々な広葉樹やマツが利用されてきたほか、きのこ類や山菜、竹などの特用林産物の生産・利用も広く行われてきました。戦後は植林が盛んとなり、森林面積の41%は、スギやヒノキを主体とする人工林が占め、製材用の木材として適した10齢級以上のものが豊富です。近年は、国産材の価格の低迷を受けつつも、持続的な木材生産と森林の経営管理のため、阿武川流域の川上から川下まで関係者が連携した工夫や努力が行われており、学校や公共施設などの公共建築物を中心にスギやヒノキの利用が進んでいます。



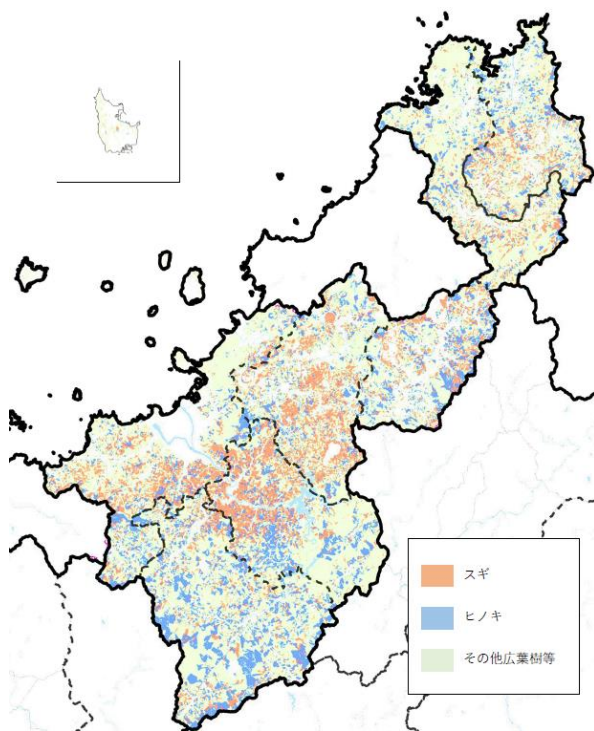
製材所の作業風景



福栄地域の貯木場



萩材を利用した萩市観光案内所（左）外観、（右）内部



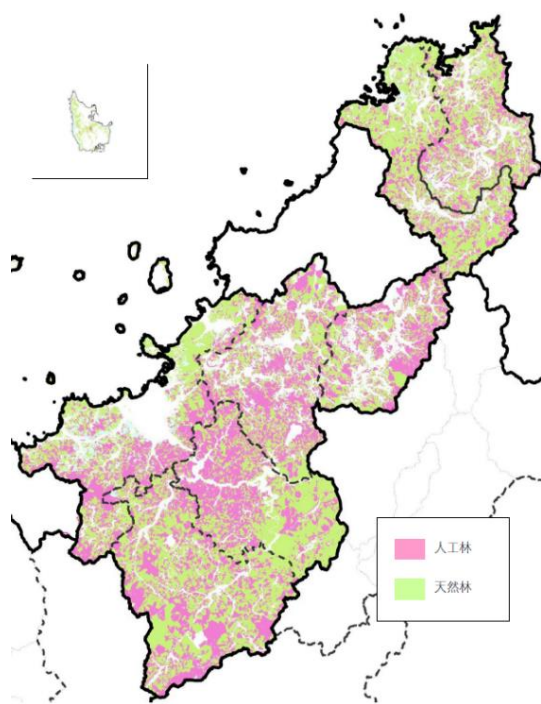
△萩市地域森林計画対象森林内の樹種分布

また、地球温暖化防止や国土保全など森林の有する多面的機能の持続的な発揮に期待が高まっており、人工林を適切に「伐って」「使って」「植えて」「育てる」という循環型の林業の確立や、森林空間の多様な活用に向けた取組が進められています。

(4) -3 産業（水産業）

萩市は、市域の北側で日本海に面し、七浦七島と呼ばれる海辺の浦や沖合の島を中心に漁業で栄え、最盛期より漁獲量が減ったとはいえ、現在でも主要な産業の一つです。かつては、各浦々で水揚げされていましたが、現在は山口県漁協の萩地方卸売市場と江崎地方卸売市場に集約されています。豊かな漁場では**アジ**や**イワシ**、**サバ**、**ブリ**、**イサキ**、**アワビ**など約250種類もの魚介類が獲れ、近年では**マフグ**、**瀬つきアジ**、**ケンサキイカ**、**アマダイ**、**金太郎（ヒメジ）**などの萩ブランドの魚の付加価値化により関東・関西圏にまで出荷されています。また、春の風物詩である松本川河口の**シロウオ**や長門峡の**アユ**など地域の特色ある漁業も見られます。

また、萩城下町という大消費地があったことから、水産加工業も盛んで、新鮮な**エソ**や**小鯛**を主原料とし、遠火でじっくり時間をかけて焼き上げる「焼き抜き」という独特の製法で作られる**蒲鉾**は有名です。この他にも**竹輪**やすり身を揚げた**てんぷら**などの練製品に加え、**アジ**、**サバ**、**イカ**の干物なども地域の特産として親しまれています。また、**イリコ**や**チリメン**の天日干しは、萩らしい風景にもなっています。



△萩市地域森林計画対象森林内の人天別分布



萩沖で獲れる多様な魚介類



早朝のまき網漁の水揚げ



浜辺でのしらすの天日干し

(4) -4 産業（窯業）

萩焼の歴史は、萩城下町を開いた毛利輝元が連れてきた、**李勺光**と**李敬**という朝鮮の兄弟陶工を開祖としてはじまり、後継の陶工に引き継がれ、萩藩の御用窯として発展を遂げました。萩焼の特徴であるざっくりとした風合いは、県内で採掘される**大迫土・金峯土・見島土**という特徴ある土と、雑木の灰を用いた**枇杷釉**やこれに藁灰を混ぜた**白濁釉**などを用いることで生み出されます。古来、茶人の間で「一楽、二萩、三唐津」と珍重され、使い込むことによってお茶などが染み込み、器の色が変化していく様子は「七化け」と称され、萩焼の魅力の一つとなっています。近世の登り窯の遺構が残る**萩焼古窯跡群**のある松本周辺を中心に、今でもたくさんの窯元が、多様な手法で萩焼の制作を続けています。

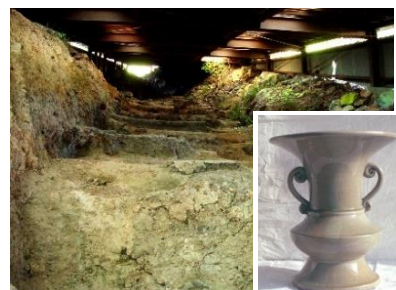
また、須佐の犬鳴山の麓には、萩焼とほぼ同時期に始まったものの、全く別の経緯で発展を遂げ、**青磁釉**や**鉄釉**などを用いた独特の風合いを持つ**須佐唐津焼**があります。**須佐唐津古窯跡群**には三つの登り窯の遺構が残ります。この他、藩の政策もあり酒瓶など日用品として白磁の染付の器を主体とした**小畑焼**がありましたが、現在では途絶えています。一方、幕末に萩でガラス製造所を開設した**中嶋治平**の資料をもとに、笠山の安山岩を精製して用いた淡い緑色の**萩ガラス**が復刻製造されています。



萩焼登り窯



白濁釉を用いた萩焼茶碗



須佐唐津焼の花瓶と窯跡

(4) -5 産業（醸造業）

萩では藩政期から酒造りが盛んでした。城下町という大消費地の需要があったことに加え、かつては**大津杜氏**と呼ばれる近隣の旧大津郡を中心とした杜氏の高い技術のもと、阿武火山群の火山活動によって作り上げられた溶岩台地の麓から湧き出る豊富な水と水はけの良い粘質土壌により、生産される良質の米が収穫できたことによるものです。

現在では、酒米生産農家と蔵元が連携し、たんぱく質の含有量の少ない酒米づくりから醸造、販売までを一貫して行う体制を構築し、高い評価を受けています。そして、令和3（2021）年には、萩市と阿武町にある6つの酒蔵が製造する**日本酒**が「萩」の名で、産地名を独占的に名乗ることのできる地理的表示(GI : Geographical Indication)に登録され、全国にその名が知られるようになりました。

また、醤油の醸造も盛んで、萩で水揚げされる魚と相性のいい旨味と甘みの強い**醤油**は、萩の食卓に欠かせないものであり、これらの醸造所の中には、あわせて**味噌**や**ひしお**を生産しているところもあります。



地理的表示「萩」の清酒



酒米を栽培する田んぼ



醤油醸造の作業

3 歴史的経緯

(1) 先史

縄文・弥生時代の萩

萩市においては、これまで考古学的な発掘調査が行われる機会が少なかったため、埋蔵文化財の詳細については明らかではありません。

萩の旧石器時代の遺物は未確認です。これに続く縄文時代の遺物は、大井川河口や見島でいくつか確認されています。弥生時代の遺物は、大井の丘陵部にある宮の馬場遺跡で弥生土器や石器が数多く見つかっています。また、現在の椿八幡宮周辺から霧口、青海にかけて、さらにその対岸の中津江など当時の阿武川河口の氾濫原の山際においても遺物が確認されています。これらから、河川の氾濫原を避け、山麓や丘陵部に集落を営んだ可能性があります。この他にも、**福栄坂部遺跡**など、市内各地でいくつかの弥生土器などの遺物が確認されています。

あぶくにのみやつこ 阿武国造と古墳

やがて中央でヤマト政権が成立する頃になり「**阿牟君**」そして阿武国を治める「**阿武国造**」と呼ばれる有力者の存在が当時の文書から確認できます。あわせて、この時代に造られた古墳が各地で確認できます。なかでも、6世紀初頭から中頃に築かれた**大井円光寺古墳**からは、勾玉や環頭太刀柄頭などの壮麗な遺物が多数出土した他、近接する**円光寺穴観音古墳**は、県内で最大級の横穴式石室を備えるなど、彼らの墓にふさわしく、大井がこの時代の阿武国の中心地であったことが推測されます。

この他、むつみの高俣にも穴観音古墳がある他、田万川には塚穴古墳、須佐地古墳をはじめ多くの古墳や石棺が集中しており、田万川流域にもこの当時の繁栄の痕跡が確認できます。

(2) 古代・中世

長門国阿武郡の成立

古墳時代から7世紀中頃の大化の改新を経て律令制の時代に入ると、阿武国は西隣りの**穴門国**（現長門市から下関市にかけて）と統一され、やがて**長門国阿武郡**となります。明確な領域はいまだ不明確ですが、三見は**美祢郡作美郷**、見島は**大津郡三島郷**に属しました。また、当時の中央であった畿内と繋がる七つの官道の一つである**山陽道**と**山陰道**を連絡する官道が阿武郡内に敷かれ、連絡用の人馬を備える駅伝制により、西から**参美**（三見）、**埴田**（小畑）、**阿武**（大井）、**宅佐**（高佐／むつみ）、**小川**（田万川）に駅が置かれました。



見島で発見された縄文土器
(萩博物館蔵)



左：霧口で発見された弥生土器「壺」
右：大井で発見された石製品「石斧」
(萩博物館蔵)



大井円光寺古墳 勾玉・環頭太刀柄頭



大井円光寺穴観音古墳

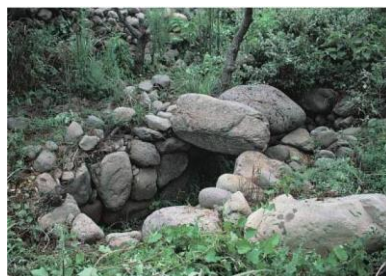
こうして阿武郡は律令制の中に組み込まれていきますが、その中心は引き続き大井周辺にあったようです。大井川下流では条里遺構が確認できるだけではなく、河川敷から巨大な寺院の礎石類、近隣の阿武川下流の**上野光安寺遺跡**では蓮華文の壮麗な軒丸瓦など、当時、大陸から伝来した本格的な仏教建築の遺物が確認され、畿内を通じてこの地に仏教が持ち込まれていたことが分かります。



大井大寺の心礎



上野光安寺跡から発見された軒丸瓦
(萩博物館蔵)



見島ジーコンボ古墳群（左）と遺物（右）

また、大陸に近い見島では、7世紀後半から10世紀初頭に築かれたと考えられる積石塚の墳墓約200基による群集墓（**ジーコンボ古墳群**）があります。ここからは武器類、装身具類等

の多数の遺物が発見され、大陸からの侵入に備えて中央から派遣された高位の武人集団の墓であったと推測されます。いずれにしても、この時代には、律令制や仏教など様々な形で畿内との結びつきが強くなりました。

東大寺創建・再建と阿武御領

8世紀から9世紀にかけて仏教が定着するに従い、現在に続く寺院の創建が相次ぎます。一つは東大寺創建の際にこの地から使役に出て大きな働きがあった白牛にちなむ伝説が伝わる**白牛山龍蔵寺**や、少し遅れて修験道場として始まった**日輪山南明寺**、弘法大師が唐から帰還した際の縁起を持つ**寄舟山弘法寺**などが、阿武川河口の三角州の山麓に創建されたと伝わります。

一方、この地域から拠出される良質の木材は平安時代から有名で、朝廷や寺社にとって早くから魅力のある所領でした。このため、一帯は皇室領となり、やがて後白河上皇が創建した長講堂に寄進され「**阿武御領**」と呼ばれる荘園として名を残しています。

12世紀後半の東大寺焼失後の再建に当たっては、阿武川流域の良質の木材が提供されます。詳細は不明ですが、上流の川上には**杣木**、**筏場**といった木材の伐り出しに、下流の樁には**霧口（切り口）**、**目代**、**木部**など搬出や管理に関係する地名が残され、当時の大きな事業であったことがうかがわれる他、これに強く抵抗する地頭を押さえるため、源頼朝の従兄弟に当たる**佐々木高綱**が長門国守護の任にあたったとの記録が残ります。



白牛山龍蔵寺観音堂（市指定有形文化財）

育まれる地域の郷村

そして14世紀中頃になると、長くこの地を押さえていた**厚東氏**との争いに勝利した**大内弘世**が、南朝から長門国守護に任ぜられ、大内氏の支配が始まります。この時代の具体的な地域の様子は分かっていませんが、足利尊氏が長府の忌宮神社に**阿武郡紫福郷**と**椿郷牛牧庄**（現在の萩三角州周辺）を寄進したとの記録があります。一方、東部では優良な積出港であった**江津**（後の江崎）を有し、田万川水系の山間部ではたたら製鉄も盛んになり、隣接する石見を含めて吉見氏と益田氏を軸とする激しい領地争いが続き、**平山星の城**、**鹿ヶ嶽**、**笠松山**などこれらの拠点となる山城が随所に築かれていきます。

この頃には、各地において農業や漁業を基盤とする豊かな郷村が形成されます。当時の**阿武郡十八郷**の惣社である**大井八幡宮**の古文書には、**椿郷**をはじめ**高佐、吉部、紫福、福井、三見、須佐、大井、弥富、小川**など当時の主だった郷村が確認できます。また、各村の信仰の中心となる寺社が次々と創建され、門前の町場などが形成され、信仰の対象となる神仏、これにまつわる伝説や祭礼なども生まれ、これ以降、現在に続く安定した村社会の基盤が築かれつつありました。

（3）近世

萩開府前夜

栄華を極めた大内氏も、大内義隆が陶隆房の謀反により長門の大寧寺で自害すると、やがて滅亡に至り、代わって台頭した毛利氏が長門をはじめとする西国十ヶ国を領有し、本拠地であった吉田郡山から安芸広島の本拠地太田川河口の三角州に巨大な城下町を構えます。しかしながら、関ヶ原の役で敗退したことを契機に周防・長門二ヶ国に封じられ、その拠点として慶長9（1604）年に萩に開府し、阿武川河口の三角州に城下町を構えます。

城下町が造られる以前の三角州の様子はいまだ詳細が分かっていませんが、**長栄山常念寺**や**指月山善福寺**などが建立（現在の位置とは異なる）され、先の大内義隆が善福寺に贈った寄進状の中に「**萩浦**」の名称が見出されます。また、毛利氏から旧益田氏が領有していた阿武郡須佐、福井庄、大井浦、川嶋庄を与えられた吉見氏は、いまだ遠浅の海に浮かぶ島であった指月山山麓に居館を構え、その地を「**萩之浦**」と記した資料が残され、城下町以前にも寺院境内や居館、そしてこれらの周囲には田畑を伴う集落や港などの町場が存在していたことを示唆しています。



敵陣ヶ嶽城跡（弥富上）



佛光寺木造文殊菩薩騎獅像
（山口県指定有形文化財）



「萩之浦」と記された吉見正頼
ゆかりの琵琶（萩博物館所蔵）

萩城下町の成立と展開

萩城下町の建設は、まず、阿武川河口の三角州とその先端に突き出した指月山麓に建てられた藩主の御殿や天守を備える本丸を中心として、二の丸、三の丸と幾重もの堀で取り囲み、その東側の砂洲を利用し町人地や寺院群が配置されました。さらに、これら全体を阿武川から分岐した松本川と橋本川で形成される三角州が天然の堀として機能し、水に浮かぶ強固な防御を誇る総構の城下町となりました。

やがて増大する家臣や町人を受け入れるため、三角州南半に広がる湿地帯の開発が段階的に進められます。その足掛かりとして貞享4（1687）年に新堀川が、18世紀中頃には大溝（藍場川）が開削され、主に中下級の武家地として整備されます。これら水路は、排水だけではなく阿武川上流からの薪炭や食料の運搬、農業用水にも利用され、大消費地となった萩城下町の生活を支えます。こうして、三角州上に少しずつ展開する萩城下町の各時代の様子は、萩藩が作成した数多くの美しい絵図に描かれています。



毛利輝元肖像画（萩博物館所蔵）



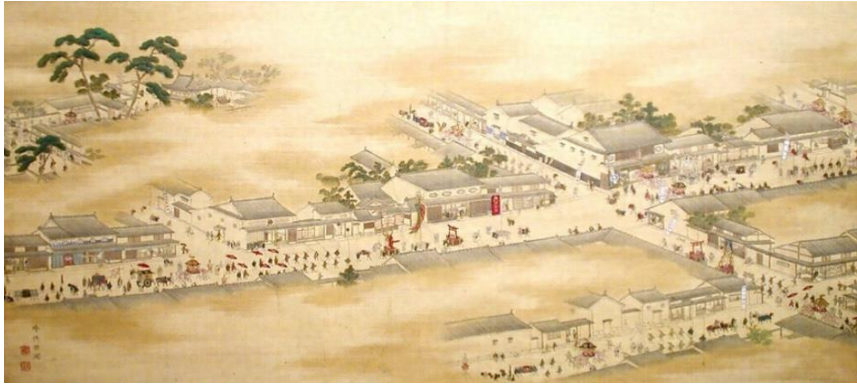
慶安5（1652）年萩城下町絵図（山口県文書館所蔵）



明治2（1869）年萩城下町絵図（萩博物館所蔵）

水を制し、水に親しんだ城下町の文化

三角州上に形成された萩城下町は、度々の水害に見舞われました。当時の水防は、まさに城下あげて団結すべきもので、洪水時には掲げられた町印のもと、各町が堤の監視と防御に当たりました。夏の**住吉祭り**、秋の**金谷天神祭り**などにおいては、疫病除けや火難・水難除けという町場ならではの信仰目的で、各町内から華やかな山車や奉納行列が繰り出し、そそれは同時に城下の人々の結衆の機会として機能してきました。その様子を描き取った「**鷺輿巡幸図**」「**八江萩名所図画**」からは、当時の町人文化の勢いを感じることができます。



鸞輿巡幸図（萩博物館所蔵）に描かれた城下町の祭礼



萩城下の町印

一方、武家においても水との関わりが文化を生み出します。橋本川沿いの水辺には藩主や上級家臣の下屋敷が造られ、そこには川とつながる舟入を備えた優雅な庭園が設けられ、周囲の山々や川面の風景を楽しまれた他、藍場川沿いの武家屋敷においても、川の水を引き入れた池泉式庭園が随所に設けられ、座敷に居ながら水に親しむ空間が用意されました。そして、こうした庭園を臨む座敷や茶室では、御用窯のルーツを持つ萩焼の茶陶による茶道文化が花開き、現在に受け継がれます。



旧毛利筑前下屋敷（旧田中別邸）に残る舟入

街道で結ばれる領内

萩城下町を藩庁と定めた萩藩は、これまでの周防・長門を十八の宰判（一時は見島が別の宰判となる）に分け、それぞれに勘場を設け、代官を置いて統治する仕組みを導入しました。このうち、大井、紫福、福井から西は**当島宰判**（勘場は江向八丁縄手、後に浜崎御船倉）、東は**奥阿武宰判**（勘場は吉部）、日本海に面した七浦七島と浜崎は**浜崎宰判**（勘場は浜崎御船倉）に属しました。なお、大井の東半分には当たる大井湊から奈古にかけては支藩である**徳山藩領**でした。

こうした広大な藩領を新たに造られた萩城下町を中心に治めるため、萩の**唐樋札場**を起点とした街道が次々と整備されます。藩は、中世から繁栄する山口を経由して瀬戸内側の藩の港のある三田尻までを結ぶ**萩往還**を、大道として最も上位に位置付け整備し、次いで、東で接する石見へと至る**石州街道**、西の要衝である赤間関（下関）に至る**赤間関街道**を整備しました。



各街道の起点であった唐樋札場跡



萩往還・石州街道・赤間関街道と宿駅のあった主な町場

多様で豊かな郷村

街道の要所には人馬取継ぎのための宿駅やこれを管理する目代所が置られますが、併せて高札場が立てられ、寺社が移転・創建され、場合によっては市が立てられるなど町場として開発されます。多くの場合は、中世からあった町場を再編したものと推測されますが、藩主の休泊施設である御茶屋があった佐々並、萩往還と赤間関街道の分岐点であった明木、神社門前に展開した福井、奥阿武宰判勘場を併設した吉部、港町と一体であった江崎など多様な形がありました。なかでも、藩の永代家老を務めた益田氏の所領であった須佐では、益田氏の居館である御田屋を中心に、あたかも小さな城下町のような空間を備えていました。

そして、中世に基盤がつけられた各地の郷村は、これら市や寺社を支柱としながら、自立的かつ豊かな小村・小名として産業や信仰、文化を醸成させました。その暮らしの内実は「防長地下上申」や「防長風土注進案」に詳細に記されるばかりでなく、「防長地下上申」に付された村絵図や

「御国廻御行程記」などに生

き生きと景観として描かれ、今に伝えられています。



「防長地下上申絵図」に描かれた福井市（部分）



「御国廻御行程記」に描かれた須佐（部分）
（いずれも山口県文書館所蔵）

（４）幕末・近代

明治維新胎動の地

毛利氏により安定した藩政が約260年間にわたって続いた萩藩は、人材育成にも力を入れてきました。享保4（1719）年に堀内に創立され、約130年後の嘉永2（1849）年に江向に拡大移転した萩藩校明倫館や享保年間に益田氏により創建された須佐の育英館をはじめとする郷校では、儒学に基づく文武の教育が、また吉田松陰が主宰した松下村塾などの私塾では、身分に関わらない教育が行われます。

やがてここから、高杉晋作、久坂玄瑞などによる倒幕運動が沸き起こり、薩長同盟を軸にした幕末の雄藩として、日本における激動の政治的変革「明治維新」が成し遂げられます。

一方において長州藩は、対外的危機が高まった幕末、海防強化の必要から、安政3（1856）年以降、鉄製大砲鑄造を目指して萩反射炉を試作的に築造し、洋式軍艦建造のため恵美須ヶ鼻造船所を開設するなど、軍事工業の近代化に挑みました。

しかし、鉄製大砲鑄造には成功できず、洋式軍艦を2隻建造したもののそれらは帆船で、蒸気船ではありませんでした。萩藩の軍事工業は試行錯誤の段階で終わりますが、松下村塾を主宰した吉田松陰は「工学」教育、すなわち技術者養成の必要を説き、それらの課題は次世代へと受け継がれ、克服されていきました。



渡英した長州ファイブの古写真

左上：遠藤謹助、
左下：井上馨、中央：井上 勝、
右上：伊藤博文、右下：山尾庸三

そして、明治に入ると、近代日本を切り拓いた人材が活躍します。政治の分野では版籍奉還や廃藩置県などを推進し、中央集権国家の樹立に貢献した**木戸孝允**、近代陸軍の基礎作りに尽力し、2回首相を務めた**山県有朋**、初代から計4回首相を務めた**伊藤博文**、初代外務大臣をはじめ多くの要職を歴任した**井上馨**、その他、**桂太郎**、**山田顕義**、**品川弥二郎**、**田中義一**などがいます。また、産業・経済の分野では、幕末にイギリス渡航を果たした**長州ファイブ**のメンバーでもあった「工学の父」である**山尾庸三**、全国の鉄道網の整備に尽力した**井上勝**、造幣局長として近代貨幣制度の創設に尽力した**遠藤謹助**、日立鉱山を創業した**久原房之助**の他、**渡辺崋蔵**、**藤田伝三郎**、**鮎川義介**、**飯田俊徳**、**杉道助**などが、文化の分野では名勝**長門峡**を見出した日本画家の**高島北海**、日本の南画界を主導した**松林桂月**の他、**森寛斎**、**片山東熊**など、各方面において日本の近代化をリードすることになりました。



木戸孝允



山県有朋



藤田伝三郎



高島北海

受け継がれる城下町の遺産

幕末に幕府や西洋列強と対峙した萩藩は、領内の支配を強化するために文久3（1863）年に藩庁を萩から山口に移し、これに伴って藩主に従い、一門八家をはじめとする家臣の多くも萩を去ります。主人を失った武家地は広大な空き地となり、明治4（1871）年には天守閣や櫓も解体され、本丸一帯は県内初の公園として一般に開放されます。また、役割を失った二の丸から三の丸（堀内）、さらには城下の武家屋敷も畑として払い下げられますが、旧萩藩士である**小幡高政**が立ち上げた士族授産のための「**耐久社**」により夏みかんの商品栽培が一面に広がり、やがて近代の萩を支える一大産業となり、それが「**土堀と夏みかん**」と称される萩観光を代表する景観を生み出していきます。

一方で、当地を拠点として経済活動を担っていた大半の町人はそのまま萩に残り、むしろ藩からの制約を受けず自由に商売のできるようになった町人地では、近世以来の町家に大きな看板を掲げ、近代萩の主役として大いに繁栄しました。また、萩の近代化に必要な、役所や学校、病院などの近代施設、道路や運河などは畑に転じた武家地や長く三角州の中央に残された蓮田などに建設され、鉄道も三角州を迂回するなど、結果として城下町の古い町並みを破壊することなく現在に受け継がれます。



萩反射炉（国指定史跡、世界文化遺産の構成資産）



解体前の萩城天守閣を写した古写真



堀内の夏みかん畑（左）と田町商店街（右）を写した古写真

自立し、繁栄する町と村

明治維新を経て、城下町以外の郷村も萩藩の支配を離れ、新たな道を歩み始めます。明治5（1872）年に行われた大区小区への再編を経て、明治21（1888）年の町村制の施行により、旧城下町を母体とする**萩町**と18の村（21頁参照）が誕生します。それぞれの村では村長が選出され、議会が設置され、住民による自治が始まります。これに並行し、各村の中心部には役場や学校、警察などが、続いて郵便局や銀行、各種の組合事務所なども建設され、周囲には商店が集まり、自立した村として大いに繁栄します。その後、いくつかの再編を経ながら、昭和30（1955）年の合併により1市2町4村に集約され、平成17（2005）年の合併により、現在の萩市となります。

この間、大規模な干拓や炭鉱、工場などの整備は行われませんでした。街道に代わって整備された県道や山陰本線などの交通網を通じて内外と繋がり、農林水産業を主軸としつつ、中世以来の長い年月の中で醸成された歴史・文化・自然に恵まれた多様で豊かな暮らしと景観が現在に受け継がれます。



明治26年に建設された三見橋と県道
右はかつての赤間関街道



昭和10年代の佐々並市の町並み

（5）災害史

長い年月の中で築かれた萩は、多くの災害に見舞われました。古代大井の大寺院の礎石が大井川の中から発見されたように、記録に残る以前にも無数の災害があったことが遺構や地形の痕跡、祭礼、伝承として各地に伝わっています。

近世以降、文書等に記録として残るもので最も多いのは水害です。河口の三角州に築かれた萩城下町は、まちづくりと水害が表裏の関係にあります。早いものでは開府から間もない元和2（1616）年秋に大水害があり、寛永12（1635）年の風水害では萩城が破損したとの記録があります。その後も、幾度も水害が発生し、堤防の決壊、家屋の浸水、橋の流出があったことが記録されていますが、その度に再建や改修が行われ、城下町の復興が成し遂げられます。復興に当たっては、堤防の強化や河の流路の改修などの工夫がされました。特に、幕末の天保7（1836）年の「**申年の大水**」、嘉永3（1850）年「**庚戌の大水**」と呼ばれる大水害は甚大な被害をもたらし、これが契機となって、滞留する松本川の水を小畑方面に抜くため**姥倉運河**の開削が行われ、安政2（1855）年に完成しました。

この他、各地でも河川の氾濫により農地や屋敷への被害はありましたが、萩城下町と同じように河口に広がる大井や須佐の町はたびたび被害を受けています。平成25（2013）年の萩市東部の大水害は記憶に新しいところです。



申年の大水の際の災害碑（沖原）



野田の柱松（むつみ）

また、木造家屋が密集する萩城下町では、火災にもたびたび見舞われます。古くは寛永11（1634）年の古萩町からの出火により133軒が焼失し、長寿寺などの寺院も焼失しました。その後もたびたび火災が発生し、町人地だけではなく武家屋敷や城内の藩の施設なども焼失しました。また城下町以外でも、街道沿いに家屋が密集する町場や漁村集落も同様で、大井や見島、玉江などの大火災の記録がある他、明治24（1891）年の明木市の火災は町並みの全域に及び、再建に当たっては防火性の高い土蔵造の民家が建てられ今に至っています。

地震については、詳しくは伝わりませんが、延宝4

（1676）年の地震をはじめ、貞享、延享、寛政、天保、弘化、そして明治、昭和と記録が残ります。

また、各地で大雨や干ばつ、虫害による不作に悩まされ、享保17（1732）年にはむつみでウンカの大量発生による飢饉が発生し、延宝2（1674）年の風水害では、萩城下町周辺の広い範囲で田畑が被害を受けたことを受けて、米穀を外に売捌くこと、また、この機に商人が高値で利益を貪ることが禁じられたと伝わります。

こうした災害は記録や災害碑として伝わる他にも、水稻や畑の作物を害する虫を祀りつつ地域の外に送り出す各地の「虫送り」「虫祈祷」行事や、牛馬の安全を祈願する「野田の柱松」行事、城下の集住地における火難除けを祈願する「金谷天神祭り」の各種奉納行事などのように、厄災除けの民俗文化として現在に伝えられています。



虫送り行事



金谷天神祭りの大名行列の奉納

第2章 萩市の文化財保護の取組と 萩まちじゅう博物館の実践

前章を受けて本章では、これまでの萩市の文化財保護の取組の全容を時系列にまとめるとともに、これらを踏まえた近年の萩まちじゅう博物館の実践について概説します。

なお、萩市の文化財又は文化財を理解する上で関連の深い事項について、**太文字**で示しています。

1 萩市の文化財保護の取組

(1) 戦前から続く史蹟等の保存

萩市の文化財保護の取組は、明治維新を契機として西欧列強を目標に、近代化へ邁進してきた日本の社会が、ようやく軌道に乗り、足元の自国の歴史や文化に目を向けるようになった大正時代に始まりました。その契機は、地域に残る遺構や構築物、自然物など土地に結び付いた物件を破損や滅失から保存することを目的として大正8（1919）年に制定された「史蹟名勝天然記念物保存法」にあります。

当時の萩ではこの法律を受け、早くも大正11（1922）年に**松下村塾**と**吉田松陰幽囚ノ旧宅**が史蹟の指定を受けました。この指定は国の法律によって行われますが、こうしたものを顕彰し、保存すべきという意識が当時の萩にあり、明治40（1907）年に、**伊藤博文**ら松下村塾出身者らが中心となって**松下村塾**の近隣に**松陰神社**を創建したのを嚆矢に、大正5（1916）年には当時の萩町を中心とする阿武郡教育会の中に**史蹟保存会**が付設された他、現在も随所で目にする萩の偉人の石碑が盛んに建立されたのもこの頃です。

また、偉人の顕彰とは別に地域の特徴ある自然物にも目が向けられ、大正12（1923）年には**高島北海**の尽力もあり**長門峡**が名勝に、大正13（1924）年には**明神池**が国の天然記念物に指定されます。

(2) 広がる文化財指定と史蹟観光

その後も国の文化財指定は続き、大正13（1924）年に**萩反射炉**、昭和4（1929）年に**萩藩校明倫館**の一部である**明倫館水練池附明倫館碑**、昭和7（1932）年に**木戸孝允旧宅**、**伊藤博文旧宅**が史蹟に指定されました。

こうして国の指定文化財が増えていく中で、萩は歴史文化に恵まれた風光明媚な観光地として認識されるようになります。それを後押ししたのが、大正14（1925）年に萩まで延伸し、さらに昭和8（1933）年に京都から下関まで全通した山陰本線です。全国的な鉄道網に組み込まれた萩は、当時の



吉田松陰幽囚ノ旧宅



明神池



「國司親相旧宅地」石碑
（堀内 萩西中学校北西角）



萩史蹟産業大博覧会のパビリオン
（左）産業本館、（右）博覧会会場全景

人々にとって訪れたい新しい名所として認識され、名所をパノラマ図で描くことで名を馳せた吉田初三郎により「萩を中心とせる附近名所図絵」と題したカラフルな鳥瞰図が制作されました。この図には萩の三角州を日本海側から見た地形や町並みが詳細に描かれるとともに、主な史跡名勝などの観光スポットの名称が旗立てされています。



吉田初三郎「萩を中心とせる附近名所図絵」部分
(大正14年「鉄道開通記念出版 萩名所図絵」)

その後、萩町と周辺の^{ちんとう}椿東村、椿村、^{ひじわら}山田村の合併を経て、昭和7（1932）年に萩市制が敷かれました。これを記念して昭和10（1935）年に土原グラウンド（現萩東中学校）を会場に**萩史蹟産業博覧会**が、明倫小学校本館（現萩・明倫学舎）を会場に**勤王史料展覧会**が開催されます。この博覧会は、萩出身の産業人の後押しなどもあり、当時に全国の大都市で開催された産業博覧会としての要素もありましたが、**明倫館跡、松陰神社、東光寺、反射炉**などの名所に加えて、「先賢名士の史蹟」として**吉田松陰、高杉晋作**からはじまり政治家、学者、画家、実業家など計135名の旧宅や誕生地なども紹介されています。また、この博覧会向けに旅館案内や遊覧バス、史蹟巡り貸切自動車などの観光サービスも紹介されています。同年には萩市観光協会も発足し、この博覧会を契機に歴史文化観光が萩の主要産業として認識されるようになります。

（3）戦後の文化財指定の拡大と地域の文化財保護の機運醸成

こうして大正から昭和初期に始まった萩の文化財の保存と歴史文化観光は、第二次世界大戦後の萩にも引き継がれますが、戦後の風潮を反映して明治維新の偉人などだけではなく、広く萩城下町に関わるものへと広がりを見せます。戦後間もない昭和26（1951）年に**萩城跡**が国の史跡に指定されたのを皮切りに、昭和29（1954）年に**常念寺表門**、昭和41（1966）年に**旧厚狭毛利家萩屋敷長屋**と**東光寺**が国の重要文化財に、翌年には志士の旧宅を含んだ町並みが**萩城城下町**の名称で国の史跡に指定されました。さらに、対象は民家などにも及ぶようになり、昭和49（1974）年には旧萩城下の**菊屋家住宅**、**熊谷家住宅**、**口羽家住宅**、旧石州街道沿いの福栄の**森田家住宅**が国の重要文化財に指定されます。

こうした国の重要文化財や史跡指定の広がりを受けて、萩においても地域でより身近な文化財を守っていこうという機運が生まれ、昭和35

（1960）年に**萩市文化財保護条例**が制定されます。そして、この条例に基づき昭和37（1962）年に堀内の**旧周布家長屋門**や堀内から平安古への道筋に架かる**平安橋**が萩市指定文化財に指定されたのを皮切りに、文化財の指定が続きます。

また、昭和52（1977）年には、萩市青年会議所の有志により**萩文化財保護協会**が発足します。また、昭和41（1966）年に**史都萩を愛する会**が設立され、その会報誌である『**史都萩**』が翌年に創刊され、その冒頭には当時の市長の言葉として「文化財保護がそのまま観光事業」に繋がるとの思いが記されています。



常念寺表門



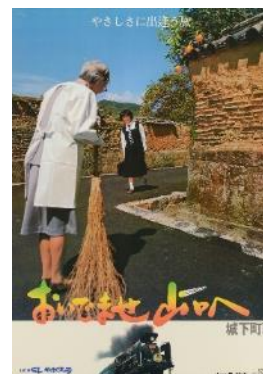
森田家住宅

（４）新しい観光が見出した萩の町並み

こうして、萩は戦前から続く偉人の顕彰をはじめとする歴史文化を中心とした観光が定着しましたが、萩の観光客数が激増するのは、日本が高度経済成長を謳歌した昭和40年代後半からです。その一つの契機は、当時の国鉄が昭和45（1970）年に打ち出した「ディスカバージャパン」キャンペーンにあります。このキャンペーンには「美しい日本と私」というキャッチフレーズが付けられ、私が旅する美しい日本がテーマとなり、その一つとして注目されたのが萩の町並みです。当時のポスターなどで流布した萩のイメージは、明治維新の偉人の町ではなく、崩れかけた土塀の後ろに夏みかんの果実が顔を出す意外な組み合わせで、当時の人々はそこに子供の頃に見た懐かしい故郷の原風景を見出したのです。そして、昭和50（1975）年に新大阪から博多まで全線が開通した山陽新幹線を利用して多くの人が萩に押し寄せるようになりました。



昭和47年の山陽新幹線が岡山駅まで開通時の国鉄ディスカバージャパンキャンペーンポスター



昭和53年から運行開始したSLやまぐち号をあらった国鉄いい日旅立ちキャンペーンポスター

そして、もう一つの契機が、当時の新しい時代感覚の中に萩の町並みが見出されたことにあります。昭和45（1970）年創刊の『anan（アンアン）』や翌年創刊の『non-no（ノンノ）』といった女性ファッション誌は、当時の最先端のファッション情報と合わせて萩への旅情報を掲載し、そこには崩れかけた土塀を背景に、流行の衣装に身を包んだ女性の写真が掲載されました。こうした雑誌を片手に、萩の町を自転車で巡り、土塀と夏みかんの風景を写真に収め、萩焼を買うという新しい萩観光が確立され、その舞台として堀内や平安古の歴史的町並みが脚光を浴びることとなりました。

（５）萩が主導した全国の町並み保存

これらの土塀や石積は、既定の文化財の概念では価値づけられないものでしたが、当時に生きる人々の感性によりその魅力が見出され、やがてそれが伝統的建造物群という新たな文化財の概念の創出に繋がっていきます。

その原点となったのが、昭和47（1972）年に制定された**萩市歴史的景観保存条例**です。この条例では、歴史的・学術的な価値に重きを置く従来の文化財保護の制度の中では拾うことができない広範に点在する土塀や長屋門など町を歩く人が通りから目にする「歴史的景観」として、その周辺の環境も含めた総体として価値を見出そうとするものです。萩市では、この条例に基づき**7つの歴史的景観保存地区**と**5つの保存家屋**の指定を行い、地区内の建物の建築や撤去は届出制とし、その保存のための経費を補助してきました。

これと前後して全国でも地域の歴史的な景観や環境を守ろうとする独自条例が制定され、早いものでは昭和42（1967）年制定の倉敷市伝統美観保存条例、昭和

歴史的景観保存地区	
昭和 48 年(1973) 指定	堀内
	今魚店
	東光寺及び吉田松陰先生誕生地
	大照院
昭和 55 年(1980) 指定	藍場川及び藍場川周辺
昭和 56 年(1981) 指定	南明寺境内及び参道
	藍玉座跡土塀
保存家屋	
昭和 48 年(1973) 指定	二宮家長屋門
	児玉家長屋
	坪井九右衛門旧宅
	熊谷五右衛門旧宅
昭和 55 年(1980) 指定	旧湯川家屋敷

萩市歴史的景観保存条例に基づく地区指定と保存物件の一覧

43(1968)年制定の金沢市伝統環境保存条例、萩と同年制定の高山市市街地景観保存条例などがあり、これらの自治体の先駆的な条例制定や各地域の住民の町並み保存運動が国を動かし、昭和50(1975)年に文化財保護法の改正により伝統的建造物群保存地区(伝建地区)制度が創設されました。

翌年に最初の国選定を受けた全国7地区が、秋田県仙北市角館、長野県南木曾町妻籠宿、岐阜県白川村荻町、京都市祇園新橋と産寧坂、そして萩の**堀内地区**と**平安古地区**です。両地区は、いずれも歴史的景観保存地区として既に指定された範囲をベースにしつつ、地区内の土塀や石積、長屋門などの文化財である伝統的建造物群とともに、これと一体をなして価値を形成している環境を保全することにより、文化財と共存する豊かな住宅地として現在に受け継がれています。

2 萩まちじゅう博物館の取組

(1) 町並み保存から景観まちづくりへ

全国に先駆けてはじまった萩の町並み保存を通じて、徐々にその周囲に広がる美しい萩の景観の魅力にも市民が目をつけるようになります。平成2(1990)年に、**萩市歴史的景観保存条例**を発展させ**萩市都市景観条例**を制定し、歴史的景観の保全に加えて、自然景観や新たな都市景観の調和も総体的に取り扱うこととなります。平成8(1996)年には、同条例に基づく**萩市都市景観基本計画**が定められ、萩市全域の景観の保全と形成の取組が開始され、建物が松林より低く抑えられた美しい菊ヶ浜の風景や、道路沿線の看板の高さや色彩が抑えられ、空が広くすっきりとした萩の景観が保たれています。

そして、美しい国づくりの機運が全国的に高まり、平成16(2004)年に景観法が成立しました。景観行政において先駆的に取り組んでいた萩市では、同法に基づき平成19(2007)年に新たに**萩市景観条例**を策定し、中国地方で最初に国の認定を受けました。この条例に基づいて定められた**萩市景観計画**は、平成17(2005)年に旧萩市と川上村、田万川町、む

つみ村、須佐町、旭村、福栄村の合併により広大な新萩市全域を**景観計画区域**として定めています。これは、新萩市が、古代から中世の阿武、近世の萩城下町と各街道や海を通じて長い年月をかけて営々と続いてきた生活や文化の中で密接な関係によって築かれたものが景観だからです。

(2) 萩まちじゅう博物館の開館

まち全体を屋根のない博物館と見立てた萩まちじゅう博物館の取組のきっかけは、平成13(2001)年に萩市で3番目の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた**浜崎伝建地区**にあります。浜崎では、住民自らがまちづくりとして町並み保存を進め、その中心となった取組が各家に伝わる家宝などを家に展示し、まち全体を一つの博物館として公開する**浜崎伝建おたから博物館**です。

こうした新たな町並み保存が展開する一方で、今度は三角州全体に目が向けられ、この三角州におおよそ50年以上存在する建物、門、土塀、石積などの建



菊ヶ浜の松林とホテル群



低く抑えられた沿道の商業看板

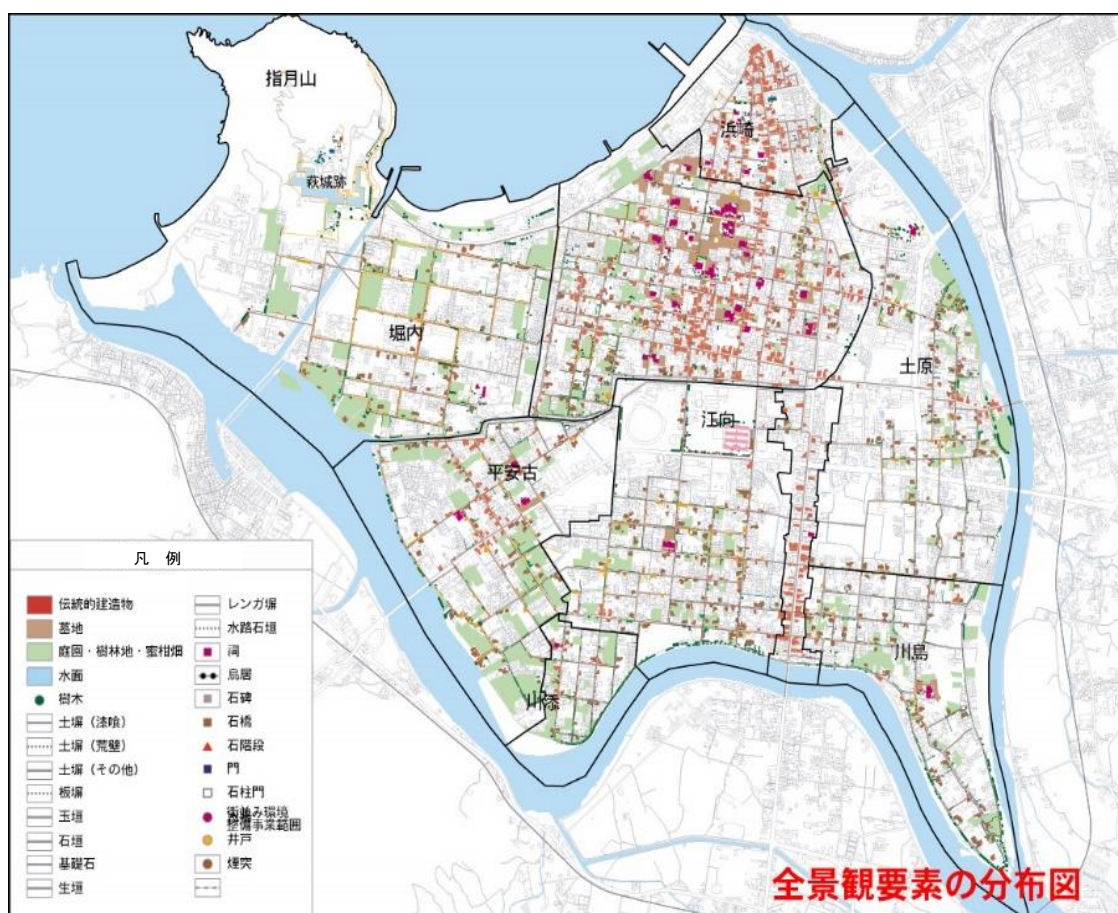


浜崎伝建おたから博物館の様子

造物、さらに樹木や庭園、水路まで全ての物件（景観要素）を現地踏査によって拾い出す調査が行われました。その成果を示す分布図には、三角州全体にわたって多様な物件が分布していることが明らかとなり、ここから「萩はまちじゅうが博物館だ」という言葉が生まれました。

ちょうど同じ時期に、萩では国道拡幅のために**萩市郷土博物館**の移転の検討が始まりました。その議論の中で、資料を収集・保管し、展示する従来の博物館の整備と合わせて、萩の町の随所にある有形無形の文化財（おたから）を現地で保存し、展示する町全体を屋根のない博物館に見立てた「**萩まちじゅう博物館**」が提唱されました。

そして、萩開府から400年目に当たる平成16（2004）年に**萩博物館**の開館と同時に**萩まちじゅう博物館**も開館しました。萩まちじゅう博物館を具現化するために、萩市では**萩まちじゅう博物館条例**を制定し、行政と市民の責務などを定めた上で、萩市のまちづくりの基本構想として**萩まちじゅう博物館構想**を制定し、この構想に基づく基本計画・行動計画も策定されました。そして、この構想を官民で実践していくために、市の組織としてまちじゅう博物館推進室を設置し、市民の間で展開するための活動母体として**NPO萩まちじゅう博物館**が設立されるとともに、これら関係者がメンバーとなる**萩まちじゅう博物館推進委員会**が市の附属機関として設置されました。



萩の三角州内の歴史的景観資源分布図
 (九州芸術工科大学(現 九州大学芸術工学研究院) 都市環境研究室作成)

◆POINT◆ 地域における「歴史的景観資源」の急激な喪失

萩市で萩まちじゅう博物館の取組が始まったきっかけは、平成10（1998）年の九州芸術工科大学（現 九州大学芸術工学研究院）による調査によって、^{かわうち}川内地区（三角州内、旧城下町エリアの大部分）に、貴重な歴史的景観資源が全国に例がないほど密度高く継承されていることがわかった驚きと、その一方で、それらが急速な勢いで失われていることが平成16（2004）年の追跡調査によって判明し、この事実に対する危機感が、萩の関係者間で強く共有されたことにあります。

この二度の調査を受けて、その後の推移を知るべく、令和元（2019）年に文化庁地域文化創生本部と北海道大学、岡山理科大学、同志社女子大学の共同による再追跡調査が実施されました。その結果の概要は下表の通りで、平成10（1998）年からの約20年間で、建築物が33.9%（10年ごとに約2割弱減）、工作物が17.5%（10年ごとに約1割減）、塀／垣が18.0%減少しており、速度は若干落ちてはいるものの、建築物についてはほぼ同じ割合で減少しており、資源消失に歯止めがかかっていない深刻な事実が明らかになりました。

	川内地域の残存物件数 (史跡・伝建地区以外)			減少率			年平均減少率		
	1998年	2003年	2019年	1998年 ～2003年 (5年間)	2003年 ～2019年 (16年間)	1998年 ～2019年 (21年間)	1998年 ～2003年 (5年間)	2003年 ～2019年 (16年間)	1998年 ～2019年 (21年間)
建築物	1,334	1,180	882	11.5%	25.3%	33.9%	2.31%	1.58%	1.61%
工作物 (塀／垣除く)	754	716	622	5.0%	13.1%	17.5%	1.01%	0.88%	0.83%
塀／垣	2,614	2,425	2,143	7.2%	11.6%	18.0%	1.45%	0.78%	0.86%
合計	2,088	1,896	1,504	9.2%	20.7%	28.0%	1.84%	1.38%	1.33%

萩市・川内（旧城下町）における伝統的な景観要素の喪失状況（1998/2003/2019年比較）
平成30（2018）年度 観光学高等研究センターと文化庁（地域文化創生本部）の共同研究結果から抜粋

（3）萩まちじゅう博物館の仕組みと市民の活動

萩まちじゅう博物館構想は、萩市のまちづくりの主要構想として位置づけられ、その活動は文化財の保存と活用を基軸としながらも、萩市のまちづくり活動として多岐にわたっています。

まず、市内全域をフィールドとすることから、博物館として来訪者を最初に受入れ、おもてなしと情報や知識の提供を行うコア（中核施設）として**萩博物館**と**萩・明倫学舎**が位置づけられています。萩に入ってきた来訪者は、まず**萩・明倫学舎**を訪れて、萩を巡るための基礎情報の提供を受けます。そこには、インフォメーション以外にも、**萩藩校明倫館**の概要や幕末の科学技術に関連する展示、**世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」**の萩の5資産や**萩ジオパーク**のビジターセンター機能も併設されています。そして、萩の歴史・文化・自然について、より詳しいことを求める来訪者は萩博物館を訪れます。そこではまず、エントランスに設けられた「まち歩きステーションはぎ博」などで



萩まちじゅう博物館のコアとサテライトのイメージ（「萩まちじゅう博物館構想」）

各地域のおたからやまち歩きのための情報を入手し、萩への理解を得ることができます。さらに理解を深めたい場合には、萩の歴史・文化・自然を総合的に展示した常設展示室や企画展示室、高杉晋作資料室を巡ります。

コア施設において、萩の情報を得て、理解を深めた来訪者が、実際にそれぞれの地域（サテライト）を訪れる際に拠点となる施設は、各地域の公共的な施設が位置づけられます。浜崎の浜崎町並み交流館（旧山中家・旧山村家住宅）や佐々並の萩往還おもてなし茶屋（旧小林家住宅）、須佐歴史民俗資料館、阿武川歴史民俗資料館などがこれに当たり、管理する地域住民の有志の会によるおもてなしを受けながら、より豊かな地域の情報を得ることができます。

こうしたコアやサテライトの運営は、NPOや地域住民の団体によって行われるとともに、それぞれの団体独自の活動も展開されています。特に**NPO萩まちじゅう博物館**では、萩博物館の運営以外に無償ボランティアの班が日々活動し、萩まちじゅう博物館の取組を実践している他、**NPO萩明倫学舎**でも旧萩明倫小学校の校舎である建物を舞台に様々な行事やイベントを企画運営しています。また、**NPO萩観光ガイド協会**では長年にわたって松陰神社や萩城下町周辺の周遊ガイドや公有文化財施設のガイド及び管理を実施していますが、各地域においても、それぞれの町並みの周遊ガイドが盛んに行われ、来訪者に地域の魅力を伝える活動が続けられています。

（４）萩まちじゅう博物館を展開する活動

萩まちじゅう博物館構想に基づき、平成25（2013）年から、これらの情報を市民と一緒に拾い出す取組をはじめました。これは、地域の一定エリアごとに拾い出したおたからを一つひとつカルテとして記録するとともに、主だったおたからをイラストで表現したマップとしてまとめました。また、これらのおたからのうち情報を公開できるものをリスト化し、このリストを説明する一つのストーリーとしてまとめ、毎年3月に開催される「**おたから総会**」において、市民の承認を受けた地域のおたからとして共有する活動を行いました。この成果として、令和3（2021）年までに**25エリアのマップ**の作成と約1,600件の地域のおたからを発見・共有することができました。

また、文化財施設等を訪れる観光客等からワンコインの寄付（百円信託）を募り、文化財に指定されていない市内のおたからの修復を行う「**ワンコイントラスト運動**」を続けています。これまで、10物件の修復等が実施されました。また、萩の歴史・文化・自然などの知識を集めたテキストブックをもとにその知識の習得度を問う「**萩ものしり博士検定**」（現「**萩検定**」）も実施され、多くの市民や萩ファンが受験します。また、市内の小学5年生を中心に**子どもものしり博士検定**も実施され、毎年多くの子供たちが挑んでいます。



萩検定テキストブック



ワンコイントラスト運動により修復された物件

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 第1号物件 | 井上勝（日本の鉄道の父）旧宅門 |
| 第2号物件 | 猿田彦面山車 |
| 第3号物件 | 平安古備組のお道具類
（大名行列の槍など） |
| 第4号物件 | 御網代車（牛車） |
| 第5号物件 | 英国から長州砲（江戸時代の大砲）
の里帰りを実現 |
| 第6号物件 | 伊藤博文公先祖の墓碑の修復 |
| 第7号物件 | 高杉晋作立志像の建立 |
| 第8号物件 | 奇兵隊隊服の再現 |
| 第9号物件 | 久坂玄瑞進撃像の建立 |
| 第10号物件 | 井上勝立志像の建立 |

3 萩まちじゅう博物館の展開

(1) 萩市歴史的風致維持向上計画の策定と整備

萩まちじゅう博物館の取組と並行して、萩の文化財の保存と活用も新たな展開を遂げます。文化財保護とは別に国の社会資本として歴史まちづくりを推進するため、平成20（2008）年に地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）が制定されました。萩市ではこの法の制定に関わりながら**萩市歴史的風致維持向上計画**を策定し、翌年には金沢市、高山市などとともに全国最初の法定計画の認定を受け、文化財指定を受けていない玉江の**観音院観音堂**や江向の**渡辺蒿蔵旧宅**、萩往還の起点である**唐樋札場跡**の整備などを行い、文化財と一体をなす歴史まちづくりを進めました。そして、平成23（2011）年に萩往還の宿駅があった**佐々並市**が、萩市第4番目の国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、ここでも町並みを舞台に地域の行事やイベント、町並みガイドなどが始まりました。

萩市歴史的風致維持向上計画に基づいて実施した主な事業	
事業名	実施年度
唐樋札場跡整備事業	H20～H22
藍場川整備事業	H20～H21
堀内鍵曲道路整備事業	H20
高質空間形成施設（側溝美装化）整備事業	H21
既存建造物活用事業（玉木文之進旧宅）	H21
渡辺蒿蔵旧宅整備事業	H20～H23
旧萩藩校明倫館整備事業	H20～H22
観音院観音堂修理事業	H21～H23
森井家住宅修理事業	H22～H24
歴史的まちなみ看板整備事業	H24～H25
旧萩藩校明倫館活用推進事業	H26～H30



修復された渡辺蒿蔵旧宅



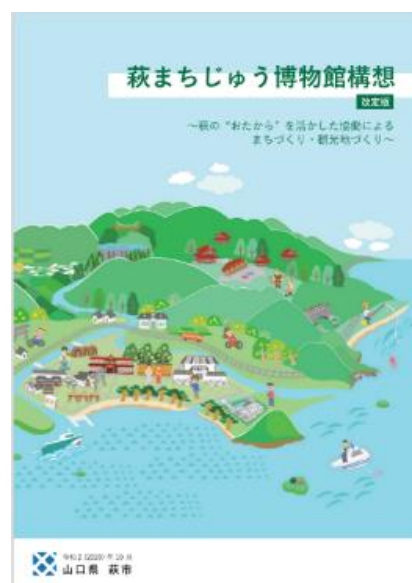
整備された唐樋札場跡

(2) 世界文化遺産登録と日本ジオパーク認定

さらに、平成27（2015）年には、全国8県11市、23の構成資産から成る「**明治日本の産業革命遺産 ～製鉄・製鋼、造船、石炭産業～**」が、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。萩市には**萩反射炉**、**恵美須ヶ鼻造船所跡**、**大板山たたら製鉄遺跡**、**萩城下町**、**松下村塾**の5つの構成資産があり、これらの修復と活用が始まりました。加えて平成30（2018）年には、「**維新とマグマの胎動の地**」をテーマに**萩ジオパーク**が日本ジオパークの認定を受け、その活動が始まりました。

(3) 萩まちじゅう博物館構想の改訂

そして、約15年の取組を総括し、この間の社会情勢や地域社会の在り方の大きな変化に対応するために、令和2（2020）年に**萩まちじゅう博物館構想**の全面改訂を行いました。そこでは、これまでに発見・共有されたおたからを資産としながら、これらを活かした地域活動・経済活動と結びつけたおたからの活用・創造を推進し、それを担っていく人材育成を子供達や外部からの参画者も得ながら展開していく基本方針を立て、「萩の“おたから”を活かした協働によるまちづくり・観光地づくり」と定め、次の時代の取組がはじまりました。



萩まちじゅう博物館構想表紙

萩の5資産の世界文化遺産登録までの経緯	
平成18年 11月	世界遺産国内暫定一覧表入りを目指し、「萩城・城下町及び明治維新関連遺跡群」と「九州・山口の近代化産業遺産群」を文化庁へ提案
平成21年 1月	「九州・山口の近代化産業遺産群」がユネスコの世界遺産暫定一覧表に追加記載
平成24年 5月	政府が「稼働中の産業遺産又はこれを含む産業遺産群を世界遺産登録に向けて推薦する場合の取り扱い等について」を閣議決定。推薦条件が緩和される。
平成25年 8月	推薦候補名称が「日本の近代化産業遺産群 九州・山口及び関連地域」に変更
平成26年 1月	政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書(正式版)を提出
平成27年 7月	「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産に登録決定



萩反射炉



恵美須ヶ鼻造船所跡



大板山たたら製鉄遺跡



萩城下町



松下村塾

第3章 萩市の文化財（おたから）

1 文化財類型による把握

（1）指定等文化財

萩市に所在する文化財のうち、文化財保護法に基づく指定等文化財は、令和6（2024）年6月末現在で、国が指定する文化財が40件、重要伝統的建造物群保存地区が4地区、そして登録有形文化財が8件となっています。大正11（1922）年に指定された史跡松下村塾を始め、戦前に指定された文化財が多く存在しています。

山口県文化財保護条例に基づく県指定文化財は32件、萩市文化財保護条例に基づく市指定文化財は130件です。

指定等文化財の件数は215件で、その内訳は下表のとおりです。なお、文化的景観及び文化財の保存技術に選定されているものではありません。

▽ 表 指定等文化財件数 (令和6（2024）年6月末現在)

種別			区分	国				県指定	市指定	計
				指定	選定	選択	登録			
有形文化財	建造物		8	-	-	8	6	26	48	
	美術工芸品	絵画	1	-	-	0	1	13	15	
		彫刻	3	-	-	0	5	17	25	
		工芸品	2	-	-	0	0	13	15	
		書跡・典籍	1	-	-	0	3	3	7	
		古文書	0	-	-	0	0	1	1	
		考古資料	0	-	-	0	2	2	4	
		歴史資料	1	-	-	0	1	3	5	
無形文化財			0	-	1	0	1	1	3	
民俗文化財	有形の民俗文化財		1	-	-	0	0	3	4	
	無形の民俗文化財		0	-	-	0	3	10	13	
記念物	遺跡（史跡）		14	-	-	0	4	20	38	
	名勝地（名勝）		1	-	-	0	0	0	1	
	名勝地及び地質鉱物		1	-	-	0	0	1	2	
	動物、植物、地質鉱物（天然記念物）		7	-	-	0	6	17	30	
文化的景観			-	0	-	-	-	-	0	
伝統的建造物群			-	4	-	-	-	-	4	
合計			40	4	1	8	32	130	215	

萩市域は、平成17（2005）年に旧萩市、川上村、田万川町、むつみ村、須佐町、旭村、福栄村の1市2町4村が合併して成立しました。合併時、各市町の指定文化財は、そのまま新萩市の文化財として引き継がれています。

したがって、指定文化財には、それぞれの地域の特色が表れています。旧萩市では、江戸時代、毛利氏の城下町に関わるものが多数を占めています。また、旧萩市の中でも大井地区（位置は64頁を参照）には古墳や弥生時代の集落等、古代の遺跡が多いことが特徴です。旧須佐町は、江戸時代、萩藩の永代家老益田氏の領地であり、領主の館、武家地、商人地等、小規模な城下町が形成されていました。旧萩市、須佐町、田万川町の日本海沿いの地域には、北前船の寄港地が点在しています。一方、むつみ村、福栄村などの山間部地域では、農村集落や豊富な木材資源を活かし、たたら製鉄の遺跡などがあります。旭村には城下町萩と山口、三田尻を結ぶ萩往還が通り、宿場町等が置かれていました。川上村は、高島北海が命名した名勝長門峡で知られています。

（２）未指定文化財

萩市では指定等文化財以外の未指定文化財について、「第6章 文化財の把握調査に関する方針と措置」に掲げる既存の把握調査により各分野からの把握が進んでいますが、総括的な把握については、次項で掲げる萩まちじゅう博物館により認定されたおたからとして把握しています。

これらのおたからを、文化財保護法第2条に定める類型によって整理し、未指定文化財として分類しました（次頁の表）。令和6（2024）年6月末現在、1,284件の未指定文化財を把握しています。これを概観すると、指定文化財では少ない民俗文化財（17件、全体の7.7%）が、未指定文化財では全体の26.3%（338件）を占め、旧萩地域以外の山間部や島しょ部、沿岸部の地域において顕著です。これに対して、指定文化財では数の多い有形文化財・美術工芸品（72件、全体の33.5%）が、未指定文化財では少数（76件、全体の5.9%）となっていることは、指定等と未指定の文化財において、それらの価値と魅力の捉え方に違いがあることを示しています。

なお、指定等文化財でも多数を占める有形文化財・建造物（48件、全体の21.8%）や記念物・遺跡（38件、17.3%）は、未指定文化財においても数多く拾い上げられています（それぞれ259件、全体の20.2%/376件、全体の29.3%）。一方において、萩市ではいまだ選定を受けていない文化的景観が53件も拾い出されていることは注目に値します。

▽表 未指定文化財一覧

種別	地区	1 堀内・ 平安 古・城 下町	2 浜崎	3 田町	4 寺町	5 江向	6 土原	7 川島・ 藍場川	8 椿	9 旧松本 村	10 鶴江・ 新川・ 香川津	11 笠山・ 越ヶ浜	12 玉江	13 山田	14 木間	15 三見	16 大井	17 見島	18 大島	19 相島	20 川上	21 田万川	22 むつみ	23 須佐	24 明木	25 佐々並	26 福栄	総計
有形文化財		4	13	39	31	11	4	7	11	1	13	6	10	5	4	5	20	4	16	8	17	7	3	8	18	52	18	335
	建造物	4	4	23	28	6	4	5	10		9	6	10	4	2	3	9	4	10	6	12	6	3	7	16	50	18	259
	美術								1								1				5				2			9
	工芸品				3	1									2	1			3	1								11
						3								1												1		5
																												0
			1					1														1						3
																1	10											11
			8	16		1		1		1	4								3	1				1		1		37
無形文化財							1								1		1											3
有形の民俗文化財			2		1		1	2	9		1	7	2	4	7	2	1	3	7	14	26	1	3		2	63	26	184
無形の民俗文化財				8	21	4	1	3	2		14	21	8	4	4		4	8	8	8		2	2		3	26	3	154
記念物		10		8	10	30	24	32	35	11	22	37	15	1	12	8	35	11	17	14	39	20	30	8	38	64	18	549
	遺跡	10		8	7	25	21	20	30	11	17	23	11		2	8	28	4	8	3	10	14	20	7	36	44	9	376
	名勝地						2	2	4		3	3	1		9		3	6	3	11	26	1	1		1	6	1	83
	動物、植物、地質鉱物				3	5	1	10	1		2	11	3	1	1		4	1	6		3	5	9	1	1	14	8	90
文化的景観				4		3	3	3	3		4	6	2	1	1		1	2	6	1		3	2		2	6		53
伝統的建造物群				1							1					1							1		1		1	6
未指定文化財 計		14	15	60	63	48	34	47	60	12	55	77	37	15	29	16	62	28	54	45	82	33	41	16	64	211	66	1284

その他（※）	4		25	43	28	1	2	2	1	24	20	2	3	15		1	15	16	23	23	3		6	3	14		274
指定等と重複	10	1		5	3	3	2	7	5		3	1		1	1	3	4			12	15	6	8	2	6	13	111
おたから総計	28	16	85	111	79	38	51	69	18	79	100	40	18	45	17	66	47	70	68	117	51	47	30	69	231	79	1669

※ 人物名称や文化施設など文化財として整理することが困難なおたから

地区の位置は63・64頁を参照

以下、地域の特徴も踏まえながら萩市の文化財について説明します。

① 有形文化財

1) 建造物： 分類 …寺院、神社、武家屋敷、民家、教育施設、公共施設、交通、工作物 寺院

萩市域では、古代の建造物は確認されていませんが、中世の建造物として、長寿寺の**石造十三重塔**（県指定）、**龍蔵寺観音堂**（市指定）が現存しています。桃山時代の遺構を伝えるものとして、**常念寺表門**[写真1]（国指定）が挙げられます。元は京都聚楽第の裏門で、豊臣秀吉から拝領した毛利輝元が移築寄進したといわれています。

江戸時代初期の建造物として、**南明寺観音堂**（市指定）、**佛光寺楼門**[写真2]（市指定）、また、萩藩主毛利氏の菩提寺として、**大照院**（国指定）、**東光寺**（国指定）の伽藍が現存しています。大照院は、毛利家初代と2代から12代の偶数藩主の墓所が造営されており、本堂ほか4棟が重要文化財の指定を受けています。東光寺は、3代から11代までの奇数代の藩主の墓所が造営されており、大雄宝殿ほか3棟が重要文化財の指定を受けています。

その他萩城下では、**端坊鐘楼**、**亨徳寺三門**（以上市指定）が現存します。

田万川地域の**西堂寺六角堂**[写真3]（県指定）は、宝形造本瓦葺、一重裳階付で、平面は六角形をなす特異な仏堂です。



[写真1] 常念寺表門



[写真2] 佛光寺楼門

神社

萩市域における神社建造物の文化財指定は、現在、**円政寺内金毘羅社社殿**（市指定）のみです。

神社では、**春日神社**、**椿八幡宮**、**大井八幡宮**（いずれも未指定）等が長門国阿武郷時代にさかのぼる由緒を示しています。

また、**六所神社**（未指定）は、弘安6年（1283年）に創設された佐々並地域の産土神社で、現存する社殿は、寛保2年（1742年）に建て替えられたもので、300年以上の歴史を持つとされています。



[写真3] 西堂寺六角堂

武家屋敷

江戸時代、萩城下町には武士とその家族を併せて、およそ2万人が居住していたと考えられていますが、幕末の山口移鎮に伴い、現存する上級武家屋敷の遺構は少数です。上級家臣団の居住地であった萩城三の丸（堀内）に残る遺構として、**旧厚狭毛利家萩屋敷長屋**、**口羽家住宅**（以上国指定）、**旧福原家萩屋敷門**、**旧梨羽家書院**（以上県指定）、**旧福原家書院**、**旧周布家長屋門**、**間田益田氏旧宅土塀**（以上市指定）が、城下町に残る武家屋敷として、**小川家長屋門**、**奥平家長屋門**（以上市指定）が現存しています。

また、永代家老益田氏の領地であった須佐にも城下町が形成され、**益**



[写真4] 菊屋家住宅

田館（市指定）が現存しています。

民家

萩市域に江戸時代よりも遡る民家は現存していません。江戸時代の大型の商家として、**菊屋家住宅**[写真4]、**熊谷家住宅**（ともに国指定）、**旧久保田家住宅**（市指定）が現存しています。一方、福栄地域には、上層農家として**森田家住宅**[写真5]（国指定）が所在しています。

この他、御成道沿いの江戸時代の町家である**森井家住宅**（未指定）をはじめ、かつての城下町であった三角州には現在も800棟を超える民家（未指定）が現存しています。



〔写真5〕 森田家住宅

教育施設

江戸時代、萩市域には、萩藩校として明倫館が、永代家老益田家の領地である須佐の郷校として育英館がありました。

明倫館は、5代藩主毛利吉元が、享保4（1719）年萩城三の丸（堀内）に創建しましたが、その後13代藩主敬親が、嘉永2（1849）年、江向に拡張移転しました。現存する明倫館の遺構は、**聖廟**、**南門**、**観徳門**、**聖賢堂**、**万歳橋**（以上市指定）が、また、**史跡旧萩藩校明倫館**（国指定）の構成要素として**有備館**が現存しています。

須佐の育英館は、享保年間（1716～1735）に益田家第27代益田元道が創立し、**育英館門**[写真6]（市指定）が現存しています。

明治時代になって学制が変更となり、萩学校、明倫小学校などが創建されました。**萩学校教員室**（県指定）は、明治20（1887）年に萩中学の教員室として建てられた、明治期の貴重な擬洋風建築です。また、明倫館跡地には、明治17（1884）年に明倫小学校が創立されました。**明倫小学校本館**（国登録）は、昭和10（1935）年に建設された木造二階建入母屋造洋瓦葺の校舎で、本館を含めた4棟は、**旧明倫小学校**(市指定)として現存しています。



〔写真6〕 育英館門



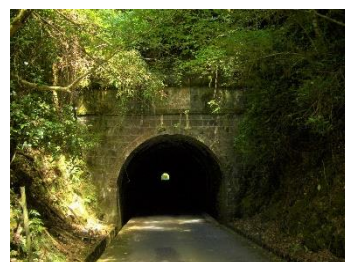
〔写真7〕 下横瀬公民館

公共施設

むつみ地域の**むつみ村役場旧庁舎及び土蔵**（国登録）、旭地域の**下横瀬公民館**[写真7]（国登録）が現存します。

交通

慶長9（1604）年毛利氏の萩移封に伴い、萩を中心とする藩内の街道が整備され、中でも萩から三田尻（防府市）に至る萩往還は、参勤交代にも利用していました。関連する文化財として、旭地域の**落合の石橋**（国登録）が現存しています。また、萩城の内外の境となる**平安橋**（市指定）が現存しています。



〔写真8〕 鹿背隧道

明治時代以後、車の利用が始まると、隧道（トンネル）や橋梁などで、道路の平坦化が図られました。道路整備に関わる文化財として、**鹿背隧道**^{かき}[写真8]と**三見橋**（以上国登録）が現存します。

鉄道に関わる指定文化財としては、**萩駅舎**（国登録）が現存します。大正14（1925）年に建築されたもので、洋風のデザインを取り入れており、萩地方の近代化を象徴する建物です。

2）絵画： 分類・・・宗教画、風景画

宗教画

仏像などを描くものとして、東光寺の**絹本着色釈迦三尊像**（県指定）、須佐地域大蘊寺の**紙本墨画出山釈迦図**^{だいおんじ}[写真9]（市指定）、**紙本墨画十六羅漢像**（市指定）があります。また、釈迦の入滅を描く涅槃図は、市域の寺院に多数伝来していますが、そのうち、須佐地域の大蘊寺の**絹本着色釈迦涅槃図**（市指定）が指定されています。

川上地域では江戸時代中期頃に、西国三十三所観音霊場巡礼を模して本尊と御詠歌等を記した絵馬を置く札所を設け、実相寺の**西国三十三観音霊場絵馬**（**四番札所**及び**五番札所**）（市指定）、個人蔵の**西国三十三観音霊場絵馬**（**十番札所**[写真10]）（市指定）の3枚が現存しています。

神像などを描くものとして、個人蔵の**紙本着色束帯天神像**（崇竺筆）（市指定）と、同じく個人蔵の**絹本着色束帯天神像**（市指定）があります。

風景画

絹本着色春冬山水図（国指定）は、明代第一の巨匠と評される戴文進の作です。また、高島北海が72歳のときに描いた**長門峡の絵**^{ちやうもんきやうこんごうけいぐちきりこせんぼうのぞむ}（**長門峡金郷溪口望切龍尖峰の図**）（未指定）は、名勝長門峡の誕生を物語る貴重な絵画です。

3）彫刻： 分類・・・仏像、神像、頂相

仏像

奈良時代以前にさかのぼる彫刻は確認されておらず、平安時代の仏像として、南明寺の**木造聖観音立像**、**木造千手観音立像**（以上国指定）、大照院の**木造釈迦如来坐像**、長寿寺の**木造不動明王立像**（以上県指定）、玉泉寺の**木造毘沙門天立像**（県指定）、広厳寺の**木造薬師如来坐像**（市指定）が現存しています。

以降、鎌倉時代の**大照院の木造赤童子立像**（国指定）が、南北朝時代の佛光寺の**木造文殊菩薩騎獅像**（県指定）、江戸時代の佛光寺の**木造金剛力士像**（市指定）がそれぞれ現存しています。

江戸時代後期、全国を行脚して数千体ともいわれる仏像を彫刻した木喰上人は、萩市域にもその足跡を残しています。記録や仏像の銘文によると、寛政9（1797）年から寛政10（1798）年にかけて滞在し、福栄地域の願行寺に、**立木薬師如来像**[写真11]、**木造阿弥陀如来立像**、**木造如意輪観世音菩薩坐像**（以上市指定）、宝宗寺に**木造延命地藏菩薩立像**、**木造不動明王立像**（以上市指定）、信盛寺に**木造弘法大師**



[写真9]
紙本墨画出山釈迦図



[写真10] 西国三十三観音霊場絵馬
（十番札所）

立像、木造釈迦如来立像、木造阿弥陀如来立像（以上市指定）、田万川地域に旧友信寺の**木造釈迦如来坐像**（市指定）の9体が指定されています。なお、市域における木喰上人作の仏像は、指定を受けているもの以外に、木間に3体、田万川地域に1体、萩地域に1体、総計14体が現存しています。



[写真11] 立木薬師如来

三見市の仁王像（未指定）は、延徳3（1491）年、第29代大内政弘、義興父子の寄進とも伝えられています。当時祀られていた御堂は無いものの、像は地元の公会堂に置かれ、その公会堂を「仁王会館」と呼び、地元住民に大切にされています。

神像

室町時代の神像として、須佐地域松崎八幡宮の**木造隨身倚像**（市指定）が現存しています。

頂相

大照院の**木造義翁和尚倚像**（県指定）が現存しています。義翁和尚は大照院の前身で、大椿山歆喜寺開山です。裳先裏の銘から、没後113年目の文安4（1447）年の制作であることがわかります。

4）工芸品： 分類・・・鐘、鰐口、懸仏、刀剣、陶磁器、竹細工

鐘

室町時代の鐘として、**大蘊寺梵鐘**（市指定）、**讃岐坊梵鐘**（市指定）が現存しています。讃岐坊梵鐘は、萩・阿武郡内では現存最古の梵鐘です。

江戸時代の鐘の多くは、第二次世界大戦の金属供出によって消滅しましたが、**端坊梵鐘**（市指定）、**梅岳寺銅鐘**（市指定）が現存します。

鰐口

鰐口は社殿や仏堂正面の軒下に吊るす金属製の音響具で、参詣者は布で編んだ綱等を振り動かして打ち鳴らし、神仏に来意を告げるものとされています。見島の**見島八幡宮鰐口**、**宇津観音寺鰐口**（以上市指定）が現存しています。

懸仏

懸仏は、鏡を模した銅などの円盤上に神像・仏像を半肉彫の銅像や線刻で表し、社殿や寺院の柱や壁などに懸けて拝んだもので、御正体とも呼ばれています。神仏習合の信仰から生まれ、鎌倉・室町時代にかけて盛行しました。田万川の**武氏八幡宮懸仏**（市指定）、むつみの**片俣八幡宮懸仏**（市指定）が現存しています。

刀剣

鎌倉時代の太刀として、志都岐山神社の**太刀 銘延吉**（国指定）、**太刀 銘光房**（国指定）があります。延吉は、鎌倉時代末期頃の奈良の刀工で、江戸時代の太刀として、須佐松崎八幡宮の**太刀 銘長州住人藤原口重・寛永二十一年甲申八月口日**（市指定）が現存しています。

陶磁器

須佐唐津焼は、須佐地区の市街地から須佐川沿いに約4kmさかのぼった唐津地区において、江戸時代

から続く窯業で、著名な青磁写のほか、^{すりばち}擂鉢などの日常雑器も盛んに焼かれました。**須佐唐津焼青磁釉銅器写花瓶**（市指定）は、作者は不明ですが、土谷窯系のものと推定され、萩藩永代家老益田家御用命の製品と思われます。作柄の秀抜なことから須佐唐津焼伝世品として価値が高く、須佐唐津焼を知る上で貴重な作品です。

竹細工

萩市域では竹が豊富に産出されることから、橙籠やスダレなど、竹を素材とした製品作りも盛んでした。**中嶋善麿作 竹籠**（市指定）は、田万川地域に生まれた中嶋善麿（1902～1992）の製作した竹籠6点で、高い技術力が評価されています。

その他、山田の岩戸神楽で使用される**神楽面**（未指定）〔写真は71頁参照〕は、地域の伝統芸能のおたからとして、舞とともに大切にされています。中でも「岩戸の鬼」で使用する鬼面は、見学する子どもを捉え、抱き上げて舞う場面があり、その形相が恐ろしいと評判です。

5) 書跡・典籍

書跡は、僧侶に関わるものと、近代書家の作品があります。なお、萩市域においては、典籍の指定はありません。

中世の書跡として、臨済宗龍蔵寺に2件が伝来しています。いずれも、高僧石屏子介（?～1381）に関係するもので、**雪峯東山空和尚外集**（国指定）は、中国南宋時代の高僧の文章を元時代（1271～1368）に書写したものです。「外集」とは、正式な語録に収録されなかったものを指します。龍蔵寺中興の祖となった石屏子介が、入元中に取得した手沢本と思われます。また、同寺には**石屏子介禪師墨蹟**（県指定）も伝わっており、石屏子介が亡くなる3年前の天授4（1378）年の書であることがわかります。

江戸時代のものとしては、東光寺の**三祖師号**（県指定）、同じく東光寺の**木額・柱聯・榜牌・同下書**（県指定）、川上地域梅岳寺の**山本又兵衛法号記**（市指定）、3件が伝来します。

近代書家の作品としては、田万川地域の書家、**古川久輝**（1914～1999）の筆になる「正信偈」と「千曲川旅情の歌」の2幅（市指定）が指定されています。

6) 古文書

大井八幡宮文書（市指定）は、萩地域大井に所在する大井八幡宮に伝来した文書群です。大井八幡宮は、中世末期まで阿武郡の惣社としての地位を占めており、文書は、その格式を証明するものです。

7) 考古資料

古墳からの出土品3件、中世の遺物1件が指定を受けています。

円光寺古墳出土品（県指定）は、萩地域大井に所在した円光寺古墳の出土遺物で、昭和4（1929）年、鉄道山陰線の工事中に偶然発見され、竪穴式石室と推定される遺構から単龍環頭太刀柄頭3点が出土しました。

塚穴古墳出土品（市指定）は、史跡の項で後述する塚穴古墳（市指定）からの出土遺物で、須恵器12点、刀子1点が出土しました。

見島ジーコンボ古墳群出土品（県指定）は、史跡の項で後述する見島ジーコンボ古墳群（国指定）

からの出土遺物です。出土品は、武器、装身具、銭貨、容器類などにわたり、材質として鉄・青銅・金銅・石・玉・ガラス・陶器などの各種が見られます。

元寇の碇石（市指定）は、萩地域大井に所在する石で、蛭子神として祀られています。元寇遺物としては、最東端に位置するものとされますが、近年の研究により、これらの碇石が、宋代の貿易船のものであった可能性があることが指摘されています。

この他、萩城外堀をはじめ、各地の試掘を含めた発掘調査の際に出土した遺物（未指定）が確認されています。

8) 歴史資料

日明貿易船旗・高洲家文書（国指定）は、萩藩士高洲家に伝わったものです。日明貿易船旗は、日明両国の公的貿易（いわゆる勘合貿易）が途絶えた後の民間貿易の実態を物的に示す比類ない好資料であるとともに、戦国大名毛利氏が東アジアの経済変動に的確に対応したことを示す資料です。

益田家歴代領主肖像画群（市指定）は、江戸時代に須佐を治めた萩藩永代家老益田家領主歴代の肖像画です。

萩市において、新たに指定された文化財に**金谷神社の異人的額**^{いじんまるとがく}〔写真12〕（市指定）と**シーボルトのピアノ**〔写真13〕（市指定）があります。これらは、令和6（2024）年4月22日に指定されました。

金谷神社の異人的額は、慶応元（1865）年に金谷神社に奉納された、装飾銃射撃の的にした西洋人を描いた奉納額という、往時の背景を伝える他に見ないユニークな額です。

シーボルトのピアノは、日本における西洋医学の普及と西洋における日本学の発展に大きく寄与したシーボルトが、文政6（1823）年に日本に持ち込んだ英国製のピアノで、シーボルト事件により出国する際に、萩藩御用商人・熊谷家第四代当主の熊谷五右衛門義比^{よしかず}に贈られたもので、現存する日本最古のピアノと言われています。

また、商家が軒を連ねる港町の浜崎地区では、**中村船具店の霧笛**^{むてき}（未指定）や**引札**（未指定）〔写真は65頁〕などの家々に伝わる文化財が、現地で保存・展示されています。



〔写真12〕 金谷神社の異人的額



〔写真13〕 シーボルトのピアノ

② 無形文化財

1) 工芸技術

市域の伝統的な焼物である、萩焼と須佐唐津焼の保持者が文化財指定を受けています。萩焼は、近世初期から茶陶として賞用され、わが国陶芸史上重要な位置を占めるとともに独自の地方的特色が顕著です。国指定**萩焼保持者**については、三輪節夫（第11代三輪休雪、壽雪）が平成24（2012）年に死去して以後、空席となっています。県指定**萩焼保持者**については、波多野善蔵、岡田裕が指定となっています。

須佐唐津焼保持者（市指定）については、土谷一史が指定となっています。土谷家は江戸時代、須佐益田家の御用焼物師であり、その技は一子相伝により伝承されています。



〔写真14〕 鬼揚子

また、見島では、長男誕生を祝い製作する大鳳^{おにようず}鬼揚子 [写真 14]（未指定）が、地域独自の文化と共に、その技術を受け継いでいます。

③ 民俗文化財

1) 有形の民俗文化財

信仰

須佐宝泉寺・黄帝社奉納船絵馬 [写真15]（国指定）は、須佐高山に所在する法泉寺とその鎮守の黄帝社に奉納された船絵馬群です。高山は北前船の船乗りにとって航海の目印だけでなく、信仰の聖地であったことから、これらの寺社には航海の安全祈願などのために、多数の船絵馬が奉納されました。指定の数は西日本最多の47面で、奉納者は長門や石見を中心とし、能登・筑前・丹後・出雲・隠岐の船主・船頭からの奉納も存在しています。なお、黄帝社社殿は、海上信仰資料として市の指定文化財となっています。



[写真15] 須佐宝泉寺・黄帝社奉納船絵馬

交通・運輸・通信

藩政期には、三角州内に入るには松本橋と橋本橋の二本しかなく、その他は渡し船を利用していましたが、鶴江の渡し [写真16]（未指定）は、昔の名残りを唯一伝える渡し場です。



[写真16] 鶴江の渡し

2) 無形の民俗文化財：分類…祭礼、民俗芸能

ここでは、祭礼と民俗芸能に分類しました。民俗芸能では、神楽舞が多数を占めています。

祭礼

住吉神社「お船謡」 [写真17]（県指定）は、萩地域浜崎地区の住吉神社の神幸祭（8月3日）に毎年奉納されます。藩主の御座船を模した山車の上に、町内から選ばれた袴を着た歌い手が乗り込み、市内各所を回り、唄を披露します。



[写真17] 住吉神社「お船謡」

また、山田地区の漁業集落の玉江浦で行われる「おしくらごう」 [写真18]（未指定）は、和船同士で櫓や櫂を使い競漕する藩政期に遡る伝統行事で、今でも地元の若者に受け継がれ、毎年6月の第1日曜日に行われています。



[写真18] おしくらごう

民俗芸能

上三原の田植えばやし（県指定）は、須佐地域の上三原に伝承されるもので、当地方の小作人たちが、地主の田植えを行う際の豊作を祈願として、庶民色の豊かな唄と踊りで、衣装や面にも独特な趣向がこらされています。

友信^{とものぶ}神楽舞（県指定）は、田万川地域小川地区の民俗芸能で、六調子の舞が特徴です。山口県に伝わった石見神楽は、明治時代以前は六調子であり、大正時代以後は八調子になったといわれていることから、友信神楽は古い時代の様相を残すものといえます。

木間^{かみよ}「神代の舞」（市指定）は、山田地区の農村集落の木間で伝承されています。江戸時代後期に上方から伝習した五穀豊穡を祈願するための舞です。同じ山田地区の玉江浦では、玉江浦「天狗拍子」（市

指定)が、玉江神社の秋の大祭に、奉納行事として行う大漁祈願の踊りとして伝わり、もともと新春を寿ぐ「門付芸」であったものが、めでたい文句を唱えておけば、言葉の持つ不思議な力によって言葉どおりの結果があらわれるという感染芸能(類感芸能)に変化したと考えられています。

笹尾義民おどり(市指定)は、川上地域の笹尾で、昭和初期から毎年8月15日に行われている行事です。文化7(1810)年に起こった「川島太甲庵(太鼓湾)水車設置事件」で犠牲となった平助、権太の二義民の義、恩義の念は地元で根強く、100年後の大正7(1918)年には川上壮年団が「川上二義の碑」を建立し、現在に至るまで、背向け地蔵の前で毎年供養祭が行われています。

大江後神楽舞(市指定)は、田万川地域小川で、明治時代中ごろから地元の若者を中心に舞われていたと考えられています。最初は明治27(1884)年頃に伝わった六調子の石州神楽を舞っていましたが、昭和2~3年(1927~28)ころに島根県益田市西平原から現在の八調子神楽が伝わりました。

下領神楽舞(市指定)は、むつみ地域において明治41(1908)年に設立された長門神楽座により継承されています。

越ヶ浜「大網声」(市指定)は、越ヶ浜地区の漁師たちが船上で、魚を捕る網を引きながら歌った勇壮なもので、古来、歌い継がれてきたものですが、現在では機械で網を引き上げるため、歌う機会が失われています。

越ヶ浜「巫女の舞」[写真19](市指定)は、安芸の厳島神社を勧請した、越ヶ浜の厳島神社管弦祭に奉納されるものです。舞は4人1組の巫女によって演じられます。



[写真19] 越ヶ浜「巫女の舞」

④ 記念物

1) 遺跡(史跡): 分類・・・古墳、城館跡、集落跡、旧宅、墓・碑、生産遺跡

古墳

竪穴式石室を持つ前期古墳として**須佐地古墳**(市指定)及び**長添山古墳**(市指定)が、横穴式石室を持つ後期古墳として**円光寺穴観音古墳**(市指定)、**塚穴古墳**(市指定)及び**穴観音古墳**[写真20](県指定)があります。

見島ジーコンボ古墳群(国指定)は、萩港の北方46kmの日本海上に位置する見島に所在します。島の東南端に形成された礫石浜上に、7世紀後半から10世紀初頭にかけて築造されたと推定される200基に及ぶ積石塚の古墳群です。



[写真20] 穴観音古墳

城館跡

毛利氏の居城であった、萩城に関する物件が指定を受けています。萩城のほか、藩の施設である旧萩藩御船倉、野山獄・岩倉獄、旧萩藩校明倫館等、また、中世の山城跡(未指定)もこの項にまとめました。

萩城跡[写真21](国指定)は、毛利輝元が築城したもので、慶長9(1604)年6月起工、13年6月に完成し、文久3(1863)年毛利敬親が藩庁を山口に遷すまで毛利氏の居城となりました。建物は全て失われ改変の跡もありますが、江戸時代の雄藩の城として重要、かつ、良く旧規模を留めており、縄張りもまた巧みであるもので、城郭史上重要な遺構です。

旧萩藩御船倉（国指定）は、藩主の御座船（ござぶね）を繋ぎ留めておいた場所で、毛利氏が防長に移封された後まもなく築かれたと考えられ、現在は中央の大船倉だけが残っています。

野山獄・岩倉獄（市指定）は萩藩の牢獄跡です。野山獄は上牢として士分の者が収容され、岩倉獄は下牢として庶民が収容されました。吉田松陰は海外渡航に失敗したのち野山獄に、その時の従者・金子重輔は岩倉獄に投ぜられました。



〔写真21〕 萩城跡

旧萩藩校明倫館（国指定）は、嘉永2（1849）年に拡張移転した江向の敷地の一部が指定となっています。史跡指定の敷地内には明倫館の遺構として、南門、観徳門、聖賢堂（市指定）が現存しています。

菊ヶ浜土塁（女台場）（市指定）は、幕末に築造された海岸防御のための土塁です。通称の「女台場」とは、土塁建造の際に武士の妻や奥女中までが派手な装いで応援したことによります。



〔写真22〕 大將軍山城跡
(大將軍山城)跡

15世紀から16世紀にかけ、萩市東部では、吉見氏と益田氏を軸とする激しい領地争いが続き、むつみ地域の**大將陣山城(大將軍山城)跡**〔写真22〕や**牟禮山(権現山)城跡**、田万川地域の**平山星の城**、大井地区の**天長山城跡**や**相崎城跡**（いずれも未指定）など、拠点となる山城が随所に築かれています。

集落

萩城城下町は、萩三角州全体に広がっていましたが、その一部が国の指定を受けています。

萩城城下町（国指定）は、萩城跡の東側に位置しています。呉服町一丁目は、萩城下28町の筆頭であり、御用商人菊屋家住宅（国指定）や久保田家住宅（市指定）など旧宅や武家住宅の家並みが良く残り、その配置の状況は、城下町の特色ある景観を偲ばせるものです。

また、城下町周辺の農村には、赤い石州瓦を葺いた民家が集る集落（未指定）が随所に見られ、周囲の田畑や山々と一体となった美しい景観を今に伝えています。

旧宅

江戸時代の人物に関するものとして、村田清風^{せいふう}、幕末から明治の人物に関するものとして、吉田松陰、木戸孝允、伊藤博文、桂太郎の旧宅が指定されています。

村田清風別宅跡（市指定）は、清風が藩政に携わっていた25年間居住した住宅跡で、現存する建物は長屋門のみです。清風は、天保の大改革で四白政策や八万貫の負債整理、羽賀台の関兵等民政・兵制改革に尽くした萩藩の改革指導者で、萩藩が雄藩となる基礎を築きました。

吉田松陰誕生地（市指定）は、旧椿東村の団子岩と呼ばれる景勝地に所在します。吉田松陰は、天保元（1830）年に萩藩士杉百合之助の二男としてここで誕生しました。当時の建物は現存せず、建物の間取りを示す石（大正時代復元）や、産湯の井戸、山県有朋の揮毫になる「吉田松陰先生誕生地」の石碑等が残っています。

木造茅葺平家建の**玉木文之進旧宅**（市指定）は、松陰の叔父に当たり、幼時の吉田松陰を厳しく教育したことで知られる文之進は、天保13（1842）年にここで松下村塾を開きました。このため、この玉木文之進旧宅は、「松下村塾発祥の地」と言われています。

伊藤博文旧宅[写真23]（国指定）は、木造茅葺平家建、付属建物として便所・風呂場があります。また、旧宅に隣接する**伊藤博文旧宅地 附伊藤博文別邸**（市指定）は、明治40（1907）年に建築された伊藤博文別邸の一部を、東京都品川区から移築しています。

木戸孝允旧宅（国指定）は、孝允の実家和田家（藩医、禄高20石）の旧宅で、木造棧瓦葺一部2階建、付属建物として物置があります。木戸孝允は天保4（1833）年6月26日にこの家で生まれました。



[写真23] 伊藤博文旧宅

墓・碑

萩藩主毛利家の墓所や幕末志士、儒者等の墓が指定を受けています。

萩藩主毛利家墓所（国指定）は、萩市にある**旧天樹院墓所・大照院墓所・東光寺墓所**[写真24]と山口市の香山墓所の4箇所が、一括で国指定史跡となっています。旧天樹院墓所は墓所のみ現存。大照院墓所及び東光寺墓所は、藩主及び一族の墓所と菩提寺が現存しています。大照院・東光寺ともその規模と荘厳さは、近世大名墓所の代表的なもので、大名の墓制・葬制を知る上で重要です。



[写真24]萩藩主毛利家墓所
（東光寺墓所）

吉田松陰の墓ならびに墓所（市指定）は、松陰誕生地に隣接し、吉田松陰とその関係者の墓が建ち並び、幕末の日本史上に影響を与えた松陰と関わりの深い人の墓所として、歴史的に重要です。

その他、**小倉四賢墓所**（市指定）、**八橋校校の碑**（市指定）などが現存する他、大正時代に有志により建立された幕末の偉人らの旧宅地や誕生地を示す石碑（未指定）が各地に点在します。

生産遺跡

萩市域の伝統的な焼物である「萩焼」と「須佐唐津焼」の窯跡が文化財指定を受けています。**萩焼古窯跡群**（県指定）は、萩藩御用焼物師坂家の陶磁器窯跡群で、付近に点在する物原には、製品の陶片はもとより、各種の窯道具が多量に埋存し、萩焼の細かな技法や「御用窯」の実態を知ることができ、萩焼の歴史解明にとっても重要な文化財です。**須佐唐津古窯跡群**（県指定）は、江戸時代初期から大正末期にかけて操業された3基の連房式登り窯とこれに付随する物原2ヶ所からなります。

2) 名勝地

萩市の名勝指定は自然景観のみです。庭園等についての単独指定はありませんが、萩城内の東園や大照院庭園等は、史跡に含まれており名勝的価値を認めています。

長門峡（国指定）は、萩市域川上から山口市阿東にまたがる渓谷で、兩岸は断崖絶壁をなし、各所に滝、甌穴、洄りなど、流水でできた地形が見られます。

須佐湾[写真25]（国指定）は、典型的な溺れ谷現象によるぶどう状海湾で、中にさらに7つの入り江が複雑に入り込み、海岸線は延長16kmにも及びます。

むつみ地域には、**蛇淵**（未指定）と呼ばれる4m余りの滝が見られます。蔵目喜川の流れを1点に集め、水量豊かな瀑布と青黒く渦を巻く淵の光景が、大蛇が潜むと言われることから、その名がつけられました。



[写真25] 須佐湾

3) 動物、植物、地質鉱物（天然記念物）

動物

4件が指定され、うち3件は見島にあります。離島が育んだその土地ならではの生態系が見られます。

見島ウシ産地[写真26]（国指定）は、萩市見島が指定範囲です。見島ウシは役用種で、毛色は黒褐色、一般的な和牛よりも小柄です。西洋種との交配を行っておらず、日本で最も古い和牛と言われています。

見島のカメ生息地（国指定）は、イシガメの生息する見島本村のため池を指定地としています。見島が第四紀洪積世以後に本州から離れて島となった際の遺存生物であり、貴重とされています。

その他、**指月山のミカドアゲハ**（市指定）、**見島日崎のタダムシオイガイ・ミシマヒメベッコウ**および**その棲息地**（市指定）が指定されています。



[写真26] 見島ウシ産地

植物

萩市域は日本海側に面していますが、沖に暖流が流れている関係により気候は温暖で、南方系植物の自生北限となるものが多くあるほか、指定物件には巨樹が多いのも特徴です。また、笠山の風穴のような特殊な環境で発生した植物もみられます。

笠山コウライタチバナ自生地（国指定）は、大正15（1926）年の指定当初には、タチバナ自生北限地とされていましたが、その後、コウライタチバナの我が国唯一の自生地であることが判明したため、名称が変更されました。なお、その後の調査により、指定地から約500m離れた場所で、**笠山虎ヶ崎タチバナ自生北限地**および**コウライタチバナ自生地**（市指定）を指定しました。

川上のユズおよびナンテン自生地（国指定）は、萩市川上の照葉樹林の高木域にユズが混生して生育しているもので、大きいものは目通り30cmにも達し、多数生育しているものは珍しいとされています。

指月山（国指定）を基軸に毛利輝元は萩城を築き、江戸時代を通じて指月山の山林は城内林として保護されてきました。このため、山体を覆う森林はよくその姿をとどめ、温暖帯照葉樹林として日本でもまれに見る成熟した森林となっています。

樹木の指定として、**河内の大ムク**（県指定）、**吉部八幡宮のスギ**（県指定）、**三見吉広のバクチノキ**（県指定）、**志都岐山神社のミドリヨシノ**[写真27]（県指定）、**辻山のシダレザクラ**（県指定）などがあります。



[写真27] 志都岐山神社のミドリヨシノ

地質鉱物

田万川の柱状節理と水中自破碎溶岩（県指定）は、阿武町福賀の伊良尾山から噴出した溶岩が柱状節理となったもので、その形成過程が、一連の順を追ってわかる露頭は全国的にも珍しいものとして指定され、地元では「龍鱗郷」の愛称で親しまれています。

弥富猿屋の柱状節理（猿屋の滝）（市指定）は、龍鱗郷の上流部に位置し、高さ50mもある厚い柱状節理が幅約300mにわたって見られ、その光景は壮観です。



[写真28] 壘ヶ淵

これらは、阿武町にある伊良尾山から流れ下った溶岩を起源とする火山地形で、河川の浸食により、河床が六角形の石畳を敷き詰めたような柱状節理の景勝地である**畳ヶ淵**[写真 28]（未指定）とともに、「龍が通った道」と称する探索ルートで親しまれています。

⑤ 文化的景観

文化的景観については選定されたものではありませんが、地域に愛される風景があります。相島の**石積みのだんだん畑**[写真29]（未指定）は、離島で土地に限られる中で、先人の努力と工夫により急傾斜に開作された畑で、そこでは今でも名産のすいかや玉ねぎが栽培されています。

また、見島の**八町八反**[写真30]（未指定）は、古代から中世にかけて造られた条里制にのっとった碁盤目状の区画を持つ広大な田んぼで、今もそこで稲作が行われています。見島ウシの放牧と共に、中世の暮らしが思い起こされる風景です。



[写真29] 石積みのだんだん畑



[写真30] 八町八反

⑥ 伝統的建造物群

日本の町並み保存を進める制度として、昭和50（1975）年に誕生した伝統的建造物保存地区は、その翌年に萩市堀内及び平安古地区が、武家地として全国初の選定となり、現在は、港町の浜崎及び宿場町の佐々並市を加えた4地区を抱え、その保有数は京都市、金沢市に匹敵します。

堀内地区重要伝統的建造物群保存地区（国選定）は、藩政期の重臣屋敷の地割を取り囲む土塀や石積み、物見矢倉や長屋門などの伝統的建造物に加えて、毛利家墓所天樹院や藩校明倫館跡などが保存されており、これらと一体を夏みかんや生垣とともに、地域の歴史的経緯が重層的に反映された独特の歴史的風致を今に伝えています。

平安古地区重要伝統的建造物群保存地区[写真31]（国選定）は、水辺に開かれた地の利を活かし、江戸時代には重臣達の下屋敷などが置かれ、その後も夏みかん畑に転用されながらも、鍵曲を中心に残されている土塀や長屋門、主屋などの貴重な伝統的建造物と、それらと一体をなす庭園や松の巨木などが豊かな歴史的風致を保っています。



[写真31] 平安古伝建地区

浜崎重要伝統的建造物群保存地区（国選定）は、その立地を活かし、萩藩の海を治める拠点と萩城下町の物流及び水産加工業を支える河港という二つの性格を帯びた港町として繁栄し、それによって築かれた町家が建ち並ぶ景観と、そこを舞台に受け継がれてきた祭礼や産業、生活文化が今に伝えられ、往時の繁栄が偲べれます。

佐々並市重要伝統的建造物群保存地区[写真32]（国選定）は、江戸初期の萩往還の整備に伴い、町立てされ、萩藩の宿駅として重要な役割を果たす一方、時代を通じて豊かな農村集落として栄え、茅葺や石州瓦葺民家と、佐々並川に注がれる水系に支えられた棚田、周囲の山々が一体となった美しい佇まいを今に伝えています。



[写真32] 佐々並市伝建地区

佐々並市伝建地区と同じく萩往還の宿場町として、発展した**明木市の町並み**（未指定）は、明治24（1891）年の大火でその多くが焼失して新しく建てられたものの、赤い石州瓦葺の伝統的な町家の建物が街道に沿って続く景観が特徴的です。

この他にも、益田家の拝領地であった須佐、港町であった江崎、石州街道の吉部市や福井市、赤間関街道の三見市など魅力的な町並み（いずれも未指定）が点在しています。

2 萩まちじゅう博物館により認定されたおたからの把握

（1）萩の「おたから」とは

本市では、萩市の文化財を萩まちじゅう博物館構想に基づき、萩の「おたから」と総称し、下記のように定義しています。

【萩のおたからの定義】

おたからは、学術上、歴史上、芸術上の価値に関わらず、地域に存在し、親しまれてきたもので、指定等文化財に限らず、未指定文化財を含み、おたからそのものが持つ場所と時間に関する以下の2つの要件を満たすものと定義しています。

萩のおたから

- ・萩に由来する本物であること
- ・一定の間、継承されてきたものであること

※「一定の間」とは、おおそ50年を経過したものを目安とします。

上記の2つの要件により拾い上げられるおたからは、多様であり、従来の文化財の種別では分類できないものが多数あります。

そこで、おたからを地域の土地に付随し空間をつくりあげている「空間遺産」と地域の人々に付随し生活とともにある「生活遺産」という2つの観点で分類します。

・萩に由来する 本物であること ・一定の間、継承 されてきたもの であること	空間遺産	空間要素 道路、地割、河川、 水路…
	地域の土地 に付随し空間 をつくりあげ ている	景観要素 建築物、工作物、護 岸石積、樹木…
	生活遺産	無形要素 祭事、慣習、地名、 技術…
	地域の人々 の営みに付 随し生活とと もにある	有形要素 美術・工芸品、文書、 絵図、植物、動物…

空間遺産とは、不動産的な性質を持つ遺産です。さらに空間遺産は、道路や地割、河川・水路といった空間そのものを規定する地図上で確認できる「空間要素」と、建築物や工作物、護岸石積、樹木など空間要素の上に可視的に存在する「景観要素」から成っています。

生活遺産とは、動産的な性質を持つ遺産です。生活遺産は、祭事や慣習、地名、方言、食事（郷土料理）などに着目した民俗的な遺産、美術・工芸品や文書、絵図など着目した芸術的な遺産、植物や動物など生物的な遺産、さらには資料・文献など地域に関する記録などが含まれ、目に見えず形のないコトである「無形要素」と、目に見えて形のあるモノである「有形要素」から成っています。

これらの中には、将来国・県・市の文化財指定等を受けるものもありますし、博物館等に収蔵されているものもありますが、その大半はそれぞれの地域において、暮らしや祭礼の中で使われ、あるいは路傍にひっそりと存在します。しかし、これらが時間的にも社会的、空間的にも相互に関連して一つひとつの個性豊かな地域をつくり上げています。また、今後の調査や時間の経過の中で、まだまだ萩の空間や生活に埋蔵されたおたからが新たに発見、共有されることが想定されます。

（２）認定されたおたから

萩市では、平成21（2009）年度から令和2（2020）年度にかけて、文化庁文化遺産活用事業により、萩市文化遺産活用実行委員会が地域の市民と共同で調査したものです。調査に当たっては、後述（第6章 文化財の把握調査に関する方針と措置／1. 既存の把握調査の概要／（4）萩まちじゅう博物館により把握したおたから、114頁から116頁）に記載した方法により実施したもので、個別の調査内容については、本計画資料編に全て掲載している他、「萩おたからデータベース」としてインターネット上でも公開しています。

これを「萩のおたから」の区分に従って分類したのが、下の表です。これを概観するとそれぞれの地域において、各要素がまんべんなく把握され、それらが地域の空間と生活の遺産を形づくっていることがよく分かります。

▽ 表 萩市においてこれまで認定したおたから件数一覧

遺産種別	要素種別	件数	計
空間遺産	空間要素	353	1,140
	景観要素	787	
生活遺産	無形要素	336	529
	有形要素	193	
	おたから件数		1,669

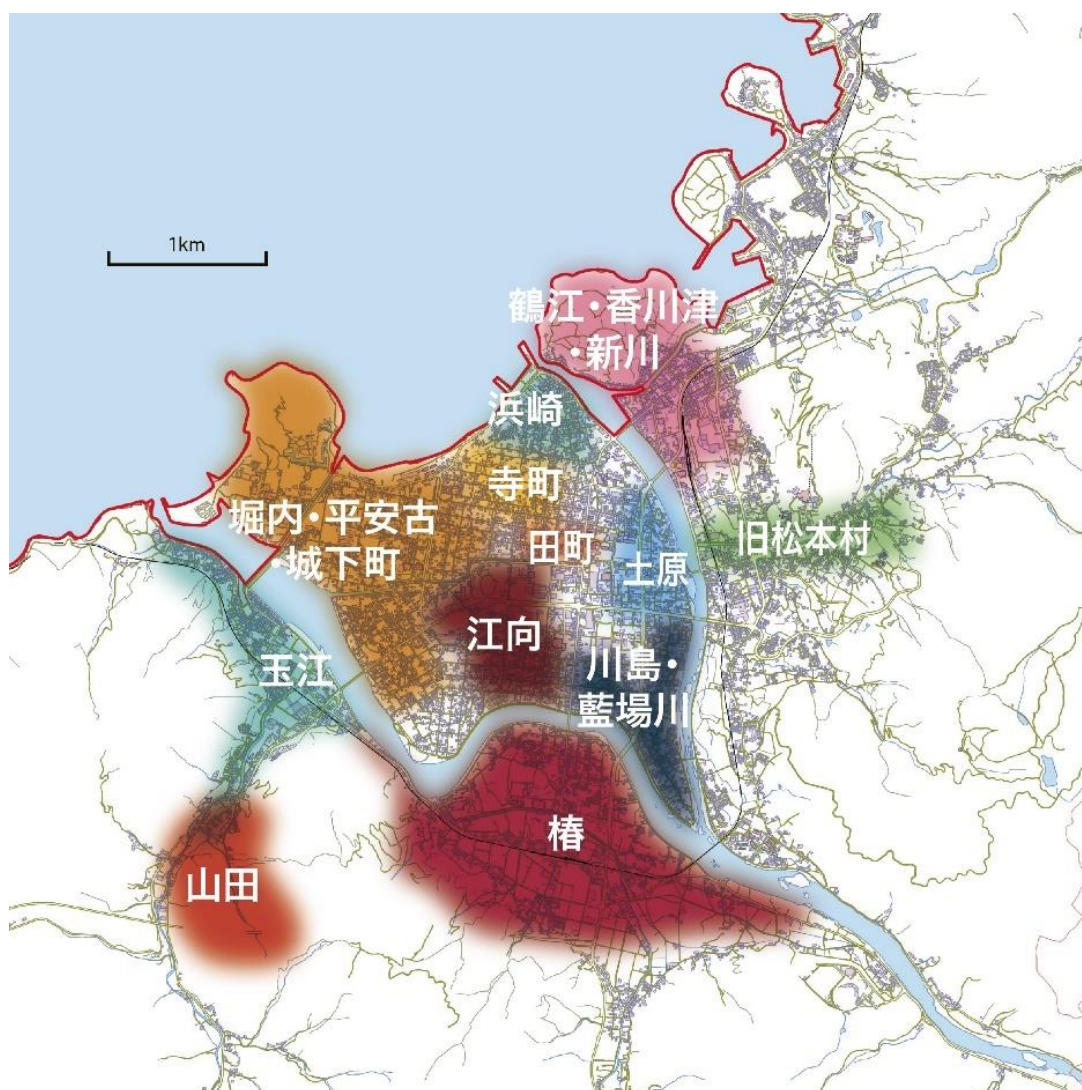
（３）地域別のおたから

一方で、拾い上げられているおたからの内容を子細に見ると、それぞれの地域の歴史文化の特性をよく反映していることが分かります。以下、各地域別に主要なおたからを挙げつつ、その概要を説明します。

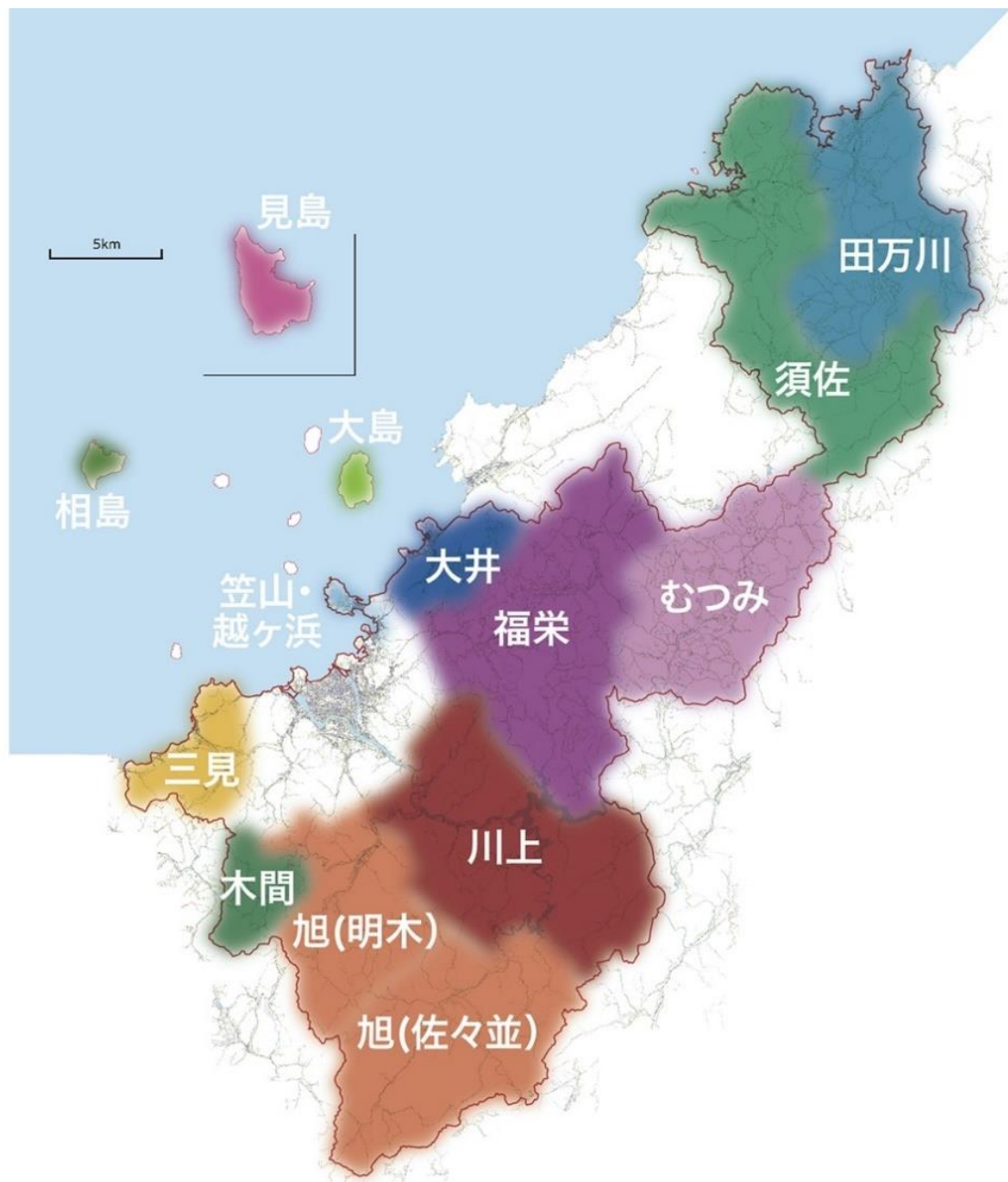
▽ 表 認定した地域別のおたから名と認定数

地区・地域名		おたから名（テーマ） 主な認定おたから	認定数
1	堀内・平安古・ 城下町地区	維新の志士が往来した当時の風景を今も残すまち 街路2、旧宅地・誕生地4、史跡5、建築物10、筋名4、他	28
2	浜崎地区	港で栄えた商家町 建築物4、社寺1、なりわい道具5、祭礼・行事道具1、史資料3、他	16
3	田町地区	城下町のメインストリート 御成道 田町 レトロ看板8、橋6、筋名13、建築物14、祭礼4、商い5、商い道具3、他	85
4	寺町地区	三角州の砂丘上に作られた寺町と町人町 建築物7、社寺20、町印16、筋名42、仏像3、他	111
5	江向地区	水とともに暮らしてきた城下町・萩の教育と近代化の歴史 河川4、旧宅地・誕生地7、史跡9、樹木5、筋名28、他	79
6	土原地区	松本川に育まれた人々と武家の町割 旧宅地・誕生地3、景観2、建築物4、工作物3、人物12、他	38
7	川島 ・藍場川地区	人々の暮らしにとけこんだ藍場川と川島の風景と歴史 旧宅地・誕生地7、工作物5、樹木9、人物3、石碑10、他	51
8	椿地区	萩の玄関口・椿 河川2、街道2、橋2、ハトバ4、史跡12、社寺9、小祠・野仏5、道標2、他	69
9	旧松本村地区	松陰先生のふるさと、旧松本村 旧宅地・誕生地2、建築物4、社寺2、石碑3、墓・墓所3、他	18
10	鶴江・香川津・ 新川地区	水を恐れ、水を制し、水の恵みを受けてきた人々の営み 記憶3、郷土料理8、工作物3、商い4、小祠・野仏3、石碑3、眺望2、他	79
11	笠山 ・越ヶ浜地区	越ヶ浜の自然と漁業集落の暮らしの文化 建築物8、工作物13、祭礼11、小祠・野仏6、慣習3、伝承6、門名12、他	100
12	玉江地区	海と陸の文化を結ぶ玉江の信仰と祭り 建築物5、史跡6、社寺9、信仰4、伝統行事1、他	40
13	山田地区	伝統を次世代へつなぐ地域の輪 いきもの1、祭礼3、社寺3、小祠・野仏4、神楽1、神楽道具1、他	18
14	木間地区	今も昔もお地蔵様が見守る里 木間 花畑4、祭礼2、小祠・野仏7、特産品6、風景4、風習2、他	45
15	三見地区	赤間関街道の宿駅町として発達した三見市と街道の変遷 街道施設4、街道施設跡3、工作物2、社寺2、小祠・野仏2、他	17
16	大井地区	古代の息吹が今にいきづく阿牟(あむ)の里・大井 古墳5、山城跡2、社寺8、墓・墓所3、石棺4、土器5、他	66
17	見島地区	人の温かさに触れる自然と歴史の島・見島 風景6、社寺4、小祠・野仏2、風習3、生活文化1、郷土料理10、民謡2、他	47
18	大島地区	恵みの海と火山台地のヤマに育まれた元気な島 建築物8、社寺3、工作物4、集落2、小祠・野仏6、祭礼4、郷土料理6、他	70
19	相島地区	日常とは違った、心豊かになるハートの形の島・相島 景色9、建築物6、祭礼5、海産物4、農産物6、郷土料理9、他	68

20	川上地域	阿武川(あぶがわ)とともに生きた山里の歴史と営み 水風景18、建築物4、社寺7、小祠・野仏26、地名23、他	117
21	田万川地域	田万川のおたからを育んだ海彦・里彦・山彦 台地3、古墳3、山城跡2、建築物2、社寺5、樹木5、風景2、郷土料理2、他	51
22	むつみ地域	恵まれた自然地形と先人から引き継がれてきた田園風景、暮らしの証 山城跡5、集落遺跡5、台地4、建築物3、小祠・野仏5、他	47
23	須佐地域	幕末・明治維新と日本の近代化を支えた須佐 絵図1、街道施設跡3、建築物1、工作物4、社寺6、人物6、墓・墓所1、他	30
24	旭地域 明木地区	街道による人・物の交流と思いやりの中で生まれ栄えた明木のおたから 街道遺跡14、街道要素5、建築物11、石碑10、人物3、他	69
25	旭地域 佐々並地区	萩往還の宿場町を中心に栄えた心のよりどころ、佐々並 史跡16、建築物37、小祠・野仏68、祭礼16、年中行事14件、他	231
26	福栄地域	深い山々にいざなわれた信仰の里 山4、社寺16、小祠・野仏30、台地4、仏像10、他	79
26エリア			1,669



地域のおたからのエリア（その1萩市中心部）



地域のおたからのエリア（その2 萩市全域）

1) 堀内・平安古・城下町地区 「維新の志士が往来した当時の風景を今も残すまち」

…長く続く土堀、堀内・平安古の鍵曲、久坂玄瑞誕生地、高杉晋作誕生地、菊屋横町 など

堀内はその名の通り、萩城外堀の内側の旧三の丸から二の丸にかけての地域で、近世には萩藩の重臣の上屋敷が整然と並び、現在でも通りに沿って土堀や石積、長屋門などが建ち並んでいます。

また、萩城下から堀内に入る3つの総門のうち、中の総門に続く御成道沿いが「城下町」（国指定史跡萩城城下町）、平安古の総門に続き通り沿いが平安古で、町人地と中級武家地が隣り合わせで、現在でも豪商の町家や幕末維新に活躍した木戸孝允、高杉晋作、村田清風らの旧宅や誕生地があり、当時の雰囲気の色濃く残し、萩観光の中心地として多くの来訪者が往来しています。



堀内鍵曲



平安古鍵曲



菊屋横町

2) 浜崎地区 「港で栄えた商家町」

…浜崎の町並み、住吉祭り、御船蔵、鶴江の渡し、商いの道具、豪商のおたから など

浜崎は、萩三角州の北東端に突出した松本川河口に開かれた萩城下の港町です。近世には、日本海を介した廻船業をはじめ、両替商、酒や醤油の醸造業、魚問屋などを営む商人が集住し、大いに繁栄しました。また、町の中央には藩主の御座船などを収めた御船倉があり、萩沿岸に点在する漁村である浦と萩沖の島（七浦七島）を統治する浜崎宰判の勘場も置かれていました。

海や船との関わりの中で栄えた町並みをつくる町家、浜崎町人が勧請した住吉神社、船道具やはかり、引札などの家々に伝わるおたからが毎年、浜崎伝建おたから博物館で公開されます。



旧萩藩御船倉



引札



鶴江の渡し

3) 田町地区 「城下町のメインストリート 御成道 田町」

・・・田町商店街と夕日、商店街沿いの町家・森井家住宅、薬局のネズミの看板、唐樋の札場跡、貝をモチーフにした西田町の町印、近代建築の郵便局、佐世天神の祭り など

田町（東田町・西田町）は、萩往還の起点となる唐樋札場から萩城へと続く御成道沿いの町人地で、藩政期には呉服町とともに萩城下のメインストリートでした。明治以降も、古くからの大店や銀行など当時の経済の中心を担う店舗が軒を連ね、大正から昭和にかけても町家と近代建築が混在し、様々な看板や幟が立ち並ぶ中を多くの人が行き交う様子が古写真に残されています。

通りには、古い看板や各時代の建物が点在し、各時代の繁栄を物語る様々なおたからが融合した魅力的な町並みです。今でも、夏の夜市や祭り、様々なイベントを楽しむ場として、多くの市民に親しまれています。



森井家住宅



柏木薬局



唐樋の札場と御成道

4) 寺町地区 「三角州の砂丘上に作られた寺町と町人町」

・・・萩三角州の最高地点（標高）、亨徳寺三門、熊谷家住宅、明倫館遺構 聖廟(海潮寺本堂)、長寿寺十三重塔、端坊鐘楼、端坊の蘇鉄 など

寺町は、地名ではなく20余りの寺院が密集する北古萩町を中心とした地域の総称です。このあたりは、三角州内でも比較的標高が高く、境内や墓地を囲む塀越しに、隣接する寺院本堂の高い屋根がそびえ、随所に入り組んだT字路やL字路も見られます。

各寺院には人々の厚い信仰のもと、立派な仏像や扁額などが伝わり、境内には重厚な本堂や山門、藩士をはじめとする萩の著名人の五輪塔や宝篋印塔、墓石なども点在します。こうした境内を包むように広がる町並みは、周囲の^{いまのおのたまち}今魚店町、樽屋町、細工町、米屋町などの町人地とともに落ち着いた雰囲気漂わせています。



明倫館遺構・聖廟



端坊



熊谷家住宅

5) 江向地区 「水とともに暮らしてきた城下町・萩の教育と近代化の歴史」

…旧萩藩校明倫館・水練池、萩城下街割原標石、藍玉座跡、高島北海誕生地、南園のクロマツ など

三角州の南半に位置する江向は、城下町建設の当初、南辺の八丁筋を除き大半が湿地帯でした。その後、北側に新堀川、中央部を横断するように藍場川（大溝）が開削され、水捌けが改良されたことを契機に武家地が拡大し、やがて中央部の湿地を埋め立てた広大な土地に萩藩校明倫館が整備されました。

近代に入ると、武家屋敷の多くは住宅や夏みかん畑に転じます。その一方で、中央部に未だ残されていた湿地帯に新たな道路が通され、役所などの公共施設や事務所が次々と立地し、東側に隣接する土原に広がる湿地帯とともに、近代施設の受け皿となったおかげで萩城下町の町並みを開発から守りつつ萩の町の近代化が成し遂げられました。



藩校明倫館・水練池



渡辺蒿蔵旧宅



藍場川と藍玉座跡

6) 土原地区 「松本川に育まれた人々と武家の町割り」

…松本橋と「扇の芝」、武家のハトバと水辺の景観、弘法寺と周辺の石碑 など

三角州の東半に位置する土原は、その名が示すように城下町建設の当初は、蛇行する松本川の氾濫原が広がり、その微高地に武家屋敷が点在していました。一方で土原は、萩城下町から東方に至る石州街道の渡り口として重要な位置にあり、治水が進むとともに中下級の武家地として広く開発が進みました。

現在でも通りに沿って長屋門や土塀の基礎、藍場川には波止場や庭園跡が残る他、志士の旧宅地や誕生地を示す石碑が立ち、往時の風情が偲ばれます。また、江向と同様にかつての湿地帯が、戦後の商店街やショッピングセンター、国道バイパスなどを受入れたことにより、近代都市としての役割も担い、新旧の顔を併せ持つところも土原の魅力です。



寄舟山弘法寺



松本川沿いの景観



前原一誠旧宅

7) 川島・藍場川地区 「人々の暮らしにとけこんだ藍場川と川島の風景と歴史」

…藍場川、藍場川沿いの池を構えた屋敷、太鼓湾と桜、屋敷周りの木立、藍場川に架かる石橋、ハトバと野菜を洗う風景 など

川島は、松本川と橋本川に挟まれた萩三角州の南東に細長い地域です。中心部には城下町建設以前に指月山山麓にあった善福寺という古刹がありますが、大半は近代を迎えるまで百姓地でした。川の分岐点は太鼓湾と呼ばれ、萩城下町を縦断する藍場川はここから取水されていました。川島を縦断する藍場川は、かつての土原、江向に農業用水や城下の生活用水を供給し、生活物資の運搬にも利用されただけでなく、川沿いの屋敷には水を引き入れた庭園が設けられるなど多様な役割がありました。現在も藍場川沿いには、石橋や洗い場であるハトバが残される一方で、松本川、橋本川沿いには手入れされた生垣と桜並木が続き、城下町とは異なる潤いある風情が漂います。



藍場川沿いの屋敷
(旧湯川家屋敷)



太鼓湾と桜



聖の奉納

8) 椿地区 「萩の玄関口・椿」

…金谷神社、大木戸跡、椿地区の風景、萩駅舎、椿八幡宮、大照院、萩往還、涙松跡、白牛伝説と葵神社 など

椿は、阿武川左岸の沖積平野と大屋川の扇状地が重なる広い範囲に展開する萩城下町の玄関口とも呼ぶべき地域です。古代から人が居住し、東大寺の大仏建立に纏わる白牛伝説が伝わり、鎌倉時代には椿八幡宮が勧請され、一帯は牛牧庄と呼ばれるなど古くから開けていました。

萩城下町が成立すると萩往還が整備され、往還沿いの椿町は城下町に組み込まれ、この南端に位置する金谷天満宮には萩城下への出入りを管理する大木戸が設けられました。往還を南に下ると、吉田松陰が萩城下を振り返り歌を詠んだ「涙松」の遺構もあり、近代に入ると萩駅が建設されるなど、いつの時代も多くの人や物が行き交う重要な場所でした。



金谷天満宮



涙松遺跡



葵神社と白牛

9) 旧松本村地区 「松陰先生のふるさと、旧松本村」

…松下村塾、杉家、玉木文之進旧宅、吉田松陰先生誕生地、吉田松陰先生の墓 など

萩城下町の東方にあたる松陰神社周辺の一帯はかつて松本村と呼ばれていました。松本川を挟んで萩城下町とも近接し石州街道で結ばれ、毛利家菩提寺の1つである東光寺が置かれたこの地には武家屋敷が点在し、その中には吉田松陰の誕生地や墓所、実家である杉家旧宅、彼の叔父であり松下村塾を創設した玉木文之進の旧宅、また彼の門下生であった伊藤博文の旧宅などが保存されています。

松下村塾はやがて吉田松陰が引き継ぎ、ここから明治維新、その後の近代日本を切り拓くことになる幾多の志士を出しました。高台からは萩城下町が見渡せ、豊かな緑に包まれた史跡群に恵まれた旧松本村を、往時の志士に思いを馳せながら多くの人々が巡り歩いています。



吉田松陰誕生地



玉木文之進旧宅



松下村塾

10) 鶴江・香川津・新川地区 「水を恐れ、水を制し、水の恵みを受けてきた人々の営み」

…姥倉運河、香川津神楽舞、香川津二孝子の石碑、鶴江のまちなみ、鶴江台とナツミカン、鶴江の渡しなど

松本川を挟んだ浜崎対岸の鶴江から香川津にかけては、城下町近郊の古くからの漁業集落でしたが、一方で、松本川河口は砂の堆積による度重なる洪水によって萩城下の人々を悩ませていました。そこで、幕末の大水を契機に、川に滞留する水を小畑方面に抜くため、開削されたのが姥倉運河です。これにより湿地帯であった運河南側一帯の新川の開発が近代を通じて進み、木材や竹材をはじめとして水運を利用した各種材料の運搬に適していたころから工場が多く立地しました。

松本川から姥倉運河の護岸には漁船が並び、手漕ぎの舟による「鶴江の渡し」が行き来している他、早春には四ツ手網を使った「しろうお漁」が行われるなど、水の恵みを受けた営みが続いています。



姥倉運河



香川津二孝子



鶴江の渡し

11) 笠山・越ヶ浜地区 「越ヶ浜の自然と漁業集落の暮らしの文化」

…笠山、明神池、巖島神社と祭礼、夕^{ゆうなづ}瀨湾・嫁^{よめなま}泣湾、越ヶ浜の集落、門^{かどな}名、北前船に由来する墓 など

日本海に突き出た笠山は、阿武火山群の1つであり、噴火口や風^{かざあな}穴と呼ばれる独特の地形を形作り、山腹には天然のヤブツバキの群生林、山麓には外海の干満に応じて池の水位が上下し、海水魚が生息する明神池など自然豊かな観光地として古くから賑わいました。

この笠山の麓から続く砂洲上に広がる越ヶ浜は、砂洲の北側に嫁泣、南側に夕瀨という二つの天然の良港を持ち、漁業が盛んであったうえ、藩政期には多くの廻船が物資の荷揚げや風待ちに立ち寄り、大いに賑わっていました。現在も、漁業や水産加工業が盛んで、細い路地に家屋が密集する漁業集落らしい風情が漂います。



笠山



巖島神社管弦祭



越ヶ浜の集落

12) 玉江地区 「海と陸の文化を結ぶ玉江の信仰と祭り」

…観音院観音堂、おしくらごう、権現様（玉江神社）、青年宿、天狗拍子、弁天様（巖島神社）、弁天祭り、恵比寿神社、オミセンサマ（倉江神社）、延^{はえなわ}縄漁、夏みかん畑 など

萩の三角州から橋本川を挟んだ堀内の対岸に位置する玉江浦は、天然の入江を持つ古くからの漁業集落であり、港を見下ろすように建つ観音院観音堂は、港に帰る漁船の目印ともなり、厚い信仰を集めていました。また、代々の漁師育成を集落ぐるみで行う際に若者が寝泊まりした青年宿と呼ばれる建物も現存し、伝統的な和船競漕である「おしくらごう」も今に伝わります。

平地の少ない玉江浦から山間部に入る一帯は奥玉江と呼ばれる農村集落で、玉江浦から河口にかけても倉江と呼ばれる集落が続き、かつては「倉江の帰帆」「玉江の秋月」と謳われた名勝地でもあり、橋本川河口の水に親しむ美しく豊かな暮らしがそこにあります。



観音院・観音堂



弁天様（巖島神社）



カノコユリ

13) 山田地区 「伝統を次世代へつなぐ地域の輪」

・・・山田の岩戸神楽舞、天神様、諏訪様、しめ縄づくり、山田のお地蔵様群、玉江川、玉江のホタル、ホタルまつりinやまだ、祭りや神楽による人のつながり など

山田は萩三角州南西に位置し、山あいを流れる玉江川流域の小さな農村集落です。山と川の恵みを受ける集落には、天神様、諏訪様など神社や祠、お地蔵様があちこちに点在し、古くから暮らしに根付いた信仰を大切にしています。天神様の秋祭りでは、幣、扇子、刀、鈴等を持って舞い踊り、豊穡や安産を祈願する神楽舞は23演目もあります。

近年は、玉江川に飛び交うホタルを大切にし、地域の子供達の活動や企画した「ほたるまつり」などのイベントを通じて内外の人々との交流に取り組むなど、新旧の祭りを通じて山田で育まれてきた豊かな暮らしが受け継がれています。



天神様



神楽舞



神楽面

14) 木間地区 「今も昔もお地蔵様が見守る里 木間」

・・・木間の出入り口を見守るお地蔵様、地蔵盆、若宮神社、風鎮祭、神代の舞、しょうぶ園、木間菖蒲園まつり、木間のコシヒカリ、木間とうふ、木間のみそ、門名 など

木間は、萩城下町の南西の山間部に位置する農村集落です。標高616メートルの鯨ヶ岳^{くじらがだけ}をはじめ、山あいから流れ出る清流により、昼夜の寒暖差が大きいことも加わって美味しい農作物が育まれ、豆腐やみそなどの加工品づくりも盛んです。また、これらの清流の恩恵で育まれる菖蒲やホタルは地域の暮らしに溶け込み、地域づくりにも一役買っています。

こうした古くから農村として栄えたきたこの地域には、若宮神社などの神社や祠、お地蔵様が点在し、木間の「神代の舞」をはじめとする神楽舞が奉納されるなど、豊穡と信仰に結び付いた豊かな農村文化が伝わります。



北木間のお地蔵様



旧木間小中学校



木間菖蒲園

15) 三見地区 「赤間関街道の宿駅町として発達した三見市と街道の変遷」

…三見市宿駅跡、三見市の町並み、御高札場跡、藩主の休息場所となった色雲寺、一里塚跡、三見橋など

萩市の西端に位置する三見の歴史は古く、古代の官道の宿駅の1つとしてこの周辺を指す「参美」の名前が記録に残ります。現在に続く三見は、畔田川、手水川と合流する三見川沿いに点在する農村集落と、河口の漁業集落である三見浦などいくつかの集落からできています。

一方で三見市は、藩政期に萩城下町と赤間関（下関）を結ぶ赤間関街道北浦道筋の宿駅の設置にあわせ町立てされ、本陣の役を担った色雲寺や高札場があった仁王堂跡など往時の町並みを色濃く残しています。近代に入ると街道に代わり、三見市の北側を真っすぐに抜ける県道が整備され、ここに架かる石造アーチ橋の三見橋はこの地域のシンボルとして地域の人々に愛されています。



床並の一里塚



三見橋



三見市目代所跡

16) 大井地区 「古代の息吹が今にいきづく阿牟の里・大井」

…阿字雄^{あじお}の滝、大寺跡、大寺礎石・心礎、大井八幡宮、影向石^{ようごう}、条里制遺構、古代の遺跡とその出土品 など

蛇行しながら日本海に注ぐ大井川下流域に広がる大井は、縄文から弥生にかけての遺跡が点在し、萩の中でも古くから歴史を持ち、ヤマト政権の成立により定められた阿武国を治める「阿武国造」と呼ばれる有力者の拠点が置かれたと考えられ、壮麗な遺物が出土した円光寺古墳など多数の古墳群もこの事実を伝えています。

その後も大井八幡宮が阿武郡十八郷の惣社として信仰を集めるなど、近世に入り萩城下町が成立するまで、この一帯の中心地として繁栄しました。一方で、藩政期には西半が萩藩、東半が支藩である徳山藩の分割統治下におかれ、大井浦と大井湊の二つの浦を持つ郷村となります。豊かな自然の中に、阿武の悠久の歴史を秘めた大井の魅力は尽きません。



阿字雄の滝



円光寺穴観音古墳



塔の心礎・礎石

17) 見島地区 「人の温かさに触れる自然と歴史の島・見島」

・・・観音崎、郷土料理（ウニめし、グベ汁、フカの湯引きなど）、おにようず、凧揚げ大会、八町八反、共同負債の記憶、見島ウシ、方言、民謡、見島八十八ヶ所 など

萩沖約45kmの日本海に浮かぶ見島は、大陸との接点として古くから独自の歴史文化を醸成してきました。そのなかでも、古代に大陸からの防御にあたった兵士らの群集墓と推測されるジーコンボ古墳群には、武器類や装身具類等の壮麗な遺物が埋葬されていました。

また、海で隔絶されていることにより、日本の在来牛の種を保つ見島ウシが飼育される他、ユリア貝などの貴重な生き物も生息しています。豊かな海に囲まれ、漁業と農業を主体とする本村と宇津の2つの集落には、「鬼楊子」と呼ばれる男児の出産を祝う凧を揚げる風習や、グベ汁などの郷土料理、方言などが伝わるなど、見島ならではの暮らしと文化が今も息づいています。



鬼楊子



宇津観音堂



八町八反

18) 大島地区 「恵みの海と火山台地のヤマに育まれた元気な島」

・・・大島の溶岩台地、漁港の風景、七名伝説、ヤマの葉タバコ畑、共用井戸と水神様、大島の家並み、ガンギ、歳祝い など

大島は、阿武火山群の火山によって造られたテーブル状の溶岩台地が特徴的な大井の沖に浮かぶ島です。島内には、平家の落人に由来する「七名伝説」^{しちみょう}が語り継がれ、古くから多くの人々が居住していました。

古くから豊かな日本海の恵を受ける漁業が営まれてきましたが、明治半ばから定置網漁が盛んになりました。また、台地の上にはヤマと呼ばれる畑が広がり、葉タバコやブロッコリーなどの栽培が盛んです。島の南部の海岸沿いの斜面には、ガンギと呼ばれる石階段や石垣を巧みに使いながらたくさん家屋が密集し、港には多くの漁船が並んでいます。



大島の溶岩台地



七名塚



葉タバコ畑の風景

19) 相島地区 「日常とは違った、心豊かになるハートの形の島・相島」

…相島の溶岩台地、通の鼻・相島灯台、相島の地名、石垣道、石積みのだんだん畑、スイカ、相島の郷土料理 など

相島は、大島と同じ阿武火山群の火山によって造られたテーブル状の溶岩台地の島で、上空から見た島の姿はハートの形に似ています。古くから人々が居住し、室町時代の16世紀初めの記録には、すでに「^{あい}優島」の地名で登場します。

傾斜地の多い島内には、長い年月をかけて整然と積まれた石積を用いた段々畑が広がり、スイカ、葉タバコ、サツマイモなどが栽培されています。島の周囲は断崖が続き、遠浅であることをいかしてサザエ・アワビなどの漁が盛んで、地形がもたらす産物に恵まれた豊かな暮らしがあります。



相島の溶岩台地



通の鼻とライオン岩



相島のスイカ産地

20) 川上地区 「阿武川とともに生きた山里の歴史と営み」

…長門峡、阿武川、平家の落人伝説を伝える地名、二義民の物語、林業、ゆず栽培、養蚕の歴史など

川上は文字通り萩城下町を下流域にもつ阿武川の川上に位置し、上流部には高島北海が見出した名勝である長門峡があります。流域の大半は山間部であることから林業が盛んであり、かつては阿武川を用いた舟運により、薪炭や食料を萩城下町に供給していました。古くは東大寺の再建の際の用材を供出した歴史や平家の落人伝説も伝わります。

度々の洪水に見舞われた萩三角州の治水対策として昭和に入り築かれた阿武川ダムによって、川上の姿は大きく変わりましたが、建設から半世紀、名産のゆずをはじめとする豊かな山の恵みを受けながら阿武川とともにある悠久の暮らしがそこにあります。



長門峡



重礫岩



背向け地蔵

21) 田万川地区 「田万川のおたからを育んだ海彦・里彦・山彦」

…江崎湾、西堂寺六角堂、江崎の町並み、千人塚と一本桜、田万川沿いの田園風景、平山台と果樹園など

萩市の北東部、島根県境に位置する田万川は、その名のとおり田万川とその支流に点在する農村集落と、日本海に突き出た高山の麓の漁村集落である江崎からなります。

田万川上流部の小川周辺は、火山の噴火によって生まれた平山台など3つの台地があり、その一帯には山城跡や千人塚などが随所に点在し、中世以前から激しい戦いが繰り返された地でしたが、今では果樹園や田畑が広がっています。江崎は入江の奥にある天然の良港として古くから栄え、近世には米や蠟、紙といった「防長三白」など萩藩はもとより津和野藩の物資の積み出しで栄えました。その後は日本海の豊かな漁場の恩恵を受けて様々な種類の魚介類が水揚げされています。



西堂寺六角堂



龍鱗郷



江崎湾

22) むつみ地区 「恵まれた自然地形と先人から引き継がれてきた田園風景、暮らしの証」

…^{ふすまやま}伏馬山、千石台、田園風景、古代の遺跡、中世の遺跡（山城、大内氏）、石州街道、奥阿武宰判勘場跡など

むつみは、吉部盆地の中央を流れる蔵目喜川の流域に数多くの集落群が点在し、古代からの土器や遺跡、古墳などが発見され、盆地を囲む山々からは中世の山城や大内氏の遺跡なども残されています。近世に入ると、萩城下町から津和野へと至る石州街道が整備され、萩藩の地域支配の拠点である奥阿武宰判の勘場跡が置かれた他、農にまつわる祭礼や小祠・野仏が今に伝わります。

現在は千石台ダイコンやトマト、酒米である山田錦など土地の特性や気候をいかした農産物の栽培も盛んな他、菜の花畑やひまわり畑など風景を活かした観光交流にも取り組んでいます。



盆地に広がる田園風景



伏馬山



穴観音古

23) 須佐地区 「幕末・明治維新と日本の近代化を支えた須佐」

…益田家墓所、須佐湾、高山、益田親施^{ちかのぶ}をまつる笠松神社、久原波止場・久原房之助 など

萩市の北東部、縞模様の地層が美しいホルンフェルスから続く入り組んだ海岸の奥に、萩藩永代家老であった須佐の町は、益田氏の居館跡である益田館を中心に、武家屋敷や松崎八幡宮、大湊寺など寺社、郷校育英館などが整然と配され、小さな城下町の風情があります。また、河口に隣接して港町もあり、現在もイカ漁が盛んです。

山間部の弥富から鈴野川にかけては、阿武火山群のイラオ火山から流れ出た溶岩流が固まった畳ヶ淵、龍鱗郷の柱状節理、猿屋の滝など美しい地形の宝庫です。山城跡やたたら跡など古くから人々の活動が盛んで、今では、そばの栽培をはじめとする豊かな農村が美しい風景とともにあります。



松崎八幡宮



益田家墓所



須佐育英館

24) 旭地域明木地区 「街道による人・物の交流と思いやりの中で生まれ栄えた明木のおたから」

…萩往還、赤間関街道、明木市の町並み、彦六・又十郎伝、旧村立明木図書館 など

明木は、萩城下町から山口、三田尻へと抜ける萩往還と、赤間関（下関）へと抜ける赤間関街道中道筋の結節点にある萩藩の宿駅の役割を担った町です。この街道の分岐点には一里塚が残される他、駕籠建場、高札場、御客屋などの跡にも往時の宿駅の賑わいを感じられます。明治中期の大火で過半の家屋は焼失しますが、その後に再建された赤瓦の町並みが今に残ります。

こうした街道を通じた人と物の交流が生み出した歴史文化とともに、明木の恩人である「彦六・又十郎」の逸話や私財を投じて文化芸術の支援や日本最初の村立図書館の建設に尽力した瀧口家の物語など、明木の発展に貢献した人たちのストーリーも今に伝わります。



一升谷の石畳



旧明木図書館



彦六・又十郎の碑

25) 旭地域佐々並地区 「萩往還の宿場町を中心に栄えた心のよりどころ、佐々並」

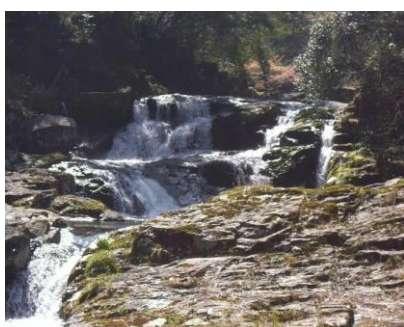
…萩往還、佐々並市の町並み、社寺、祭礼、年中行事、お地蔵様、樹木、水風景 など

佐々並は、平安時代から人里が存在し、近世には萩往還の宿場町・佐々並市を中心に栄え、周囲の自然とともに育まれた暮らしの営みが息づく美しい山里です。街道沿いには、旅の平安祈願や災厄の進入を拒む野の神、みち往還を舞台とした事件や出来事についての言い伝えが残っています。自然は、中国山地の西端という特徴があり、萩市の屋根を形作っており、険しくはありますが山紫水明で、巨木や滝などの見どころも多くあります。

江戸時代の厳しい生活の中でも、山林の恵みを享受する農林業と宿場という交流の地を併せ持ち、維新の動乱に翻弄されながらも、生きてきた生活と周囲の自然が、佐々並地区のおたからです。



佐々並市の町並



淵ヶ平の滝



首切れ地蔵

26) 福栄地区 「深い山々にいざなわれた信仰の里」

…紫福八十八ヶ所、隠れキリシタン伝説とその遺跡、修験の山々、木喰五行上人作の仏像など

福栄は、萩城下町から石州街道を東に向かう山間部であり、大板山たたら製鉄遺跡や萩藩が大操練を行った羽賀台の天保閱兵之地など萩藩の軍事・産業に関する遺構があります。阿武火山群の一部である溶岩台地の上では畑作が、麓では湧水による稲作が行われています。

古くから農耕を主体とする集落が点在し、札所を遍路する紫福八十八ヶ所や山々を対象とする権現信仰が盛んであった他、隠れキリシタン伝説も伝わります。こうした地域に根差した信仰に基づき仏光寺をはじめとする寺院には古い墓石、石像や木喰上人の手による仏像が伝わり、古くからの祭礼や慣習などが大切に受け継がれています。



キリシタン記念地



三位一体像



大板山たたら遺跡

第4章

萩市の歴史文化の特性と萩ものがたり

1 萩市の歴史文化の特性

これまでに見てきたように、萩市には多様で豊かな歴史文化が全域に息づいていることが分かりますが、特に現在において萩らしさを生み出している性質に着目すると大きく以下の3つの特性として集約されます。いずれも萩の多様な歴史文化の価値と魅力を一つの特性としてまとめたものですが、後述するようにここから多様な萩ものがたりのストーリーを引き出すことができます。

特性1 日本海と阿武の大地に根付く多様な暮らしと景観

萩市一帯は、古くは阿武と呼ばれ、北は日本海に面し、地表は1億年前のカルデラを形成する巨大噴火をはじめ、日本海形成時の火成活動、約50もの単成火山で形成する阿武火山群等の火山活動によって形づくられた大地が広がり、沖合には平坦な台地状の島々が点在します。陸地は、標高400メートル程度の山に囲まれた平地の少ない地域ですが、1箇所ですでに1度しか噴火をしなかった阿武火山群は、なだらかな溶岩台地を形成したことや、流れ出た溶岩が谷を埋めることで、比較的起伏の少ないなだらかな中山間地域となっています。

また、気候面では、日本海を流れる暖流の対馬海流の影響もあり、比較的温暖な気候となっています。そうした地理的条件が影響し、そこには現在に続く多様で豊かな景観が広がっています。

こうした特徴ある大地の上では、古くから人の営みがあり、各地を転々としながら狩猟採取生活を送っていた縄文時代が長く続いた後、弥生時代に入ると、大井川や蔵目喜川、阿武川沿いの土砂が堆積した山際の肥沃な土地で稲作が広がり、小集落による定住生活があったことがいくつかの遺跡が物語っています。古墳時代に入ると、これら集落を束ねて政治や祭祀にたずさわる首長が誕生し、大井やむつみなど各地に彼らを祀る古墳が作られた他、資料には「阿牟の君」、そして「阿武国造」の名で登場するヤマト政権と関係を持つ人物も現れます。そして、古代に入り一帯は長門国阿武郡としてまとめられ、大井を中心に大規模な寺院や条里遺構、遺物などから中央の制度、文化が取り入れられたことが分かる他、見島には大陸に対する防御を担う兵士の墓と考えられる見島ジーコンボ古墳群も今に残ります。

その後、仏教の普及に伴い、東大寺創建の用材を運んだ白牛伝説が伝わる龍造寺や修験道場を起源とする南明寺、高山の黄帝社をはじめ、各地で寺社の創建が相次ぎ、これらのもとに集まった集落では、現在に続く地域の信仰と生活文化の基盤が形成されます。また、後の城下町となる萩三角州周辺も「牛牧（庄）」の名で資料に登場するようになるとともに、周辺の阿武川流域は焼失した東大寺の再建に必要な用材を供給した「阿武御領」はやがて荘園として中央との関係を維持します。



相島の段々畑



里制の水田が広がる
八町八反(見島)の風景



南明寺観音堂

こうして各地に展開した集落は、西国の雄として繁栄を極め、長門国の守護職にも任ぜられた大内氏の支配のもと、益田氏や吉見氏の所領争いに巻き込まれながらも、各地では寺社を中心とした安定した村社会を展開し、やがて毛利氏の支配による萩藩領に組み込まれ、江戸時代を通じて豊かな郷村として、現在の我々が暮らす地域が出来上がります。

このように、日本海と阿武火山群がもたらした肥沃な大地のもとに、先史から古代・中世、そして近世を通じた長い年月の中でその土地に適した耕作や漁などが行われ、これを生業とする集落や畏敬の念をもって崇拜される寺社が根付き、海と大地の恵みに彩られた多様な暮らしが続き、今に至っています。

特性2 今に続く萩城下町の空間とその文化

日本海に注ぐ阿武川河口に形成された三角州の上に形成された萩城下町は、安芸高田からはじまり広島を経て萩に至った毛利氏が、それまでに得た経験と知識をつぎ込んで築き上げた理想の城下町と言えます。

城下町が築かれる以前にも吉見氏に関係する居館や中世を通じて形成された集落や田、寺社や港などがありましたが、これらを包含する形で慶長9（1604）年に萩城下町が形成されていきます。築かれた城下町は、自然に形成された三角州の地形を読み取り、巧みに町割りに活かしたもので、花崗岩の指月山の山麓に本丸、この周辺に堆積した砂州に内堀、二の丸、中堀、三の丸、外堀と同心円状に藩主と一門八家等の武家屋敷が、外堀で隔てられ西側には、格子状に整備された街区に町人地と寺院群が広がります。こうして当初の萩城下町が築かれ、これら全てを取り囲む形で流れる橋本川と松本川を天然の堀とした総構を完成させます。

その後、唐樋などの樋門や新堀川、藍場川などの水路を設けて排水しながら、南側の湿地帯に町割りを拡大させ、主に萩藩の中心として増大する中下級の武家屋敷が展開します。また、河畔には藩主らの下屋敷がつくられた他、後に中央部の深田を埋め立て藩校明倫館が拡大移転するなど、幕末に向けて三角州全体が城下町として成熟度を増していきました。

三角州に築かれた萩城下町は、常に水害と闘い、限られた土地に密集する町人地は火災や地震などの脅威にさらされます。災害に対処するために、町の結束は高まり、住吉神社や金谷神社などの信仰と融合し、これらの祭礼は奉納行列などの町の文化を醸成させました。一方で、萩藩の庇護のもと御用窯として始まった萩焼は、城下町周辺の山麓に多くの窯元が開かれ、やがて茶陶として全国的にも名を馳せるとともに、各種の流派による茶道とその舞台である茶室や庭園などを含めた文化として隆盛します。

また、萩城下町は唐樋札場を起点とした街道によって藩領内の全域と結ばれています。中世からの拠点であった山口を經由して藩の港である三田尻を南北に結ぶ萩往還、東の石見に向かう石州街道、西の赤間



萩城城下町（菊屋横町）



藍場川



萩往還ワンデーウォーク

関（下関）に至る赤間関街道を主軸に、脇街道などを通じて支藩や各宰判が所管する所領と人や物資、情報が萩城下町と行き来するネットワークが構築されました。これら街道には、随所に人馬取次の宿駅が置かれます。宿駅には高札場が立てられ、寺社の移転や創建も行われ、定期市が開かれるなど、周辺の郷村の拠点として大いに繁栄し、近代以降も地域の中心として現在に至ります。

このように、毛利氏によって河口の三角州を巧みに利用して開かれた萩城下町は、湿地帯を開発することでその後の町の拡大を進め、街道を通じたネットワークにより領内とも繋がり、政治・経済・文化の安定を達成した近世城下町の到達点といえるものです。

特性3 近代日本の先駆けと今に残るまちなみ

幕末の雄藩であった萩の原点は、毛利氏により創建された藩校明倫館や郷校、幕末の松下村塾をはじめとする私塾などを通じたひとつづくりにあり、この中から明治維新が胎動し、やがて多くの志士たちが近代日本を切り拓いていくことになります。その一方で萩のまちは、そうした日本の近代化からは距離を置くことになりますが、萩の人によって住みこなされることによって保全され、やがてまちじゅうが豊かな歴史、文化、自然に彩られたかけがえのない町として現在に受け継がれます。

萩藩のひとつづくりは日本の有事であった幕末に開花し、明治時代には近代国家樹立へ貢献しました。全国でも早くから藩校を創建し、武士の教育に力を入れてきた萩藩は、幕末には全国屈指の雄藩となり国内の政治をリードします。また、吉田松陰が主宰した「松下村塾」では、幕末から明治にかけて、倒幕を成し遂げ、近代国家を樹立した逸材を数多く出しました。当時、日本の中心からはかけ離れた場所であった萩藩ですが、長年をかけて人材を大切にし、育成する風土を醸成していったことにより、吉田松陰や多くの維新志士たちが生まれたと言われていています。そして、その中心にいた吉田松陰は、近代に入ってから萩の人々の中で生き続け、松陰神社の創建に繋がった他、多くの志士たちも顕彰され、歴史のまち萩として現在に至っています。



木戸孝允旧宅

萩藩は幕末には軍備の近代化にも積極的に取り組んだことが、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産－製鉄・製鋼、造船、石炭産業－」の構成資産である「萩反射炉」や「恵美須ヶ鼻造船所跡」などからうかがうことが出来ます。萩藩は鎖国下で西洋の進んだ技術の情報が得にくい中、試行錯誤を重ねながら、海外列強から国を守るため軍備の近代化に取り組みます。この取組が原点となり、近代化は軍事以外の産業にも広がりを見せ、日本は幕末期からわずか50年余り後で産業革命を成し遂げます。

こうして日本の近代を主導する人材を出した萩は、その一方で幕末には藩庁が山口に移鎮したことにより城下町ではなくなった状態で明治を迎えます。城は破却され、武家屋敷は空き地に転じますが、ここで始まった夏みかんの栽培がたいへんな富をもたらし、長く萩の主要産業となります。さらに、夏みかんの風除けとして維持された武家屋敷周囲の土塀や長屋門が、戦後の高度経済成長期の日本にとってかけがえのない風景として見出され、萩観光を全国規模に押し上げます。

このように、幕末から明治にかけて日本の近代の先駆けとなった萩は、多くの志士たちを育んだひとづくりや産業化の試行錯誤のストーリーが幾重にも重なるとともに、これらを物語る旧宅や遺構、史料が随所に残されています。その一方で、萩のまちは彼らが主導した近代化からは距離を置き、大きな開発や戦災、自然災害に遭うこともなく萩の人々によって住みこなされ、ここに魅了された多くの方が全国から訪れるまちとして現在に受け継がれています。



松陰先生のことば
朗唱（明倫小学校）

2 萩ものがたり

（１）萩ものがたりの考え方

前章までで見てきたように、本市には全域に多種多様な文化財があります。前節では、これらを総括して萩の歴史文化の特性としてまとめました。

この萩の歴史文化を市民や萩に来られた方々に知ってもらい、関心を持ってもらうためには、この中から関連する文化財を紡ぎ出し、萩ならではの一つのストーリーとして編むことが有効と考えます。それらを「萩ものがたり」と称して、以下にまとめます。「萩ものがたり」は、文化庁指針でいう「関連文化財群」にあたります。

萩ものがたりは、下記のような方針でまとめています。

ア 萩の歴史文化の特性を横断するテーマを設定する

イ 萩ものがたりを通じて萩の歴史文化の全体性・真実性を表現する

ウ 萩ものがたりを繋ぐことにより萩の魅力と価値を創造する

こうして設定された萩ものがたりは、本計画の文化財の保存と活用の方針に沿って、文化財をより幅広く親しんでもらい、また自分ごととして深く知ってもらうために、後の第7章で設定された文化財の保存・活用に関する行動目標と措置として、教育や観光をはじめとした様々な分野で用いられることを想定しています。

萩ものがたりは、これで完成形ではありません。今後、本計画を運用する中で、不足している文化財を付加することや、内容を修正することも想定されます。また、新たな萩ものがたりが設定されることも期待されます。

(2) 萩ものがたりの概要

本市の歴史文化の特性を踏まえ、本計画では以下の9つの萩ものがたりを設定します。

- A 近世城下町のすべてがここにある ―萩城下町絵図がそのまま使える町―
- B 日本の工業化はここからはじまった ―工業化初期の遺産群とその原風景―
- C マグマ胎動のまち・萩 ―阿武火山群がデザインした大地と人の暮らし―
- D 一楽二萩三唐津と謳われた萩焼とその文化 ―毛利御用窯から現代陶芸まで―
- E すべての道は萩城下に通ず ―萩往還・石州街道・赤間関街道のネットワーク―
- F 千年を超えて続く阿武 ―萩藩成立以前の萩の世界―
- G 土塀と夏みかんの町・萩のなぞを解く ―近代を乗り越えた萩城下町―
- H 萩のひとづくりが近代日本を動かした ―萩藩校明倫館から松下村塾まで―
- I 日本海に広がるもうひとつの萩 ―海路で繋がる七浦七島・須佐・江崎―



各萩ものがたりでは、本市の文化財の時代や空間を重層的に捉え、指定の有無や種類の違いにとらわれず関連文化財群として設定しています。

(3) 萩ものがたり

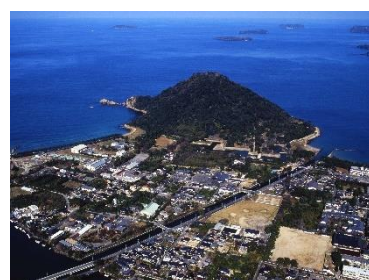
A 近世城下町のすべてがここにある

—萩城下町絵図がそのまま使える町—

毛利氏の城下町は、戦国時代の安芸高田（広島県）にはじまり、広島を経た後、慶長9（1604）年、萩に開府されます。阿武川河口の三角州から日本海に突き出た指月山山麓に城郭を構え、周辺の砂州を巧みに利用しながら武家地や町人地、寺院群を配置し、まさに毛利氏の理想都市として260年間にわたり発展を続けました。その様子は各時代の城下町絵図に描かれています。その後も、南側の湿地帯を開作しながら城下の拡大をはかり、近代以降の開発も同様の手法で進められたことから、かつての城下町の町割りのほぼ全てが400年以上経った今なお受け継がれています。

① 日本の城下町の到達点

欧州や中国とは異なる「城壁をもたない都市」として日本独自の発展を遂げた城下町の建設は戦国時代後期から各地で始まり、江戸時代に向かい社会が安定する関ヶ原の戦いの前後に数多くつくられました。慶長9（1604）年に毛利輝元によって開かれた萩城下町は、当時はわずかな居館や寺社、田畑しかなかった河口の湿地帯を巧みに使いながら、指月山山麓に城郭と連続する武家地を、これに従うように町人地や寺社境内を配しました。そして、その後も南側の湿地帯を水路で区切りながら土地を広げ、幕末の文久3（1863）年に山口へ藩庁が移鎮されるまで開発は続きました。



指月山と萩城跡

② 三角州に築かれた理想の城下町

近世の萩城下町の様子は、各時代の美しい城下町絵図にみることができます。指月山の山麓の本丸を中心に、内堀・二の丸・中堀・三の丸・外堀と同心円状に展開する武家地、その東には格子状に配された通りの両側に呉服町をはじめとする町人地が連続するほか、寺院群が集中的に配されています。そして、これら三角州を取り囲む阿武川河口の松本川と橋本川を天然の堀と見立てた総構えを形成します。その後も、遅れて開発された南側の湿地帯は、新堀川、藍場川などの水路や樋門を用いて



旧湯川家屋敷

武家屋敷などが開発され、享保4（1719）年に三の丸に造られた藩校明倫館は、嘉永2（1849）年には南側の湿地帯である江向に移転拡大されました。この他、橋本川河畔には舟入や水を取り入れた池泉式庭園など、水に開かれた下屋敷が整備され、幕末に向けて三角州全体が萩城下町として完成型を迎えます。

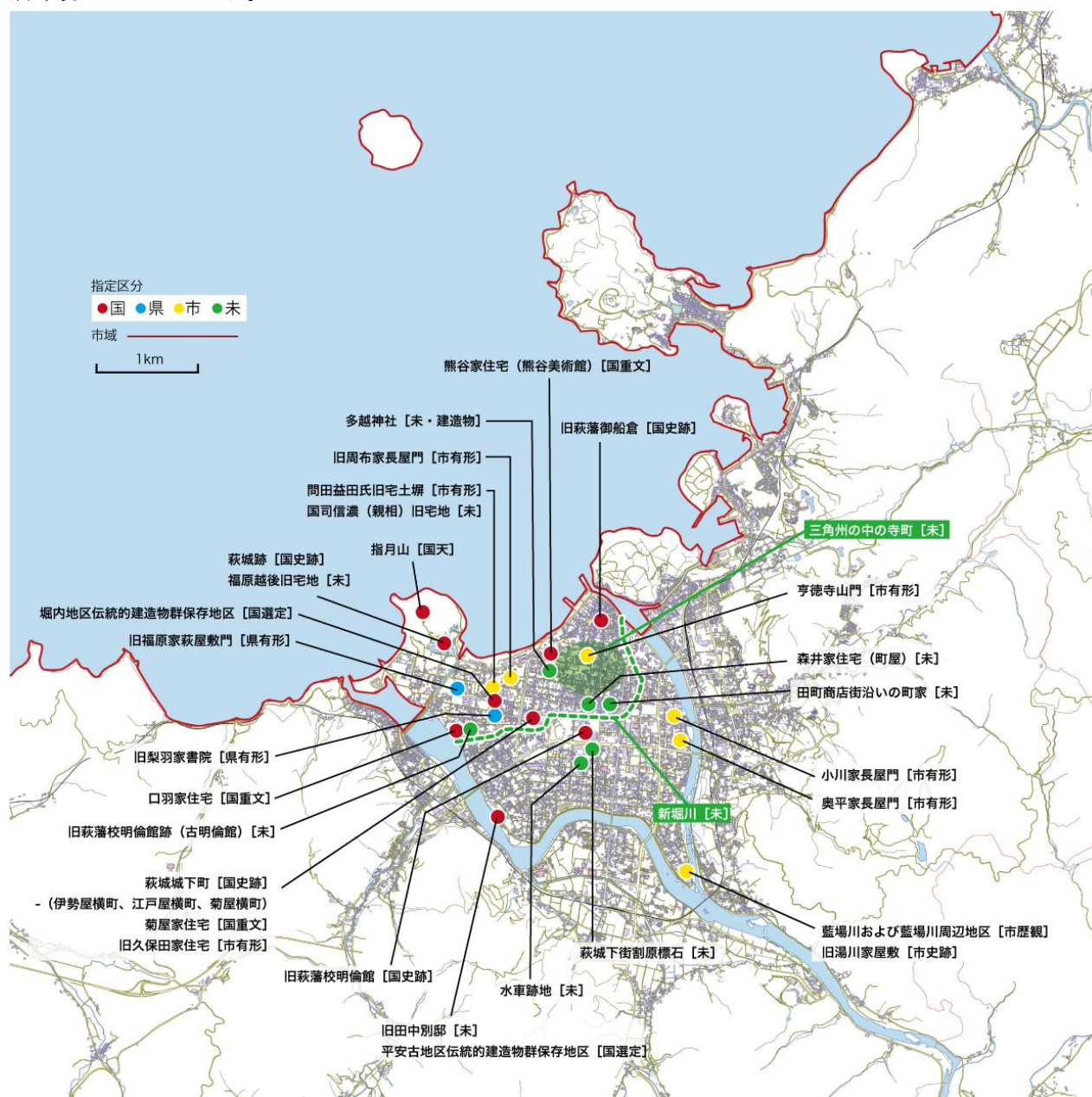
③ 住みこなされる城下町の町並み

こうして幕末の藩庁の山口移鎮まで毛利氏のもとで安定して推移した萩城下町では、寺社の祭礼や萩焼と茶道の文化をはじめとする都市らしい生活文化が花開きます。そして、城下町でなくなった幕末から近代以降も、未だ残されていた三角州内の湿地帯が近代施設の受け皿となった



平安古鍵曲と大名行列

ことにより、旧城下町は大規模な開発からの破壊を免れ、かつ幸いにも天災、戦災に見舞われることもなく現在に至ります。こうして、維持されてきた萩の町は現在でも城下町絵図を使ってそのまま歩ける町として、萩の歴史観光を支える財産となるとともに、今でも多くの市民が日々の生活を送る豊かな生活環境となっています。



関連文化財

【堀内・平安古・城下町】萩城跡 [国指定・遺跡]、指月山 [国指定・植物]、堀内地区伝統的建造物群保存地区 [国選定・伝統的建造物群]、口羽家住宅 [国指定・建造物]、旧梨羽家書院 [県指定・建造物]、旧福原家萩屋敷門 [県指定・建造物]、旧周布家長屋門 [市指定・建造物]、問田益田氏旧宅土堀 [市指定・建造物]、国司信濃 (親相) 旧宅地 [未指定・遺跡]、益田家物見矢倉 [未指定・建造物 (伝統的建造物)]、旧萩藩校明倫館跡 (古明倫館) [未指定・遺跡]、天樹院 (旧萩藩主毛利家墓所) [国指定・遺

跡]、平安古地区伝統的建造物群保存地区〔国選定・伝統的建造物群〕、旧田中別邸〔未指定・建造物（伝統的建造物）〕、萩城城下町〔国指定・遺跡〕（伊勢屋横町、江戸屋横町、菊屋横町）、菊屋家住宅〔国指定・建造物〕、旧久保田家住宅〔市指定・建造物〕、熊谷家住宅（熊谷美術館）〔国指定・建造物〕

【江向】旧萩藩校明倫館〔国指定・遺跡〕、藍玉座跡〔市選定・歴観地区〕、南園跡〔未指定・遺跡〕、水車跡地〔未指定・遺跡〕、萩城下街割原標石〔未指定・遺跡〕

【浜崎】旧萩藩御船倉〔国指定・遺跡〕、浜崎伝統的建造物群保存地区〔国選定・伝統的建造物群〕、住吉神社〔未指定・建造物（伝統的建造物）〕、お船謡〔県指定・無形民俗〕

【土原】小川家長屋門〔市指定・建造物〕、奥平家長屋門〔市指定・建造物〕、蓮田〔未指定・文化的景観〕

【川島・藍場川】藍場川および藍場川周辺地区〔市選定・歴観地区〕、旧湯川家屋敷〔市指定・遺跡〕、ハトバ〔未指定・有形民俗〕、川島聖講〔未指定・無形民俗〕

【田町】新堀川〔未指定・遺跡〕、森井家住宅（町家）〔未指定・建造物〕、田町商店街沿いの町家〔未指定・建造物〕

【寺町】亨徳寺山門〔市指定・建造物〕、端坊鐘楼〔市指定・建造物〕、端坊梵鐘〔市指定・工芸品〕、多越神社〔未指定・建造物〕

【旧松本村】東光寺及び東光寺墓所〔国指定・建造物及び国指定・遺跡〕

【椿】大照院及び大照院墓所〔国指定・建造物及び国指定・遺跡〕、金谷天満宮〔未指定・建造物〕、伊達小荷駄〔未指定・無形民俗〕

その他、萩城下の町名・筋名など〔未指定・無形民俗など〕

B 日本の工業化はここからはじまった ―工業化初期の遺産群とその原風景―

日本は19世紀半ばから20世紀初頭のわずか半世紀あまりの間に工業国家へと駆け上がります。それを先導したのは、幕末に西洋文明と対峙した西国雄藩の挑戦と努力の連続によるものです。なかでも、萩藩は、城下町を基盤に優れた人材を輩出し、維新に繋がる進取の精神と実行力により黎明期の日本の工業化を先導しました。そして現在も、この時代に生み出された工業化初期の遺産群とともに、その基盤となった幕末の社会の在りようを今に伝える原風景が広がっています。



村田清風旧宅跡長屋門

① 近代への胎動

萩藩は、殖産振興や藩政改革などに積極的に取り組み、幕末には江戸幕府とも対立し、やがて日本の近代を切り拓きますが、それは突然に起こったものではなく、幕藩体制による安定した封建社会を基盤に、町割全体が良好に残された萩城下町は、往時の社会の在りようを今に伝えています。一方において、萩藩校明倫館を中心として教育を受けた志士らが、西洋の脅威に晒される中で強い危機意識を共有し、やがて日本の近代化の必要性を認識し、倒幕を志します。なかでも、吉田松陰が主宰した松下村塾では、松陰が書物で得た西洋の知識を塾生に伝え、工業化の必要性を説き、やがて鉄道や造船などの西洋技術を日本に導入することに貢献し、工業国家建設の礎となる数多の人材が萩の地から輩出されます。

② 試行錯誤が残したもの

萩藩は、三方を海に囲まれていることから外国船出沒の脅威を早くから感じ、海防のため軍事力強化にもいち早く取り組みます。萩藩の工業化の始まりは、この軍事力強化の取組であり、それは威力のある鉄製大砲をつくるための鉄の鑄造を行った萩反射炉、郡司鑄造所、沖原鑄造方、さらには洋式帆船を建造した恵美須ヶ鼻造船所などで試みられました。



恵美須ヶ鼻造船所跡の発掘調査

しかしながら、当時は鎖国下であり、西洋技術の導入は困難な状況にあり、萩反射炉は佐賀藩の反射炉を自力で模倣したものであり、恵美須ヶ鼻造船所では丙辰丸と庚申丸の二隻の洋式帆船を建造したものの、蒸気船の自力での建造を断念するに至るなど、試行錯誤の連続でした。また、それに必要な船釘や碇などの鉄は、大板山をはじめとした伝統的なたたら製鉄の技法が用いられていました。

③ 日本の工業化初期の原風景

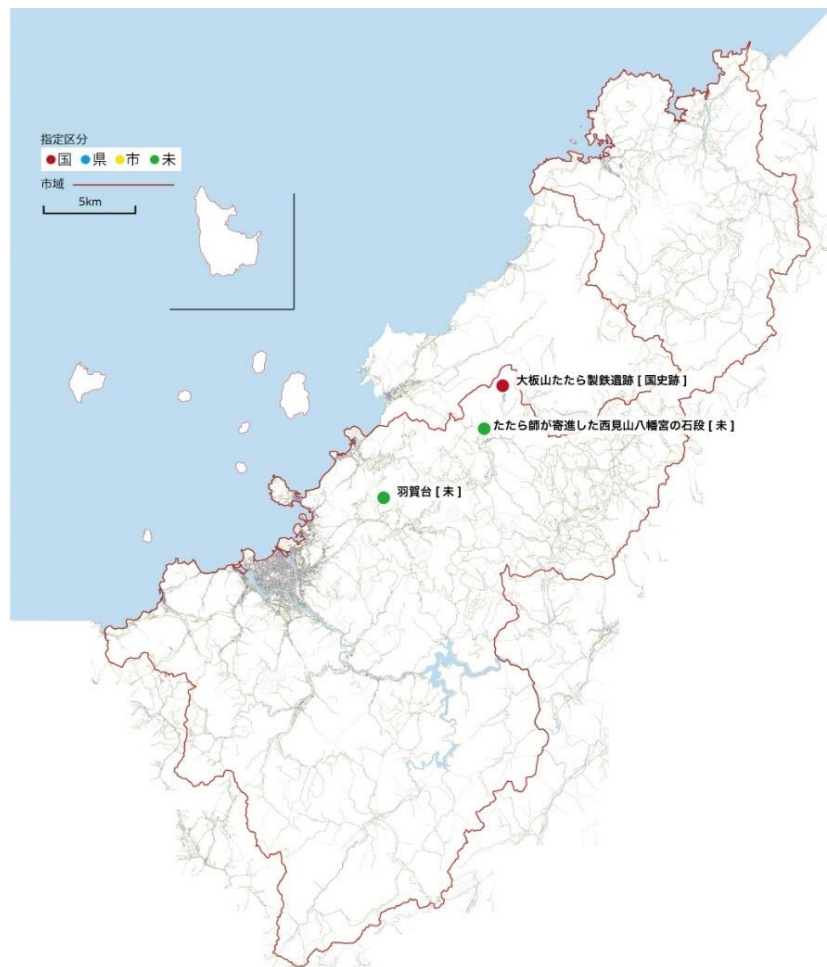
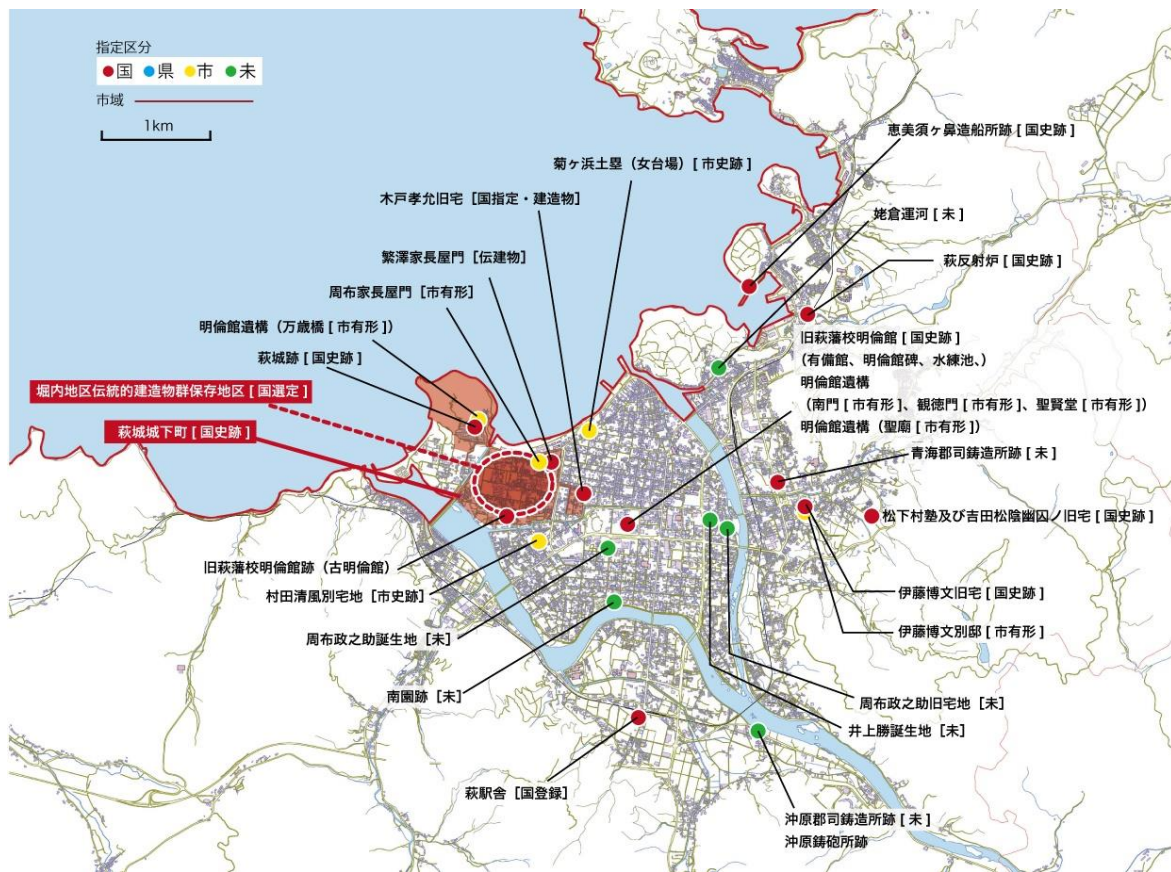
萩藩の自力での試行錯誤による工業化の試みは結果的に行き詰まり、西洋からの武器輸入へと方針を切り替えます。しかし振り返れば、いち早く西洋と直面した萩藩ゆえの自力による試行錯誤の連続から日本の工業化が萌芽したと言えます。

こうした日本の工業化初期のストーリーを物語る萩の5資産（萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾）を含む8県11市の23資産が「明治日本の産業革命遺産－製鉄・製鋼、造船、石炭産業－」として世界文化遺産に登録されています。



「鉄道の父」井上勝誕生地

そして、萩市には幕末の志士やその後の近代化に貢献した旧宅や誕生地などが各地に現存し、吉田松陰を祀る松陰神社が有志によって創建された他、彼らの石碑が随所に立っており、まさに日本の工業化初期の原風景がここに広がっています。



関連文化財

萩反射炉[国指定・遺跡]、恵美須ヶ鼻造船所跡[国指定・遺跡]

【堀内・平安古・城下町】萩城跡[国指定・遺跡]、堀内地区伝統的建造物群保存地区[国選定・伝統的建造物群]、萩城城下町[国指定・遺跡]、旧萩藩校明倫館跡（古明倫館）〔未指定・遺跡〕、明倫館遺構 万歳橋（ばんせいばし）[市指定・建造物]

村田清風別宅地〔市指定・遺跡〕周布家長屋門〔市指定・建造物〕、繁澤家長屋門〔未指定・建造物（伝統的建造物）〕、木戸孝允旧宅〔国指定・建造物〕

【江向】旧萩藩校明倫館[国指定・遺跡]

明倫館遺構南門[市指定・建造物]、観徳門[市指定・建造物]、聖賢堂[市指定・建造物]、周布政之助誕生地〔未指定・遺跡〕、南園跡〔未指定・遺跡〕

【寺町】明倫館遺構聖廟[市指定建造物]、菊ヶ浜土塁（女（おなご）台場）[市指定・遺跡]

【旧松本村】松下村塾[国指定・遺跡]、吉田松陰幽囚ノ旧宅[国指定・遺跡]、伊藤博文旧宅[国指定・遺跡]、伊藤博文別邸[市指定・遺跡]

【土原】井上勝誕生地〔未指定・遺跡〕、周布政之助旧宅地〔未指定・遺跡〕

【椿】青海郡司鑄造所跡[未指定・遺跡]、沖原郡司鑄造所跡[未指定・遺跡]、萩駅舎〔国登録・建造物〕

【鶴江・香川津・新川】姥倉運河[未指定・遺跡]

【福栄】大板山たたら製鉄遺跡[国指定・遺跡]、羽賀台[未指定・地質鉱物]

C マグマ胎動のまち・萩 ―阿武火山群がデザインした大地と人の暮らし―

本市を含む山口県北部には、活火山としては日本で数少ない単成火山が約50箇所分布しており、「阿武火山群」と呼ばれています。1箇所であつた1度しか噴火をしなかったこの火山群の影響により、萩市の大地と島々が形成され、その地形や地質に見合った気候や土壌、生態系が育まれ、今の私たちの暮らしの基盤となる特徴ある歴史文化や産業がデザインされました。

① 小さな火山たちが見せる独特な地形と生態系

阿武火山群の一つ笠山では、崩壊した溶岩ブロックの隙間から冷気が噴き出す風穴が無数に存在し、山腹の狭い範囲で寒地性と暖地性が混在する特異な植生が形成されています。北麓には、25,000本のヤブツバキが密生する独特な景色が見られ、南麓には、陸繋島となった際に取り残された海水の池「明神池」があり、池の中に海水魚が泳ぐ不思議な光景も見られます。また、笠山から流れ出た安山岩溶岩は萩城下町の屋敷の基礎石や石垣に利用されており、海岸部には石切場の痕跡（矢穴跡）が見られます。

さらに本市の東部では、須佐弥富地区から田万川小川地区にかけて、阿武火山群の一つ伊良尾山火山の噴火の際に、流れ出た全長14kmの溶岩流が生み出した柱状節理の景勝地「壺ヶ淵」「猿屋の滝」「龍鱗郷」などが見られます。



弥富猿屋の柱状節理
「猿屋の滝」

② 食の宝庫には訳がある

阿武火山群の多くは、低くこんもりとした溶岩台地を形成しているのが特徴で、千石台のダイコンをはじめ、萩のブランド農作物の多くは溶岩台地の上で作られます。また、水はけの良い溶岩台地の麓は湧水が豊富で、稲作も盛んに行われることで、萩は古くから良質な日本酒を生み、現在、萩阿武地域の6つの酒蔵が醸す日本酒は、GI（地理的表示）ブランドとなっています。

萩の沿岸部にも阿武火山群が分布し、複雑に入り組んだ海岸線や平らな島々が日本海に浮かぶその光景は、北長門海岸国定公園の主要な景勝地としても知られています。また、海中に沈んだ瀬やグリと呼ばれる溶岩の高まりの周辺に多様な生態系があることで、萩の瀬つきアジやケンサキイカなど豊富で多種多様な魚介類の産地としても有名です。



羽月の清水池と水神様

③ マグマの胎動が明治維新の胎動を生んだ

萩市を流れる阿武川の上流部では、約60万年前から活動した青野火山群の一部が噴火し、その際に形成した堰止湖が、現在の山口市阿東の徳佐盆地をつくりました。この堰止湖が決壊し、日本海に注ぐ河口に形成された三角州が、萩城下町の築かれた地です。なお、決壊した場所は、浸食によって年月をかけて岩を削り、美しい渓谷となっていますが、それが名勝地長門峡です。



長門峡

このように、マグマの活動によって生み出された独特な地形や地質が、萩を特徴づける豊かな生態系と多様な産業を生み出したことがわかります。このマグマの胎動が作り出した環境が、長州藩の繁栄を支え、後の明治維新の胎動へと続いていったと言えます。

関連文化財

【須佐】弥富猿屋の柱状節理（猿屋の滝）〔市指定・名勝地及び地質鉱物〕、高山〔未指定・地質鉱物〕
【田万川】田万川の柱状節理と水中自破砕溶岩（龍鱗郷）〔県指定・地質鉱物〕、平山台〔未指定・地質鉱物〕、原山台〔未指定・地質鉱物〕、上の原〔未指定・地質鉱物〕

【笠山】笠山〔未指定・地質鉱物〕、風穴群〔未指定・地質鉱物〕、笠山虎ヶ崎ヤブツバキ群生林〔市指定・植物〕、笠山の植物（暖かくて寒い笠山）〔未指定・植物〕、笠山のホソイノデ・カサヤマイノデ・カタホソイノデ混生地〔市指定・植物〕、笠山を北限とする植物〔未指定・植物〕、笠山虎ヶ崎タチバナ自生北限地およびコウライタチバナ自生地〔市指定・植物〕、笠山ハマボウ自生北限地〔市指定・植物〕、笠山を南限とする植物〔未指定・植物〕、笠山固有の植物〔未指定・植物〕、明神池〔国指定・地質鉱物〕、はえ縄漁（アマダイ）〔未指定・有形民俗〕

【大井】三明戸湧水〔未指定・地質鉱物〕、阿字雄の滝（柱状節理）〔未指定・名勝地及び地質鉱物〕、鵜山〔未指定・地質鉱物〕、鵜山のグロ〔未指定・工作物〕

【福栄】羽賀台、平原台、長沢台、平蔵台、鍋山〔以上、いずれも未指定・地質鉱物〕

【むつみ】千石台〔未指定・地質鉱物〕、吉部市の清水池〔未指定・地質鉱物〕、羽月の湧水〔未指定・地質鉱物〕、八千代酒造〔未指定・建造物〕、東台〔未指定・地質鉱物〕

【相島】相島〔未指定・地質鉱物〕、相島のスイカ産地〔未指定・植物〕

【大島】大島〔未指定・地質鉱物〕、大島のブロッコリー産地〔未指定・植物〕、萩の瀬つきあじ〔未指定・動物〕萩のけんさきいか〔未指定・動物〕、サザエ・アワビ・ウニ〔未指定・動物〕、丸山と大島の水田〔未指定・地質鉱物〕

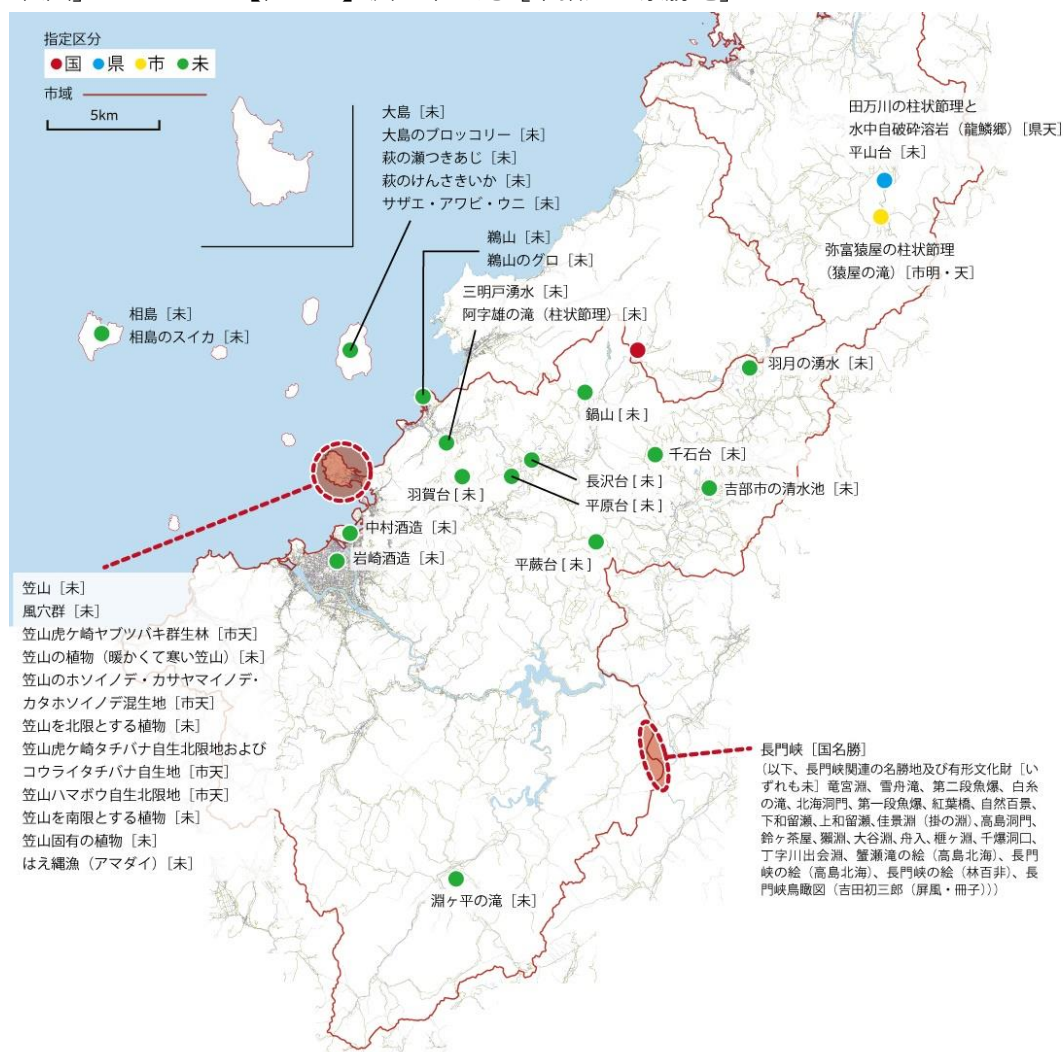
【見島】観音崎〔未指定・地質鉱物〕

【田町】岩崎酒造〔未指定・建造物〕

【新川・香川津・鶴江】中村酒造〔未指定・建造物〕

【川上】長門峡〔国指定・名勝地〕、竜宮淵、雪舟滝、第二段魚爆、白糸の滝、北海洞門、第一段魚爆、紅葉橋、自然百景、下和留瀬、上和留瀬、佳景淵（掛の淵）、高島洞門、鈴ヶ茶屋、瀬淵、大谷淵、舟入、榎ヶ淵、千爆洞口、丁字川出会淵〔以上、いずれも未指定・名勝地〕、蟹瀬滝の絵（高島北海）、長門峡の絵（高島北海）、長門峡の絵（林百非）、長門峡鳥瞰図（吉田初三郎（屏風・冊子））〔以上、いずれも未指定・絵画〕

【佐々並】淵ヶ平の滝〔未指定・景勝地〕



D 一楽二萩三唐津と謳われた萩焼とその文化 ―毛利御用窯から現代陶芸まで―

萩焼は、関ヶ原の戦いに敗れ、広島から萩へ移ることとなった毛利輝元が、高麗の陶技をもつ陶工を萩に伴い、萩藩の御用窯として、萩城下の東郊、松本の地で開窯させたことによって始まりました。「一楽二萩三唐津」と謳われ、茶の湯の具足としての茶碗にひときわ声価が高い萩焼は、江戸時代に茶道文化とともに繁栄します。穏やかな釉薬の色合いと手取りの良さ、使い込むほどにその表情を変える「萩の七化け」などが萩焼の特徴で、伝統的に受け継がれています。そうした伝統の上に立った萩の現代陶芸家による新たな挑戦も絶えず行われています。

① 李兄弟がもたらしたもの

萩焼の開祖と呼ばれているのは、「李勺光」と「李敬」という名の朝鮮渡来の兄弟陶工で、豊臣秀吉による朝鮮出兵（文禄・慶長の役）の際、毛利輝元が日本へ連れ帰ったと言われています。その後輝元が萩へ移ったことにより、彼らも従い、萩城下の東郊の松本に御用窯を開いたとされています。「李敬」は、二代藩主綱広より高麗左衛門の名を賜り、以来、坂高麗左衛門と名乗ります。坂窯では萩焼の宗家として、江戸時代から現在に至るまで400年の伝統が受け継がれています。



萩焼古窯跡

② 毛利家が育んだ茶陶

毛利家の庇護の下、萩焼は繁栄し、茶道が伝統文化として萩に根づいていきます。萩焼は茶の湯の具足として重宝され、^{ふかわ}深川焼（長門市）など地域外にも広がりを見せていきます。また、現在も萩市内には、13代藩主毛利敬親がつくった茶室「^{はなのえちやてい}花江茶亭」や毛利家重臣の梨羽家の茶室が残っており、毛利家やその家臣たちが萩焼を使って茶道文化を楽しんだ往時の風景を感じることが出来ます。「花江茶亭」では幕末の多事多難のおり、敬親は支藩主や家臣たちと茶事に託して時勢を論じ、国事を画策したともいわれています。



花江茶亭

③ 茶道から陶芸まで

江戸時代に栄えた萩焼と茶道文化は、現在も伝統文化として受け継がれています。萩焼の窯元は萩市内で現在も約100軒が存在し、伝統的な登り窯も見受けられます。また、茶道についても市内に4流派の支部があり、茶道文化の保存や継承などの活動を行っています。

歴史的風土と萩の精神的土壌を礎としながら発展してきた萩焼ですが、現在では単に伝統を受け継ぐだけでなく、陶芸として新しい伝統を創り上げるといった陶芸家の強い意志の下、独創的な造形美や美しい絵付けなどの新たな取組も行われています。伝統と革新が共存するのが萩の陶芸の大きな特徴とも言え、住む人や訪れる人を楽しませています。



萩焼まつり

関連文化財

萩焼保持者 波多野善蔵・岡田裕 [県指定・無形]

萩焼 三輪邦廣（休和）[国指定・無形選択]、萩焼古窯群[県指定・遺跡]

【堀内】花江茶亭[市指定・建造物]、煤払いの茶室（旧梨羽家茶室）[未指定・建造物]、川手御殿（花江御殿、江風山月書楼）[未指定・遺跡]

【旧松本村】花月楼[県指定・建造物]

【鶴江・新川・香川津】小丸山[未指定・遺跡]



E すべての道は萩城下に通ず —萩往還・石州街道・赤間関街道のネットワーク—

関ヶ原の戦いの後、新たに萩の地に城下町を開いた毛利氏は、ここから防長二ヶ国を治めることとなります。そこで領内の北辺に位置する地から領内一円を治め、諸国とも交易するため、中世からこの地の拠点である山口を経由し、瀬戸内海側の藩の港のある三田尻までの萩往還、また東の津和野など石見へと至る石州街道、西の要衝である赤間関（下関）に至る赤間関街道を整備しました。街道は領内の拠点を結び、各村には宿駅や市、港の機能を持つ町場がつくられ、近世から近代を通じて、交易や自治が発達したばかりでなく、様々な文化が大いに花開きました。

① 城下町を起点としたネットワーク

かつては安芸など八ヶ国を治めていた毛利氏でしたが、萩を中心とした防長二カ国を領地として再出発することとなりました。支藩を除き、領内を「宰判」と呼ばれる18の領域に分け、それぞれに代官を配して統治する仕組みを立ち上げ新たな国づくりに取り組みます。そして、実際の統治に当たって、萩城下町と各地を結ぶ街道の整備が急務となります。



旧石州街道から見える
奥阿武宰判勘場跡

まず、中世からの一大拠点である山口を経由し、瀬戸内に開かれた藩の港がある三田尻まで南北をほぼ一直線に結ぶ萩往還が整備されます。そして、東隣の津和野など石見の地に向けては石州街道（仏坂道筋・土床道筋・白坂道筋）、九州への結節点である赤間関（下関）に至る赤間関街道（中道筋・北道筋・北浦道筋）が整備されました。

② 街道沿いに花開いた「市」町

街道沿いには往還松が植えられ、一里塚が設置され、藩の物資の移送や情報の伝達を担う宿駅が置かれます。宿駅には人馬を取り次ぐ目代所のほか、人夫や馬の手配所や、宿、休憩所などが必要なため、町場が整えられます。場所によっては、藩主の宿泊のための御茶屋が設けられることもあります。また、宿駅の役を担うだけでなく、これらの町場は「市」と呼ばれ、当初は市立てされていた場合も多く、高札場が立てられ、日常的に地域一帯の食料や生活物資の交易・流通、さらには情報や文化の拠点として機能しました。



明木市の町並み

③ 街道によって結ばれた領内

街道や市町の様子は、『御国廻御行程記』などの絵図資料にいきいきと描かれています。そこに展開する町並みは、街道に面して民家が建ち並び、寺社の境内や宰判の代官所、藩主の親類筋にあたる一門八家の居館である「田屋」を組み込んだもの、また海辺では港が併設されたものなど、それぞれの地域の在り方に応じた多様な町並みが展開しました。そして、近代以降もそれぞれの地域の中心として、役場や事務所が置かれ、地域の経済や文化を支え続け、まさに地域の拠点として大いに繁栄し、今に至ります。

関連文化財

萩往還〔国指定・遺跡〕

【むつみ】奥阿武宰判勘場跡〔県指定・遺跡〕、石州街道白坂道〔未指定・遺跡〕、吉部市の町並み〔未選定・伝統的建造物群〕

【明木】鹿背隧道〔国登録・建造物〕、明木市の町並み〔未選定・伝統的建造物群〕、悴坂駕籠建場跡、茶店跡（悴坂）、悴坂の石畳、明木橋跡、旧御高札場跡（旧春定札場跡）、御客屋跡（乳母の茶屋）、御用屋敷跡（原家）、目代所跡（大玉家）、三戸石土橋、昔の町の地割、道標（上市）、堂尾一里塚（山）跡、御高札場春定札跡、赤間関街道の分岐、一升谷の石畳、茶屋跡（角力場）、分岐を守るお地藏様、根の迫石橋、五文蔵の石畳、鉦切御駕籠建場跡、一里山跡、雲雀山石畳、一里塚跡〔以上、いずれも未指定・遺跡〕、旧明木図書館（下横瀬公民館）〔未指定・建造物〕、旧明木小学校校舎（牛地公民館）〔未指定・建造物〕、旧明木郵便局〔未指定・建造物〕

【佐々並】佐々並市伝統的建造物群保存地区〔国選定・伝統的建造物群〕、落合の石橋〔国登録・建造物〕はやしや旅館、旧阿武萩森林組合佐々並出張所、旧小林家住宅（目代所）〔以上、未指定・建造物〕一里塚（長瀬）、国境の碑、高札場跡、一里塚（市）、道祖神（賽の神）、木村家（御客屋跡）〔以上、未指定・遺跡〕、阿武萩森林組合佐々並出張所〔未指定・建造物〕

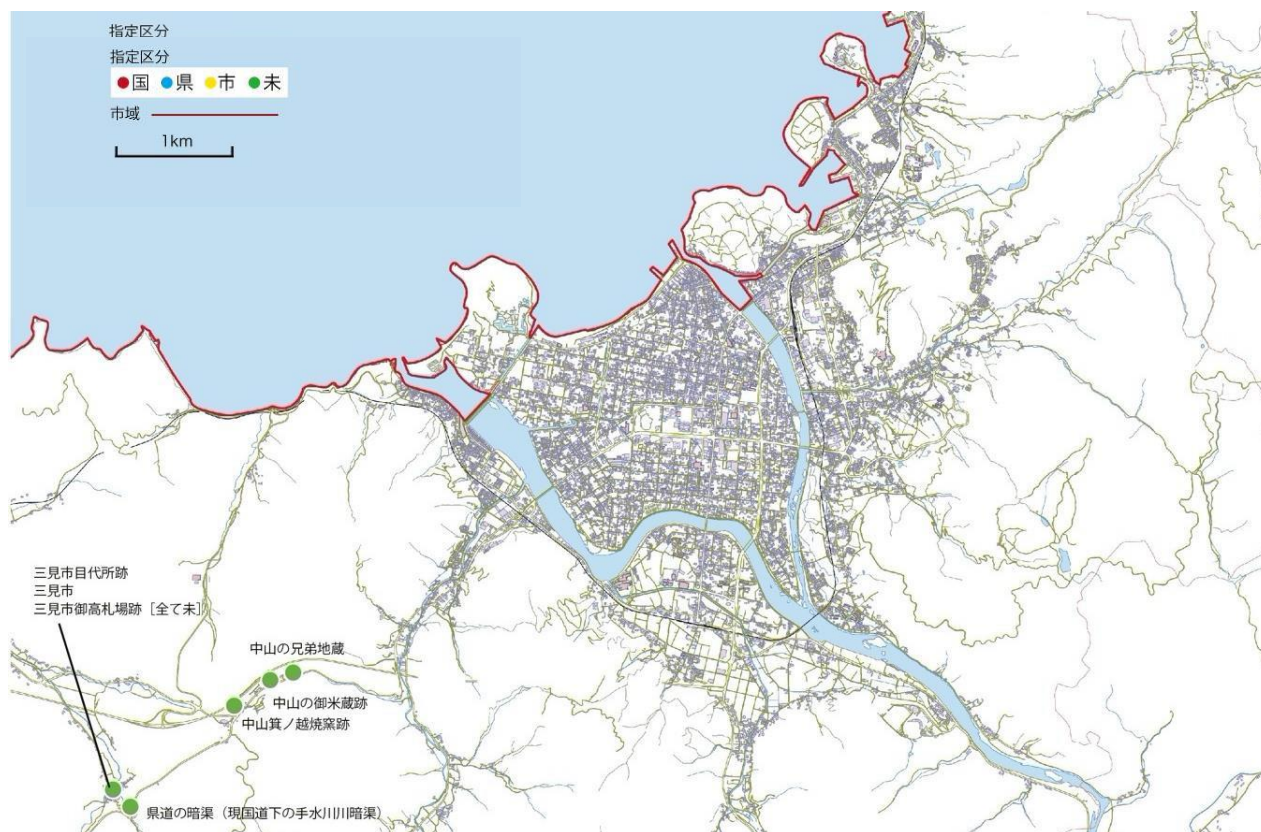
【福栄】福井市の町並み〔未選定・伝統的建造物群〕、金石山八幡宮〔未指定・遺跡〕、専正寺〔未指定・

【三見】三見橋（眼鏡橋）〔国登録・建造物〕、県道の暗渠（現国道下の手水川川暗渠）〔未指定・建造物〕、中山の兄弟地蔵〔未指定・有形民俗〕、中山の御米蔵跡、中山箕ノ越焼窯跡、床並の一里塚跡、三見市、三見市目代所跡、三見市御高札場跡〔以上、いずれも未指定・遺跡〕

【椿】 涙松遺跡、一里塚跡（赤間関街道） [未指定・遺跡]

【田町】 唐樋の札場と御成道〔未指定・遺跡（一部、国指定・遺跡萩往還の構成要素）〕





F 千年を超えて続く阿武 —萩藩成立以前の萩の世界—

萩での人々の暮らしの痕跡は、原始にまでさかのぼります。長い縄文時代には山間部や海岸での狩猟・採集生活が、弥生時代に入ると稲作が伝わり、平地を利用した定住生活が各地で営まれていました。やがてそこから、「阿武」と呼ばれる現在まで続くひとまとまりの生活圏が形成され、近世、近代を経て現在に受け継がれています。

① 大井を中心に誕生した阿武

古墳時代には、萩の地でも随所随地の首長の墓として古墳がつけられました。中でも往時の大井川の河口には数多くの遺構が集中しているだけでなく、巨大な石室や装飾付太刀などの副葬品からヤマト王権と関係があった人物の存在を示唆します。その後の時代も巨大な礎石や白鳳時代の古瓦などの遺物から、大井に巨大かつ壮麗な寺院が存在したことを物語っています。こうして、大井を中心とした地域を治めたであろう人物は「阿牟君」、やがて阿武国を治める「阿武国造」の名で歴史の中に登場します。



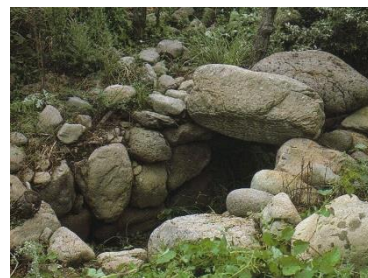
円光寺穴観音古墳

② 中央と結びつきを強める阿武の地

「阿武国」は、大化の改新により長門国阿武郡となりますが、その中心は引き続き大井であったよう

です。郡内には古代官道である山陰道の宿駅が置かれ、大井などでは条里遺構、当時の大陸への防御拠点であった見島ではジーコンボ古墳群と呼ばれる群集墳が残され、中央の制度や文化が取り入れられます。

こうして中央との関係を深めた阿武の地は、阿武川流域一帯が「阿武御領」として歴史に登場します。奈良の東大寺の創建、そして焼失後の再建の際に、良質の杉板を供給したことによるもので、この運搬に関った白牛の伝説が残る龍蔵寺をはじめ、東大寺や奈良に関係する寺社の創建や遺構が今に伝わります。



ジーコンボ古墳

③ 長門国守護大内氏、益田氏、吉見氏そして毛利氏へ

この頃から、各地で今に続く寺社の創建が相次ぎ、周辺には集落や市、湊などを伴う町場が形成されます。これらは中央と関係の深い守護や、実質的に地域を支配していた地頭らが治めていました。14世紀中期に長門国守護に任ぜられた大内氏が治めますが、石見の領有を激しく争っていた益田氏、吉見氏などを交え、各地で勢力争いが激しくなります。やがて毛利氏の台頭により、争いは収束に向かいますが、関ヶ原の役で毛利氏が敗退します。そして、防長二か国に移封された毛利氏は、1604年にそれまで吉見氏が居館を置いた指月山山麓を中心に新たに萩城下町を開きます。一方、毛利氏の家臣となった益田氏は、須佐に居館と町を整え、そして江戸時代が始まります。

関連文化財

【大井】円光寺古墳出土品〔県指定・考古資料〕、天長山古墳〔未指定・遺跡〕、円光寺穴観音古墳〔市指定・遺跡〕、大井大寺〔未指定・遺跡〕、円光寺山経塚・経筒〔未指定・遺跡〕、円光寺山石棺〔未指定・遺跡〕、埴輪窯出土品〔未指定・考古資料〕、塔の郷石棺群〔未指定・遺跡〕、湊古墳〔未指定・遺跡〕、とび山石棺群〔未指定・遺跡〕

【むつみ】穴観音古墳〔県指定・遺跡〕

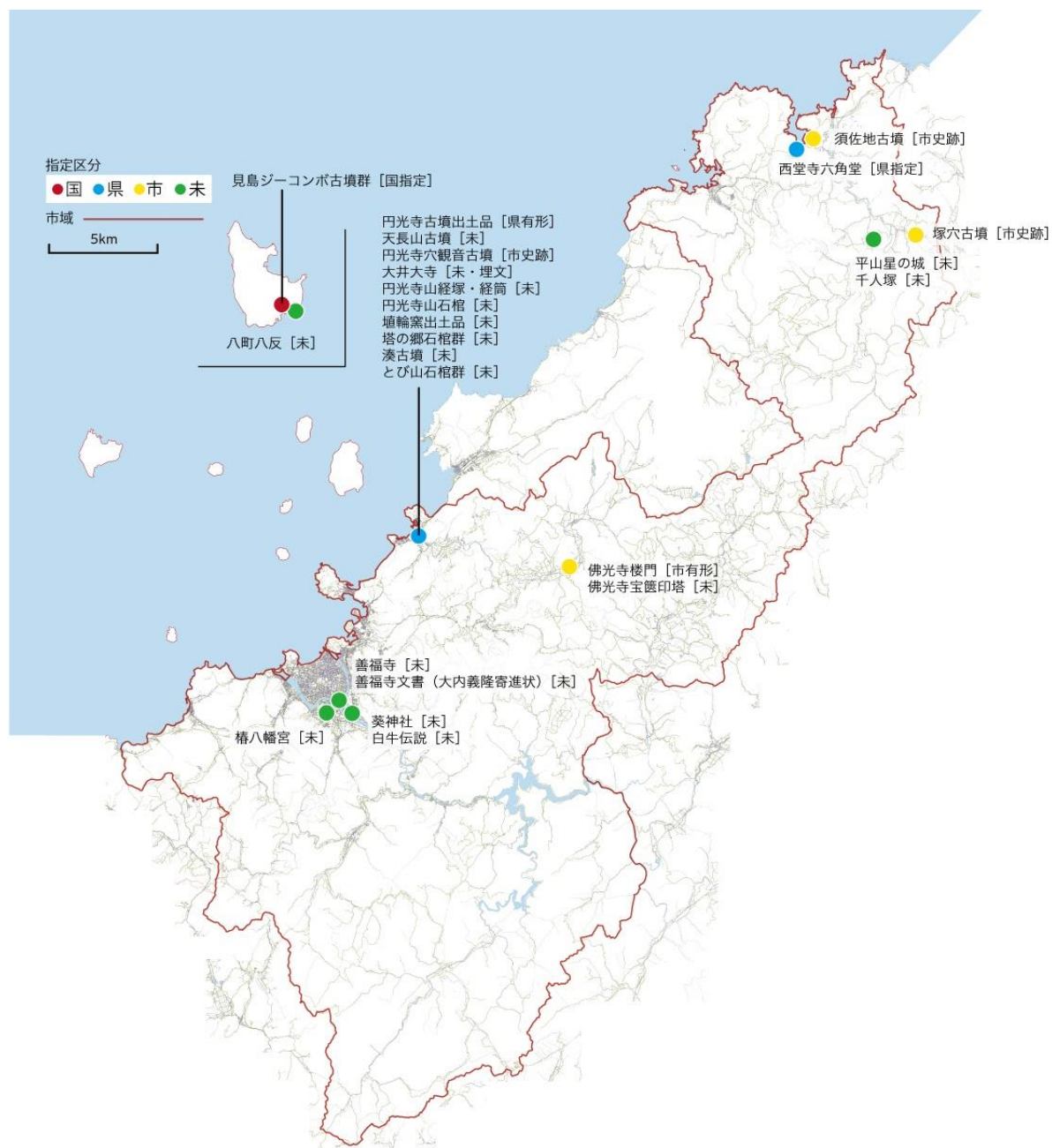
【田万川】塚穴古墳、須佐地古墳〔以上、いずれも市指定・遺跡〕、西堂寺六角堂（室町時代）〔県指定・建造物〕、平山星の城〔未指定・遺跡〕、千人塚〔未指定・遺跡〕

【福栄】佛光寺楼門〔市指定・建造物〕、佛光寺宝篋印塔〔未指定・建造物〕

【椿】木造釈迦如来坐像〔県指定・彫刻〕、椿八幡宮〔未指定・遺跡〕、葵神社〔未指定・建造物〕、白牛伝説〔未指定・無形民俗〕

【川島・藍場川】善福寺〔未指定・建造物〕、善福寺文書（大内義隆寄進状）〔未指定・古文書〕

【見島】見島ジーコンボ古墳群〔国指定・遺跡〕、八町八反〔未指定・文化的景観〕



江戸時代を代表する武家屋敷の「土塀」の背景に萩の特産品である「夏みかん」が顔を出す景観は、萩の風物詩の一つとして親しまれています。この不思議な景観は、意図してつくり出されたものではなく、幕末の文久3（1863）年、山口に藩庁が突然移鎮したことを契機に、萩の武家地が「夏みかん畑」という全く違う役割を担うことになったことに由来します。そして、戦後の高度経済成長期に当時の社会によって「土塀と夏みかん」の町並みの魅力が見出され、やがて町並み保存と観光に繋がっていきます。それは、萩城下町が近代を乗り越え、現在に受け継がれてきた歴史そのものです。

① 城下町でなくなった萩の町

慶長9（1604）年の開府以来、萩城下町は、一貫して毛利氏の城下町でした。とりわけ、本丸や二の丸、三の丸で構成される城内は、萩藩の中核として天守閣や藩主の御殿、上級家臣の武家屋敷などがあり、その空間は安定的に維持されました。ところが、幕末の文久3（1863）年に山口に藩庁が移鎮したことにより、藩主に従い多くの家臣が萩を去り、大半の武家屋敷も解体移築されました。こうして、近代以降も持続的に発展した城下の旧町人地とは対照的に、城内の旧武家地は一転して一面が空き地となり、桑をはじめとする畑地などに転用されます。



毛利別邸表門

② 夏みかんが支えた近代の萩

禄を失った士族の生活の糧とするため、旧萩藩士の小幡高政が「耐久社」を結成し、自ら平安古の旧武家屋敷で夏みかん栽培を始めるとともに、大量に生育した夏みかんの苗木を彼らに配布し、旧武家地での栽培を勧めました。その結果、柑橘類が珍しかった当時、大阪市場などにおいて高値で取引され、夏みかん栽培は明治から昭和中期まで、萩の経済を支える一大産業となりました。この結果、堀内をはじめとする旧武家地は、一面が夏みかん畑となる一方で、旧武家屋敷の周囲を取り囲む土塀や石積は、夏みかんの実を風から守るために維持されました。長屋や長屋門は納屋や住居に転用されました。



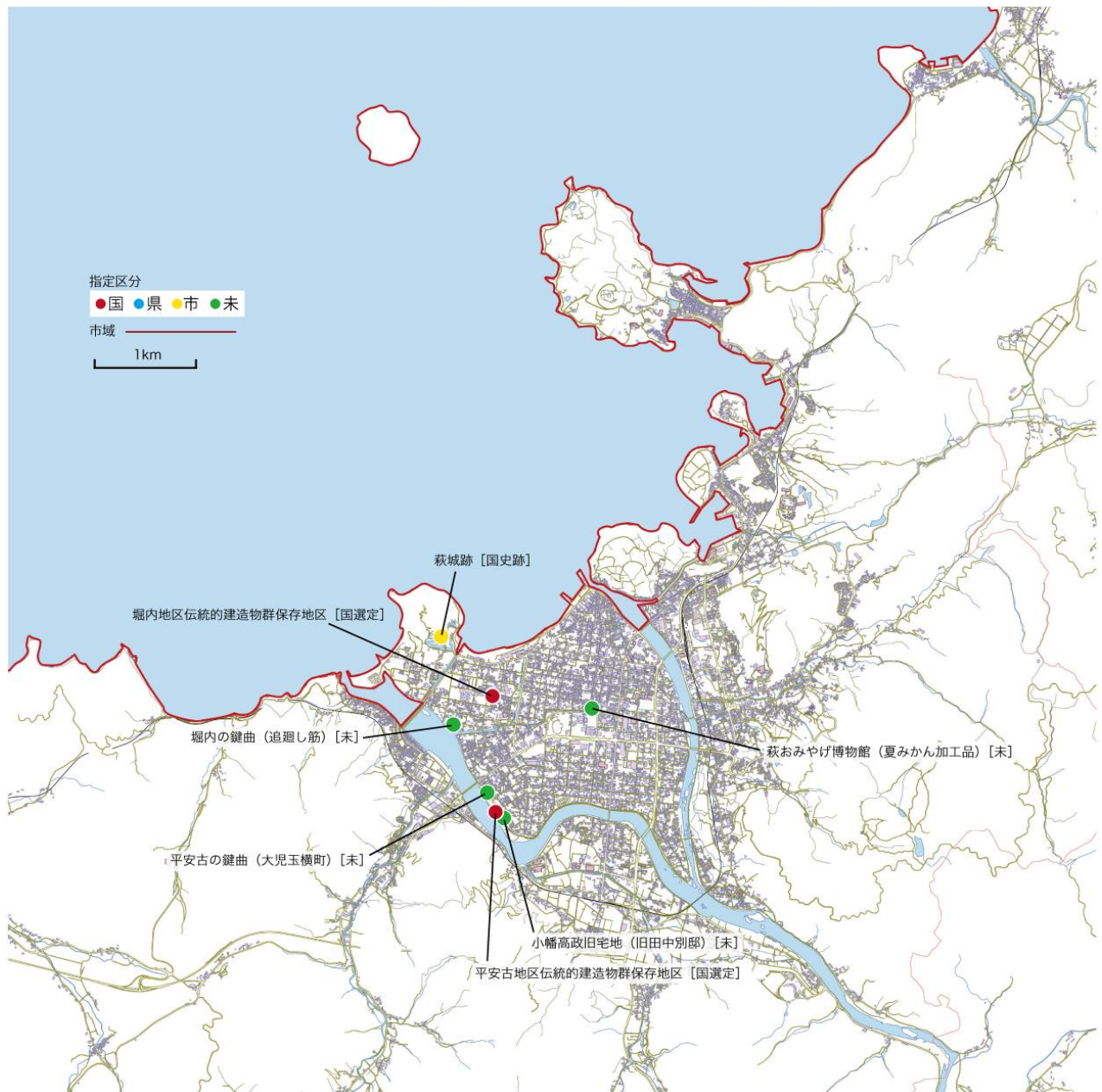
小幡高政旧宅地に建つ
橙園之記

③ 時代が見つけ出した土塀と夏みかんの町並み

昭和の高度経済成長期に入ると、様々な柑橘類の登場により、夏みかん栽培は下火となっていきます。一方で、山陽新幹線が開通し、遠距離の旅客を増やすため当時の国鉄は「ディスカバージャパン」のキャンペーンにおいて懐かしい日本の原風景として、萩・津和野などを取り上げました。当時創刊した女性ファッション誌は、最新のファッションとともに萩のまちを特集しました。こうして、多くの観光客が萩の「土塀と夏みかん」の景観を目的に萩に押し寄せるようになり、彼らが見つけ出したこの町並みがやがて全国に先駆ける歴史的景観保存条例の制定や伝統的建造物群保存地区制度の創設をリードすることになります。



土塀と夏みかん



関連文化財

夏みかんの香り [未指定・無形民俗]、

【堀内・平安古・城下町】萩城跡 [国指定・遺跡]、堀内地区伝統的建造物群保存地区、平安古地区伝統的建造物群保存地区 [以上、いずれも国選定・伝統的建造物群]、堀内の鍵曲 (追廻し筋) [未指定・遺跡]、平安古の鍵曲 (大児玉横町) [未指定・遺跡]、小幡高政旧宅地 (旧田中別邸) [未指定・遺跡]

H 萩のひとづくりが近代日本を動かした ―萩藩校明倫館から松下村塾まで―

萩では江戸時代から藩校「明倫館」や私塾「松下村塾」などで、教育によるひとづくりが行われてきました。幕末から明治時代にかけてそれは実を結び、数多くの萩出身者が国政や産業など様々な分野で全国的に活躍し、近代日本を牽引していきました。また、明倫館の名前や松下村塾を主宰した吉田松陰の教えは、現在も萩の学校で大切に受け継がれています。

① ひとづくりの原点 藩校明倫館と郷校

萩藩では、全国でもいち早く「藩校明倫館」や「育英館」などの郷校が創建され、武士の教育に力を入れてきました。藩校は幕末に移転拡充され、藩政を担う「人材育成」に力を入れた萩藩が、結果的に幕末から明治の国政をリードし、近代化の礎を築いた人材を数多く送り出しました。

このように藩校明倫館や育英館などの郷校は、萩のひとづくりの原点と考えられます。奇兵隊を創設し幕府軍と戦った、高杉晋作も明倫館で学んでいます。



旧萩藩校明倫館聖廟
(現・海潮寺本堂)

② 維新志士を育てた松下村塾

松下村塾は吉田松陰が主宰した私塾で、建物は木造瓦葺き平屋建てのわずか50㎡ほどの小舎です。松陰が教鞭をとった期間はたった1年余りでしたが、身分にとらわれず入門を受け入れ、高杉晋作や伊藤博文などの維新の志士たちを育てました。

これまでの萩藩の人材教育に加え、松陰の卓越した人材育成能力により、萩のひとづくりは開花し、塾生たちはこの後、倒幕を成し遂げ近代化を推し進める人材となります。松下村塾は萩のひとづくりの象徴ともいえ、現在も多くの人々が現地を訪れています。



松下村塾講義室

松陰の教えは、いまの実社会にも活かされ、松陰の言葉を毎朝朗読し、教育に取り入れている学校があります。いまでも萩市民は吉田松陰を決して呼び捨てにせず、「松陰先生」と呼んで敬っています。市内中心部の循環バスの名前も東回りは「松陰先生」、西回りは「晋作くん」の愛称で親しまれています。

③ 日本の近代をリードした萩の人

萩は吉田松陰や高杉晋作、伊藤博文のほかにも、多くの逸材を出しており、維新三傑の一人と言われている木戸孝允、幕末の動乱期に倒幕をリードした久坂玄瑞などがよく知られています。

そのほかにも、明治以降内閣総理大臣となり国政をリードした山県有朋、桂太郎、田中義一がいます。また、伊藤博文とともにイギリスに密航留学し、後に鉄道開業に尽力した井上勝、明治以降困窮する武士の救済の



渡辺高蔵旧宅

これら人物の旧宅や誕生地は、その多くが文化財として保存・整備されており、旧宅は歴史的建造物として萩の景観を構成し、訪れた人に往時を偲ばせます。

【堀内・平安古・城下町】木戸孝允旧宅〔国指定・遺跡〕、村田清風別宅跡〔市指定・遺跡〕、高杉晋作
誕生地〔未指定・遺跡〕、久坂玄瑞誕生地〔未指定・遺跡〕、萩藩校明倫館跡（古明倫館）〔未指定・遺跡〕、
明倫館遺構 万歳橋〔市指定・建造物〕、明倫館遺構 聖廟〔市指定・建造物〕、小幡高政旧宅地（田中義一別邸）
〔市指定・遺跡〕

【土原】前原一誠旧宅、入江九一・野村靖誕生地、松陰寄寓の地、高須久子誕生地、井上勝誕生地、櫛崎頼三誕生地、奥平謙輔誕生地、曾禰荒助誕生地、大和國之助誕生地、櫛崎弥八郎誕生地、山県周南旧宅跡、広沢真臣誕生地、白根多助・白根専一旧宅跡〔以上、いずれも未指定・遺跡〕



【川島・藍場川】桂太郎旧宅〔市指定・遺跡〕、山県有朋誕生地、山縣伊三郎誕生地、山田宇右衛門旧宅地、林百非旧宅地、杉山松助旧宅地〔以上、いずれも未指定・遺跡〕

【浜崎】泉福寺〔未指定・建造物（伝統的建造物）〕

【寺町】野山獄・岩倉獄〔市指定・遺跡〕、金子重輔旧宅地〔未指定・遺跡〕

【旧松本村】松下村塾〔国指定・遺跡〕、吉田松陰幽囚ノ旧宅〔国指定・遺跡〕、吉田松陰先生誕生地〔市指定・遺跡〕、吉田松陰の墓ならびに墓所〔市指定・遺跡〕、玉木文之進旧宅〔市指定・遺跡〕、松陰神社及び松門神社〔未指定・建造物〕、松陰神社宝物殿「至誠館」〔未指定・建造物〕、石碑「吉田松陰歌碑（親思う…）」〔未指定・遺跡〕、銅像「松陰先生と金子重之助」〔未指定・歴史資料〕、伊藤博文旧宅〔国指定・遺跡〕、伊藤博文別邸〔市指定・遺跡〕

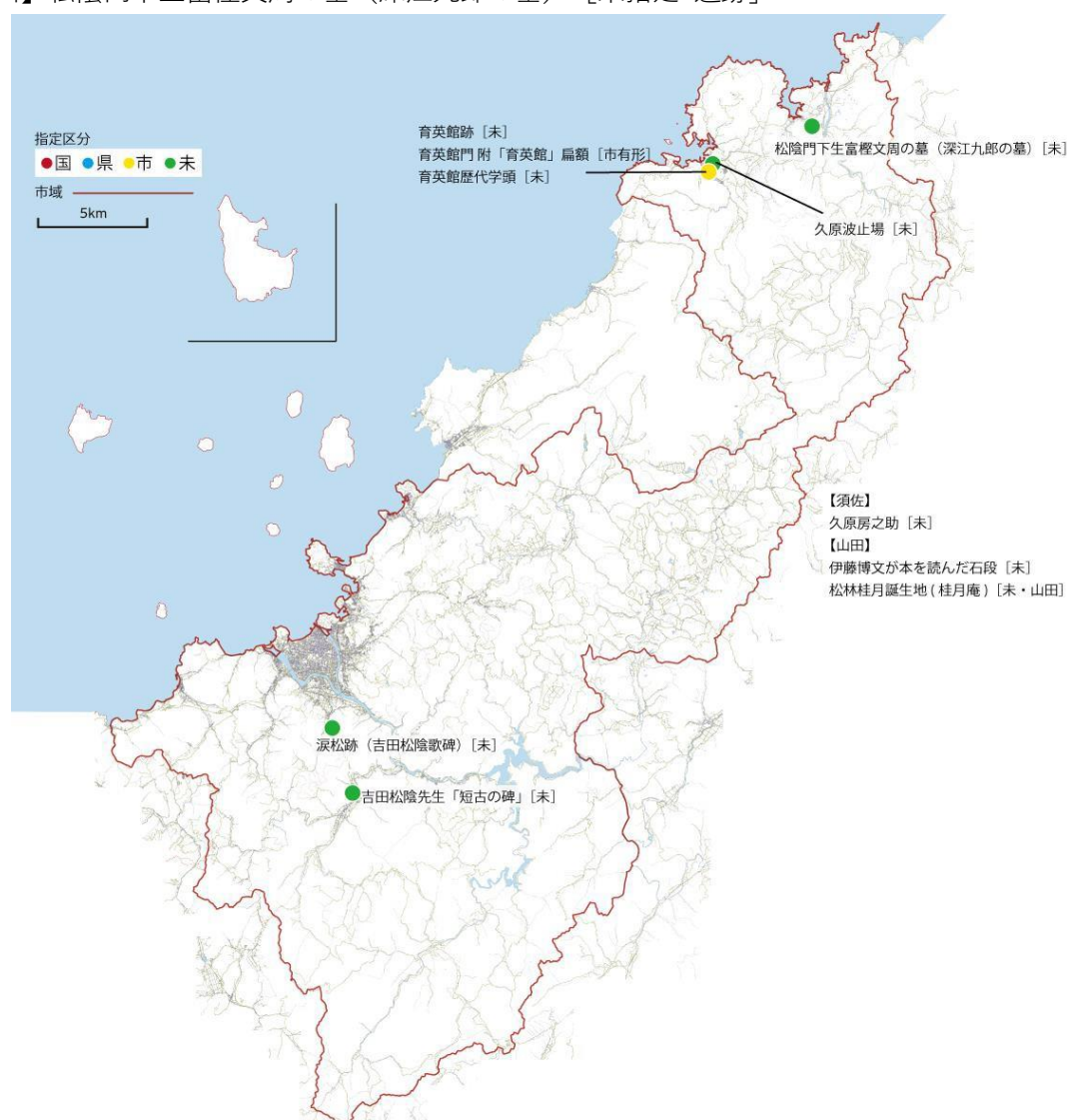
【山田】時山直八誕生地、伊藤博文が本を読んだ石段、松林桂月誕生地（桂月庵）〔以上、いずれも未指定・遺跡〕

【椿】涙松跡（吉田松陰歌碑）〔未指定・遺跡〕

【明木】吉田松陰先生「短古の碑」〔未指定・遺跡〕

【須佐】育英館跡〔未指定・遺跡〕、育英館門 附「育英館」扁額〔市指定・建造物〕、久原波止場〔未指定・遺跡〕

【田万川】松陰門下生富樫文周の墓（深江九郎の墓）〔未指定・遺跡〕



I 日本海に広がるもうひとつの萩 ―海路で繋がる七浦七島・須佐・江崎―

萩は北辺で日本海に面し、長い海岸線の随所に浦と呼ばれる集落があり、沖には火山性の平らな島が点在しています。これらの浦と島では、古くから漁業だけではなく、船による交易が行われました。萩藩の成立後、これらは「七浦七島」と呼ばれ、ユニークな自治が展開されました。浦や島には限られた土地に住まう一方で、開かれた海によって繋がる陸とは違うもう一つの萩の暮らしがあります。

① 海で繋がる世界

本市では、河口に開けた土地の各所に漁業集落が形成されていきました。また、沖には阿武火山群で形成された溶岩台地の島々が点在しており、そこでの暮らしが生まれ、近世以前から海を介する独自の生活圏が展開していました。このうち、最も沖にある見島は、朝鮮半島にも近く、古代から置かれていた防御の拠点と関連すると考えられるジーコンボ古墳群や条理遺構などが残されています。このほかの島や浦の河口などにも古くからの朝鮮との交易や防御などを示すと考えらえる遺構、遺物があります。また、古くから日本海を行き来する船の潮待ち、風待ちの場所となったほか、近世に入れば西廻り航路の船が立ち寄り、須佐の高山にある黄帝社のように北前船の船乗りの信仰を集めるなど、海を介した各地との繋がりが強くありました。



黄帝社社殿

② 海に広がる萩藩の領域

萩藩は領内を「宰判」と呼ばれる18の領域に分け、統治する仕組みを持ちますが、このうち萩城下町の北端にある浜崎宰判の所管は、七浦（浜崎浦、玉江浦、三見浦、鶴江浦、小畑浦、越ヶ浜浦、大井浦）と七島（大島、相島、櫃島、羽島、尾島、肥島、見島）で、海を介して繋がるユニークな領域を有しています。このため、領内の往来は船によって行われることから、浜崎宰判の代官所は、現在のその一部が遺跡として残る「御船倉」と呼ばれ、内部には藩主が巡行する際の御座船も納められていました。また、奥阿武宰判に属しますが、永代家老である益田氏の拠点である須佐には、益田氏の御船倉があったほか、江崎には津和野藩の津出蔵と番所が置かれ、自律した港町の様相を呈していました。



旧萩藩御船倉

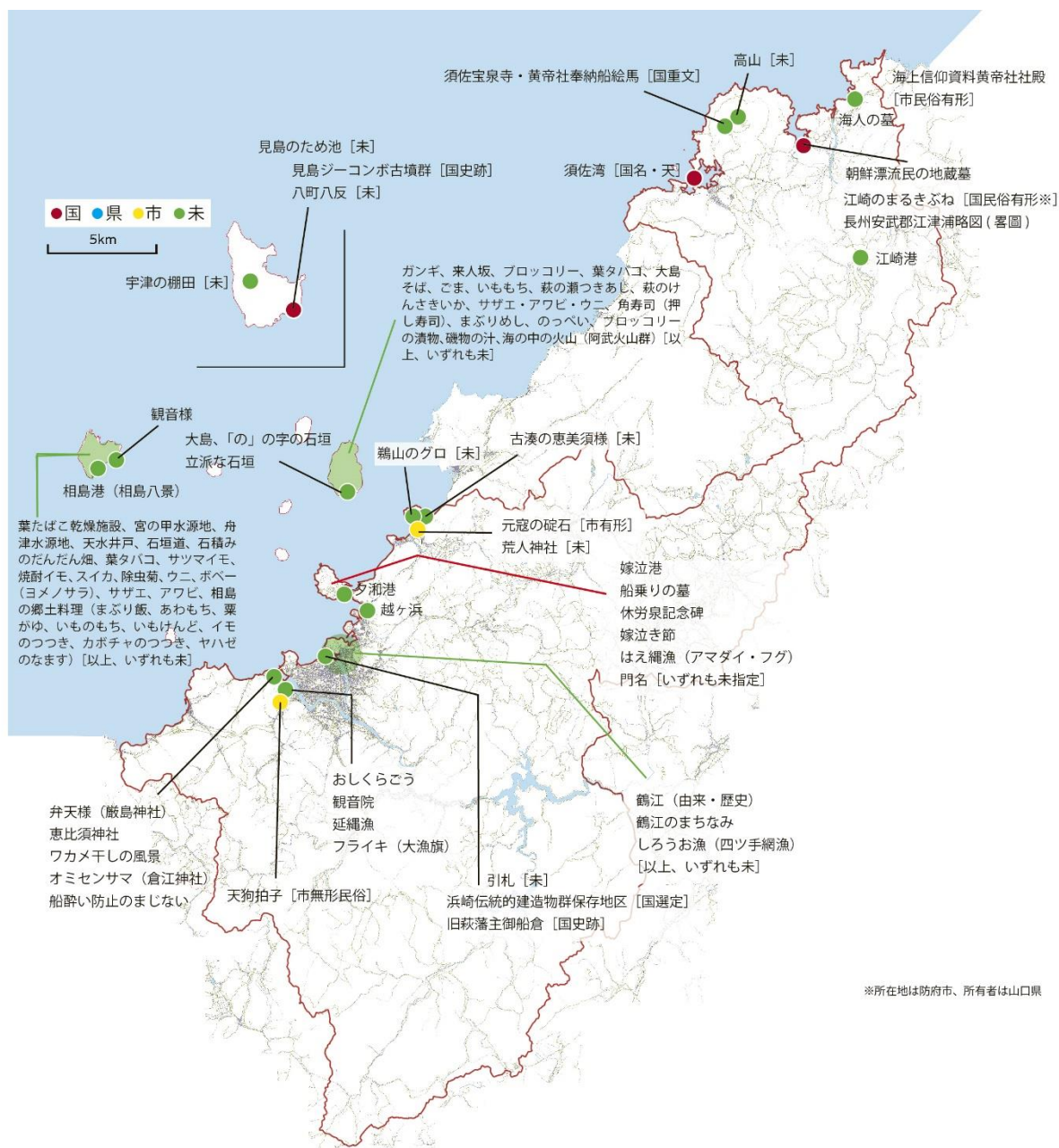
③ 美しき浦と島の暮らし

平坦で水が確保できる土地の乏しい浦や島では、限られた狭い土地を有効に使うため、傾斜地に石を積み上げた美しい段々畑と赤瓦の住宅が迫ってきます。そこでは、水源も乏しく、火山性の地質でも育つ葉タバコ、スイカ、近年ではブロッコリーなどが栽培され、それがほかの場所にはない特産物になっています。一方、目の前に広がる海では、磯場のサザエやニナ、ワカメ、アカモクなどの貝や海藻の採取からはじまり、近海のケンサキイカや瀬付きアジなど、そして沖合の大陸棚では、フグやアマ



松本川河口で見られる
しろお漁

ダイなど、多様な魚介類が水揚げされます。こうした豊かな産物をもたらすと同時に、災いをもたらす海を祀る神社がいくつの集落にもあり、祭礼などを通じて海への感謝と人々の結束を深める美しい暮らしがあります。



関連文化財

【見島】見島ジーコンボ古墳群 [国指定・遺跡]、八町八反、宇津の棚田 [以上、未指定・文化的景観]、見島のため池 [未指定・有形民俗]

【田万川】江崎のまるきぶね [国指定・有形民俗※]、長州安武郡江津浦略図 (畧圖) [市指定・絵画]、江崎港 [未指定・名勝地]、海人の墓、朝鮮漂流民の地蔵墓 [以上、未指定・遺跡]

※所在地は防府市、所有者は山口県

【笠山】越ヶ浜、夕和港、嫁泣港 [以上、未指定・文化的景観]、船乗りの墓、休労泉記念碑 [以上、

未指定・遺跡〕、嫁泣き節、はえ縄漁（アマダイ・フグ）、門名〔以上、いずれも未指定・無形民俗〕

【須佐】須佐宝泉寺・黄帝社奉納船絵馬〔国指定・有形民俗〕、須佐湾〔国指定・名勝地及び地質鉱物〕、海上信仰資料黄帝社社殿〔市指定・有形民俗〕、高山〔未指定・地質鉱物〕

【大井】元寇の碇石〔市指定・考古資料〕、古湊の恵美須様〔未指定・有形民俗〕、荒人神社〔未指定・建造物〕、鵜山のグロ〔未指定・遺跡〕

【大島】大島〔未指定・地質鉱物〕、「の」の字の石垣〔未指定・歴史資料〕、立派な石垣〔未指定・建造物〕、ガンギ、来入坂〔以上、未指定・遺跡〕、角寿司（押し寿司）、まぶりめし、のっぺい、ブロッコリーの漬物、磯物の汁〔以上、いずれも未指定・無形民俗〕、海の中の火山（阿武火山群）〔未指定・地質鉱物〕

【相島】相島〔未指定・地質鉱物〕、相島港（相島八景）、観音様〔以上、未指定・名勝地〕、葉たばこ乾燥施設、天水井戸、石垣道〔以上、未指定・有形民俗〕、宮の甲水源地、舟津水源地〔以上、未指定・市質鉱物〕、石積みのだんだん畑〔未指定・文化的景観〕、相島の郷土料理（まぶり飯、あわもち、粟がゆ、いものもち、いもけんど、イモのつつき、カボチャのつつき、ヤハゼのなます）〔未指定・無形民俗〕

【玉江】天狗拍子〔市指定・無形民俗〕、おしくらごう〔未指定・無形民俗〕、弁天様（厳島神社）、恵比須神社、観音院、オミセンサマ（倉江神社）〔以上、未指定・建造物〕、フライキ（大漁旗）〔未指定・有形民俗〕、ワカメ干しの風景〔未指定・文化的景観〕、延縄漁、船酔い防止のまじない〔未指定・無形民俗〕

【浜崎】浜崎伝統的建造物群保存地区〔国選定・伝統的建造物群〕、旧萩藩主御船倉〔国指定・遺跡〕、引札〔未指定・歴史資料〕

【鶴江・香川津・新川】鶴江（由来と歴史）〔未指定・無形民俗〕、鶴江のまちなみ〔未選定・伝統的建造物〕、しろうお漁（四ツ手網漁）〔未指定・有形民俗〕

（４）萩ものがたりの今後の展開

本計画では、以上の９つストーリーを設定しましたが、本市の歴史文化の特性を踏まえた「萩ものがたり」は尽きることはありません。今後、新たな「萩ものがたり」を萩まちじゅう博物館の推進プログラムとして新たに展開し、地域部会（市民）とともに、新たな発見と設定に取り組めます。また、既存のストーリーに様々な視点や関連分野を取り入れた、関連文化財の追加設定なども行います。

第5章 保存・活用に関する将来像

本市では、大正時代から文化財の保存に取り組んでおり、独自の条例や萩まちじゅう博物館の取組により、未指定の文化財を含めた保存と活用を進めています。

多種多様な文化財を有する萩市では、これまでもそれらを観光振興などに活用してきましたが、一方で、過疎化・高齢化などを背景に、滅失・散逸などが問題となっており、その防止が課題となっています。また、これからのまちづくりに活かして行くための効果的な活用が不十分と考えられています。とりわけ未指定の文化財は保存と活用が十分に行われていない状態です。さらに若い世代の文化財に対する関心が低く、積極的に保存や活用に取り組む人材が少ない状況にあります。

多種多様な文化財は本市のもつ強みであり、本市の主産業の一つである観光を支える重要な資源で、まちづくりにおいても重要な要素になっています。そのため、「文化財が“萩のおたから”として、大切に引き継がれ、私たちのこころと暮らしを豊かにするものとなる」ことを保存・活用に関する将来像として設定します。

【保存・活用に関する将来像】

文化財が“萩のおたから”として、
大切に引き継がれ、
私たちのこころと暮らしを豊かにするものとなる

将来像実現のためには、今後も文化財の価値が失われないよう、適切に保存することはもちろん、これらを観光地づくり・産業振興・人づくりなどに積極的に活用し、活性化を図ることが必要です。

また、これら文化財を次世代に継承していくため、特に若い世代が文化財に親しみ、その価値を認識するとともに、「萩まちじゅう博物館」と表される歴史文化のかおり溢れるふるさとを誇れるようにしていくことが肝要です。併せて、文化財の活用においては、あらゆる世代が文化財とともに住みこなし、活躍できるまちをめざしていくことが必要であり、これらを基本理念として定めることとします。

【基本理念】

- ・ 文化財の適切な保存と活用により、観光地づくりと産業振興につなげる
- ・ 文化財を通じて、子どもたちのふるさとの誇りを醸成する
- ・ 文化財とともに、あらゆる世代が活躍するまちをめざす

これら目指す将来像と基本理念の実現に向けては、以下の4つの基本方針を掲げ、後段の第7章において、基本方針に沿った文化財の保存・活用の行動目標や具体的な措置を示します。

基本方針 1. 文化財の再発見・保存・活用・魅力発信

萩には、自然（海・島・山・河川等）、文化（町並み、生活、祭り等）、産業（地場産業、伝統工芸、農林水産業等）、歴史（人物、出来事、文書等）等の無数の文化財があります。これらは萩ならではのもので、個性を活かしたまちづくりに欠かせない要素です。文化財の再発見を通じて、市民自身が誇りを持ち、どのような形で未来へ残していくのか、長期的な観点から市民とともに考えます。また、積極的に活用・魅力発信していくことで持続可能なまちづくり・観光地づくりに役立てていきます。

基本方針 2. 文化財を通じた多様なコミュニティの形成・活動の推進

文化財は、まち全体・各地域に広く存在することから、それらを活かすためには各地域のコミュニティが活性化し、一丸となって活用を進めていく必要があります。また反対に、文化財の活用を進めることにより、コミュニティが活性化し、にぎわいが生まれてくる場合もあります。近年、コミュニティ機能が低下していることもあり、様々な交流の場を創造する施策や移住・定住・関係人口創出により、活性化を推進していきます。

基本方針 3. 文化財を活かした経済活動の推進

人口減少・少子高齢化が進む中、持続可能なまちづくりを行うためには、地域の産業を発展させ、そこに住む人々が経済的に豊かになり、継続的にその地に住み続けることが必要となります。文化財を産業等の経済活動と結び付けて活用することにより、その効果はより高いものとなります。発見・発掘した文化財の認知度を高め、観光等の地域の産業を、より一層活かす取組を行い、経済の活性化につなげます。

基本方針 4. 文化財を活かす人材の育成

文化財は個性あるまちづくりに欠かせない要素であり、まちづくりを行っていくのは、そこに住む“人”たちです。しかしながら、人材や後継者不足は深刻化してきています。そのため、本構想の基本理念や取組を積極的に市民や事業者へPRし、参加・参画の機会を増やし、活動や取組を支援します。市民・事業者・行政が協働で本計画を推進し、文化財を活かす人材を育成します。

なお、この4つの基本方針は、「萩まちじゅう博物館構想」において、策定した基本方針と同じであり、これまでの取組を本計画でも踏襲していきます。

萩まちじゅう博物館構想

萩の“おたから”を活かした協働によるまちづくり・観光地づくり

萩市文化財保存活用地域計画

将来像

文化財が“萩のおたから”として、大切に引き継がれ、
私たちのこころと暮らしを豊かにするものとなる

基本理念

文化財の適切な保存
と活用により、
観光地づくりと
産業振興につなげる

文化財を通して
子どもたちの
ふるさとの誇りを
醸成する

文化財とともに
あらゆる世代が
活躍する
まちをめざす

基本方針

基本方針①
文化財の再発見・
保存活用・
魅力発信

基本方針②
文化財を通じた
多様なコミュニティ
の形成・活動の推進

基本方針③
文化財を活かした
経済活動の推進

基本方針④
文化財を活かす
人材の育成

行動目標
① | ② | ③

行動目標
① | ② | ③

行動目標
① | ② | ③

行動目標
① | ② | ③

措 置

△将来像・基本理念とこれらを実現するための基本方針
及び萩まちじゅう博物館構想との関係についての概念図

第6章 文化財の把握調査に関する方針と措置

本市の文化財を把握するための調査については、これまで本市のほか山口県や関係団体等による調査が行われ、その調査に関する報告書等が多く発行されています。

本章では、既存調査の把握と現状及び課題の整理、今後の方針等をまとめます。

1 既存の把握調査の概要

本市の把握調査については、平成17（2005）年の新萩市誕生以前には、旧7市町村でそれぞれ市町村史の編さんに伴う調査が行われてきました。

山口県が実施した文化財調査も含め、本市のおたからに關係する市町村史、調査報告書等の一覧は以下のとおりです。

また、萩博物館、阿武川歴史民俗資料館、須佐歴史民俗資料館、萩市立図書館等には、これまでに収集した各分野にわたる多数の資料が保管されている他、萩まちじゅう博物館の取組などによる各種の調査によってもそれぞれのテーマごと把握が行われています。

（1）市町村史

No.	書名	発行年月	調査期間	調査主体
1	萩市史〔第一巻〕 〔第二巻〕 〔第三巻〕	昭和58年6月 平成元年3月 昭和62年3月		萩市
2	川上村史	平成12年3月		萩市（旧川上村）
3	田万川町史	平成11年3月		萩市（旧田万川町）
4	むつみ村史	昭和61年9月		萩市（旧むつみ村）
5	須佐町史	平成5年3月		萩市（旧須佐町）
6	旭村史	昭和53年11月		萩市（旧旭村）
7	福栄村史	平成17年3月		萩市（旧福栄村）

（2）有形文化財調査

No.	書名	発行年月	調査期間	調査主体
建造物関係 調査報告書				
1	山口県の民家	昭和49年		山口県教育委員会
2	重要文化財 旧厚狭毛利家萩屋敷長屋 保存修理工事報告書	昭和43年12月		萩市
3	重要文化財 常念寺表門修理工事報告書	昭和46年3月		重要文化財常念寺 修理委員会
4	重要文化財 口羽家住宅（主屋・表門） 修理工事報告書	昭和54年2月		口羽良通
5	重要文化財 熊谷家住宅（主屋・宝蔵） 修理工事報告書	昭和55年1月		財団法人 熊谷美術館
6	山口県の近世寺社建築 （近世社寺建築緊急調査報告書）	昭和55年3月	昭和53・54年 度	山口県教育委員会

7	萩市[堀内・平安古地区]伝統的建造物群保存対策調査報告	昭和61年		萩市教育委員会
8	重要文化財 東光寺鐘楼・三門・総門・大雄宝殿保存修理工事報告書	平成5年3月		宗教法人 東光寺
9	未指定文化財調査報告書 草葺き屋根	平成7年11月	平成5年度	山口県教育委員会
10	重要文化財 熊谷家住宅離れ座敷ほか三棟保存修理工事報告書	平成9年12月		財団法人 熊谷美術館
11	山口県の近代化遺産	平成10年3月	平成8・9年度	山口県教育委員会
12	萩市〔浜崎地区〕萩市浜崎伝統的建造物群保存対策調査報告書	平成12年		萩市
13	重要伝統的建造物群保存地区（萩市平安古地区）旧田中別邸保存修理工事報告書	平成13年		萩市
14	霊椿山大照院伽藍調査報告書	平成13年		萩市教育委員会
15	萩市[堀内・平安古地区]伝統的建造物群保存対策見直し調査報告	平成16年3月		萩市
16	山口県の町並み	平成17年3月	平成16年度	山口県教育委員会
17	萩市佐々並市伝統的建造物群保存対策調査報告書	平成20年3月		萩市
18	重要文化財 大照院鐘楼門修理工事報告書	平成21年8月		宗教法人 大照院
19	山口県の近代和風建築	平成23年3月	平成20～22年度	山口県教育委員会
20	重要文化財 大照院本堂及び経蔵修理工事報告書	平成30年1月		宗教法人 大照院
美術工芸品関係 調査報告書				
21	山口県の美術工芸 文化財集中地区特別総合調査報告書	平成5年9月	昭和63年度・ 平成元年度	山口県
遺跡・埋蔵文化財関係 調査報告書				
22	見島総合学術調査報告	昭和39年		山口県教育委員会
23	史跡明倫館水練池及び有備館附明倫館碑保存修理工事報告書	昭和45年		萩市
24	史跡旧萩藩御船倉保存修理報告書	昭和47年		萩市
25	史跡萩城跡旧周布家長屋門保存修理報告書	昭和48年3月		萩市
26	幕末明治製鉄史	昭和50年		大橋周治
27	史跡 伊藤博文旧宅保存修理工事報告書	昭和50年3月		萩市
28	萩焼古窯1 坂1号窯発掘調査概報 山口県埋蔵文化財調査報告第35集	昭和52年		山口県教育委員会
29	萩焼古窯2 坂2号窯発掘調査概要 山口県埋蔵文化財調査報告第44集	昭和53年		山口県教育委員会
30	萩焼古窯3 坂3号窯発掘調査概要 山口県埋蔵文化財調査報告第48集	昭和54年		山口県教育委員会
31	萩焼古窯4 林1号窯発掘調査概要 山口県埋蔵文化財調査報告第50集	昭和55年		山口県教育委員会
32	萩焼古窯5 坂5号発掘調査概要	昭和56年		山口県教育委員会

	山口県埋蔵文化財調査報告第53集			
33	萩往還 歴史の道調査報告書 1	昭和56年 3 月	昭和55年度	山口県教育委員会
34	大井大寺廃寺 山口県埋蔵文化財調査報告第84集	昭和59年		山口県教育委員会
35	未指定文化財調査報告書 史跡中世編	昭和60年		山口県教育委員会
36	史跡 吉田松陰幽囚ノ旧宅保存修理工事 報告書	昭和61年		史跡吉田松陰幽囚 ノ旧宅保存修理委 員会
37	歴史の道「萩往還」復元整備工事報告書	昭和61年		萩市
38	史跡萩反射炉 保存整備事業報告書	昭和62年		萩市教育委員会
39	萩城跡外堀調査報告書 萩城跡外堀文献調査報告・萩城跡外堀発掘調査報告	昭和63年		萩市教育委員会
40	歴史の道「萩往還」復元整備事業報告書	平成元年		旭村
41	史跡 萩城城下町（菊屋家住宅）保存修 理工事報告書	平成3年3月		財団法人 菊屋家住 宅保存会
42	天長山城跡 山口県埋蔵文化財調査報告 第146集	平成 4 年		山口県教育委員会
43	赤間関街道 歴史の道調査報告書 3	平成 8 年 3 月	平成5～7年度	山口県教育委員会
44	史跡 木戸孝允旧宅保存修理工事報告書	平成 9 年12月		萩市
45	萩藩宰判勘場跡 未指定文化財調査報告書10	平成13年6月	平成6年度	山口県教育委員会
46	郡司鑄造所跡 山口県埋蔵文化財センター調査報告第30集	平成14年		財) 山口県教育財団
47	萩城跡（外堀地区）Ⅰ 山口県埋蔵文化財センター調査報告第27集	平成14年		財) 山口県教育財団
48	山代街道 歴史の道調査報告書 4	平成14年		山口県教育委員会
49	萩城跡（外堀地区）Ⅱ 山口県埋蔵文化財センター調査報告第46集	平成16年		財) 山口県教育財団
50	史跡萩城城下町（旧久保田家）保存修理 工事報告書	平成17年		萩市
51	萩城跡（外堀地区）Ⅲ 山口県埋蔵文化財センター調査報告第52集	平成18年		財) 山口県教育財団
52	史跡 旧萩藩校明倫館（南門）保存修理 工事報告書	平成18年		萩市
53	史跡萩城跡時打矢倉 災害復旧に伴う石 垣保存修理事業完了報告書 萩市埋蔵文化財調査報告 第6集	平成23年		萩市
54	史跡萩城跡（外堀）整備事業報告書 萩市埋蔵文化財調査報告 第 7 集	平成23年		萩市
55	恵美須ヶ鼻造船所跡 萩市埋蔵文化財調査報告 第 9 集	平成25年		萩市
56	山口県中世城館遺跡総合調査報告書 長門国編	平成29年3月	平成23～28年 度	山口県教育委員会
名勝地及び動物・植物・地質鉱物関係 調査報告書				

57	笠山ト明神池	昭和10年		萩市
58	名勝及び天然記念物「須佐湾」 緊急調査報告書	昭和55年3月	昭和54年度	山口県教育委員会
59	山口県の庭園 山口県未指定文化財調査報告	平成6年3月	平成3・4年度	山口県教育委員会
歴史資料調査報告書				
60	萩の維新関係碑文拓本集 維新を刻んだ町	平成10年		萩市
民俗文化財関係 調査報告書				
61	阿武川の民俗	昭和45年3月	昭和43・44年度	山口県
62	山口県の民俗地図	昭和51年3月	昭和49・50年度	山口県教育委員会
63	山口県の民謡	昭和57年3月	昭和55・56年度	山口県教育委員会
64	山口県の絵馬 未指定文化財調査報告書	昭和61年3月	昭和60年度	山口県教育委員会
65	諸職と用具 未指定文化財調査報告書	平成元年3月	昭和61・62年度	山口県教育委員会
66	続山口県の絵馬 未指定文化財調査報告書	平成2年9月	昭和62年度～ 平成2年度	山口県教育委員会
67	萩の民具（全95回、萩市報連載）	平成2～9年		萩市郷土博物館
68	見島の民俗 萩市郷土博物館研究報告 第4号	平成2年		萩市郷土博物館
69	三見の民俗 萩市郷土博物館研究報告 第5号	平成5年		萩市郷土博物館
70	三見の信仰伝承 萩市郷土博物館研究報告 第6号	平成6年		萩市郷土博物館
71	大井の民俗 萩市郷土博物館研究報告 第7号	平成8年		萩市郷土博物館
72	天神祭り考～萩市金谷天満宮祭礼についての分析～ 萩市郷土博物館研究報告 第8号	平成9年		萩市郷土博物館
73	山口県の民俗芸能	平成12年3月	平成10・11年度	山口県教育委員会
74	住吉祭り考～萩市住吉神社祭礼についての分析その1～ 萩市郷土博物館研究報告 第10号	平成12年		萩市郷土博物館
75	住吉祭り考～萩市住吉神社祭礼についての分析その2～ 萩市郷土博物館研究報告 第11号	平成13年		萩市郷土博物館
76	「萩市越ヶ浜 客死者墓誌」「萩市の民俗芸能」 萩市郷土博物館研究報告 第12号	平成14年		萩市郷土博物館
77	萩地方における西国観音霊場巡りと七観音詣で 萩市郷土博物館研究報告 第13号	平成15年		萩市郷土博物館
78	山口県の祭り・行事	平成20年3月	平成17～19年度	山口県教育委員会
79	萩・住吉祭りの夜見世 萩博物館調査研究報告 第5号	平成21年		萩博物館

80	萩・住吉祭りの夜見世その2 萩博物館調査研究報告 第5号	平成22年		萩博物館
81	萩地域の櫓から見えてくるもの 萩博物館調査研究報告 第8号	平成24年		萩博物館
82	古萩町大名行列調査報告書	平成27年		萩市
83	市内絵馬調査報告書	平成29年3月	平成28年度	萩市
その他の調査報告書等				
84	座右雑器 伊藤弥一右衛門信成覚書	平成4年		萩市郷土博物館
85	吉見正頼銘文入琵琶 萩市郷土博物館研究報告 第9号	平成10年		萩市郷土博物館
86	田中助一先生著述目録	平成13年		萩市
87	田中助一先生遺稿集	平成13年		萩市
88	『長州の科学技術～近代化への軌跡～』 創刊号	平成15年		幕末長州科学技術 史研究会
89	萩藩毛利家の食と暮らし	平成17年		江後迪子
90	幕末長州藩の科学技術 一大砲づくりに挑んだ男たち	平成18年		萩博物館
91	萩市の文化財	平成20年3月		萩市
92	明治維新の光と影	平成20年		萩博物館
93	萩の郷土料理	平成20年	平成19年	NPO萩元気食の会

(3) 博物館等の収蔵資料

萩博物館には高杉晋作資料などの幕末維新期資料をはじめ、雲谷派などの萩藩御用絵師に関連する美術資料をはじめとする歴史・美術資料等約8,000件、^{ふか}鱧延縄やフグ延縄など漁業先進地の技術を伝える漁労用具資料をはじめ、近世から現代にかけての西国観音巡礼の諸相を伝える奉納札資料をはじめとする民俗資料等約5,000件、萩周辺において昭和初期の博物学者・田中市郎が収集したリュウグウノツカイ・オジロワシなど珍しい生物標本からなる田中市郎コレクション、萩の歴代の科学館・博物館が蓄積してきた昆虫・貝類・魚類などの生物標本など、自然系資料約40,000件が収蔵されています。



萩博物館

同じく、阿武川歴史民俗資料館には、萩市川上地域の基幹産業であった^{さんしょう}山樵用具資料をはじめ、山口県下有数の養蚕地帯の歴史文化を伝える養蚕関連用具資料等の民俗資料約1,000件が、須佐歴史民俗資料館には、萩藩永代家老の益田家関係古文書をはじめ、須佐にゆかりのある偉人の歴史資料や伝統工芸品の須佐唐津焼に関する資料、民俗資料など約4,000件が収蔵されています。

また、萩市立図書館には、その前進である阿武郡立萩図書館に収集保存された郷土と郷土人物を主題とした資料をはじめ、幕末維新や近代の地図や郷土の冊子が、須佐図書館と明木図書館にもそれぞれの地域の郷土資料が、それぞれ公開されている他、萩市電子図書館には萩市の郷土資料が「萩デジタルコレクション」「藩校明倫館デジタルアーカイブズ」などが公開されています。

この他、平成10（1998）年に実施され、萩まちじゅう博物館の取組のきっかけの一つとなった旧萩

城下町を中心とした三角州一帯の歴史的景観資源調査により建築物1,334件、工作物754件、塀・垣2,614件について、その位置と件数が把握されています（詳細は41頁「地域における「歴史的景観資源」の急激な喪失」を参照）。

また、NPO萩まちじゅう博物館では、「萩の町筋に遺る古民家や長屋門」と題して、古民家や土塀などの伝統的な建造物や偉人の石碑の分布、古写真などのデータベース化を進めています。

以上のように、様々な観点で把握されている文化財がある一方で、平成17（2005）年3月に合併した1市2町4村には、それまでの公文書や地籍図、その他郷土の資料が保管されていますが、その全容が把握されていません。また、第1章「萩市の文化財を取り巻く環境」で示した各項目については、文化財として把握すべき物件がたくさん含まれており、今後の全容把握をどのように進めていくかが課題です。

（４）萩まちじゅう博物館により把握したおたから

萩まちじゅう博物館の取組として平成25（2013）年から「萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業」として地域のおたから調査を実施し、市内25地域において約3,500件のおたからを把握し、このうち文化遺産認定委員会の審査及びおたから総会において1,669件を地域のおたからとして認定しました。この概要は、第3章「萩市の文化財（おたから）」第2項「萩まちじゅう博物館により認定されたおたからの把握」に掲載したとおりです。

このおたからの調査にあたっては、以下に示すようにカルテ（台帳）-リスト（総覧）-マップ（地図）の3つの形によって相互補完的に把握し、この成果を市民共有の財産として認定し、データベースとして公開するところまでを一連の取組として行っています。

1）カルテ（台帳）

拾い上げられたおたからは、一件ごとにその概要を記したカルテが作成されます。カルテには、名称や所在地、作成日、作成者、上記の空間遺産（空間要素・景観要素）／生活遺産（無形要素・有形要素）の区分などの基礎情報に、撮影した写真と説明を加え、可能な範囲で由来や概要、特色を記載します。

2）リスト（総覧）

また、カルテ化されたおたからは、地域ごとにリストにまとめられます。リストは、地域ごとの文化財総覧でもあります。総覧にすることによって、おたからの属性の傾向や内容の違いが分かり、その地域の歴史文化の特性や地域において何を大事にしているのかなどが分かります。

3）マップ（地図）

一方で、拾い上げられたおたからは、その位置関係や周辺環境を把握するためのマップを地域ごとに作成します。マップは、主なおたからをイラストで表現し、位置やアクセスだけではなく、おたからを巡るおすすめトレイルも掲載されています。また、マップの裏側には、地域を代表する景観のイラストの他、地域にまつわるストーリーや歳時記なども掲載し、おたから群の存在する地域そのものの魅力を表現しています。

このように、拾い上げられたおたからは、単体のカルテを基礎に、総覧としてのリスト、置かれて

[illegible][illegible]

4) 認定

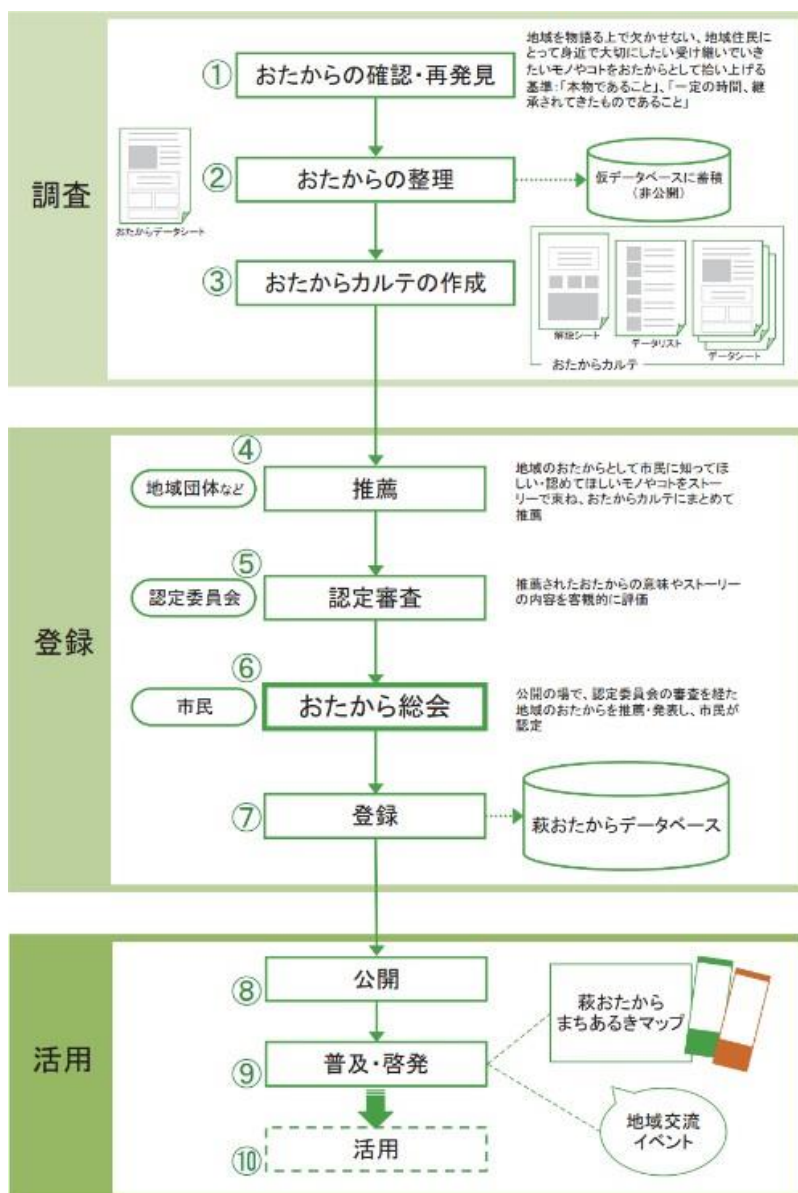
115

5) データベース

登録されたおたからは、市民の共有財産として「萩おたからデータベース」として公開されます。データベースは、地域ごとにストーリーのタイトルと概要、マップ、個別のカルテが全て公開されています

(<https://sites.google.com/i-hagi.jp/otakarakarte>)。

このデータベースにより、誰もが地域のおたからの情報を共有し、まちづくりや学習、観光交流など様々な観点から活用することにより、それぞれのおたからの保全に繋がっていくとともに、将来の新たなおたからの創造に繋がっていくことが期待されています。



△ 萩おたからデータベースの調査・登録・活用の流れ

2 把握調査の現状と課題

本市のおたからの把握調査について、分類別の調査状況及び課題は、以下のとおり整理されます。

分類		調査状況	把握状況	把握調査の課題	
有形文化財	建造物	○	・市史編纂事業や県の調査により指定建造物や民家、社寺・近代化遺産、近代和風建築については、おおむね把握ができています。	・未指定かつ民間所有の伝統的な建築物については、空き家、無住化により急激な消失が続いており、継続的な把握を行う必要があります。	
	美術工芸品	絵画	○	・市史編纂等で実施した調査により把握しました。また、必要に応じて、県立美術館や萩博物館による調査研究が行われています。	・民間所有の継続的な把握を行う必要があります。
		彫刻	○		
		工芸品	○		
		書跡・典籍	○		
		古文書	△	・県史・市史編纂及び萩博物館の研究によりおおむね把握ができています。しかし、市域外からこれまで把握が来ていない文書の相談や寄贈も多く、さらなる把握に努める必要があります。また、民間所有の文書については、詳細調査が出来ていないものもあります。	・民間所有や新たに発見された古文書の詳細調査を計画的に行う必要があります。
		考古資料	○	・市史編さん及び市による埋蔵文化財発掘調査によりおおむね把握ができています。	・詳細調査を計画に行う必要があります。
	歴史資料	○	・県史・市史編纂及び萩博物館の研究により把握及び詳細調査を行っています。	・民間所有の詳細調査を計画的に行う必要があります。	
無形文化財		△	・萩焼に関しては、市内では多くの現代作家が活動しており、把握されています。	・その他の伝統工芸については、改めて把握調査を行う必要があります。	
民俗文化財	有形の民俗文化財	○	・市史編纂や県調査、萩博物館による収集や調査研究により、おおむね把握されています。	・民間所有の詳細調査を計画的に行う必要があります。	
	無形の民俗文化財	○	・おおむね把握を行っており、伝統文化の存続・継承に向け、保存団体等との情報交換や支援を行っています。	・把握調査以降、滅失している生業・信仰・年中行事等があり、実態の把握を定期的に行う必要があります。	
記念物	遺跡	○	・県による分布調査や市による発掘調査が行われており、おおむね把握できています。	・計画的な分布調査などによる更なる把握が必要です。	

	名勝地	○	・県調査により、庭園については把握ができています。また、「HAGIオープンガーデン」というお庭公開イベントが、毎年開催され、市民レベルでの現状把握もなされています。	・土木構造物や工作物又は人工地形等により創成された風致景観や特色ある眺望などの価値視点に基づく調査等を行う必要があります。
	動物、植物等	○	・県・市の調査により、動植物は把握ができています。	・生息確認など、定期的な調査を行う必要があります。
	地質鉱物	○	・萩ジオパーク推進協議会の活動により、ジオサイトが設定され、特徴的な地質鉱物の把握が概ね出来ており、良好な保全に向けた取組も始まっています。	・定期的・計画的な詳細調査を行う必要があります。
文化的景観		×	・未調査ですが、おたからデータベースにおいて調査し、空間遺産として把握されているものがあります。	・地域のおたからという認識による調査なので、より専門的な把握調査が必要です。
伝統的建造物群		○	・国選定の4地区や条例で定める歴観地区以外にも、伝統的建造物が集積するエリアがあり、概ね把握ができています。	・伝建選定地外では、急激な建造物の除却が続いており、群としての価値が失われつつあります。定期的な調査が必要です。
文化財の保存技術		×	・把握調査等は行われていません。	・把握に努める必要があります。
埋蔵文化財		△	・エリアごとに順次、踏査や試掘による分布調査を実施しています。	・包蔵地の範囲把握が十分でないため、分布調査を順次実施し、調査中です。今後もさらなる調査が必要です。
その他		△	・筋名や民話など特色ある調査を行い、把握しているものがあります。 ・いくつかの地域では、おたから調査により伝承・伝説、地名などのおたからの把握が行われています。	・全ての地域において把握が行われているわけではなく、地域により把握状況に差がみられます。

○：おおむね調査ができています、△：さらに調査が必要、×：未調査、-：該当なし

概ね、萩市の文化財に関しては調査と把握が進んでおり、特に未指定文化財についての調査に関しては、萩まちじゅう博物館の取組により比較的充実していると言えます。これまでの先人たちの文化財保護活動の賜物です。

しかしながら、これまで調査されていない建造物や美術工芸品、遺跡（史跡）の把握については、今後も進めていく必要があります。併せて、過去の調査から年月が経過したものもあり、計画的な把握調査が必要です。

また、文化的景観及び文化財の保存技術などは、未調査であり、把握調査が必要です。

第7章 保存・活用に関する課題・行動目標・措置

本市の文化財の保存と活用について、第5章記載の将来像と基本理念の実現を目指すためには、その障害となっている課題を整理し、それに対応する行動目標を定め措置を行う必要があります。

第7章では、本市の課題を示し、その課題解決のための行動目標と措置を設定します。

1 文化財の保存・活用の課題

本市の文化財の保存と活用に関する課題については、事業者・教育関係者・地域部会の各分野の代表者とのヒアリングやWEBアンケートにより調査も行いました。

その結果も踏まえ、整理を行った具体的な課題について、以下に列記します。

基本方針1 文化財の再発見・保存・活用・魅力発信に関する課題

- 萩に存在する多様な文化財について、調査や研究が進んでいない。また、文化的景観や文化財の保存技術などの把握調査が行われていない。未指定文化財の種別ごとの体系的な分析・整理や阿武・萩地域としての総合的な把握が十分でない。
- 文化財や萩の歴史文化に関する調査研究の成果や収蔵・保存されている資料などが市民にあまり知られておらず、結果としてその価値や魅力が十分に伝わっていない。
- これまで、地域の「おたから」の拾い出しを進めてきたが、拾い出しが地域や種別において偏りや濃淡がある。
- 止むを得ず失われる文化財について、事前の把握と記録の作成が必要である
- 所有者の高齢化や地域の過疎化により、文化財の日々の見守りや草刈り、清掃などが難しくなっている。
- 個々の指定文化財について、保存活用計画が未作成であったり、作成済みであっても現在の実態に合わなくなっているものがある。
- 修理が急がれる指定等文化財がある。特に世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」構成資産の修復整備が急がれる。
- 自然災害が頻発する時代を迎えているが、それぞれの文化財において、これに備え、対応する準備ができていない。
- 文化財の保存修理を担う技術者、技能者が不足しつつある。これに伴い、伝統技術や知見も失われつつある。
- 萩まちじゅう博物館のコア／サテライトの役割が十分に発揮されているとは言えず、ハード・ソフトを含めた機能強化が求められる。
- 各地域において、来訪者等に対する文化財に関する情報（位置、名称、解説）提供が不足している。
- 文化財を取り巻く景観は、文化財の一部でもあり、引き続きしっかりと保全していくことが求められる。



修復が急がれる史跡「萩反射炉」のレンガ破損調査と見学会の様子

基本方針2 文化財を通じた多様なコミュニティの形成・活動の推進に関する課題

- 生活スタイルの変化などにより、日常生活と地域の文化財の関係が希薄になりつつある。
- 地域で行われている祭礼や伝統行事の担い手が減少し、運営が難しくなっている。
- 市外からの来訪者はもとより、移住されてきた方などが地域の行事に参加したり、文化財に触れ

る機会が少ない。

- 公有文化財について、公開以外にも地域づくりに活用されることが期待されている。
- 地域の文化財の保存と活用が所有者等に依存していることが多く、高齢化が進むなかで今後の継承に不安がある。
- 一方で、文化財の保存と活用に関心のある団体や事業者もあり、これらを繋げるような仕組みが求められている。
- 文化財の活用には申請行為や厳しい制限などがあり、ハードルが高く（または高いと思われる）、どのような活用が図れるかが十分に周知されていない。
- 萩の文化財を舞台にした移住や定住、これらをテーマとした研究や研修など、さまざまな分野で文化財を対象とした新たなニーズが生まれている。

基本方針３ 文化財を活かした経済活動の推進に関する課題

- 地域まちづくりの核として文化財への注目が集まっているが、これに十分に対応する仕組みや体制が整っていない。
- 観光スタイルが大きく変化しているなか、インバウンドを含め、これに対応した観光の確立、情報発信、受入れ環境整備などが立ち遅れている。
- 伝統的な産物や製品のブランド化が求められているが、そのことに文化財としての価値や魅力、ストーリーが反映されておらず、もったいない。
- 文化財を活用した萩ならではの体験・交流を主体とした観光コンテンツが求められている。
- それぞれの団体や事業者では、文化財を活用した又は関連した活動や事業が行われているが、お互いの連携がないのが現状である。
- 上記に関連して、市外から見た場合に、これらの活動や事業が萩の文化観光として見えるような仕掛けや仕組みが求められている。
- 文化財の修理や維持管理の経費が増大する一方で、今後の持続的な保存に向けて、文化財本来の価値や魅力をいかした事業や寄付、基金などの資金確保、PFI事業など官民連携の自律的な運営手法の導入などが求められている。
- 文化財の積極的な活用又は新たな活用を考えている人への支援が必要である。

基本方針４ 文化財を活かす人材の育成に関する課題

- 学校で地域の歴史文化を学ぶうえで、座学ではなく、参画する機会が求められている。
- ガイドの高齢化が進んでおり、後継者育成が急務である。
- 市民や事業者、子どもたちが日常的に文化財に触れ、気軽に活用や説明ができる場づくりが求められている。
- 地域コミュニティの衰退による、伝統文化や祭事、伝統芸能が継承されにくくなっている。
- 萩を出た子どもたちが、外で萩のことを、誇りをもって説明できるようになることがこれからの地域教育において期待されている。
- 近年は、高校の探究学習や小中学校のふるさと学習など地域をテーマとした学習が推進されているので、これらの学習と文化財を結び付けることが求められている。
- 文化財と他分野を結び付け、まちづくりや経済活動に活かす人材が求められている。
- 市外の多様な人材を、文化財の所有者や団体と繋ぐことにより、新たな人材を育てることが期待される。

2 保存・活用に関する行動目標

(1) 行動目標

第5章で示した基本方針に基づき、本計画の作成にあたって実施した事業者・教育関係者・地域部会の各分野の代表者とのヒアリングやWEBアンケート、既存の萩まちじゅう博物館基本計画・行動計画を踏まえて、基本方針ごとに保存・活用に関する行動目標を設定しました。なお、行動目標は、文化庁指針という「方針」を指します。

<基本方針1> 文化財の再発見・保存活用・魅力発信

行動目標

- ① 調査・研究により文化財の価値と魅力を発見する
- ② 文化財の適切な保存・整備と維持管理を図る
- ③ 文化財を現地にありのままで展示・解説する

① 調査・研究により文化財の価値と魅力を発見する

本市の文化財の価値や魅力を明らかにするために必要な調査・研究を進めていきます。特に有形・無形の民俗文化財等については、市民や学校等による活動を通じて地域に眠る「おたから」の発掘（発見）に取り組みます。把握調査が行われていない文化的景観や文化財の保存技術については、把握に努めます。あわせて、萩の文化財に関わる各種のデータベースの充実と公開を進めます。

人々の共感を得て、文化財を“守りたい・後世へ伝えたい”と思われるような、価値や魅力を発信していきます。

② 文化財の適切な保存・整備と維持管理を図る

多種多様な未指定を含む全ての文化財において適切な保存・整備を進めていきます。特に修復が急がれる世界文化遺産構成資産や一部の指定文化財については、保存活用計画の作成・見直しと合わせて保存修理・整備事業を計画的に実施していきます。そのためにも、調査・研究の分野も含め、適切な人材確保と人員体制を強化します。

また、定期的なモニタリングを実施して、文化財の異変・異常を早期に発見し、必要なメンテナンスを施し、適切な維持管理に努めます。

全ての文化財をそのままを保存することは困難ですが、その存在、価値と魅力が後世へ伝わるよう、データベースに記録を残すとともに、必要に応じて萩博物館等で収集・保管を行います。また、頻発する自然災害や火災から文化財を守ることが、これまで以上に大切な時代を迎えていることを踏まえ、地域全体の防災から個別の文化財の防災設備の整備、防災意識の向上までを一連のものとして進めます。



文化財防火デーでの消防訓練の様子（東光寺）

③ 文化財を現地にありのままで展示・解説する

萩まちじゅう博物館構想では、萩全体を屋根のない博物館に見立てて、そこにある文化財を現地にありのまま展示し、市民自らが解説することを目指しています。その際に、来訪者が最初に立ち寄る萩まちじゅう博物館の中核（コア）施設である萩・明倫学舎と萩博物館と各地域（サテライト）において、設定されたトレイルを巡り、萩の自然・歴史・文化に関わる本物のおたから（文化財）に触れ

ることができるよう各施設の充実やおもてなしの推進、情報提供の強化を図ります。また、これら現地の文化財群と一体をなして歴史的風致を形成する景観について、萩市景観計画等と連動してその保全とコントロールを図ってまいります。

<基本方針2> 文化財を通じた多様なコミュニティの形成・活動の推進

行動目標

- ① 市民が文化財に親しむための機会を増やす
- ② 市民と来訪者が文化財を通じて交流する場をつくる
- ③ 文化財を通じて多様な関係人口の創出を図る

① 市民が文化財に親しむための機会を増やす

地域の文化財が地域住民にその魅力を正しく理解されるよう、その保存と活用に携わる機会を増やしていきます。そのきっかけをつくるために、文化財に関する周年や関係行事などの機会に、企画展示やシンポジウムの開催による参画機会の創出を図ります。また今後は、市民の日常的な交流の場として文化財が活用されることが大切になります。そのためには、市民が主体的に文化財を「使いこなす」「住みこなす」ことができる機会や場の創出、さらには仕組みづくりを進めてまいります。

② 市民と来訪者が文化財を通じて交流する場をつくる

上記に示したような市民が文化財に親しむ次の段階として、市民が萩を訪れる方と文化財を通じて多様な交流を展開することが求められます。

そのためには、文化財のユニークベニューなど、その文化財でしかできない特別な活用が促進されるよう、活用のための新たなルールづくりを行います。

また、現地で直接文化財に触れるまち歩きをはじめとした各種テーマのツアーに参加する機会を作るとともに、これらをきっかけとしたコミュニティの形成や活動によりあらゆる人がつながる場を共につくる取組を推進します。



高校の美術授業で文化財施設を活用したワークショップ

◆POINT◆ PFI事業による文化財施設の新たな活用

浜崎重要伝統的建造物群保存地区にある明治初期に建てられた伝統的建造物を令和2(2020)年に萩市が寄付を受け、その後2か年をかけリニューアルしました。住民と観光客との交流とにぎわい創出を目的とし、民間事業者の自由で高質なサービスを提供する施設として活用を図るため、萩市で初となるコンセッション方式により、事業運営提案を募集したところ、合同会社アタシ社による「本と美容室 萩店」(本屋と美容室とカフェの複合経営)が採択され、令和6(2024)年にオープンしました。全国でも珍しいスモールコンセッションの事例として注目されています。



改修前の伝統的建造物



改修後の町家モデル

PFI事業による新しい公有文化財建造物の活用モデルとして期待される施設となっている

③ 文化財を通じて多様な関係人口の創出を図る

本市の文化財は、全国さらには世界の人々にとっても魅力的なものです。これら文化財を社会総がかりで保存・活用していくには、多様な関係者と文化財を通じたネットワークを構築していく必要があります。

それには、観光に留まらず、移住・定住・交通など萩暮らしの促進や文化財をテーマとした教育旅行や研修など全国の学校や企業と連携した取り組みを展開します。

<基本方針3>文化財を活かした経済活動の推進

行動目標

- ① 新しい時代の萩の文化観光を確立し、展開する
- ② 萩の文化財の多様な価値と魅力を見える化する
- ③ 文化財による社会と経済の地域内循環を生み出す

① 新しい時代の萩の文化観光を確立し、展開する

地域のまちづくりの核としての観光へと社会が大きく転換しつつある中で、文化財を活かした新たな観光振興を図ります。新しい時代に対応した滞在・周遊型の文化観光の仕組みづくりを萩観光DMOを舵取り役として展開するとともに、「見る」だけでなく、「触れる・味わう・過ごす」といった体験を盛り込んだ文化観光コンテンツづくりとその磨き上げを進めます。



サイクリングで萩を巡る
文化観光コンテンツ

② 萩の文化財の多様な価値と魅力を見える化する

本計画に掲げる萩ものがたり（関連文化財群）のストーリーを、インバウンド観光をはじめ、教育、産業、移住・定住に応用するなど、文化財の価値と魅力をDXを含めた新しい手法による情報発信と活用を組み合わせ、持続的かつ自律的な経済活動につなげます。

また、農林水産物や加工品、地場産品等に文化財の価値や魅力を取り入れたストーリーづくりを行い更なる「萩ブランド」の構築を図ることで、萩の文化財の持つ様々な価値や魅力を社会に見える化していきます。

③ 文化財による社会と経済の地域内循環を生み出す

これまで取り組んできた「ワンコイントラスト」をはじめ、ふるさと寄付、ふるさと納税を増やす仕組みづくりを行い、萩の歴史文化や文化財への共感を通じた資金確保による保存への還元に努めます。そして、萩市地域産業振興構想と連携し、文化財を貴重な地域資源と位置付け、これらを活かした起業・創業の支援・連携、公有文化財施設のコンセッション事業等による民間活用等の新たな可能性を模索します。また、文化財建造物等の自律的運営促進に向けた産官学連携など、文化財の保存と活用の好循環を生み出す仕組みづくりを進めます。

<基本方針4>文化財を活かす人材の育成

行動目標

- ① 文化財の価値を理解し、魅力を伝えることができる人材を育成する
- ② 子どもたちがふるさとを自分の言葉で語ることができる
- ③ 文化財と人や社会を繋ぐ人材（コーディネーター）が活躍する

① 文化財の価値を理解し、魅力を伝えることができる人材を育成する

〈基本方針2〉の行動目標①とも連動し、文化財の価値を理解し、それを伝えることができる人材の育成を目指します。各種の文化財施策やまち歩きガイドの育成、これに関わる団体活動や情報発信の強化はもちろんのこと、市民や事業者が日々の暮らしや生業のなかで文化財を語ることができるような機会を創出します。そして、萩市ひとつくり構想と連携し、子ども達が文化財とともに育つ環境づくりを進めてまいります。

② 子どもたちが自分のふるさとを自分の言葉で語ることができる

これからを担う子どもたちがふるさとを人に語ることは、生きた文化財の継承そのものです。子どもたちの地域の伝統行事やボランティア活動を通じて、市内全域や各地域に大切に受け継がれてきた文化財に積極的に関わる環境づくりを行い、その価値を理解し、伝える力を育むことで、将来にわたり文化財を守り、伝え、活かせる人材の育成につなげます。子どもたちの地域への誇りと愛着を育てるために、小学校からふるさとの歴史文化に触れる「ふるさと学習」や「学校教育プログラム」を推進します。



高校生が自ら考案した「世界遺産周遊クイズラリー」の宣伝活動

③ 文化財と人や社会を繋ぐ人材（コーディネーター）が活躍する

これからの時代に文化財を保存し、コミュニティ形成や経済活動に結びつく活用をしていくために、既存の枠組や地域を越えて活動するコーディネーターを育成します。

そのために、本計画の推進を担う萩まちじゅう博物館推進委員会を中心にしながら、文化財保存活用支援団体の指定をはじめとし、市民、市外の多様な人材と文化財の所有者や団体、事業者などとの連携を進めていきます。

3 行動目標を踏まえた保存・活用に関する措置

本市の文化財の保存・活用に関する各テーマに基づき、詳細なアクションプラン（方針を踏まえた保存・活用に関する措置）を以下に示します。

なお、序章で述べたとおり、本計画の計画期間は10か年です。具体的な措置の目指す実施期間については、喫緊の対応が求められるものや実施中の事業等を「前期」として、おおむね5か年（令和6～10年度）に設定し、本計画期間である10か年の第1期内を目標とするものを「後期」（～令和15年度）、永続的に取り組む必要のある事業や前期・後期で実現した事象を基に新たな事業展開を図るも

の等を「次期」として設定します。

また、以下の措置については、市費、県費、国費（文化財補助金・デジタル田園都市国家構想交付金等）、その他、民間資金等を活用しながら進めていきます。

取組主体の（ ）は萩市における主管課、◎取組主体、○取組に関わる団体等

文：文化財保護課、 博：萩博物館

観：観光課、 明：萩・明倫学舎推進課

ま：まちじゅう博物館推進課

商：商工振興課、 企：企業誘致推進課

企：企画政策課、 ジ：ジオパーク推進課

農：農政課、 林：林政課、 水：水産課

お：おいでませ、豊かな暮らし応援課

都：都市政策課、 教：教育委員会

<基本方針1>文化財の再発見・保存活用・魅力発信

具体的な措置		取組主体						実施期間			
		所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期	次期
① 調査・研究により文化財の価値を発見する											
1	文化財の調査・研究 ・文化財の価値について、学術的・専門的な観点や萩との関係性から調査・研究を進める ・文化的景観や文化財の保存技術などの分野の把握に努める ・調査・研究により得られた成果については、報告書や展示等により市民に還元する	○						○	◎		
		(文)・所有者・研究機関									
2	文化財の収集・保管 ・滅失の恐れのある文化財を収集し、萩博物館 I. B. MUSEUMなどにより目録を作成し、萩の資産として公開する ・必要に応じて萩博物館や歴史民俗資料館等において保管を図り、市民への公開・展示に努める	◎						○	◎		
		(ま) (博)・地域・団体等									
3	市民・学校等による文化財の発見・学習 ・文化財の持つ魅力について、NPOや各種団体の活動を通じて発見と共有を図る ・高校の探究学習、小中学校の地域学習などにおいて、文化財をテーマとした学習を推進する	○	◎	◎	◎			○	○		
		(ま)・所有者・地域・団体等									
4	萩の文化財データベースの充実と公開 ・国、県の文化財データベースと連携し、萩の文化財データベースの充実を図り、市民への公開と活用に資する ・萩まちじゅう博物館の活動による新たなおたからの掘り起こしと、おたから総会での認定・登録による「萩おたからデータベース」の充実を図る	○	○		○				◎		
		(文・ま)、団体等									
5	個々の文化財保存活用計画の作成・見直し ・個々の指定文化財等について、文化財保存活用計画の作成を進める ・伝統的建造物群保存地区については、現行の保存計画を見直し、順次、新たな保存活用計画の作成を進める ・文化財保存活用計画を作成したものについては、順次、計画の検証を行い、必要に応じて計画の見直しを行う	◎						○	◎		
		(文)・所有者・研究機関									

② 文化財の適切な保存・整備と維持管理を図る									
6	文化財の日常的なモニタリングとメンテナンス ・文化財保護指導員による定期的な指定文化財の巡回監視を行い、適切な維持管理に繋げる ・おたから見守りツアーなど市民参加によるモニタリング企画を実施する ・文化財の清掃や草刈りなどを関係者や市民が協力して実施できる体制づくりを進める	○			○				◎
		(文・ま)・所有者 ・市民・団体等							
7	文化財の修理・整備事業 ・指定等文化財の保存修理及び整備活用事業を行う	◎						○	◎
		(文)・所有者							
	反射炉保存修理事業 ・反射炉本体上部のレンガ部分の破損状況が激しいことからこれを修復する。	—			○			○	◎
		(文)							
	恵美須ヶ鼻造船所跡整備事業 ・造船所遺構を良好な形で保存し、かつ来訪者に分かりやすく伝えるために、平面表示の整備と見学路の設置を行う	—			○			○	◎
		(文)							
	大板山たたら製鉄遺跡整備事業 ・遺構を荒らす獣害を防止するため、周囲に防護柵を設置し、主要遺構の見学路を整備する	—			○			○	◎
		(文)・保存会							
	松下村塾保存修理事業 ・経年劣化等による損傷が発生した場合は修復整備を実施する	◎			○			○	○
		所有者・(文)							
	東光寺・大照院保存修理事業 ・萩藩主毛利家の菩提寺である両寺の重文建造物等の保存修理を行う	◎			○			○	○
		所有者・(文)							
	史跡毛利家墓所の整備 ・墓所境内の樹叢や排水環境等を整備し、石燈籠をはじめとした石造物の保存と安定化を図る	◎			○			○	○
		所有者・(文)							
	萩城跡保存整備事業(石垣修理) ・城郭石垣の崩落を防ぐため、孕み出しや劣化の激しい箇所を順次、計画的に修復していく	◎			○			○	◎
		(文)・所有者							
	指定等文化財保存修理事業 ・指定等文化財を適切に保存するため、所有者等が行う修理事業への助成を行う	◎			○			○	◎
		所有者・(文)							
	伝統的建造物群保存地区保存修理事業 ・歴史的まちなみ景観を保全するため、伝建地区内の建造物の修理・修景を行う	◎	○					○	◎
		所有者・(文)							
	椿群生林再生保全事業 ・笠山虎ヶ崎やブツバキ群生林を持続可能なものとするため、計画的な萌芽再生整備を行う		○		○			◎	◎
		(観)・研究機関							
8	萩市地域防災計画等と連携した文化財の危機管理 ・萩市地域防災計画・萩市国土強靱化地域計画に基づき、各指定文化財や関連施設の災害の未然防止や被害軽減に繋がるよう定期的な点検や各種準備を進める ・萩市地域防災計画に基づき、災害発生時の文化財への対応や業務継続のための体制を準備する	◎			◎			○	◎
		所有者等・団体 ・(文・消)							
9	指定等文化財の防災施設整備 ・各指定等文化財について、順次、防災計画を策定し、必要な防災設備の整備又は更新を進める ・伝統的建造物群保存地区については、防災計画の策定を進め、必要な防災施設等の整備を検討する	◎			○			○	◎
		所有者・(文)・団体等							
10	文化財に対する防災意識の向上 ・文化財防火デーに合わせて、指定等文化財を対象とし	◎	○		◎			○	◎
		(文・ま・博)・							

	た市民参加による防火訓練を継続する ・災害碑や災害に関わる歴史、行事、慣習などの掘り起こしを行い、市民で共有する機会をつくる	所有者等・団体等・市民			
11	国や山口県と連携した文化財防災への対応 ・「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」及び「国宝・重要文化財（美術工芸品）を補完する博物館等の防火対策ガイドライン」に沿って、防火・防犯設備の設置を進めるとともに、定期点検を実施し、日ごろからの体制づくに努める ・巨大地震、土砂災害、洪水、高潮、津波等の大規模災害発生時には、山口県に応援要請を行うとともに、場合によっては、県を通じて、国立文化財機構防災センター（中・四国担当の国立文化財機構奈良文化財研究所）への支援要請を行う	◎ ◎ （文・博）・所有者等			
12	保存に関わる伝統技術・知見の継承 ・文化財の修理や関係施設の整備などにおいて、伝統技術の利用を促進し、記録に残す ・伝統技術に関する現場の公開、見学会の開催などを通じて関係者や市民への知見の継承を促す	◎ ○ ◎ ◎ 所有者・事業者・（文・ま）			
13	官民の専門職員・技術者・技能者の確保と養成 ・文化財の修理に関わる技術者・技能者を把握し、技術・技能が発揮できる機会を増やす ・修理や調査等の現場や研修会を通じた技術・技能の継承を図る場の創出とこれを推進する団体の支援を行う ・文化財関連の行政職員（歴史・埋蔵文化財・建造物等）の計画的な養成と安定確保を図る	○ ○ ◎ ◎ （文）・所有者・事業者			
③ 文化財を現地にありのままで展示・解説する					
14	萩まちじゅう博物館の中核（コア）施設の充実 ・萩に来て最初に訪れる萩・明倫学舎と観光案内所の役割分担により相乗効果をあげる ・萩をより深く知るために訪れる萩博物館の機能強化を図る	○ ◎ （ま・博・明）・団体等			
15	萩まちじゅう博物館の地域（サテライト）施設の充実 ・各地域施設での文化財、萩まちじゅう博物館の案内、解説やおもてなしの機能強化を図る ・道路サインや道の駅において、萩市に入ってくる来訪者に萩の文化財や萩まちじゅう博物館の情報提供を図る	○ ○ ○ ◎ ○ ◎ 団体等・（文・ま）			
16	萩まちじゅう博物館のトレイルの整備と活用 ・文化財を説明、周遊するためのサイン・施設の整備を戦略的に進める ・おたからマップを活用した萩まちじゅう博物館「萩検定ツアー」を開催する	○ ○ ◎ （観・ま・文・ジ）			
17	市民等による文化財の解説・情報提供とおもてなし ・文化財施設やまち歩きガイド活動等の支援を積極的に行う ・市民や事業者が日々の生活や仕事の中で文化財について解説や情報提供ができる仕組みや体制づくりを検討する	○ ◎ ○ ◎ ○ ○ ◎ （観・ま・文・ジ）・市民・団体等			
18	萩市景観計画等による景観の保全とコントロール ・萩市景観計画等に基づき、文化財と一体をなす地域の景観の適切なコントロールを推進する ・萩市歴史的風致維持向上計画に基づき、文化財と一体となって形成されてきた良好な市街地環境の維持・向	○ ○ ○ ○ ◎ （都・文・ま）			

上に資する事業を検討する ・景観重要建造物、歴史的風致形成建造物等の保全や整備を計画的に進める	
--	--

＜基本方針２＞文化財を通じた多様なコミュニティの形成・活動の推進

具体的な措置		取組主体							実施期間		
		所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期	次期
① 市民が文化財に親しむための機会を増やす											
19	文化財を活用したコミュニティ活動の創出と推進 ・ 祭礼等の伝統行事や茶道等の伝統文化への参加者や支援者を獲得し、継承を図る ・ 地域において文化財建造物等を舞台とした地域のイベント、文化財をテーマとした交流会などを推進する	◎	◎	◎	◎	○	○	◎			
		(文・ま)・所有者・市民・事業者									
20	文化財に関連するシンポジウムや展示、イベントの開催 ・ 文化財に関する周年や関係行事などの機会をとらえてタイムリーにシンポジウム・展示等を企画・開催する ・ 萩において企画される各種のイベント・行事において、文化財の活用や文化財との関係性を持たせるよう調整を図る	◎			○			◎			
		(文・ま・博・明)・所有者									
21	文化財を使いこなす、住みこなす新たな取り組み ・ 市民が主体的に文化財に関わり、活躍できるような機会を創出する ・ 文化財やこれと一体となった環境、町並みを生活の場として使い続けるための仕組みづくりを行う	◎	○		◎	○		◎			
		(文・ま)・所有者・団体等									
② 市民と来訪者が文化財を通じて交流する場をつくる											
22	来訪者が文化財に触れる体験の機会や場の提供 ・ 市民や事業者により日常的に文化財が公開、活用される活動や事業を推進する ・ 文化財を活用した新たな行事や観光コンテンツの創出を図る	◎	○	○	○	◎	○	◎			
		(文・ま)									
23	文化財の新たな活用とそのルールづくり ・ 文化財をユニークベニュー（特別な場所で特別な体験）として活用する ・ 上記の活用を適切かつ効果的に実施するためのルールづくりを行う	○						◎			
		(文・ま・観)、所有者									
24	まち歩きやオンラインツアーなど地域を周遊する機会の提供 ・ 観光、文化財、ジオパークなど各分野で実践されているツアーのブラッシュアップを進める ・ 市民や外部に上記のツアーの見える化（いつでもどこで行われてるか）するための仕組みづくりを行う	○			○	○		◎			
		(文・ま・観・ジ)、団体等									
③ 文化財を通じて多様な関係人口の創出を図る											
25	文化財の保存と活用を通じた全国・世界の関係者との持続的な関係の構築 ・ 萩の文化財の保存を応援してくれる個人、団体、事業者とのネットワークの構築を進める ・ 萩出身者、萩関係者と萩の文化財の保存と活用を一緒になって進められる仕組みづくりを進める	◎	◎	○	○	○	○	◎			
		(文・ま・観・企)・所有者・団体等									

26	萩の文化財を通じた萩暮らしの応援による移住・定住・交流の促進 ・萩の文化財に触れるお試し居住や二拠点居住の推進を図る ・移住・定住・交流の舞台としての古民家再生や町並み保存のまちづくりを推進する	◎ ○ ○ ◎ ○ ◎ (文)・所有者・事業者			
27	萩の歴史文化や文化財をテーマとした研究・研修の場の確立 ・萩の歴史文化や文化財を活用した修学旅行・教育旅行や企業研修のプログラムを提供する ・全国の大学や企業と連携した研究・研修のテーマや舞台とする萩での活動を支援する	◎ ○ ○ ◎ ○ ○ ○ (ま・観)・所有者・団体等			

<基本方針3>文化財を活かした経済活動の推進

具体的な措置	取組主体							実施期間									
	所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期	次期							
① 新しい時代の萩の文化観光を確立し、展開する																	
28	萩版DMOを舵取り役とした滞在・周遊観光の仕組みづくり ・萩版DMO戦略において、萩の歴史文化を中心に据えた文化観光を計画的に展開する ・上記を実現するために必要なハード・ソフトの受入れ環境整備を実施する ・萩の文化観光に関わる多様な団体・事業者を巻き込む体制を整える							◎	○	○	◎	◎					
							事業者・所有者・（ま）・団体等（観光協会）										
29	文化観光のコンテンツづくりとその磨き上げ ・文化財の特別公開や修理現場の見学会など、今だけ、ここだけの文化観光コンテンツを企画し、提供する ・各団体・事業者が実施する文化財を活用したコンテンツの開発とブラッシュアップを継続的に支援し、展開する ・萩まちじゅう博物館おたからマップや古地図を活用したまち歩き萩観光を定着させる							◎			◎	◎	◎	◎			
							所有者・団体等・事業者・観光協会・（文・ま・観）										
② 萩の文化財の多様な価値と魅力を見える化する																	
30	文化財の価値と魅力の新しい手法による情報発信と活用 ・萩ものがたり（関連文化財群）のストーリーを観光や教育、産業、移住・定住に応用していく ・外国人にとって魅力的に映る萩の歴史文化や文化財をテーマとした映像や動画を制作し、展開する ・萩まちじゅう博物館の見える化を図るため萩まちじゅう博覧会を戦略的に開催する										◎	○	○	◎			
							（観）・観光協会										
31	農林水産物や加工品、地場産品の文化財的価値付けやストーリーづくり ・「萩ブランド」の構築において、萩の歴史文化や文化財の価値や魅力を取り入れたストーリーをつくる ・上記のストーリーによる新たな産物・産品の開発・販売を行う							○	○	○	○	○	○	○			
							所有者・市民・事業者等										

32	文化財の保存・活用のためのＤＸの推進 ・上記を魅力的かつ効果的に展開し、かつあらゆる関係者にとってメリットのあるデジタルコンテンツを開発する	◎ ○ ○ ◎ ◎ ○ ◎	行政・所有者・団体等			
③ 3 文化財による社会と経済の地域内循環を生み出す						
33	萩の歴史文化や文化財への共感を通じた資金確保により保存へ還元する ・萩まちじゅう博物館「ワンコイントラスト」による未指定文化財の修復を継続的に実施していく ・文化財の保存に賛同するふるさと寄付、ふるさと納税が増加する仕組みづくりを検討する ・文化財の自律的な保存と活用のための基金の設立を検討する	○ ○ ○ ◎ ○ ○ ◎	(ま・観)・観光協会			
34	地域産業振興構想と連携した文化財の持続的な保存と活用の循環の仕組みづくり ・地域資源として文化財を捉えた起業・創業、新分野への進出を促す仕組みづくりを検討する ・公有の文化財等において、コンセッション方式の導入など文化財建造物の民間活用を推進する ・古民家空き家・空き施設等の自律的な再生と運営を促進する仕組みづくりを進める	◎ ○ ○ ◎ ○ ◎	(企・文・ま・お)、所有者、事業者			

<基本方針4>文化財を活かす人材の育成

具体的な措置	取組主体							実施期間			
	所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期	次期	
① 文化財の価値を理解し、魅力を伝えることができる人材を育成する											
35	ガイド等による文化財の解説とおもてなしの実践 ・市民を対象とした萩の文化財や歴史文化に関する研修会を継続的に開催する ・地域の町並みや文化財施設で活躍するガイド団体の活動の強化と後継者の育成を図る ・ガイドに関する情報発信や予約等の一元化の検討する	◎			◎		○	◎			
		(文)・所有者・団体等									
36	文化財を語ることができる市民や事業者の活躍 ・文化財の保存と活用に関連するセミナーやイベントの企画・運営を行う ・萩市出前講座、萩博物館やジオパークの講座による萩の文化財への理解の促進を図る ・萩まちじゅう博物館おたからマップを活用したツアーや事業を推進する	○	○		◎			◎			
		(文)・団体等									
37	萩市ひとづくり構想と連携した文化財と積極的に関わる子どもの育成 ・萩の歴史文化をテーマとした志教育を推進する ・萩お宝活用プロジェクトの題材としての文化財の活用を取り入れる	○	◎	○	◎	◎		◎			
		(文・観)・市民・団体等・事業者									
② 子どもたちがふるさとを自分の言葉で語ることができるようにする											
38	地域伝統行事、各種ボランティアへの子供たちの参画	◎	○	◎	◎	○	○	○			

	・指定を受けている民俗文化財の舞踊をはじめとした地域の祭礼や行事への参加機会を創出する ・世界遺産清掃活動や地域の文化財等の清掃活動等の実施する	所有者・地域・団体等					
39	地域の文化財を題材とした探究学習やふるさと学習の推進 ・文化財や萩の歴史文化を対象とした高校の探究学習、小中学校のふるさと学習を推進する ・市内の小学5年生を対象とした子供ものしり博士検定を継続して実施する	◎ ○ ◎ (文・ま・教)・学校					
③ 文化財と人や社会を繋ぐ人材（コーディネーター）が活躍する							
40	市の内外から文化財に関係する市民や事業者の連携体制の構築 ・文化財保存活用支援団体の登録と活動を推進する ・文化財の新しい・特別な活用を担う団体・事業者の参画と連携を図る	○ ○ ○ ○ ○ ○ ◎ (ま)					
41	地域計画の推進を担うまちじゅう博物館推進委員会を中心とした関係者・関係団体の連携 ・まちじゅう博物館推進委員会の定期的を開催する ・まちじゅう博物館推進委員会の各部会の活動を推進する ・まちはくミーティングの継続によるチームビルディングを進める	○ ○ ○ ○ ○ ○ ◎ (ま)					

4 萩ものがたりに関連する保存・活用に関する措置

第4章で示した9つの「萩ものがたり」については、本市の歴史文化を理解し、文化財をより幅広く親しむ上で、関連文化財の保存・活用を積極的に推進していくために、まちづくりや教育、観光をはじめとした様々な分野で用いられることを想定しています。そこで、それぞれの「萩ものがたり」の課題を整理した上で、「行動目標」を定め、これを踏まえた「保存・活用に関する措置」について、特に関係の深い事項について、具体的な内容を記載します。

なお、下表の措置の項目の（ ）は、前表の該当する措置の項目を示しています。

A 近世城下町のすべてがここにある ―萩城下町絵図がそのまま使える町―

課題

- ・萩観光の中心地として、文化財が現地でありのまま、健全に維持管理されている環境を維持することが求められる
- ・萩市の中心市街地を含むエリアで、火災等の防災対策が必要である
- ・旧城下町エリアに散在する文化財を分かりやすく周遊できるゲートウェイ機能強化と観光コース（トレイル）の魅力向上が必要である
- ・市民や来訪者等が文化財に触れる機会が少ない
- ・認知向上のため、教育コンテンツや観光プログラムの構築が必要である
- ・城下町文化などを目指して来るインバウンド対策が不十分で、解説の多言語対応が必要である

- ・文化財所有者と文化財を活かせる団体や事業者との連携の仕組みづくりが急がれる
- ・ガイドの高齢化に伴う活動の縮小や停滞により、来訪者へのおもてなしの向上が困難になっている
- ・子どもたちが体験を通じて地域の文化財を学ぶ機会が求められている

行動目標

- ・萩城下町を総括的に把握する調査・研究により関連文化財群の価値と魅力を発見する
- ・萩城下町の魅力を伝える文化財の適切な保存・整備と維持管理を図る
- ・火災や自然災害に弱い文化財の防災を強化する
- ・萩まちじゅう博物館の中核施設（萩・明倫学舎、萩博物館）を中心に、文化財を現地でありのまま展示・解説する
- ・祭礼やイベントなどで市民が文化財に親しむ機会を増やす
- ・萩観光と連携した市民と来訪者が文化財を通じて交流する場をつくる
- ・萩観光の中心地として、新しい時代の萩の文化観光を確立し、展開する
- ・文化財を通じて多様な関係人口の創出を図る
- ・萩の文化財の多様な価値と魅力を見える化する
- ・萩城下町に点在する古民家再生などを基軸に、文化財による社会と経済の地域内循環を生み出す
- ・文化財の価値を理解し、魅力を伝えることができる人材を育成する
- ・松陰先生の言葉の朗唱や伝統芸能への参加などにより、子どもたちがふるさとを自分の言葉で語るようにする

措置

（数字の見方…前述の表の 基本方針-行動目標-措置、以下同じ。）

具体的な措置		取組主体						実施期間			
		所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期	次期
A-1	文化財の調査・研究（1-①-1(再)） ・各時代の萩城下町絵図の調査研究を進め、萩城下町の変遷を体系的に把握する				◎			◎			
					(ま・博)、団体等						
A-2	市民・学校等による文化財の発見・学習（1-①-3(再)） ・NPO萩まちじゅう博物館の各班による活動を通じて萩城下町の魅力を再発見する				◎						
					団体等						
A-3	個々の文化財の文化財保存活用計画の作成・見直し（1-①-5(再)） ・堀内・平安古・浜崎伝建地区の見直しを行い、新たな保存活用計画の作成を行う				◎		◎	◎			
					(文)、専門家等、団体等						
A-4	文化財の日常的なモニタリングとメンテナンス（1-②-6(再)） ・菊ヶ浜を日本一美しくする会や堀内町内会などが実施する萩城下町に関連する清掃活動を応援する		◎		◎						
					市民、団体等						
A-5	文化財に対する防災意識の向上（1-②-9(再)） ・住吉祭りと水害の関係についての歴史や行事について知る機会を設ける				◎			◎			
					(文・博)、団体等						
A	萩まちじゅう博物館の中核（コア）施設の充実（1-③-14(再)）							◎			

-6	・萩・明倫学舎での萩城下町等に関するインフォメーション機能の強化する	(明・博)			
A -7	萩まちじゅう博物館の地域（サテライト）施設の充実（1-③-15(再)） ・浜崎町並み交流館（旧山村家・旧山中家・旧小池家土蔵）の港町に関する情報発信を進める	◎	◎		
A -8	市民等による文化財の解説・情報提供とおもてなし（1-③-17(再)） ・NPO萩まちじゅう博物館、浜崎しっちゃん会が実施する「古地図を片手にぶらり萩あるき」の活動を支援する	◎	◎		
A -9	萩市景観計画等による景観の保全とコントロール（1-③-18(再)） ・萩城下町を構成する景観重要建造物、歴史的風致形成建造物等の修復を推進する	◎	◎		
A -10	文化財を活用したコミュニティ活動の創出と推進（2-①-19(再)） ・住吉祭り、金谷祭りをはじめとする各地の祭礼を知って、参加する機会を創出する	◎	◎	◎	
A -11	文化財に関連するシンポジウムや展示、イベントの開催（2-①-20(再)） ・令和8年に堀内・平安古伝建地区選定50周年の記念行事を検討する	◎	◎		
A -12	文化財を使いこなす、住みこなす新たな取り組み（2-①-21(再)） ・萩城下町に関わる重要文化財等の管理や活用の新しい手法を検討する	◎	◎	◎	
A -13	文化財の新たな活用とそのルールづくり（2-②-23(再)） ・市民の日常的な交流や買い物、飲食の場として、萩城下町の文化財の活用を促進する	◎	◎	◎	
A -14	まち歩きやオンラインツアーなど地域を周遊する機会の提供（2-②-24(再)） ・萩城下町で展開されるツアー等の一元的な情報発信を進める	◎	◎		
A -15	萩の文化財を通じた萩暮らしの応援による移住・定住・交流の促進（2-③-26(再)） ・浜崎伝建地区内のお試し暮らし住宅「#梅ちゃんち」（梅屋七兵衛旧宅）の利用を促進する		◎		
A -16	文化観光のコンテンツづくりとその磨き上げ（3-①-29(再)） ・NPO萩まちじゅう博物館、浜崎しっちゃん会が実施する「古地図を片手にぶらり萩あるき」を対外的にPRする	◎	◎		
A -17	文化財の価値と魅力の新しい手法による情報発信と活用（3-②-30(再)） ・「近世城下町のすべてがここにある ―萩城下町絵図がそのまま使える町―」のストーリーの応用を進め、多言語対応による情報発信を図る	◎	◎		
A -18	地域産業振興構想と連携した文化財の持続的な保存と活用の循環の仕組みづくり（3-③-34(再)） ・浜崎伝建地区等を対象とした文化庁「文化芸術団体の自律的・持続的運営促進事業」の取り組みに参画する	◎	◎		
A	ガイド等による文化財の解説とおもてなしの実践（4-①-35(再)）	◎	◎		

19	・NPO萩観光ガイド協会による萩城下町の各文化財施設や周遊ガイドの活動を推進する ・浜崎しつちよる会による施設や町並みガイドの活動を推進する	団体等、(文)								
A-20	文化財を語ることができる市民や事業者の活躍(4-①-36(再)) ・萩城下町を対象に郷土の身近な文化財の価値を理解し、守り、発信する教育プログラムを構築し、実践する	◎					◎			
A-21	地域伝統行事、各種ボランティアへの子供たちの参画(4-②-38(再)) ・住吉祭りや金谷祭りなど地域を代表する伝統行事・祭礼について子どもたちが参加しやすい環境・体制を整える	◎			◎		◎			
A-22	地域の文化財を題材とした探究学習やふるさと学習の推進(4-②-39(再)) ・萩城下町を対象に郷土の身近な文化財の価値を理解し、守り、発信する教育プログラムを構築し、実践する。	◎					◎			

※(再)は第7章の措置の再掲を意味します(以下同じ)。

B 日本の工業化はここからはじまった ―工業化初期の遺産群とその原風景―

課題

- ・世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産が適切に維持管理される必要がある
- ・世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の保存修理・整備が急がれる
- ・5つの構成資産について、来訪者に文化財の価値を深く理解し、その魅力を向上させる必要がある。また、市民には、それを再発見・再認識する機会が必要である
- ・5つの構成資産のガイド人材の後継者を育てる必要がある
- ・関連する5つの構成資産が地域の子供たちの誇りとして語れるようになってほしい

行動目標

- ・世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の適切な保存修理・整備と維持管理を図る
- ・市民や来訪者が5つの構成資産に親しむための機会を提供する
- ・世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の価値を理解し、魅力を伝えることができるガイド人材を育成する
- ・世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の5つの構成資産を活かした萩ならではの探究活動やふるさと学習を促進する

措置

具体的な措置	取組主体							実施期間		
	所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期	次期
B 個々の文化財保存活用計画の作成・見直し(1-①-5(再))	◎						◎			

-1	・各構成資産の保存修理・整備の進捗に応じて、文化財保存活用計画の修正を行う	(文)、所有者等			
B -2	文化財の日常的なモニタリングとメンテナンス (1-②-6(再)) ・各構成資産のモニタリングを実施し、萩地区管理保全協議会に報告する ・世界文化遺産活用推進協議会を中心に構成資産の清掃活動を定期的実施する	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ (文)、所有者等 団体等、市民、事業者			
B -3	反射炉保存修理事業(1-②-7(再)) ・計画的に保存修理を行い、資産の適切な保存を図る	◎ (文)			
	恵美須ヶ鼻造船所跡整備事業(1-②-7(再)) ・計画的に整備を行い、資産の理解増進を図る	◎ (文)			
	大板山たたら製鉄遺跡整備事業(1-②-7(再)) ・計画的に整備を行い、資産の理解増進を図る	◎ (文)			
	松山村塾保存修理事業(1-②-7(再)) ・計画的に資産の保存と整備を行い、理解増進のための整備を行う	◎ 所有者等			
	萩城跡保存整備事業(石垣修理)(1-②-7(再)) ・事業により修復を行うことで、資産の適切な保存を図る	◎ (文)			
	指定等文化財保存修理事業(1-②-7(再)) ・構成資産「萩城下町」の一部である史跡萩城城下町の文化財を保存するため、保存修理等を計画的に行う	◎ ◎ 所有者等、(文)			
	伝統的建造物群保存地区保存修理事業(1-②-7(再)) ・構成資産「萩城下町」の一部である堀内伝建地区の伝統的建造物の修理を計画的に行う	◎ ◎ 所有者等、(文)			
B -4	文化財に対する防災意識の向上(1-②-10(再)) ・災害時の避難誘導や防火訓練など定期的に把握に努める	◎ 所有者等			
B -5	萩まちじゅう博物館の中核(コア)施設の充実(1-③-14(再)) ・萩・明倫学舎内世界遺産ビジターセンター萩博物館常設展示室において、展示や映像資料等の更新を行い、来訪者の理解増進に努める	◎ ◎ (明・博・文)、団体等			
B -6	萩まちじゅう博物館の地域(サテライト)施設の充実(1-③-15(再)) ・各地域施設において説明板や映像資料等の更新により構成資産のガイダンス施設の充実を図る	◎ ◎ ◎ (文)、所有者等、団体等			
B -7	萩市景観計画等による景観の保全とコントロール(1-③-18(再)) ・萩城下町を構成する景観重要建造物、歴史的風致形成建造物等の修復を推進する	◎ ◎ (ま・都)、所有者等			
B -8	文化財を活用したコミュニティ活動の創出と推進(2-①-19(再)) ・令和7年に世界文化遺産登録10周年の記念イベントを行い、資産の理解増進に努める	◎ ◎ ◎ 所有者等、団体等、(ま・文)			
B -9	文化財に関連するシンポジウムや展示、イベントの開催(2-①-20(再)) ・令和7年に世界文化遺産登録10周年の記念シンポジウムを実施する	◎ ◎ (文)、団体等			
B -	まち歩きやオンラインツアーなど地域を周遊する機会の提供(2-②-24(再))	◎ ◎			

10	・構成資産の周遊促進のための手法を検討し実施する	(文・観)、団体等								
B-11	文化財を語ることができる市民や事業者の活躍 (4-①-36(再)) ・市民や事業者が構成資産の価値を伝えられるよう、定期的なセミナーやおもてなし研修を開催する	(文)、団体等			◎			◎		
B-12	地域の文化財を題材とした探究学習やふるさと学習の推進(4-②-39(再)) ・高校の探究活動等と連携し構成資産の周遊促進プログラムを開発し、実践する	(文・ま・ジ、教)、学校		◎				◎		

C マグマ胎動のまち・萩 ―阿武火山群がデザインした大地と人の暮らし―

課題

- ・文化財がありのままで、健全に維持管理される環境が求められる
- ・広範囲かつ山間部や沿岸部に文化財が点在することから、これらを巡るための情報発信や誘導サインが少ない
- ・萩ジオパークの認知向上のため、体験を含めた教育コンテンツや観光プログラムの構築が必要である

行動目標

- ・萩の大地と人のつながりを総括的に把握する調査・研究により萩ものがたりのストーリーの価値と魅力を再発見する
- ・大地と人のつながりを伝える地質遺産関連の文化財を現地で良好なかたちで保存・展示する
- ・様々な機会を通じて市民が萩ジオパークに親しむ機会を増やす
- ・萩の大地や島々の特性と産業や食文化の繋がりを見える化する
- ・学校等と連携して、市民や子どもたちにその価値を伝えるプログラムを提供する

措置

具体的な措置		取組主体						実施期間		
		所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期
C-1	市民・学校等による文化財の発見・学習(1-①-3(再)) ・大地と人のつながりについて、市民や学校等に伝えるプログラムを実施する				◎			◎		
					(ジ)、団体等					
C-2	文化財の日常的なモニタリングとメンテナンス(1-②-6(再)) ・地域団体や事業者等と連携したジオサイト等のモニタリングの仕組みをつくる	◎	◎		◎			◎		
		(文・ジ)、市民、団体等、事業者								
C-3	文化財に対する防災意識の向上(1-②-10(再)) ・文化財を通じて大地の特徴を理解し、自然災害に備える講習やワークショップを実施する							◎		
					(文・ジ)					
C-4	萩まちじゅう博物館のトレイルの整備と活用(1-③-16(再))							◎		

	・広範囲に点在する文化財等へアクセスするためのサインや理解増進のための解説板の整備を進める	(文・ジ)							
C-5	市民等による文化財の解説・情報提供とおもてなし (1-③-17(再)) ・様々な種類の講座や研修等によりジオガイドを養成する	(ジ)					◎		
C-6	まち歩きやオンラインツアーなど地域を周遊する 機会の提供 (2-②-24(再)) ・現地を歩く体験型観光を取り入れたツアーづくりを進める	(観・ジ)、事業者				◎	◎		
C-7	農林水産物や加工品、地場産品の文化財的価値付け やストーリーづくり (3-②-31(再)) ・文化財と農林水産物や食文化とのつながりを広く伝える商品の開発を行う	団体等、(ま)			◎		◎		
C-8	地域の文化財を題材とした探究学習やふるさと学習の推進 (4-②-39(再)) ・ジオパーク学習を通じて、自分の暮らす地域の大地の特性を理解する	(文・ま・ジ、教)、学校		◎			◎		

D 一楽二萩三唐津と謳われた萩焼とその文化 一毛利御用窯から現代陶芸まで一

課題

- ・世の中に広く知られている一方で、伝統工芸「萩焼」としての文化財的価値づけが十分でない
- ・「買う」だけでなく、知る、巡る、触れる、語らうなどの体験を付加させることが求められている

行動目標

- ・萩焼を総括的に把握する調査・研究により関連文化財群の価値と魅力を発見する
- ・陶芸などの機会を通じて市民が文化財に親しむ機会を増やす
- ・茶会など市民と来訪者が文化財を通じて交流する場をつくる
- ・萩焼と萩の食材・日本酒などをテーマとした新しい文化観光を確立し、展開する

措置

具体的な措置	取組主体							実施期間		
	所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期	次期
D-1 萩の文化財データベースの充実と発見・発見・学習 (1-①-4(再)) ・萩焼に関する文化財データベースの充実と更新を図る							◎			
D-2 来訪者が文化財に触れる体験の機会や場の提供 (2-②-22(再)) ・窯の火入れ見学会や陶芸家との交流体験などを実施する	◎			◎			◎			
D-3 文化財の新たな活用とそのルールづくり (2-②-23(再))				◎			◎			

	・萩焼を題材としたユニークベニューを検討・開発する	(文、商)、団体等							
D -4	文化観光のコンテンツづくりとその磨き上げ (3-①-29(再)) ・萩焼と萩の食材・日本酒などを題材とした文化観光コンテンツの開発とブラッシュアップを行う						◎		
		(ま・文)							
D -5	農林水産物や加工品、地場産品の文化財的価値付け やストーリーづくり(3-②-31(再)) ・萩焼と関連したストーリーづくりにより、文化財的価値づけを高め、ブランド力の向上を支援する						◎		
		(ま・文)							

E すべての道は萩城下に通ず 一萩往還・石州街道・赤間関街道のネットワーク

課題

- ・それぞれの街道について『歴史の道調査報告書』以降の各街道に関する調査・研究が必要である
- ・徒歩見学者の安全確保やルート案内表示の整備や更新が必要である
- ・街道沿いの文化財が現地でありのまま、健全に維持管理される環境が求められる
- ・街道で繋がる関係機関や団体等と連携して情報発信を図る必要がある
- ・来訪者や移住者が地域の文化財に触れる機会が少ない

行動目標

- ・団体等と連携した街道に関連する調査・研究により文化財の価値と魅力を発見する
- ・市民や来訪者が街道を通じて文化財のモニタリングやメンテナンスに関わる仕組みを検討する
- ・街道や宿場町の関連文化財群の適切な保存と環境整備を図る
- ・街道の往来により沿道の文化財の理解が進むよう、適切な誘導ルートや案内表示を設置・更新を進める
- ・文化財の魅力を活かした移住・定住促進を推進する

措置

具体的な措置		取組主体						実施期間			
		所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期	次期
E-1	文化財の調査・研究（1-①-1(再)） ・『歴史の道調査報告書』をはじめとする既往研究を踏まえ、継続的な旧街道の調査・研究を推進する				◎			◎			
		(文・ま・博) 団体等									
E-2	文化財の日常的なモニタリングとメンテナンス（1-②-6(再)） ・ウォーキングやトレッキング等を絡めた街道沿いの文化財のモニタリングやメンテナンスの仕組みを検討する		◎		◎			◎			
		市民、団体等、（文・ま）									
E-3	伝統的建造物群保存地区保存修理事業（1-②-7(再)） ・佐々並市伝建地区の修理・修景を行い、宿場町の町並み保存とまちづくりを推進する	◎			◎			◎			
		所有者等、（文）、団体等									
E	萩市地域防災計画等と連携した文化財の危機管理				◎			◎			

-4	(1-②-8(再)) ・街道沿いの萩市土砂災害ハザードマップを活用し、利用者の防災安全対策を検討する	(文)、団体等							
E -5	指定等文化財の防災施設整備 (1-②-9(再)) ・茅葺屋根の復原などを見据えて、佐々並市伝建地区防災計画を策定し、必要な防災設備の整備を行う	(文)、団体等			◎			◎	
E -6	萩まちじゅう博物館のトレイルの整備と活用 (1-③-16(再)) ・街道を活用したウォーキングやトレッキングにおいて、適切な情報が提供できるよう老朽化したサイン看板の更新や、マップの更新を図る	(文・ま)、団体等			◎			◎	
E -7	萩の文化財を通じた萩暮らしの応援による移住・定住・交流の促進 (2-①-26(再)) ・明木の萩往還おもてなし茶屋や佐々並地区交流促進施設「みなくる」を核とした、移住・定住促進の活動を支援する	団体等、(文・お)			◎			◎	

F 千年を超えて続く阿武 ―萩藩成立以前の萩の世界―

課題

- ・文化財が地域でありのまま、健全に維持管理される環境が求められる
- ・崩壊が懸念される古墳等の適切な保存に向けた調査や修理を検討する必要がある
- ・これまで近世の歴史文化に関心が集まり、古代・中世の歴史文化についての調査・研究が比較的進んでいない
- ・近世以前の歴史文化や地域の文化財について、市民や来訪者が知る・学ぶ機会が少ない

行動目標

- ・地域に点在する指定・未指定の文化財について、適切な保存・整備と維持管理を図る
- ・文化財の適切な調査・研究や保存・整備を図るための人材を確保する
- ・萩ものがたりのストーリーの価値と魅力を発信する
- ・地域の文化財を現地にありのまま展示・解説する市民らのコミュニティ活動を推進する
- ・公民館等と連携して市民が文化財に親しむ機会を増やすため、団体等と連携したまち歩きイベント開催を検討する
- ・公民館や小中学校と連携して、子どもたちのふるさと学習を推進する

措置

具体的な措置		取組主体						実施期間		
		所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期
F -1	指定等文化財保存修理事業 (1-②-7(再)) ・古墳や仏像など地域に所在する指定等文化財について、保存整備を検討する	◎						◎		
F -2	官民の専門職員・技術者・技能者の確保と養成 (1-②-13(再))							◎		

	・近世以前の文化財の保存・活用に関わる専門人材を確保し、専門機関との連携により、調査・研究を進める	(文)							
F-3	市民等による文化財の解説・情報提供とおもてなし (1-③-17(再)) ・当該萩ものがたり(関連文化財群)のストーリーをテーマとした地域住民向け研修会を実施する	◎					◎		
		(文)、団体等							
F-4	文化財を活用したコミュニティ活動の創出と推進 (2-①-19(再)) ・おたからマップ等を活用し、地域の寺社や古墳、遺跡等をテーマとした、地域団体等によるまち歩きイベントを開催する	◎					◎		
		団体等、(ま・文)							
F-5	文化財を語ることができる市民や事業者の活躍 (4-①-36(再)) ・公民館等と連携した研修会の開催や公民館だよりを活用し、市民が自ら文化財を語ることを目指す	◎					◎		
		(文)、団体等							
F-6	地域の文化財を題材とした探究学習やふるさと学習の推進(4-②-39(再)) ・合併前の市町村史や萩おたからデータベースなどを活用し、古代・中世からの地域の歴史を知るふるさと学習を推進する	◎					◎		
		(文・ま・ジ、教)、学校							

G 土堀と夏みかんの町・萩のなぞを解くー近代を乗り越えた萩城下町ー

課題

- ・市民に親しまれてきた夏みかんが忘れられつつある
- ・萩の風物詩として語られる土堀と夏みかんの良好な景観が失われつつある
- ・萩の夏みかんが持つストーリーをもっと市民や来訪者に伝えていく必要がある
- ・夏みかんをテーマとした歴史文化が観光や産業などに活かしきれていない
- ・夏みかんを萩ブランドとして再生することが求められている

行動目標

- ・夏みかんを切り口とした教育プログラムを開発する
- ・「土堀と夏みかん」の修景を推進する
- ・様々な機会を通じて、市民や来訪者に萩の夏みかんのストーリーを情報発信する
- ・夏みかんを萩ブランドとして再生させるため、食や観光のコンテンツを開発する

措置

具体的な措置	取組主体							実施期間		
	所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期	次期
G-1	市民・学校等による文化財の発見・学習(1-①-3(再)) ・夏みかんのストーリーを活かした郷土の学習プログラムを団体等と構築し、学校教育等に活かす			◎						
				団体等						
G-2	伝統的建造物群保存地区保存修理事業 (1-②-7(再))	◎					◎			

	・堀内地区・平安古地区の伝統的建造物群の土塀や石垣の保存修理と夏みかん植栽による景観維持と回復に努める	所有者等、(文)								
G-3	萩まちじゅう博物館の中核（コア）施設の充実（1-③-14(再)） ・萩博物館の常設展示、企画展示において夏みかんのストーリーを伝える展示を持続的に開催する						◎			
G-4	萩市景観計画等による景観の保全とコントロール（1-③-18(再)） ・夏みかんがまちの景観の中で見られるよう、まちなかへの夏みかんの植樹等を推進する	◎						◎		
G-5	文化観光のコンテンツづくりとその磨き上げ（3-①-29(再)） ・夏みかんと食をテーマとした文化観光の体験コンテンツを開発する				◎			◎		
G-6	農林水産物や加工品、地場産品の文化財的価値付けやストーリーづくり（3-②-31(再)） ・夏みかんと萩ブランドとして再生するため、文化財的価値を再評価し、新たな産品開発を推進する				◎			◎		

H 萩のひとづくりが近代日本を動かした一萩藩校明倫館から松下村塾まで―

課題

- ・萩の偉人に関する各家に伝わる資料の滅失や未指定の旧宅、史跡の荒廃が懸念される
- ・幕末維新や近代日本と萩に関する文化財の価値と魅力を十分に活かしきれていない
- ・萩に生まれた子どもたちの教育や人材育成に、萩の偉人や幕末維新等のストーリーが活用されることが求められている

行動目標

- ・萩の偉人の旧宅や史跡に関する文化財の適切な保存・整備と維持管理を図る
- ・幕末維新や近代日本と萩に関する教育プログラムの開発と充実を図る
- ・萩の人物に関する展示を展開する萩博物館と萩・明倫学舎のビジターセンター機能の充実を図る
- ・文化財所有者や関係団体等と連携した、萩ものがたりを巡る仕組みを構築する
- ・教育委員会や学校等が勧める志教育に萩ものがたりのストーリーを取り入れる

措置

具体的な措置		取組主体						実施期間			
		所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期	次期
H-1	文化財の収集・保管（1-①-2(再)） ・各家や地域に伝わる萩の人物に関する資料のうち、滅失の恐れがあるものを収集し、萩博物館や須佐・阿武川歴史民俗資料館などで適切に保管する				◎		◎	◎			
H-2	市民・学校等による文化財の発見・学習（1-①-3(再)）				◎						

	・萩と幕末維新のストーリーを活かした学習プログラムをNPOや団体等と構築し、学校教育等に活かす	団体等								
H-3	萩まちじゅう博物館の中核（コア）施設の充実（1-③-14（再）） ・萩博物館での幕末維新に関する常設展示や企画展示、萩・明倫学舎での藩校明倫館に関する展示や解説の機能を強化する			◎			◎			
		（博・明・文）、団体等								
H-4	文化観光のコンテンツづくりとその磨き上げ（3-①-29（再）） ・文化財を舞台に、幕末維新や日本の近代化と萩のストーリーを体験・交流できる教育観光コンテンツを展開する				◎		◎			
		（観・博・文）、事業者								
H-5	萩市ひとづくり構想と連携した文化財と積極的に関わる子どもの育成（4-①-37（再）） ・松陰先生の言葉の朗唱をはじめ、子どもたちの育成に萩の人物のストーリーをいかす		◎				◎			
		（教）、学校								
H-6	地域の文化財を題材とした探究学習やふるさと学習の推進（4-②-39（再）） ・子どもたちのふるさと学習等として、幕末維新や日本の近代化と萩に関する題材を提供する		◎				◎			
		（文・ま・ジ、教）、学校								

I 日本海に広がるもうひとつの萩—海路で繋がる七浦七島・須佐・江崎—

課題

- ・漁業や水産加工業等の産業と文化財とのつながり（ストーリー）を伝える必要がある
- ・エリアが広域で、長い沿岸や漁村、島を繋ぐ魅力的な周遊ルートの検討が必要
- ・これまで海産物や水産加工品の価値説明やPRに文化財の価値や魅力が活かされていない
- ・広域にわたる関連文化財群の繋がりが伝わるストーリーや観光コース設定が必要である

行動目標

- ・海や島に関わるコミュニティ活動を推進し、文化財のより良い保存につなげる
- ・萩ものがたりのストーリーを活かし、市民が海や島に関わる文化財に親しむ機会を増やす
- ・海からみた萩をテーマとした広域の文化観光を展開する
- ・海や島に関わる文化財の価値と魅力を、漁業や水産加工のブランド化繋げていく
- ・子どもたちが海や島に関わる文化財を知り・伝え・守ることができるようにする

措置

具体的な措置	取組主体							実施期間		
	所有者等	市民	学校	団体等	事業者	専門家等	行政	前期	後期	次期
I-1 萩まちじゅう博物館のトレイルの整備と活用（1-①-1（再）） ・海から見た萩のストーリーを活かし、地域を繋げる周遊トレイルを開発する				◎			◎			
	（ま・文）団体等									

I -2	文化財を活用したコミュニティ活動の創出と推進 (2-①-19(再)) ・島や漁村にまつわる地域の祭礼について知り、様々な人が関わる機会を創出する	◎						◎			
I -3	萩の歴史文化や文化財をテーマとした研究・研修 の場の確立(2-③-27(再)) ・農泊や外部からの研修に当該ストーリーの魅力を付加 したプログラム開発し展開する				◎	◎		◎			
I -4	萩版DMOを舵取り役とした滞在・周遊観光の仕組み づくり(3-①-28(再)) ・日本海で繋がる下関、長門から益田にかけての海をテ ーマとした広域観光連携を進める					◎		◎			
I -5	文化観光のコンテンツづくりとその磨き上げ (3-①-29(再)) ・郷土料理や海産物など、萩ならではの「食」をテーマ とした文化観光の体験コンテンツを開発する				◎			◎			
I -6	農林水産物や加工品、地場産品の文化財的価値付 けやストーリーづくり(3-②-31(再)) ・海産物や水産加工品が持つ文化財的な価値や魅力を用 いたブランド化や商品展開を図る					◎		◎			
I -7	地域の文化財を題材とした探究学習やふるさと学 習の推進(4-②-39(再)) ・子どもたち自らが郷土の身近な文化財の価値を理解す るために、当該ストーリーを取り入れた教育プログラ ムを構築し、実践する		◎					◎			

第8章 保存・活用の推進体制

1 計画の推進体制

本計画の推進体制は、萩まちじゅう博物館構想のもと、萩の文化財（おたから）を所有者や行政だけではなく、公民連携のパートナーシップにより、社会総がかりで保存・活用するかたちを目指します。

（１）文化財所有者、管理者・管理団体

文化財にもっとも身近な存在である文化財所有者等は、文化財の日常的な管理を行い、これらが破損、滅失しないよう保存に努めるとともに、これらの公開等の活用を通じて、保存に繋げていくことが求められます。

近年は、社会状況の変化などにより、文化財所有者等だけで文化財の保存と活用を進めることが難しくなっている場合もあり、文化財の保存と活用を適切かつ持続的に実施していくために、下記の関係者と綿密に連携していくことが大切です。

（２）萩の市民、地域の住民、学校、事業者、関係団体

文化財を取り巻く環境に居住・活動する萩の市民等は、それぞれの立場から文化財に関わり、文化財所有者等と連携しながら、地域の文化財の保存や活用に取り組むことが求められます。また、小中高校等の学校教育においては、近年は地域学習が重要視されており、この対象として地域の文化財が果たす役割はますます大きくなっています。

さらに、文化財保護法に基づき本市教育委員会が指定する文化財保存活用支援団体は、文化財の保存と活用に特化して、これらの保存と活用を実践することが期待されます。

これを実践していくためには、それぞれの立場から地域学習、学校教育、地域のまちづくり、観光・交流、地場産業や各種事業と結び付け、我がごととして継続的に取り組むことが大切です。

▽表 文化財の保存・活用に関わる主な市民団体

団体名称	概要
特定非営利活動法人 萩観光ガイド協会	文化財施設ガイドと管理、周遊観光ガイド
特定非営利活動法人 萩まちじゅう博物館	各萩まちじゅう博物館推進事業、萩博物館の施設管理及びガイド、まち歩きガイド、学芸サポート
特定非営利活動法人 萩・明倫学舎	萩・明倫学舎の管理運営主体、萩藩校明倫館遺構及び旧明倫小学校校舎の公開活用、各種イベントの開催
史都萩を愛する会	郷土史研究、会報誌「史都・萩」の刊行
堀内町内会 伝建地区委員会	堀内伝建地区の保存・活用、観光交流イベント「城下町萩・堀内散策」の開催
平安古町内会	平安古伝建地区の保存・活用、平安古かいまがり交流館の施設管理及び案内

浜崎しっちゃん会	浜崎伝建地区の保存・活用、拠点交流施設管理、史跡御船倉の管理活用、「浜崎伝建おたから博物館」等のイベント開催
萩往還佐々並どうしんてやろう会	佐々並市伝建地区の保存・活用、まち歩きガイド、拠点施設管理、各種イベントの開催
住吉神社御船謡保存会	住吉神社「お船謡」の保存継承活動
上野神楽舞保存会	上野神楽舞の保存継承活動
大井市場信友会	市場神楽の保存継承活動
香川津神楽舞	香川津神楽舞の保存継承活動
越ヶ浜郷土芸能保存会	「巫女の舞」の保存継承活動
木間神代の舞保存会	木間「神代の舞」の保存継承活動
玉江浦天狗拍子保存会	玉江浦「天狗拍子」の保存継承活動
山田神楽舞保存会	山田神楽舞の保存継承活動
上野山芸能保存会	福栄地域上野山の京場神楽の保存継承活動
平原神楽舞芸能保存会	平原神楽舞の保存継承活動
大板山たたら太鼓同好会	太鼓演奏による大板山たたら製鉄遺跡の普及啓発活動
福栄文化遺産活用保存会	大板山たたら製鉄遺跡の管理保全、ガイド活動
むつみ神楽保存会	むつみ神楽の保存継承活動
野田の柱松保存会	野田の柱松の保存継承活動
上三原の田植ばやし保存会	上三原の田植ばやしの保存継承活動、郷土教育普及
長門神式座	大江後神楽舞の保存継承活動
友信神楽保存会	友信神楽舞の保存継承活動
長州神楽田原保存会	須佐弥富地区の神楽保存継承活動
矢代神楽舞保存会	矢代神楽舞の保存継承活動
見島牛保存会	天然記念物「見島ウシ」の保護・増頭活動
重要文化財大照院保存会	重文「大照院」の保存修理に関する支援
松陰先生の墓を守る会	史跡「吉田松陰の墓ならびに墓所」の保全管理
彦六・又十郎の会	明木の民話「彦六・又十郎」の普及啓発活動
幕末長州科学技術史研究会	萩の幕末科学技術に関する研究と普及啓発活動
特定非営利活動法人 全国晋作会連合会	高杉晋作研究と関連文化財の保存・活用
特定非営利活動法人 萩元気食の会	萩の郷土料理研究や食育、観光資源となる食文化の研究・開発・普及啓発活動
特定非営利活動法人 萩城郭保存会	史跡「萩城跡」を核とした保全・美化活動

▽表 文化財の保存・活用にに関する委員会等

名称	内容
萩市世界遺産活用推進協議会	「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の萩の5つの構成資産（萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾）の活用及び理解増進を図る
萩地区管理保全協議会	「明治日本の産業革命遺産における管理保全の一般方針及び戦略的枠組みについて」に基づき、萩の5つの構成資産が、関係者の連携の下で的確に管理保全されるための意思決定等を行う
萩ユネスコ協会	ユネスコに関する一般啓発普及と社会教育及び文化の向上と進展のための各種活動事業等
萩市文化協会	広く文化の創造と振興に努め、萩市の文化向上に寄与することを目的とし、各種文化活動の振興と奨励を図る
萩市文化遺産活用実行委員会	萩市民が未来の市民に伝えたい文化遺産を普及するとともに、萩まちじゅう博物館を基軸としたまちづくりを行う
萩市ワンコイントラスト委員会	萩市とNPO萩まちじゅう博物館が協働し、萩市固有の都市遺産の保存について、ワンコイントラスト（100円信託）により、歴史的環境及び自然環境の保存、修復、活用等を行う
萩検定実行委員会	萩市の自然、文化、歴史を広く周知するとともに、全国の萩ファンを増やすことを目的とした萩検定を実施

（３） 専門家、専門機関

文化財の保存と活用について専門的な知識や技術を持つ専門家等は、広い知見と視野に立って文化財の価値や魅力について調査・報告するとともに、これらを保存していくために必要となる専門的な意見・指導を行い、適切な活用にもけた提言が求められます。

また、本計画を進めていくにあたって、本市の附属機関である萩市文化財保護審議会に諮問し、意見を聞くことは必須であり、その他、指定文化財等については萩市伝統的建造物群保存地区保存審議会や各種文化財や世界遺産構成資産等の保存整備委員会など、また萩市歴史的風致維持向上計画協議会等の関係する審議会、協議会等にも、その都度、意見を聞き、合意形成を図っていくことが求められます。

そして、長期的には、それぞれの専門的分野から、萩の文化財の体系的な把握や価値づけ、これらを活用した社会的なビジョンの提示などの役割を果たすことが大切になります。

▽表 文化財の保存と活用にに関する審議会、専門委員会等

部	内容
萩市文化財保護審議会	教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する事項について調査・審議する
萩市伝統的建造物群保存地区保存審議会	市長及び教育委員会の諮問に応じ、保存地区の保存等に関する重要事項について調査審議し、及びこれらの事項について市長及び教育委員会に建議する

萩博物館審議会	教育委員会の諮問に応じるとともに、教育委員会に対して意見を陳述する
萩反射炉整備委員会	萩反射炉の修理方針と整備手法の検討及び意思決定を行う
恵美須ヶ鼻造船所跡及び大板山 たたら製鉄遺跡整備委員会	恵美須ヶ鼻造船所跡と大板山たたら製鉄遺跡の保全のあり方と整備活用の具体的方策を協議し、決定する
萩城跡等整備委員会	史跡萩城跡、萩城城下町及びその周辺地域の保存と整備を具体化する
史跡萩藩主毛利家墓所 保存整備委員会	萩藩主毛利家墓所の保全のあり方と整備活用の具体的方策を協議し、決定する

(4) 行政

萩市において本計画の推進を直接に担当するのは、文化財の保存と活用を所管する商工観光部文化財保護課とまちじゅう博物館構想の推進を担う同部まちじゅう博物館推進課です。また、萩博物館は萩まちじゅう博物館構想の中核施設でもあり、萩の文化財に関する資料収集・展示や各種調査研究で大きな役割を果たします。

加えて、文化財及びこれを取り巻く本市の環境を一体的に把握し、保存と活用を進めるため、両課が所属する商工観光部の萩博物館や観光課等の各課、本市全体の施策を統括する総合政策部の各課、地域の一次産業を担う農林水産部の各課、まちづくりや景観計画を担う土木建築部都市政策課、そして地域の教育を担う教育委員会の各課が推進に加わります。

また、本計画を認定した文化庁、山口県文化財保護活用大綱を定めた山口県観光スポーツ文化部文化振興課とは、本計画の進捗はもとより、各種施策や事業において連携して参ります。

▽表 萩市の関連部署と業務内容

部	課	業務内容
商工観光部	文化財保護課	文化財の保存及び整備活用、文化財施設の管理、文化財愛護普及活動。埋蔵文化財、伝統的建造物群保存地区及び歴史的建造物に関する業務 ・職員 8 名（うち埋蔵文化財の専門職員 1 名、建造物の専門職員 1 名）
	まちじゅう博物館推進課	萩まちじゅう博物館の推進、文化財の活用に関する業務 ・職員 4 名
	萩博物館	歴史民俗自然資料の収集・調査・研究・保管・展示、講演会等の開催に関する業務 ・職員 9 名（うち研究員・学芸員 5 名）
	観光課	観光総合計画の立案と推進、観光諸団体との連携、観光施設及び観光資源の管理等、観光客受入環境整備、観光行事の企画及び実施、観光宣伝及び観光客誘致、緑化推進、自然公園の保全、保存樹木の指定及び保全に関する業務
	萩・明倫学舎推進課	萩観光の拠点施設、萩・明倫学舎の企画運営に関すること

	商工振興課	商工鉱業の振興、通信事業及びエネルギー対策、交通政策の企画及び総合調整、雇用問題、萩焼等伝統工芸の振興に関する業務
	企業誘致推進課	企業振興及び企業誘致に関する業務
総合政策部	企画政策課	市の基本的施策、総合戦略や基本構想、基本計画に関すること、また、主要事業の企画及び調整に関する業務
	おいでませ、豊かな暮らし応援課	地域政策調整、離島振興、移住定住対策に関する業務
	ジオパーク推進課	ジオパーク推進に関する業務
	産業戦略室	産業政策の立案及び調整、ブランド製品の再構築及び流通促進、ふるさと納税に関する業務
農林水産部	農政課	農業及び畜産振興、特産品の開発、山村及び中山間地域振興、新規就農及び担い手育成、農業農村の総合整備に関する業務、里山の保全
	水産課	水産業の振興、水産物の加工事業の振興、漁業環境の保全に関する業務
	林政課	森林の経営管理や整備計画、自然保護に関すること
土木建築部	都市政策課	都市計画、景観及び屋外広告物に関する業務
教育委員会	教育政策課	本市の教育政策に関する業務
	学校教育課	小・中学校における郷土教育に関する業務
	文化・生涯学習課	文化の振興、文化団体の育成、生涯学習の推進、社会教育関係団体に関する業務
川上 総合事務所	市民生活部門	地域の文化振興やコミュニティ活動支援、社会教育、地域防災及び交通対策に関する業務
田万川 総合事務所	市民生活部門	地域の文化振興やコミュニティ活動支援、社会教育、地域防災及び交通対策に関する業務
むつみ 総合事務所	市民生活部門	地域の文化振興やコミュニティ活動支援、社会教育、地域防災及び交通対策に関する業務
須佐 総合事務所	市民生活部門	地域の文化振興やコミュニティ活動支援、社会教育、地域防災及び交通対策に関する業務
旭 総合事務所	市民生活部門	地域の文化振興やコミュニティ活動支援、社会教育、地域防災及び交通対策に関する業務
福栄 総合事務所	市民生活部門	地域の文化振興やコミュニティ活動支援、社会教育、地域防災及び交通対策に関する業務



△ 計画の推進体制図

2 計画の管理と評価

本計画の進捗の管理と評価は、萩まちじゅう博物館推進委員会において実施します。この委員会は、萩市長を会長とし、様々な立場から本計画の推進にあたられる方々を委員として構成され、事務局は萩市商工観光部文化財保護課とまちじゅう博物館推進課が担います。

委員会は、毎年度末に定例で開催するとともに、必要に応じて随時開催し、下記の内容について、協議検討します。

- ア. 当該年度の措置の進捗の確認と評価
- イ. 次年度の措置の確認と調整
- ウ. 計画の推進に関すること
- エ. 計画の変更に関すること
- オ. その他計画に関連すること

なお、本計画を推進するにあたって、特定の課題や事業について取り扱う部会を設けることができます。また、計画期間内に計画を変更する必要がある場合は、委員会において協議検討します。

指定文化財一覧

整理 番号	指定 別No.	指定 区分	種別等	名称	指定等年月日 ()追加・変更	所在地	所有者 ()は管理団体
1	1	国 指定	有形文化財 建造物	常念寺表門	昭29.9.17	萩市大字下五間町	宗)常念寺
2	2	国 指定	有形文化財 建造物	旧厚狭毛利家萩屋敷長屋	昭41.6.11	萩市大字堀内	萩市
3	3	国 指定	有形文化財 建造物	東光寺 大雄宝殿・鐘楼・三 門・総門	昭41.6.11	萩市大字椿東	宗)東光寺
4	4	国 指定	有形文化財 建造物	森田家住宅	昭49.2.5	萩市大字黒川	個人
5	5	国 指定	有形文化財 建造物	菊屋家住宅 主屋・本蔵・金 蔵・米蔵・竈場	昭49.5.21	萩市大字呉服町一丁目	公財)菊屋家住宅 保存会
6	6	国 指定	有形文化財 建造物	口羽家住宅 主屋・表門	昭49.5.21	萩市大字堀内	個人
7	7	国 指定	有形文化財 建造物	熊谷家住宅 主屋・離れ座 敷・本蔵・宝蔵	昭49.5.21	萩市大字今魚店町	公財)熊谷美術館
8	8	国 指定	有形文化財 建造物	大照院 本堂・庫裏・書院・ 鐘楼門	平14.5.23	萩市大字椿	宗)大照院
9	1	国 指定	有形文化財 絵画	絹本著色春冬山水図 戴文進筆	昭31.6.28	萩市大字呉服町一丁目	公財)菊屋家住宅 保存会
10	1	国 指定	有形文化財 彫刻	木造赤童子立像	明35.7.31	萩市大字椿	宗)大照院
11	2	国 指定	有形文化財 彫刻	木造聖観音立像	明35.7.31	萩市大字椿	宗)南明寺
12	3	国 指定	有形文化財 彫刻	木造千手観音立像	明35.7.31	萩市大字椿	宗)南明寺
13	1	国 指定	有形文化財 工芸品	太刀 銘延吉	大8.4.12 (昭25.8.29)	萩市大字堀内 萩博物館(寄託) 名称変更	宗)志都岐山神社
14	2	国 指定	有形文化財 工芸品	太刀 銘光房 弘安三年十月日	大15.4.19 (昭25.8.29)	萩市大字堀内 萩博物館(寄託) 名称変更	宗)志都岐山神社
15	1	国 指定	有形文化財 書跡	雪峯東山空和尚外集 (石屏子介手沢本)	昭49.6.8	萩市大字堀内 萩博物館(寄託)	宗)龍蔵寺
16	1	国 指定	有形文化財 歴史資料	日明貿易船旗 万暦十二年 十月吉日(麻布) 高洲家文書	平22.6.29 (平29.9.15)	山口市 山口県文書館(寄託) 追加 文書10通	個人
17	1	国 選択	記録作成等の措置を 講ずべき無形の文化 財として選択された もの	萩焼・三輪邦廣(三輪休和)	昭32.3.30	(昭和45年4月25日重要無形文化 財保持者認定、昭和56年10月24 日死亡)	萩市
18	1	国 指定	有形の 民俗文化財	須佐宝泉寺・黄帝社奉納船 絵馬	平22.3.11	萩市大字堀内 萩博物館(寄託)	宗)宝泉寺
19	1	国 指定	記念物 史跡	松下村塾	大11.10.12	萩市大字椿東	宗)松陰神社
20	2	国 指定	記念物 史跡	吉田松陰幽囚ノ旧宅	大11.10.12	萩市大字椿東	宗)松陰神社
21	3	国 指定	記念物 史跡	萩反射炉	大13.12.9 (昭55.3.22)	萩市大字椿東 地域一部追加	萩市
22	4	国 指定	記念物 史跡	旧萩藩校明倫館	昭4.12.17 (昭24.7.13) (平15.8.27)	萩市大字江向 名称変更、地域一部追加 地域一部追加	萩市
23	5	国 指定	記念物 史跡	伊藤博文旧宅	昭7.3.25	萩市大字椿東	萩市
24	6	国 指定	記念物 史跡	木戸孝允旧宅	昭7.3.25	萩市大字呉服町二丁目	萩市
25	7	国 指定	記念物 史跡	旧萩藩御船倉	昭11.12.16 (昭37.11.10) (平6.8.15)	萩市大字東浜崎町 地域一部解除 地域一部追加	萩市

整理 番号	指定 別No.	指定 区分	種別等	名称	指定等年月日 ()追加・変更	所在地	所有者 ()は管理団体
26	8	国 指定	記念物 史跡	萩城跡	昭26.6.9 (昭42.1.10) (昭52.4.27) (昭61.5.6) (平1.8.14) (平16.2.27) (平18.1.26) (平21.2.12) (平22.2.22)	萩市大字堀内、北片河町、南片河町、平安古町 追加 北の総門通り 追加 二ノ丸一部など 解除 伝建地区選定部分、追加：外濠跡・二ノ丸北面部分・三ノ丸福原家上屋敷跡 追加 外濠跡 追加 中堀南側・北の惣門西側・二の丸以西海岸部 追加 北の惣門南側部分 追加 中の惣門西側 追加 中の惣門西側	萩市外 (萩市)
27	9	国 指定	記念物 史跡	萩城城下町	昭42.1.10 (昭54.3.20) (平21.2.12) (平24.1.24)	萩市大字呉服町一丁目、呉服町二丁目、南古萩町 追加 青木周弼旧宅ほか 地域一部追加 地域一部追加	
28	10	国 指定	記念物 史跡	萩藩主毛利家墓所	昭56.5.11	萩市大字堀内、椿東、椿	個人
29	11	国 指定	記念物 史跡	見島ジーコンボ古墳群	昭59.7.25	萩市見島	萩市・国 (萩市)
30	12	国 指定	記念物 史跡	萩往還	平1.9.22 (平23.2.7)	萩市大字椿、明木、佐々並 追加 唐樋札場跡(大字東田町7番4)	国・山口県外
31	13	国 指定	記念物 史跡	大板山たたら製鉄遺跡	平24.9.19	萩市大字紫福	萩市
32	14	国 指定	記念物 史跡	恵美須ヶ鼻造船所跡	平25.10.17	萩市大字椿東字小畑浦字戎ヶ鼻	萩市・国・山口県 山口県漁協 (萩市)
33	1	国 指定	記念物 名勝	長門峡	大12.3.7	萩市川上字道立山外	萩市外 (山口県)
34	1	国 指定	記念物 名勝及び天然記念物	須佐湾	昭3.3.5	萩市大字須佐	萩市外 (萩市)
35	1	国 指定	記念物 天然記念物	明神池	大13.12.9	萩市大字椿東	萩市
36	2	国 指定	記念物 天然記念物	笠山コウライタチバナ自生地	大15.2.24 (昭28.11.14)	萩市大字椿東 名称変更	越ヶ浜自治会 (萩市)
37	3	国 指定	記念物 天然記念物	見島ウシ産地	昭3.9.20	萩市見島	萩市見島 (萩市)
38	4	国 指定	記念物 天然記念物	見島のカメ生息地	昭3.9.20 (昭31.7.31)	萩市見島 名称変更	萩市見島 (萩市)
39	5	国 指定	記念物 天然記念物	須佐高山の磁石石	昭11.12.16	萩市大字須佐	萩市
40	6	国 指定	記念物 天然記念物	川上のユズおよびナンテン自生地	昭16.8.1	萩市川上字遠谷	福昌院 (萩市)
41	7	国 指定	記念物 天然記念物	指月山	昭46.3.16	萩市大字堀内	萩市
42	1	国 選定	重要伝統的建造物群保存地区	萩市平安古地区	昭51.9.4 (平5.12.8)	萩市大字平安古町、河添 3.9ha 追加 大字河添字河添の一部 0.1ha	
43	2	国 選定	重要伝統的建造物群保存地区	萩市堀内地区	昭51.9.4 (昭53.5.31) (平18.12.19)	萩市大字堀内70.3ha 追加 北の総門通り 77.4ha 変更 約55ha(エリア変更なし)	
44	3	国 選定	重要伝統的建造物群保存地区	萩市浜崎	平13.11.14	萩市大字浜崎町、東浜崎町、浜崎新町、熊谷町	
45	4	国 選定	重要伝統的建造物群保存地区	萩市佐々並市	平23.6.20	萩市佐々並	

整理 番号	指定 別No.	指定 区分	種別等	名称	指定等年月日 ()追加・変更	所在地	所有者 ()は管理団体
46	1	国 登録	有形文化財 建造物	萩駅舎	平8.12.20	萩市大字椿	萩市
47	2	国 登録	有形文化財 建造物	明倫小学校本館	平8.12.20	萩市大字江向	萩市
48	3	国 登録	有形文化財 建造物	むつみ村役場旧庁舎	平9.6.12	萩市大字吉部上	萩市
49	4	国 登録	有形文化財 建造物	むつみ村役場土蔵	平9.6.12	萩市大字吉部上	萩市
50	5	国 登録	有形文化財 建造物	三見橋	平10.10.9	萩市三見	萩市
51	6	国 登録	有形文化財 建造物	鹿背隧道	平11.7.8	萩市大字椿、大字明木	萩市
52	7	国 登録	有形文化財 建造物	落合の石橋	平11.11.18	萩市大字佐々並	萩市
53	8	国 登録	有形文化財 建造物	下横瀬公民館 (旧明木村立図書館)	平11.11.18	萩大字明木	下横瀬地区
54	1	県 指定	有形文化財 建造物	萩学校教員室	昭44.12.5	萩市大字堀内	山口県
55	2	県 指定	有形文化財 建造物	長寿寺十三重塔	昭48.10.19	萩市大字北古萩町	宗)長寿寺
56	3	県 指定	有形文化財 建造物	旧福原家萩屋敷門	昭49.11.8	萩市大字堀内	萩市
57	4	県 指定	有形文化財 建造物	旧梨羽家書院	昭52.11.11	萩市大字堀内	個人
58	5	県 指定	有形文化財 建造物	花月楼	昭54.12.4	萩市大字椿東	宗)松陰神社
59	6	県 指定	有形文化財 建造物	西堂寺六角堂	昭56.12.11	萩市大字江崎	宗)西堂寺
60	1	県 指定	有形文化財 絵画	絹本着色釈迦三尊像	昭53.12.22	山口市春日町 山口県立美術館(寄託)	宗)東光寺
61	1	県 指定	有形文化財 彫刻	木造釈迦如来坐像	昭41.6.10	萩市大字椿	宗)大照院
62	2	県 指定	有形文化財 彫刻	木造毘沙門天立像	昭41.6.10	萩市川上字灰福	宗)玉泉寺
63	3	県 指定	有形文化財 彫刻	木造不動明王立像	昭41.6.10	萩市大字北古萩町	長寿寺
64	4	県 指定	有形文化財 彫刻	木造文殊菩薩騎獅像	昭42.7.4	萩市大字紫福	宗)佛光寺
65	5	県 指定	有形文化財 彫刻	木造義翁和尚倚像	昭53.12.22	萩市大字椿	宗)大照院
66	1	県 指定	有形文化財 書跡	三祖師号	昭48.3.30	萩市大字椿東	宗)東光寺
67	2	県 指定	有形文化財 書跡	木額・柱聯・榜牌・同下書	昭48.3.30	萩市大字椿東	宗)東光寺
68	3	県 指定	有形文化財 書跡	石屏子介禪師墨蹟	昭50.3.22	萩市大字堀内 萩博物館(寄託)	宗)龍蔵寺
69	1	県 指定	有形文化財 考古資料	見島ジーコンボ古墳群出土 品	昭54.3.31 (昭59.4.10)	萩市大字堀内 追加	萩市
70	2	県 指定	有形文化財 考古資料	円光寺古墳出土品	平4.5.29	萩市大字堀内	萩市
71	1	県 指定	有形文化財 歴史資料	吉田松陰関係資料 (松陰神社伝来)	平24.12.7	萩市大字椿東	宗)松陰神社
72	1	県 認定	無形文化財 工芸技術	萩焼	平14.3.26	萩市大字堀内	波多野善蔵

整理 番号	指定 別No.	指定 区分	種別等	名称	指定等年月日 ()追加・変更	所在地	所有者 ()は管理団体
	2	県 認定	無形文化財 工芸技術	萩焼	平18.3.31	萩市大字椿東	岡田 裕
73	1	県 指定	無形の 民俗文化財	住吉神社「お船謡」	昭43.4.5	萩市大字浜崎町	住吉神社 御船謡保存会
74	2	県 指定	無形の 民俗文化財	上三原の田植ばやし	昭48.3.30	萩市大字須佐	上三原の田植ば やし保存会
75	3	県 指定	無形の 民俗文化財	友信神楽舞	平3.4.5	萩市大字中小川	友信神楽保存会
76	1	県 指定	記念物 史跡	萩焼古窯跡群	昭56.12.11	萩市大字椿東	個人
77	2	県 指定	記念物 史跡	須佐唐津古窯跡群	昭59.11.2	萩市大字須佐	萩市 外個人
78	3	県 指定	記念物 史跡	穴観音古墳	昭60.10.29	萩市大字高佐下	宗)禅林寺 外個人
79	4	県 指定	記念物 史跡	奥阿武宰判勘場跡	平15.4.4	萩市大字吉部上	萩市
80	1	県 指定	記念物 天然記念物	河内の大ムク	昭41.6.10	萩市大字椿	個人
81	2	県 指定	記念物 天然記念物	吉部八幡宮のスギ	昭53.12.22	萩市大字吉部上	宗)吉部八幡宮
82	3	県 指定	記念物 天然記念物	三見吉広のバクチノキ	昭55.12.5	萩市三見	個人外
83	3	県 指定	記念物 天然記念物	志都岐山神社のミドリヨシノ	昭56.3.24	萩市大字堀内	宗)志都岐山神社
84	5	県 指定	記念物 天然記念物	田万川の柱状節理と 水中自破碎溶岩	平10.4.14	萩市大字上小川東分	萩市
85	6	県 指定	記念物 天然記念物	辻山のシダレザクラ	平11.4.6	萩市大字高佐上	個人
86	1	市 指定	有形文化財 建造物	旧周布家長屋門	昭37.1.11	萩市大字堀内	萩市
87	2	市 指定	有形文化財 建造物	平安橋	昭37.1.11	萩市大字堀内、平安古町	萩市
88	3	市 指定	有形文化財 建造物	問田益田氏旧宅土塀	昭37.12.24	萩市大字堀内	個人
89	4	市 指定	有形文化財 建造物	旧福原家書院	昭42.12.25	萩市大字堀内	宗)志都岐山神社
90	5	市 指定	有形文化財 建造物	小川家長屋門	昭46.3.26	萩市大字土原	個人
91	6	市 指定	有形文化財 建造物	龍蔵寺観音堂	昭46.3.26	萩市大字椿東	宗)龍蔵寺
92	7	市 指定	有形文化財 建造物	花江茶亭	昭48.2.13	萩市大字堀内	萩市
93	8	市 指定	有形文化財 建造物	明倫館遺構 観徳門	昭48.2.13	萩市大字江向	萩市
94	9	市 指定	有形文化財 建造物	明倫館遺構 聖廟	昭48.2.13	萩市大字北古萩町	宗)海潮寺
95	10	市 指定	有形文化財 建造物	明倫館遺構 南門	昭48.2.13	萩市大字江向	萩市
96	11	市 指定	有形文化財 建造物	明倫館遺構 万歳橋	昭48.2.13	萩市大字堀内	宗)志都岐山神社
97	12	市 指定	有形文化財 建造物	端坊鐘楼	昭49.3.23	萩市大字恵美須町	宗)端坊
98	13	市 指定	有形文化財 建造物	円政寺内金毘羅社社殿 附 石鳥居・山門・石灯籠	昭51.6.10	萩市大字南古萩町	宗)円政寺

整理 番号	指定 別No.	指定 区分	種別等	名称	指定等年月日 ()追加・変更	所在地	所有者 ()は管理団体
99	14	市 指定	有形文化財 建造物	笠松神社石燈籠	昭51.12.16 (昭52.9.30)	萩市大字須佐 追加指定4基	宗)笠松神社
100	15	市 指定	有形文化財 建造物	松崎八幡宮石燈籠	昭51.12.16	萩市大字須佐	宗)松崎八幡宮
101	16	市 指定	有形文化財 建造物	笠松神社鳥居	昭52.9.30	萩市大字須佐	宗)笠松神社
102	17	市 指定	有形文化財 建造物	亨徳寺三門	昭52.10.11	萩市大字北古萩町	宗)亨徳寺
103	18	市 指定	有形文化財 建造物	奥平家長屋門	昭54.2.23	萩市大字土原	個人
104	19	市 指定	有形文化財 建造物	大下阿弥陀堂内厨子	昭55.3.31	萩市大字佐々並	大下地区
105	20	市 指定	有形文化財 建造物	南明寺觀音堂	昭55.9.19	萩市大字椿	宗)南明寺
106	21	市 指定	有形文化財 建造物	玉泉寺毘沙門堂内厨子	昭57.1.28	萩市川上字灰福	宗)玉泉寺
107	22	市 指定	有形文化財 建造物	益田館	昭57.2.26	萩市大字須佐	萩市
108	23	市 指定	有形文化財 建造物	明倫館遺構 聖賢堂	昭58.3.19	萩市大字江向	萩市
109	24	市 指定	有形文化財 建造物	育英館門	昭58.3.29	萩市大字須佐	萩市
110	25	市 指定	有形文化財 建造物	佛光寺楼門	平10.3.12	萩市大字紫福	宗)佛光寺
111	26	市 指定	有形文化財 建造物	旧久保田家住宅	平15.6.27	萩市大字呉服町一丁目	萩市
112	1	市 指定	有形文化財 絵画	紙本墨画出山釈迦図	昭55.12.25	萩市大字須佐	宗)大蘊寺
113	2	市 指定	有形文化財 絵画	長州安武郡江津浦畧圖	昭56.6.15	萩市大字江崎	個人
114	3	市 指定	有形文化財 絵画	絹本着色釈迦涅槃図	昭57.2.26	萩市大字須佐	宗)大蘊寺
115	4	市 指定	有形文化財 絵画	紙本墨画着色人物鶴龍図	平1.1.24	萩市大字須佐	萩市
116	5	市 指定	有形文化財 絵画	絹本着色吉川元春像	平4.5.28	萩市大字須佐 須佐歴史民俗資料館(寄託)	個人
117	6	市 指定	有形文化財 絵画	絹本着色束帯天神像	平4.5.28	萩市大字須佐 須佐歴史民俗資料館(寄託)	個人
118	7	市 指定	有形文化財 絵画	紙本着色足利義昭像	平4.5.28	萩市大字須佐 須佐歴史民俗資料館(寄託)	個人
119	8	市 指定	有形文化財 絵画	紙本着色束帯天神像 (崇竺筆)	平4.5.28	萩市大字須佐 須佐歴史民俗資料館(寄託)	個人
120	9	市 指定	有形文化財 絵画	紙本墨画十六羅漢像	平4.6.1	萩市大字須佐	宗)大蘊寺
121	10	市 指定	有形文化財 絵画	西国三十三観音霊場絵馬 (四番札所、五番札所)	平11.12.17	萩市川上字山田	宗)実相寺
122	11	市 指定	有形文化財 絵画	実相寺天井絵	平11.12.17	萩市川上字山田	宗)実相寺
123	12	市 指定	有形文化財 絵画	発昌寺襖絵	平11.12.17	萩市大字堀内 萩博物館(寄託)	宗)発昌寺(福昌院)
124	13	市 指定	有形文化財 絵画	西国三十三観音霊場絵馬 (十番札所)	平13.8.20	萩市川上字相原	個人
125	1	市 指定	有形文化財 彫刻	木造薬師如来坐像	昭46.3.26	萩市大字椿東	宗)広蔵寺

整理 番号	指定 別No.	指定 区分	種別等	名称	指定等年月日 ()追加・変更	所在地	所有者 ()は管理団体
126	2	市 指定	有形文化財 彫刻	木造隨身倚像	昭48.5.8	萩市大字須佐	宗)松崎八幡宮
127	3	市 指定	有形文化財 彫刻	木造二天立像	昭55.3.31	萩市大字佐々並	大下地区
128	4	市 指定	有形文化財 彫刻	木造毘沙門天立像 脇立吉祥天女像	昭55.12.17	萩市川上字灰福	宗)玉泉寺
129	5	市 指定	有形文化財 彫刻	木造毘沙門天立像 脇立善日童子像	昭55.12.17	萩市川上字灰福	宗)玉泉寺
130	6	市 指定	有形文化財 彫刻	木造釋迦如来坐像	昭56.6.15	萩市大字中小川	小川13区自治会
131	7	市 指定	有形文化財 彫刻	立木薬師如来像	昭60.3.19	萩市大字福井下	宗)願行寺
132	8	市 指定	有形文化財 彫刻	木造阿弥陀如来立像	昭60.3.19	萩市大字福井下	宗)願行寺
133	9	市 指定	有形文化財 彫刻	木造延命地藏菩薩立像	昭60.3.19	萩市大字福井上	宗)宝宗寺
134	10	市 指定	有形文化財 彫刻	木造弘法大師立像	昭60.3.19	萩市大字堀内 萩博物館(寄託)	宗)信盛寺
135	11	市 指定	有形文化財 彫刻	木造金剛力士像	昭60.3.19	萩市大字紫福	宗)佛光寺
136	12	市 指定	有形文化財 彫刻	木造釈迦如来立像	昭60.3.19	萩市大字堀内 萩博物館(寄託)	宗)信盛寺
137	13	市 指定	有形文化財 彫刻	木造如意輪觀世音菩薩坐 像	昭60.3.19	萩市大字福井下	宗)願行寺
138	14	市 指定	有形文化財 彫刻	木造不動明王立像	昭60.3.19	萩市大字福井上	宗)宝宗寺
139	15	市 指定	有形文化財 彫刻	木造扁額「實相山」	昭60.3.19	萩市大字紫福	宗)信盛寺
140	16	市 指定	有形文化財 彫刻	木造聖觀世音菩薩立像	平6.3.14	萩市大字福井下	門前地区
141	17	市 指定	有形文化財 彫刻	木造阿弥陀如来立像	平12.3.8	萩市大字堀内 萩博物館(寄託)	宗)信盛寺
142	1	市 指定	有形文化財 工芸品	大蘊寺梵鐘	昭47.4.27	萩市大字須佐	宗)大蘊寺
143	2	市 指定	有形文化財 工芸品	讃岐坊梵鐘	昭48.2.13	萩市見島	宗)讃岐坊
144	3	市 指定	有形文化財 工芸品	見島八幡宮鰐口	昭48.2.13	萩市見島	宗)見島神社
145	4	市 指定	有形文化財 工芸品	太刀 銘長州住人藤原口重・ 寛永二十一年甲申八月口日	昭48.5.8	萩市大字須佐	宗)松崎八幡宮
146	5	市 指定	有形文化財 工芸品	端坊梵鐘	昭49.3.23	萩市大字恵美須町	宗)端坊
147	6	市 指定	有形文化財 工芸品	不動明王立像	昭51.6.10	萩市大字椿	宗)南明寺
148	7	市 指定	有形文化財 工芸品	須佐唐津焼青磁釉銅器写 花瓶	昭52.9.30	萩市大字須佐	萩市
149	8	市 指定	有形文化財 工芸品	梅岳寺銅鐘	昭55.9.12	萩市川上字立野	宗)梅岳寺
150	9	市 指定	有形文化財 工芸品	武氏八幡宮懸仏	昭56.6.15	萩市大字上小川東分	宗)武氏八幡宮
151	10	市 指定	有形文化財 工芸品	武氏八幡宮神輿	昭56.6.15	萩市大字上小川東分	宗)武氏八幡宮
152	11	市 指定	有形文化財 工芸品	片俣八幡宮懸仏	昭60.8.9	萩市大字上吉部 吉部公民館(寄託)	宗)片俣八幡宮

整理 番号	指定 別No.	指定 区分	種別等	名称	指定等年月日 ()追加・変更	所在地	所有者 ()は管理団体
153	12	市 指定	有形文化財 工芸品	中嶋善麿作 竹籠	平15.5.22	萩市大字上田万	個人
154	13	市 指定	有形文化財 工芸品	宇津観音寺鰐口	平15.6.27	萩市見島	宗)観音寺
155	1	市 指定	有形文化財 書跡	紙本墨書年徳の書	昭56.6.15	萩市大字堀内	萩市
156	2	市 指定	有形文化財 書跡	古川久輝 書	平15.5.22	萩市大字下田万	個人
157	3	市 指定	有形文化財 書跡	山本又兵衛法号記	平16.7.22	萩市川上字立野	宗)梅岳寺
158	1	市 指定	有形文化財 古文書	大井八幡宮文書	平9.4.25	萩市大字堀内 萩博物館(寄託)	宗)大井八幡宮
159	1	市 指定	有形文化財 考古資料	元寇の碇石	昭55.4.25	萩市大井	個人
160	2	市 指定	有形文化財 考古資料	塚穴古墳出土品	昭56.6.15	萩市大字江崎	萩市
161	1	市 指定	有形文化財 歴史資料	益田家歴代領主肖像画群	平1.10.13	萩市大字須佐 須佐歴史民俗資料館(寄託)	個人
162	2	市 指定	有形文化財 歴史資料	金谷神社の異人的額	令6.4.22	萩市大字堀内 萩博物館(寄託)	宗)金谷神社
163	3	市 指定	有形文化財 歴史資料	シーボルトのピアノ	令6.4.22	萩市大字今魚店町	公財)熊谷美術館
164	1	市 認定	無形文化財 工芸技術	須佐唐津焼	平17.2.28	萩市大字堀内	土谷一史
165	1	市 指定	有形の 民俗文化財	松原車祇園車	昭53.6.15	萩市大字須佐	松原地区
166	2	市 指定	有形の 民俗文化財	本町中祇園車	昭57.8.30	萩市大字須佐	本町中地区
167	3	市 指定	有形の 民俗文化財	海上信仰資料黄帝社社殿	平1.3.29	萩市大字須佐	宗)宝泉寺
168	1	市 指定	無形の 民俗文化財	木間「神代の舞」	昭37.12.24	萩市大字山田	木間神楽舞保存会
169	2	市 指定	無形の 民俗文化財	玉江浦「天狗拍子」	昭37.12.24	萩市大字山田	天狗拍子保存会
170	4	市 指定	無形の 民俗文化財	越ヶ浜「大綱声」	昭46.3.26	萩市大字椿東	越ヶ浜郷土芸能保存会
171	3	市 指定	無形の 民俗文化財	越ヶ浜「巫女の舞」	昭46.3.26	萩市大字椿東	越ヶ浜郷土芸能保存会
172	5	市 指定	無形の 民俗文化財	笹尾義民おどり	昭55.9.12	萩市川上字笹尾	笹尾芸能保存会
173	6	市 指定	無形の 民俗文化財	遠谷神楽舞	昭55.9.12	萩市川上字遠谷	遠谷神楽舞保存会
174	7	市 指定	無形の 民俗文化財	中ノ原的まつり	昭55.9.12	萩市川上字中の原	中の原惣の瀬 的まつり保存会
175	8	市 指定	無形の 民俗文化財	大江後神楽舞	昭56.6.15	萩市大字上小川西分	長門神式座
176	9	市 指定	無形の 民俗文化財	下領神楽舞(神笑座)	昭56.12.19	萩市大字高佐下	下領地区
177	10	市 指定	無形の 民俗文化財	野田の柱松	平4.10.7	萩市大字吉部下	野田地区
178	1	市 指定	記念物 史跡	萩城下街割原標石	昭37.1.11	萩市大字江向	萩市
179	2	市 指定	記念物 史跡	村田清風別宅跡	昭37.12.24	萩市大字平安古町	萩市

整理 番号	指定 別No.	指定 区分	種別等	名称	指定等年月日 ()追加・変更	所在地	所有者 ()は管理団体
180	3	市 指定	記念物 史跡	玉木文之進旧宅	昭39.3.28	萩市大字椿東	萩市
181	4	市 指定	記念物 史跡	円光寺穴観音古墳	昭46.3.26	萩市大井	個人
182	5	市 指定	記念物 史跡	八橋検校の碑	昭46.3.26	萩市大字椿東	宗)赤崎神社
183	6	市 指定	記念物 史跡	小倉四賢墓所	昭47.2.9	萩市大字椿	萩市
184	7	市 指定	記念物 史跡	吉田松陰の墓ならびに墓所	昭47.2.9	萩市大字椿東	個人
185	8	市 指定	記念物 史跡	菊ヶ浜土塁(女台場)	昭48.2.13	萩市大字今魚店町	萩市
186	9	市 指定	記念物 史跡	野山獄・岩倉獄跡	昭48.7.31	萩市大字今古萩町	萩市
187	10	市 指定	記念物 史跡	吉見正頼息女の墓	昭54.7.28	萩市大字高佐下	宗)禅林寺
188	11	市 指定	記念物 史跡	益田家墓所	昭55.7.1	萩市大字須佐	個人
189	12	市 指定	記念物 史跡	須佐地古墳	昭56.6.15	萩市大字江崎	萩市
190	13	市 指定	記念物 史跡	塚穴古墳	昭56.6.15	萩市大字下小川	個人
191	14	市 指定	記念物 史跡	旧湯川家屋敷	平5.12.1	萩市大字川島	萩市
192	15	市 指定	記念物 史跡	長添山古墳	平7.2.1	萩市大字椿東	宗)萩市護国神社
193	16	市 指定	記念物 史跡	桂太郎旧宅	平10.1.27	萩市大字川島	萩市
194	17	市 指定	記念物 史跡	伊藤博文旧宅地	平10.8.31	萩市大字椿東	萩市
195	18	市 指定	記念物 史跡	吉田松陰誕生地	平13.12.21	萩市大字椿東	萩市
196	19	市 指定	記念物 史跡	宇津観音寺観音堂	平15.6.27	萩市見島	宗)観音寺
197	20	市 指定	記念物 史跡	旧明倫小学校	平27.3.16	萩市大字江向	萩市
198	1	市 指定	記念物 名勝及び天然記念物	弥富猿屋の柱状節理 (猿屋の滝)	平27.3.16	萩市大字弥富下	萩市 外個人
199	1	市 指定	記念物 天然記念物	指月山のミカドアゲハ	昭37.1.11	萩市大字堀内	萩市
200	2	市 指定	記念物 天然記念物	大照院の大フジ	昭37.1.11	萩市大字椿	宗)大照院
201	3	市 指定	記念物 天然記念物	椿瀬のツバキ	昭55.9.12	萩市川上字椿瀬	(萩市)
202	4	市 指定	記念物 天然記念物	野登呂のシラカシ	昭55.9.12	萩市川上字野戸呂	萩市
203	5	市 指定	記念物 天然記念物	須佐のシダレアカマツ	昭57.2.26	萩市大字須佐	個人
204	6	市 指定	記念物 天然記念物	尊正寺のエドヒガン	昭63.3.17	萩市大字上小川東分	宗)尊正寺
205	7	市 指定	記念物 天然記念物	武氏八幡宮社叢	昭63.3.17	萩市大字上小川東分	宗)武氏八幡宮
206	8	市 指定	記念物 天然記念物	三明のイトザクラ	昭63.3.17	萩市大字上小川東分	個人

整理 番号	指定 別No.	指定 区分	種別等	名称	指定等年月日 ()追加・変更	所在地	所有者 ()は管理団体
207	9	市 指定	記念物 天然記念物	妙権寺のイブキ	昭63.3.17	萩市大字下小川	宗)妙権寺
208	10	市 指定	記念物 天然記念物	笠山虎ヶ崎タチバナ自生北 限地およびコウライタチバナ 自生地	平5.1.26	萩市大字椿東	越ヶ浜自治会
209	11	市 指定	記念物 天然記念物	笠山ハマボウ自生北限地	平5.1.26	萩市大字椿東	個人
210	12	市 指定	記念物 天然記念物	笠山のホソイノデ・カサヤマ イノデ・カタホソイノデ混生 地	平7.2.1	萩市大字椿東	個人
211	13	市 指定	記念物 天然記念物	櫃島八幡宮のリュウキュウ エノキ	平7.2.1	萩市櫃島	宗)櫃島八幡宮
212	14	市 指定	記念物 天然記念物	紫福の一本スギ	平6.3.14	萩市大字紫福	個人
213	15	市 指定	記念物 天然記念物	見島日崎のタダムシオイガ イ・ミシマヒメベッコウおよび その棲息地	平13.12.21	萩市見島	個人
214	16	市 指定	記念物 天然記念物	笠山虎ヶ崎ヤブツバキ群生 林	平14.8.1	萩市大字椿東	越ヶ浜自治会 (萩市)
215	17	市 指定	記念物 天然記念物	佐々並のウラジロガシ	平16.10.22	萩市大字佐々並	個人

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
堀内・平安古・城下町 維新の志士が往来した当時の風景を今も残すまち						
1	1	1	堀内の鍵曲（追廻し筋）	記念物	遺跡	
2	1	2	益田親施旧宅地（益田家物見矢倉）	有形文化財	建造物	
3	1	3	旧繁沢家長屋門	有形文化財	建造物	
4	1	4	旧周布家長屋門	有形文化財	建造物	市指定
5	1	5	福原越後旧宅地	記念物	遺跡	
6	1	6	国司信濃（親相）旧宅地	記念物	遺跡	
7	1	7	萩城跡	記念物	遺跡	国指定
8	1	8	銃眼土塀（要害門、要害二の丸）	有形文化財	建造物	
9	1	9	本町	その他		
10	1	10	川手御殿（花江御殿、江風山月書楼）	記念物	遺跡	
11	1	11	久坂玄瑞誕生地	記念物	遺跡	
12	1	12	村田清風別宅地	記念物	遺跡	市指定
13	1	13	小幡高政旧宅地	記念物	遺跡	
14	1	14	坪井九右衛門旧宅	有形文化財	建造物	
15	1	15	大児玉横町（平安古の鍵曲）	記念物	遺跡	
16	1	16	高杉晋作誕生地	記念物	遺跡	
17	1	17	木戸孝允旧宅	記念物	遺跡	国指定
18	1	18	青木周弼旧宅	記念物	遺跡	
19	1	19	門政寺	有形文化財	建造物	市指定
20	1	20	菊屋家住宅	有形文化財	建造物	国指定
21	1	21	旧久保田家住宅	有形文化財	建造物	市指定
22	1	22	伊勢屋横町	その他		
23	1	23	江戸屋横町	その他		
24	1	24	菊屋横町	その他		
25	1	25	女台場（菊ヶ浜土塁）	記念物	遺跡	市指定
26	1	26	熊谷家住宅（熊谷美術館）	有形文化財	建造物	国指定
27	1	27	旧萩藩校明倫館	記念物	遺跡	国指定
28	1	28	旧萩藩校明倫館跡	記念物	遺跡	
浜崎 港で栄えた商家町						
29	2	1	旧萩藩御船倉	記念物	遺跡	国指定
30	2	2	斉藤家 坂本竜馬の茶碗	有形文化財	歴史資料	
31	2	3	中村船具店 霧笛	有形文化財	歴史資料	
32	2	4	須子家のお宝 両替商	有形文化財	歴史資料	
33	2	5	須子家のお宝 造酒屋	有形文化財	歴史資料	
34	2	6	須子家のお宝 北国問屋	有形文化財	歴史資料	
35	2	7	須子家のお宝 ロウの製造	有形文化財	歴史資料	
36	2	8	須子家のお宝 『諸事控』	有形文化財	古文書	
37	2	9	住吉神社	有形文化財	建造物	
38	2	10	泉福寺	有形文化財	建造物	
39	2	11	鶴江の渡し	有形の民俗文化財		
40	2	12	今も使われる部戸（松浦家）	有形文化財	建造物	
41	2	13	住吉祭り 御船	有形の民俗文化財		
42	2	14	引札01・039・境港、 北海道肥料販本、海産物産委託問屋	有形文化財	歴史資料	
43	2	15	引札11・176・神戸市、 海産物産委託問屋	有形文化財	歴史資料	
44	2	16	須子英二 土蔵（西）	有形文化財	建造物	
田町 城下町のメインストリート 御成道・田町						
45	3	1	田町の起こり	その他		
46	3	2	西田町筋・東田町筋（筋名）	その他		
47	3	3	三千坊筋（筋名）	その他		
48	3	4	新道橋筋（筋名）	その他		
49	3	5	報恩寺筋（筋名）	その他		
50	3	6	頓振町（筋名）	その他		
51	3	7	雑賀下り筋（筋名）	その他		
52	3	8	清光寺門前筋（筋名）	その他		
53	3	9	小道具町（筋名）	その他		
54	3	10	新堀筋（筋名）	その他		
55	3	11	新横町（筋名）	その他		
56	3	12	小林筋（筋名）	その他		
57	3	13	小林去来碑	記念物	遺跡	
58	3	14	瀬戸物町(筋名)	その他		
59	3	15	銭屋町（筋名）	その他		
60	3	16	「西田町」の町印	無形の民俗文化財		
61	3	17	「東田町」の町印	無形の民俗文化財		
62	3	18	新堀川	文化的景観		
63	3	19	唐樋の札場と御成道	記念物	遺跡	
64	3	20	道路元標	記念物	遺跡	
65	3	21	梅屋七兵衛と東田町	記念物	遺跡	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
66	3	22	柏木体温計とネズミの看板	有形文化財	歴史資料	
67	3	23	柏木薬局の薬の看板「ポリタミン」	有形文化財	歴史資料	
68	3	24	柏木薬局の薬の看板「ブルトゼ」	有形文化財	歴史資料	
69	3	25	柏木薬局の薬の看板「ラキサトール」	有形文化財	歴史資料	
70	3	26	田町のアーケード	有形文化財	建造物	
71	3	27	アーケードの裏側	有形文化財	建造物	
72	3	28	田町の町家群	伝統的建造物群		
73	3	29	西田町角の建物（町家）	有形文化財	建造物	
74	3	30	ヤング美容室（町家）	有形文化財	建造物	
75	3	31	森井家住宅（町家）	有形文化財	建造物	
76	3	32	旧上田陶器店（町家）	有形文化財	建造物	
77	3	33	tazz（町家）	有形文化財	建造物	
78	3	34	ファッションハウスいとう、 ギャラリー・街（町家）	有形文化財	建造物	
79	3	35	津田薬局（町家）	有形文化財	建造物	
80	3	36	津田薬局の看板	有形文化財	歴史資料	
81	3	37	津田薬局の薬の看板「純良薬品」	有形文化財	歴史資料	
82	3	38	津田薬局の薬の看板「バイエルサリチル酸」	有形文化財	歴史資料	
83	3	39	陶器の店 太田洋行	有形文化財	建造物	
84	3	40	陶器の店太田洋行の古色鍋島大絵皿	有形文化財	建造物	
85	3	41	ジュースサロンさいとうの 大正時代下駄の看板	有形文化財	歴史資料	
86	3	42	萩市民活動センター・結	その他		
87	3	43	田町ジョイ201	その他		
88	3	44	山下時計店の古時計	有形文化財	歴史資料	
89	3	45	萩たまち郵便局	有形文化財	建造物	
90	3	46	田町eつづく堂	その他		
91	3	47	萩で唯一のおもちや屋 人形おもちや きくや	その他		
92	3	48	岩崎造漆株式会社	有形文化財	建造物	
93	3	49	萩おみやげ博物館	その他		
94	3	50	佐伯時計店の古時計	有形文化財	歴史資料	
95	3	51	石川紙店の古写真	有形文化財	歴史資料	
96	3	52	そば処 田波 御殿の石	記念物	遺跡	
97	3	53	長全堂薬局の建物	有形文化財	建造物	
98	3	54	小原呉服店のひょうたん秤	有形文化財	歴史資料	
99	3	55	きものさろん扇屋の染め見本	有形文化財	歴史資料	
100	3	56	きものさろん扇屋の五つだまのそばはん	有形文化財	歴史資料	
101	3	57	田町のチラシ	有形文化財	歴史資料	
102	3	58	出雲ルーツの呉服屋さん	その他		
103	3	59	萩光塩学院	有形文化財	建造物	
104	3	60	旧毛利別邸	記念物	遺跡	
105	3	61	本願寺山口別院萩分院	有形文化財	建造物	
106	3	62	井上剣花坊の碑	記念物	遺跡	
107	3	63	女流詩人 原采蘋	その他		
108	3	64	萩ツイン・シネマ	有形文化財	建造物	
109	3	65	お籠	有形文化財	歴史資料	
110	3	66	新堀橋	有形文化財	建造物	
111	3	67	彩花橋	有形文化財	建造物	
112	3	68	万歳橋	有形文化財	建造物	
113	3	69	萩商高橋	有形文化財	建造物	
114	3	70	佐世橋	有形文化財	建造物	
115	3	71	佐世天神	有形文化財	建造物	
116	3	72	佐世天神の牛の像	記念物	遺跡	
117	3	73	佐世天神様のお祭り	無形の民俗文化財		
118	3	74	ぼうがしら	無形の民俗文化財		
119	3	75	西田町の秋祭り	無形の民俗文化財		
120	3	76	萩の方言	その他		
121	3	77	田町商店街	文化的景観		
122	3	78	田町商店街と夕日	文化的景観		
123	3	79	田町土曜夜市	無形の民俗文化財		
124	3	80	萩夏祭り	無形の民俗文化財		
125	3	81	萩・たまち七夕まつり	無形の民俗文化財		
126	3	82	萩・田町萩焼まつり	その他		
127	3	83	ハロウィンたまち&結まつり	その他		
128	3	84	西田町の竹灯籠	文化的景観		
129	3	85	ジョイフルスタンプ	その他		
寺町 三角州の砂丘上に作られた寺町と町人町						
130	4	1	三角州の中の寺町	記念物	地質鉱物	
131	4	2	海潮寺(総源山)	有形文化財	建造物	
132	4	3	明倫館遺構 聖廟(海潮寺)	有形文化財	建造物	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
133	4	4	海潮寺山門	有形文化財	建造物	
134	4	5	金子重輔旧宅地	記念物	遺跡	
135	4	6	菊ヶ浜土塁（女台場）	記念物	遺跡	市指定
136	4	7	久原翁成育之地	記念物	遺跡	
137	4	8	熊谷家住宅	有形文化財	建造物	
138	4	9	広雲寺（金沙山 龍昌院）	有形文化財	建造物	
139	4	10	亨徳寺（吉連山）	有形文化財	建造物	
140	4	11	亨徳寺三門	有形文化財	建造物	市指定
141	4	12	亨徳寺の達磨大師像	有形文化財	彫刻	
142	4	13	亨徳寺の織部灯籠	有形文化財	建造物	
143	4	14	豊川稲荷大祭（亨徳寺）	無形の民俗文化財		
144	4	15	地藏祭り（亨徳寺）	無形の民俗文化財		
145	4	16	光源寺（晃天山）	有形文化財	建造物	
146	4	17	光楽寺（聲震山）	有形文化財	建造物	
147	4	18	西生寺（霊松山）	有形文化財	建造物	
148	4	19	俊光寺（華慶山）	有形文化財	建造物	
149	4	20	淨国寺（祐称山）	有形文化財	建造物	
150	4	21	淨国寺 山門の銃弾跡	記念物	遺跡	
151	4	22	常念寺（長栄山 不断光院）	有形文化財	建造物	
152	4	23	常念寺表門	有形文化財	建造物	
153	4	24	みそ地藏（常念寺）	有形の民俗文化財		
154	4	25	多越神社	有形文化財	建造物	
155	4	26	長寿寺（涼松山）	有形文化財	建造物	
156	4	27	長寿寺 十三重塔	有形文化財	建造物	県指定
157	4	28	木造 不動明王立像（長寿寺）	有形文化財	彫刻	
158	4	29	不動明王大祭（長寿寺）	無形の民俗文化財		
159	4	30	長泉寺（魄帰山）	有形文化財	建造物	
160	4	31	野山獄跡・岩倉獄跡	記念物	遺跡	
161	4	32	梅蔵院（瑞光山 願心寺）	有形文化財	建造物	
162	4	33	釈迦像（梅蔵院）	有形文化財	彫刻	
163	4	34	端坊（松林山）	有形文化財	建造物	
164	4	35	端坊鐘楼	有形文化財	建造物	市指定
165	4	36	端坊梵鐘	有形文化財	工芸品	市指定
166	4	37	端坊の蘇鉄	記念物	植物	
167	4	38	報恩寺（瑞雲山 心徳院）	有形文化財	建造物	
168	4	39	伊藤博文先祖の墓碑（報恩寺）	記念物	遺跡	
169	4	40	法華寺（松原山）	有形文化財	建造物	
170	4	41	法華寺山門	有形文化財	建造物	
171	4	42	旧保福寺	有形文化財	建造物	
172	4	43	旧保福寺の地藏菩薩「身代わり地藏」	記念物	遺跡	
173	4	44	地藏盆（旧保福寺）	無形の民俗文化財		
174	4	45	本行寺（馨香山）	有形文化財	建造物	
175	4	46	三光堂のおまつり（本行寺）	無形の民俗文化財		
176	4	47	本行寺のオガタマノキ	記念物	植物	
177	4	48	明門寺（万松山）	有形文化財	建造物	
178	4	49	ミヨシノ醤油有限会社の醤油蔵	有形文化財	建造物	
179	4	50	妙蓮寺（慈興山）	有形文化財	建造物	
180	4	51	霊巖寺（寶龍山 普照院）	有形文化財	建造物	
181	4	52	山伏の碑	記念物	遺跡	
182	4	53	（寺町の）地名・筋名	その他		
183	4	54	境町（筋名）	その他		
184	4	55	鉄砲屋横町（筋名）	その他		
185	4	56	豊屋町（筋名）	その他		
186	4	57	淨国寺筋（筋名）	その他		
187	4	58	保福寺門前筋（筋名）	その他		
188	4	59	亨徳寺筋（筋名）	その他		
189	4	60	沖ノ町（筋名）	その他		
190	4	61	浜横町（筋名）	その他		
191	4	62	富田横町（筋名）	その他		
192	4	63	馬場町筋（筋名）	その他		
193	4	64	頓振町筋（筋名）	その他		
194	4	65	馬場町（筋名）	その他		
195	4	66	長寿寺裏門筋（筋名）	その他		
196	4	67	海潮寺筋（筋名）	その他		
197	4	68	西ノ町（筋名）	その他		
198	4	69	伝馬町（筋名）	その他		
199	4	70	雑賀下り筋（筋名）	その他		
200	4	71	熊谷町（筋名）	その他		

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
201	4	72	鉄砲場町（筋名）	その他		
202	4	73	今魚店筋（筋名）	その他		
203	4	74	妙性寺筋（筋名）	その他		
204	4	75	檜皮町（筋名）	その他		
205	4	76	鍛冶屋町（筋名）	その他		
206	4	77	長寿寺門前筋（筋名）	その他		
207	4	78	竜昌院門前筋（筋名）	その他		
208	4	79	常念寺横往還（筋名）	その他		
209	4	80	吉田町（筋名）	その他		
210	4	81	相町（筋名）	その他		
211	4	82	五間町筋（筋名）	その他		
212	4	83	津守町筋（筋名）	その他		
213	4	84	塩屋町筋（筋名）	その他		
214	4	85	細工町筋（筋名）	その他		
215	4	86	春若町筋（筋名）	その他		
216	4	87	古魚店筋（筋名）	その他		
217	4	88	恵美須町筋（筋名）	その他		
218	4	89	北米屋町（筋名）	その他		
219	4	90	報恩寺筋（筋名）	その他		
220	4	91	光明坊筋（筋名）	その他		
221	4	92	三千坊横往還（筋名）	その他		
222	4	93	三千坊筋（筋名）	その他		
223	4	94	相首町（筋名）	その他		
224	4	95	八百屋町（筋名）	その他		
225	4	96	樽屋町（町印）	無形の民俗文化財		
226	4	97	米屋町（町印）	無形の民俗文化財		
227	4	98	熊谷町（町印）	無形の民俗文化財		
228	4	99	古萩町（町印）	無形の民俗文化財		
229	4	100	吉田町（町印）	無形の民俗文化財		
230	4	101	今魚店町（町印）	無形の民俗文化財		
231	4	102	古魚店町（町印）	無形の民俗文化財		
232	4	103	油屋町（町印）	無形の民俗文化財		
233	4	104	恵美須町（町印）	無形の民俗文化財		
234	4	105	細工町（町印）	無形の民俗文化財		
235	4	106	春若町（町印）	無形の民俗文化財		
236	4	107	塩屋町（町印）	無形の民俗文化財		
237	4	108	北片河町（町印）	無形の民俗文化財		
238	4	109	下五間町（町印）	無形の民俗文化財		
239	4	110	上五間町（町印）	無形の民俗文化財		
240	4	111	津守町（町印）	無形の民俗文化財		
江向 水とともに暮らしてきた城下町・萩の教育と近代化の歴史						
241	5	1	旧萩藩校明倫館	記念物	遺跡	国指定
242	5	2	有備館	有形文化財	建造物	
243	5	3	明倫館碑	記念物	遺跡	
244	5	4	水練池	記念物	遺跡	
245	5	5	南門	有形文化財	建造物	市指定
246	5	6	観徳門	有形文化財	建造物	市指定
247	5	7	聖賢堂	有形文化財	建造物	
248	5	8	水ヌキ跡	記念物	遺跡	
249	5	9	明倫館のクロマツ	記念物	植物	
250	5	10	練兵場跡	記念物	遺跡	
251	5	11	諸国文武修行者宿跡地	記念物	遺跡	
252	5	12	市役所前のソメイヨシノ	記念物	植物	
253	5	13	田中荒神社跡地	記念物	遺跡	
254	5	14	田中のイチョウ	記念物	植物	
255	5	15	新堀川	文化的景観		
256	5	16	新堀川の樋門	有形文化財	歴史資料	
257	5	17	山県有朋の銅像	有形文化財	彫刻	
258	5	18	萩市民館	有形文化財	建造物	
259	5	19	萩市民館の照明	有形文化財	工芸品	
260	5	20	萩市民館のどんちょう	有形文化財	工芸品	
261	5	21	萩市役所	有形文化財	建造物	
262	5	22	萩市役所ロビーの提灯	有形文化財	工芸品	
263	5	23	萩城下街割原標石	記念物	遺跡	
264	5	24	水車跡地	記念物	遺跡	
265	5	25	午砲「ドン」	無形の民俗文化財		
266	5	26	藍場川	文化的景観		
267	5	27	藍玉座跡	記念物	遺跡	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
268	5	28	船回し跡（藍玉座跡）	記念物	遺跡	
269	5	29	船回し跡（日章舎跡）	記念物	遺跡	
270	5	30	周布政之助誕生地	記念物	遺跡	
271	5	31	中村雪樹旧宅地	記念物	遺跡	
272	5	32	井上剣花坊誕生地	記念物	遺跡	
273	5	33	日章舎（敬身堂）跡地	記念物	遺跡	
274	5	34	ミドリヨシノ	記念物	植物	
275	5	35	高島北海誕生地	記念物	遺跡	
276	5	36	南園跡	記念物	遺跡	
277	5	37	南園跡のクロマツ	記念物	植物	
278	5	38	好生館跡地	記念物	遺跡	
279	5	39	当島勘場跡地	記念物	遺跡	
280	5	40	伊予八幡宮跡地	記念物	遺跡	
281	5	41	渡辺蒿蔵旧宅	有形文化財	建造物	
282	5	42	橋本川沿いのサクラ	文化的景観		
283	5	43	杉孫七郎旧宅地	記念物	遺跡	
284	5	44	前田孫右衛門旧宅地	記念物	遺跡	
285	5	45	山田亦介旧宅地	記念物	遺跡	
286	5	46	武家屋敷を起源とする建物	有形文化財	建造物	
287	5	47	武家屋敷を起源とする基礎石	記念物	遺跡	
288	5	48	武家屋敷を起源とする堀	記念物	遺跡	
289	5	49	子どもみこし	無形の民俗文化財		
290	5	50	側溝清掃	無形の民俗文化財		
291	5	51	節分の夜の厄払い	無形の民俗文化財		
292	5	52	筋名（江向）	その他		
293	5	53	田中往還	その他		
294	5	54	西河岸筋	その他		
295	5	55	溝部横町	その他		
296	5	56	水車筋	その他		
297	5	57	米屋町下り筋	その他		
298	5	58	雑賀下り筋	その他		
299	5	59	旧明倫館南門筋	その他		
300	5	60	田端往還（1）	その他		
301	5	61	若松屋筋	その他		
302	5	62	溝辺筋	その他		
303	5	63	若松屋横町	その他		
304	5	64	藍場横町	その他		
305	5	65	中町	その他		
306	5	66	久保町	その他		
307	5	67	地面往還	その他		
308	5	68	御物見筋	その他		
309	5	69	若松屋横町筋	その他		
310	5	70	徳隣寺筋	その他		
311	5	71	袋町	その他		
312	5	72	田端往還（2）	その他		
313	5	73	馬場町	その他		
314	5	74	竹丹波町	その他		
315	5	75	竹丹波横町	その他		
316	5	76	小橋筋	その他		
317	5	77	八町	その他		
318	5	78	八町後筋	その他		
319	5	79	御殿横町	その他		
土原 松本川に育まれた人々と武家の町割						
320	6	1	寄舟山弘法寺	記念物	遺跡	
321	6	2	弘法寺のクロマツ保存林	記念物	植物	
322	6	3	弘法寺の比翼塚	有形の民俗文化財		
323	6	4	弘法寺の弁才天社	有形文化財	建造物	
324	6	5	弘法寺の宝篋印塔	有形文化財	建造物	
325	6	6	弘法寺の石灯籠	有形文化財	建造物	
326	6	7	萩橋下のシロウオ漁	文化的景観		
327	6	8	前原一誠旧宅	記念物	遺跡	
328	6	9	大和國之助誕生地	記念物	遺跡	
329	6	10	大島家庭園とモミの木	記念物	名勝地	
330	6	11	武家のハトバ（14ヶ所）	文化的景観		
331	6	12	檜崎弥八郎誕生地	記念物	遺跡	
332	6	13	土原御殿跡	記念物	遺跡	
333	6	14	山県周南旧宅跡	記念物	遺跡	
334	6	15	小川家長屋門	有形文化財	建造物	市指定

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
335	6	16	大谷提灯店	無形文化財		
336	6	17	毛利氏日明貿易関係資料	有形文化財	歴史資料	国指定
337	6	18	松本大橋	有形文化財	建造物	
338	6	19	扇の芝	記念物	名勝地	
339	6	20	対岸から見る接水武家屋敷	記念物	遺跡	
340	6	21	奥平家長屋門	有形文化財	建造物	市指定
341	6	22	周布政之助旧宅地	記念物	遺跡	
342	6	23	入江九一・野村靖誕生地	記念物	遺跡	
343	6	24	井上勝誕生地	記念物	遺跡	
344	6	25	清水清太郎誕生地	記念物	遺跡	
345	6	26	曾禰荒助誕生地	記念物	遺跡	
346	6	27	檜崎頼三誕生地	記念物	遺跡	
347	6	28	長井雅樂旧宅地	記念物	遺跡	
348	6	29	松陰寄寓の地	記念物	遺跡	
349	6	30	鷲神社址と祭礼	無形の民俗文化財		
350	6	31	白根多助・白根専一旧宅跡	記念物	遺跡	
351	6	32	奥平謙輔誕生地	記念物	遺跡	
352	6	33	川島沖田の蓮田	文化的景観		
353	6	34	広沢真臣誕生地	記念物	遺跡	
354	6	35	長防臣民合議書印刷所址	記念物	遺跡	
355	6	36	土原の町割りを残す基礎石（49ヶ所）	記念物	遺跡	
356	6	37	土原の筋名（20ヶ所）	その他		
357	6	38	高須久子誕生地	記念物	遺跡	
川島・藍場川 人々の暮らしにとけこんだ藍場川と川島の風景と歴史						
358	7	1	太鼓湾	記念物	名勝地	
359	7	2	御山路神社旧趾碑	記念物	遺跡	
360	7	3	藍場川	文化的景観		
361	7	4	樋の口	記念物	遺跡	
362	7	5	阿武松之助翁頌徳碑	記念物	遺跡	
363	7	6	桜樹寄贈人名の碑	記念物	遺跡	
364	7	7	桜並木	文化的景観		
365	7	8	ゲンジボタル	記念物	動物	
366	7	9	旧湯川家屋敷	記念物	遺跡	市指定
367	7	10	桂太郎旧宅	記念物	遺跡	市指定
368	7	11	桂太郎	その他		
369	7	12	藍場川沿いの池泉庭園	記念物	名勝地	
370	7	13	ハトバ	有形の民俗文化財		
371	7	14	石橋	有形文化財	建造物	
372	7	15	涼み台	有形の民俗文化財		
373	7	16	藍場川の鯉	記念物	動物	
374	7	17	桂路祐誕生地	記念物	遺跡	
375	7	18	渡辺蒿蔵旧宅地	有形文化財	建造物	
376	7	19	筋かえ橋	有形文化財	建造物	
377	7	20	山県有朋旧宅地	記念物	遺跡	
378	7	21	善福寺	有形文化財	建造物	
379	7	22	善福寺文書（大内義隆寄進状）	有形文化財	古文書	
380	7	23	織部灯籠	有形文化財	建造物	
381	7	24	竹内八郎歌碑	記念物	遺跡	
382	7	25	鳥尾小弥太旧宅地	記念物	遺跡	
383	7	26	杉家の旧宅地	記念物	遺跡	
384	7	27	陸渡り	記念物	遺跡	
385	7	28	山田宇右衛門旧宅地	記念物	遺跡	
386	7	29	林百非旧宅地	記念物	遺跡	
387	7	30	須賀神社跡	記念物	遺跡	
388	7	31	杉山松助旧宅地	記念物	遺跡	
389	7	32	汲月堂跡	記念物	遺跡	
390	7	33	敵島神社旧蹟	記念物	遺跡	
391	7	34	玉木文之進旧宅地	記念物	遺跡	
392	7	35	山県有朋誕生地	記念物	遺跡	
393	7	36	山県有朋	その他		
394	7	37	松村ノブ誕生地	記念物	遺跡	
395	7	38	山縣伊三郎誕生地	記念物	遺跡	
396	7	39	同行	無形の民俗文化財		
397	7	40	川島例祭（御神幸）	無形の民俗文化財		
398	7	41	聖講	無形の民俗文化財		
399	7	42	聖	有形文化財	歴史資料	
400	7	43	川島の生垣	文化的景観		
401	7	44	クロマツ（太鼓湾そば）	記念物	植物	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
402	7	45	ヒトツバの木（藍場川上流）	記念物	植物	
403	7	46	モミジの木（旧湯川家前）	記念物	植物	
404	7	47	ヒトツバの木（練木横町）	記念物	植物	
405	7	48	モチノキ（溝筋）	記念物	植物	
406	7	49	モチノキ（八町川島筋東端）	記念物	植物	
407	7	50	クロガネモチの木（汲月堂跡付近）	記念物	植物	
408	7	51	クロガネモチの大木（山泉有朋誕生地そば）	記念物	植物	
榑 秋の玄関口・榑						
409	8	1	橋本橋	有形文化財	建造物	
410	8	2	橋本川	文化的景観		
411	8	3	蓮正寺	有形文化財	建造物	
412	8	4	御波止場跡	記念物	遺跡	
413	8	5	中谷の波止場跡	記念物	遺跡	
414	8	6	柳瀬の波止場跡	記念物	遺跡	
415	8	7	原社の波止場跡	記念物	遺跡	
416	8	8	狼煙場跡（毛尻）	記念物	遺跡	
417	8	9	大木戸跡	記念物	遺跡	
418	8	10	金谷神社（金谷天満宮）	有形文化財	建造物	
419	8	11	金谷神社の奉納行事（伊達小荷駄）	無形の民俗文化財		
420	8	12	金谷神社道標	記念物	遺跡	
421	8	13	金谷神社絵馬	有形文化財	絵画	
422	8	14	金谷神社灯籠	有形文化財	建造物	
423	8	15	河上弥市誕生地	記念物	遺跡	
424	8	16	陣原古戦場跡	記念物	遺跡	
425	8	17	長蔵寺	有形文化財	建造物	
426	8	18	一里塚跡（赤間関街道）	記念物	遺跡	
427	8	19	一本松の荒神社	有形文化財	建造物	
428	8	20	萩駅舎	有形文化財	建造物	国登録
429	8	21	松雲院跡	記念物	遺跡	
430	8	22	桜江の暮雪	記念物	名勝地	
431	8	23	庚申様	有形の民俗文化財		
432	8	24	大照院	有形文化財	建造物	国指定
433	8	25	小松江の晩鐘	記念物	名勝地	
434	8	26	椿八幡宮	有形文化財	建造物	
435	8	27	椿地区の田園風景	文化的景観		
436	8	28	光福寺	有形文化財	建造物	
437	8	29	青海郡司鎗造所跡	記念物	遺跡	
438	8	30	沖原郡司鎗造所跡	記念物	遺跡	
439	8	31	沖原の荒神様	有形の民俗文化財		
440	8	32	六本松跡	記念物	名勝地	
441	8	33	上津江の晴嵐	記念物	名勝地	
442	8	34	申年の大水の碑	有形の民俗文化財		
443	8	35	藤田清助翁顕彰碑	記念物	遺跡	
444	8	36	白牛伝説	無形の民俗文化財		
445	8	37	美神社	有形文化財	建造物	
446	8	38	六本杉跡	記念物	遺跡	
447	8	39	奥平謙輔	その他		
448	8	40	萩の乱供養碑	記念物	遺跡	
449	8	41	和泉寺跡	記念物	遺跡	
450	8	42	小倉四賢墓所	記念物	遺跡	市指定
451	8	43	南明寺	有形文化財	建造物	市指定
452	8	44	南明寺のイトザクラ	記念物	植物	
453	8	45	大屋川	文化的景観		
454	8	46	サイフォン式の用水路	有形の民俗文化財		
455	8	47	大屋観音橋	有形文化財	建造物	
456	8	48	大屋観音橋道標	記念物	遺跡	
457	8	49	御口屋跡	記念物	遺跡	
458	8	50	大屋市跡	記念物	遺跡	
459	8	51	茶白山城跡	記念物	遺跡	
460	8	52	狼煙場跡（茶白山）	記念物	遺跡	
461	8	53	山本（梅屋）七兵衛	その他		
462	8	54	梅屋敷（羅浮亭）跡	記念物	遺跡	
463	8	55	涙松遺跡	記念物	遺跡	
464	8	56	笠屋の荒神様	有形の民俗文化財		
465	8	57	笠屋の弘法大師様	有形の民俗文化財		
466	8	58	笠屋のお地藏様	有形の民俗文化財		
467	8	59	笠屋の庚申様	有形の民俗文化財		
468	8	60	一里塚跡（河内）	記念物	遺跡	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
469	8	61	河内の大ムクノキ	記念物	植物	県指定
470	8	62	一里塚（悴坂）	記念物	遺跡	
471	8	63	首切り地藏	有形の民俗文化財		
472	8	64	大屋刑場跡	記念物	遺跡	
473	8	65	悴坂埤	記念物	遺跡	
474	8	66	鹿背坂隧道	有形文化財	建造物	国登録
475	8	67	茶屋跡	記念物	遺跡	
476	8	68	御駕籠建場跡	記念物	遺跡	
477	8	69	萩往還	記念物	遺跡	国指定
旧松本村 松陰先生のふるさと、旧松本村						
478	9	1	松陰神社	記念物	遺跡	
479	9	2	松門神社	記念物	遺跡	
480	9	3	新道	記念物	遺跡	
481	9	4	山代街道（石州街道）	記念物	遺跡	
482	9	5	松下村塾	記念物	遺跡	国指定
483	9	6	杉家旧宅	記念物	遺跡	国指定
484	9	7	幽囚室	記念物	遺跡	
485	9	8	石碑（観思うここにまきるごころ…）	記念物	遺跡	
486	9	9	松陰神社宝物殿「至誠館」	その他		
487	9	10	玉本文之進旧宅	記念物	遺跡	市指定
488	9	11	松下村塾発祥の処	記念物	遺跡	
489	9	12	吉田松陰先生誕生地	記念物	遺跡	
490	9	13	石碑「吉田松陰先生誕生之地」	記念物	遺跡	
491	9	14	石碑「松陰先生産湯の井戸」	記念物	遺跡	
492	9	15	銅像「松陰先生と金子重之助」	有形文化財	歴史資料	
493	9	16	杉家の墓所	記念物	遺跡	
494	9	17	吉田家の墓所	記念物	遺跡	
495	9	18	吉田松陰先生墓地（吉田松陰の墓）	記念物	遺跡	市指定
鶴江・香川津・新川 水を恐れ、水を制し、水の恵みを受けてきた人々の営み						
496	10	1	鶴江 地名の由来	その他		
497	10	2	鶴江台	記念物	地質鉱物	
498	10	3	萩八景の景色「鶴江夕照」	文化的景観		
499	10	4	鶴江の歴史	無形の民俗文化財		
500	10	5	鶴江台とナツミカン	文化的景観		
501	10	6	漁師町的生活	その他		
502	10	7	江月庵	有形文化財	建造物	
503	10	8	音声寺坂	文化的景観		
504	10	9	鶴江神明宮	有形文化財	建造物	
505	10	10	神明様のお祭り	無形の民俗文化財		
506	10	11	鶴江神明宮のサクラ	記念物	植物	
507	10	12	鶴江神明宮 参道からの眺め	記念物	名勝地	
508	10	13	鶴江神明宮の国旗掲揚柱	有形文化財	歴史資料	
509	10	14	鶴江の渡し	有形の民俗文化財		
510	10	15	香川津の渡し	記念物	遺跡	
511	10	16	渡しの歴史	記念物	遺跡	
512	10	17	鶴江の渡し 歌詞	無形の民俗文化財		
513	10	18	平和橋	有形文化財	建造物	
514	10	19	回転橋の思い出	無形の民俗文化財		
515	10	20	夏みかんの香り	無形の民俗文化財		
516	10	21	鶴江のまちなみ	伝統的建造物群		
517	10	22	姥倉運河	記念物	遺跡	
518	10	23	姥倉運河 開渠の碑	記念物	遺跡	
519	10	24	鶴江の今昔	無形の民俗文化財		
520	10	25	スカの想い出	無形の民俗文化財		
521	10	26	道づくり	無形の民俗文化財		
522	10	27	共同井戸	有形文化財	歴史資料	
523	10	28	殉教者の平和の十字架	有形文化財	歴史資料	
524	10	29	のっぺい汁	その他		
525	10	30	角寿司	その他		
526	10	31	いとこ煮	その他		
527	10	32	なすびの半子漬け	その他		
528	10	33	しろうおの踊り食い	その他		
529	10	34	しろうおの炊き込みご飯	その他		
530	10	35	しろうおと卵の吸い物	その他		
531	10	36	しろうおのてんぷら（かき揚げ）	その他		
532	10	37	鶴江の方言	その他		
533	10	38	夕日スポット	記念物	名勝地	
534	10	39	釣りスポット	記念物	名勝地	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
535	10	40	久坂玄瑞の詩	無形の民俗文化財		
536	10	41	香川津 地名の由来	その他		
537	10	42	香川津の生活	その他		
538	10	43	香川津荒神様	記念物	遺跡	
539	10	44	八橋検校の碑	記念物	遺跡	
540	10	45	香川津神楽舞	無形の民俗文化財		
541	10	46	弘法大師霊場 萩八十八ヶ所巡り 第五十二番	有形文化財	建造物	
542	10	47	お地藏様（香川津）	記念物	遺跡	
543	10	48	地神まつり	無形の民俗文化財		
544	10	49	新川 地名の由来	その他		
545	10	50	萩市護国神社	有形文化財	建造物	
546	10	51	萩市護国神社 祭礼	無形の民俗文化財		
547	10	52	長添山古墳	記念物	遺跡	
548	10	53	雁島 埋め立ての歴史(雁島開作)	記念物	遺跡	
549	10	54	牛市場(萩家畜市場)	記念物	遺跡	
550	10	55	猿田彦大神の碑(新川)	記念物	遺跡	
551	10	56	蟹荒神様	記念物	遺跡	
552	10	57	雁島橋	有形文化財	建造物	
553	10	58	萩橋	有形文化財	建造物	
554	10	59	しろうお漁（四ツ手網漁）	文化的景観		
555	10	60	恵美須ヶ鼻造船所跡	記念物	遺跡	
556	10	61	香川津二孝子	無形の民俗文化財		
557	10	62	香川津二孝子の墓	記念物	遺跡	
558	10	63	元萩重工の柱	記念物	遺跡	
559	10	64	東萩駅	有形文化財	建造物	
560	10	65	新川の歴史	無形の民俗文化財		
561	10	66	門司税関 萩税関支署	記念物	遺跡	
562	10	67	新龍	有形文化財	歴史資料	
563	10	68	川外では珍しい住吉通り町	その他		
564	10	69	株式会社アリタ	その他		
565	10	70	野田鍛造所	その他		
566	10	71	井町こんにゃく店	その他		
567	10	72	有限会社 南工業所	その他		
568	10	73	中村酒造株式会社	有形文化財	建造物	
569	10	74	小丸山	記念物	遺跡	
570	10	75	山根 文季	その他		
571	10	76	山根 孝中(孝仲)	その他		
572	10	77	山根 正次	その他		
573	10	78	小野 為八	その他		
574	10	79	森 寛斎	その他		
笠山・越ヶ浜 越ヶ浜の自然と漁業集落の暮らしの文化						
575	11	1	越ヶ浜	文化的景観		
576	11	2	夕瀬港	文化的景観		
577	11	3	嫁泣港	文化的景観		
578	11	4	蔵島神社	有形文化財	建造物	
579	11	5	蔵島神社春の祭典（大漁祭り）	無形の民俗文化財		
580	11	6	蔵島神社管弦祭（海上にて）	無形の民俗文化財		
581	11	7	神輿の巡幸	無形の民俗文化財		
582	11	8	御旅所	記念物	遺跡	
583	11	9	昇殿巫女の舞	無形の民俗文化財		市指定
584	11	10	行者ヶ鼻	記念物	遺跡	
585	11	11	行者様のお祭り	無形の民俗文化財		
586	11	12	恵比須神社	有形文化財	建造物	
587	11	13	恵比須神社祭り	無形の民俗文化財		
588	11	14	恵比須講	無形の民俗文化財		
589	11	15	弘法山・弘法様	有形の民俗文化財		
590	11	16	弘法様のお祭り	無形の民俗文化財		
591	11	17	地藏様	有形の民俗文化財		
592	11	18	お地藏様のお祭り	無形の民俗文化財		
593	11	19	盆踊り	無形の民俗文化財		
594	11	20	お不動様	有形の民俗文化財		
595	11	21	荒神様	有形の民俗文化財		
596	11	22	千日参り	無形の民俗文化財		
597	11	23	墓地	記念物	遺跡	
598	11	24	神貴祭	無形の民俗文化財		
599	11	25	神楽舞	無形の民俗文化財		
600	11	26	隣組の結束	無形の民俗文化財		
601	11	27	お盆	その他		

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
602	11	28	中善寺（正法山）	有形文化財	建造物	
603	11	29	金鱗追恩塔	記念物	遺跡	
604	11	30	船乗りの墓	記念物	遺跡	
605	11	31	十七夜	無形の民俗文化財		
606	11	32	越ヶ浜のサル	記念物	動物	
607	11	33	石切り場跡	記念物	遺跡	
608	11	34	笠山石	記念物	地質鉱物	
609	11	35	幕末に作られた波止場跡	記念物	遺跡	
610	11	36	首なし地藏尊	記念物	遺跡	
611	11	37	休労泉記念碑	記念物	遺跡	
612	11	38	土管敷設の石垣	記念物	遺跡	
613	11	39	東山堤	記念物	遺跡	
614	11	40	共同水道給水栓	有形の民俗文化財		
615	11	41	配水タンク跡	記念物	遺跡	
616	11	42	カワ跡	記念物	遺跡	
617	11	43	酒屋のカワ跡と水神様	記念物	遺跡	
618	11	44	配水所	有形の民俗文化財		
619	11	45	貯水小屋	有形の民俗文化財		
620	11	46	猪熊・滑石水源地	記念物	遺跡	
621	11	47	嫁泣き節	無形の民俗文化財		
622	11	48	明治9年の大火	無形の民俗文化財		
623	11	49	精錬所の煙突と煙道	記念物	遺跡	
624	11	50	精錬所、波止場跡	記念物	遺跡	
625	11	51	越ヶ浜郵便局	記念物	遺跡	
626	11	52	大谷天然水族館	記念物	名勝地	
627	11	53	松洞	記念物	名勝地	
628	11	54	中善寺二十世・岸田雪城方丈	その他		
629	11	55	助産婦・和田ヨシ	その他		
630	11	56	はえ縄漁（アマダイ）	無形の民俗文化財		
631	11	57	はえ縄漁（フグ）	無形の民俗文化財		
632	11	58	逆網大敷組合	無形の民俗文化財		
633	11	59	和船競漕	無形の民俗文化財		
634	11	60	三条実美歌碑	記念物	遺跡	
635	11	61	野口雨情歌碑	記念物	遺跡	
636	11	62	蔵のある家	有形文化財	建造物	
637	11	63	弁柄塗の家	有形文化財	建造物	
638	11	64	弁柄格子の家	有形文化財	建造物	
639	11	65	門名	その他		
640	11	66	居住場所をいう門名	その他		
641	11	67	旧国名・都市をいう門名	その他		
642	11	68	県内の諸地をいう門名	その他		
643	11	69	先祖名をいう門名	その他		
644	11	70	女性名をいう門名	その他		
645	11	71	家格をいう門名	その他		
646	11	72	生業をいう門名	その他		
647	11	73	嘉名を言う門名	その他		
648	11	74	「姓と屋」形式の門名	その他		
649	11	75	命名事情未詳の門名	その他		
650	11	76	現在の門名と家の呼称	その他		
651	11	77	都野町筋	その他		
652	11	78	塩屋町筋	その他		
653	11	79	橋向	その他		
654	11	80	笠山	記念物	地質鉱物	
655	11	81	笠山山頂 展望台	記念物	名勝地	
656	11	82	都野豊之進	その他		
657	11	83	笠山登山道	文化的景観		
658	11	84	笠山山頂の噴火口	記念物	遺跡	
659	11	85	天然クーラー風穴群	記念物	地質鉱物	
660	11	86	笠山の植物（暖かくて寒い笠山）	記念物	植物	
661	11	87	笠山を北限とする植物	記念物	植物	
662	11	88	笠山を南限とする植物	記念物	植物	
663	11	89	笠山固有の植物	記念物	植物	
664	11	90	笠山椿群生林	記念物	植物	市指定
665	11	91	大ムクノキ	記念物	植物	
666	11	92	バクチノキ	記念物	植物	
667	11	93	炭焼窯跡	記念物	遺跡	
668	11	94	山側自然研究路	文化的景観		
669	11	95	海岸側自然探究路	文化的景観		

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
670	11	96	七浦七恵比須	無形の民俗文化財		
671	11	97	海道4000メートル	その他		
672	11	98	天然の水族館「明神池」	記念物	地質鉱物	国指定
673	11	99	奥ノ池	記念物	遺跡	
674	11	100	明神池の奥の風穴	記念物	地質鉱物	
玉江 海と陸の文化を結ぶ玉江の信仰と祭り						
675	12	1	権現様（玉江神社）	有形文化財	建造物	
676	12	2	天狗拍子	無形の民俗文化財		市指定
677	12	3	青年宿の仕組み	無形の民俗文化財		
678	12	4	青年宿の生活	無形の民俗文化財		
679	12	5	上組青年宿	記念物	遺跡	
680	12	6	中間組青年宿	記念物	遺跡	
681	12	7	角屋組青年宿跡地	記念物	遺跡	
682	12	8	下組青年宿	記念物	遺跡	
683	12	9	おしくらごう	無形の民俗文化財		
684	12	10	弁天様（蔵島神社）	有形文化財	建造物	
685	12	11	弁天祭り	無形の民俗文化財		
686	12	12	恵比須神社	有形文化財	建造物	
687	12	13	恵比須祭り（神楽）	無形の民俗文化財		
688	12	14	観音院	有形文化財	建造物	
689	12	15	延縄漁	無形の民俗文化財		
690	12	16	縄鉢	有形の民俗文化財		
691	12	17	フライキ（大漁旗）	有形の民俗文化財		
692	12	18	ワカメ干しの風景	文化的景観		
693	12	19	カノコユリ（鹿の子百合）	記念物	植物	
694	12	20	いかたっぷりXO醬・じゃこたっぷりXO醬	その他		
695	12	21	オミセンサマ（倉江神社）	有形文化財	建造物	
696	12	22	船酔い防止のまじない	無形の民俗文化財		
697	12	23	ナツミカン畑	文化的景観		
698	12	24	伊藤博文が本を読んだ石段	記念物	遺跡	
699	12	25	鉾山跡（倉江）	記念物	遺跡	
700	12	26	倉江浜	記念物	名勝地	
701	12	27	鳴き砂	記念物	地質鉱物	
702	12	28	タカラガイ	記念物	動物	
703	12	29	鉾山跡（青長谷）	記念物	遺跡	
704	12	30	光山寺	有形文化財	建造物	
705	12	31	時山直八誕生地	記念物	遺跡	
706	12	32	楞嚴寺	有形文化財	建造物	
707	12	33	梅屋敷跡	記念物	遺跡	
708	12	34	松林桂月	その他		
709	12	35	松林桂月誕生地（桂月庵）	記念物	遺跡	
710	12	36	白水小学校	有形文化財	建造物	
711	12	37	モリサマ（午ノ森）	記念物	遺跡	
712	12	38	荒神社	有形文化財	建造物	
713	12	39	地踊り	無形の民俗文化財		
714	12	40	道祖神社	有形文化財	建造物	
山田 伝統を次世代へつなぐ地域の輪						
715	13	1	山田の岩戸神楽	無形の民俗文化財		
716	13	2	神楽面	有形文化財	工芸品	
717	13	3	諏訪神社	有形文化財	建造物	
718	13	4	諏訪神社の祭礼	無形の民俗文化財		
719	13	5	天神様	有形文化財	建造物	
720	13	6	天神様の祭礼	無形の民俗文化財		
721	13	7	大山住神社	有形文化財	建造物	
722	13	8	大山住神社の祭礼	無形の民俗文化財		
723	13	9	しめ縄づくり	その他		
724	13	10	田中のお地藏様	有形文化財	建造物	
725	13	11	中河内のお地藏様	有形の民俗文化財		
726	13	12	殿河内のお地藏様	有形の民俗文化財		
727	13	13	九郎坊のお地藏様	有形の民俗文化財		
728	13	14	山田のホタル	記念物	動物	
729	13	15	玉江川	文化的景観		
730	13	16	ホタルまつりinやまだ	その他		
731	13	17	山田の炭焼き小屋	有形の民俗文化財		
732	13	18	人のつながり	その他		
木間 今も昔もお地藏様が見守る里 木間						
733	14	1	木間	その他		
734	14	2	木間菖蒲園	記念物	名勝地	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
735	14	3	旧森川菖蒲園（木間菖蒲園）	記念物	名勝地	
736	14	4	菖蒲園【のとり】（木間菖蒲園）	記念物	名勝地	
737	14	5	西菖蒲畑（木間菖蒲園）	記念物	名勝地	
738	14	6	木間の郷	記念物	名勝地	
739	14	7	鯨ヶ岳と清流	記念物	名勝地	
740	14	8	木間の田園風景	記念物	名勝地	
741	14	9	木間の雪景色	記念物	名勝地	
742	14	10	牛の放牧	文化的景観		
743	14	11	ホタル	記念物	動物	
744	14	12	満天の星空	記念物	名勝地	
745	14	13	野戸呂のお地藏様（出入口に座るお地藏様）	有形の民俗文化財		
746	14	14	西木間のお地藏様（出入口に座るお地藏様）	有形の民俗文化財		
747	14	15	桑の木のお地藏様（出入口に座るお地藏様）	有形の民俗文化財		
748	14	16	北木間のお地藏様（出入口に座るお地藏様）	有形の民俗文化財		
749	14	17	滝ノ河内のお地藏様	有形の民俗文化財		
750	14	18	学ヶ峠のお地藏様	有形の民俗文化財		
751	14	19	釜ヶ迫のお地藏様	有形の民俗文化財		
752	14	20	地藏盆	無形の民俗文化財		
753	14	21	地藏婚	無形の民俗文化財		
754	14	22	若宮神社	有形文化財	建造物	
755	14	23	若宮神社「風鎮祭」	無形の民俗文化財		
756	14	24	若宮神社秋祭り	無形の民俗文化財		
757	14	25	木間「神代の舞」	無形の民俗文化財		市指定
758	14	26	木喰上人作の神像2体	有形文化財	彫刻	
759	14	27	木喰上人作の如意輪観音菩薩座像	有形文化財	彫刻	
760	14	28	阿武将監（鎗立岩）	記念物	遺跡	
761	14	29	女屋敷	その他		
762	14	30	旧木間小中学校	有形文化財	建造物	
763	14	31	井上剣花坊の石碑	記念物	遺跡	
764	14	32	木間畜産団地（モーモーファーム）	その他		
765	14	33	萩焼無碍窯 古岡仙曉	無形文化財	工芸技術	
766	14	34	木間の郷 音楽祭	その他		
767	14	35	地域の運動会	その他		
768	14	36	木間菖蒲園まつり	その他		
769	14	37	たすけあい集荷	無形の民俗文化財		
770	14	38	木間のコシヒカリ	その他		
771	14	39	木間とうふ	その他		
772	14	40	木間の手作りみそ	その他		
773	14	41	木間のなすの辛子漬	その他		
774	14	42	木間の梅ぼし	その他		
775	14	43	木間のかきもち	その他		
776	14	44	木間のうりの粕漬	その他		
777	14	45	門名	その他		
三見 赤間関街道の宿駅町として発達した三見市と街道の変遷						
778	15	1	旧街道玉江坂御駕籠建場跡	記念物	遺跡	
779	15	2	旧街道中山の兄弟地藏	有形の民俗文化財		
780	15	3	旧街道中山の御米蔵跡	記念物	遺跡	
781	15	4	旧街道中山箕ノ越焼窯跡	記念物	遺跡	
782	15	5	旧街道床並の老里塚跡	記念物	遺跡	
783	15	6	旧街道の三見橋（通称眼鏡橋）	有形文化財	建造物	国登録
784	15	7	旧街道の暗渠（現国道下の手木川川の暗渠）	有形文化財	建造物	
785	15	8	旧宿駅町三見市	伝統的建造物群		
786	15	9	三見市の仁王像	有形文化財	彫刻	
787	15	10	三見市元仁王堂の鬼瓦	有形文化財	考古資料	
788	15	11	三見市の色雲寺（本陣）	有形文化財	建造物	
789	15	12	三見市の善照寺	有形文化財	建造物	
790	15	13	三見市の薬問屋三島屋	記念物	遺跡	
791	15	14	三見市の観音堂	有形の民俗文化財		
792	15	15	三見市目代所（駅）跡	記念物	遺跡	
793	15	16	三見市御高札場跡	記念物	遺跡	
794	15	17	三見郵便局発祥の地	記念物	遺跡	
大井 古代の息吹が今にいきづく阿牟（あむ）の里・大井						
795	16	1	七重天神社（菅原神社）	有形文化財	建造物	
796	16	2	清水の常滑系窯跡	有形文化財	建造物	
797	16	3	七重の畑で発見された石斧	有形文化財	考古資料	
798	16	4	陶棺片	有形文化財	考古資料	
799	16	5	すくも山板碑	有形文化財	考古資料	
800	16	6	大寺廃寺跡	記念物	遺跡	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
801	16	7	塔の心礎・礎石	記念物	遺跡	
802	16	8	光明寺山城跡	記念物	遺跡	
803	16	9	大応寺	有形文化財	建造物	
804	16	10	平井製簾所（名工）	無形文化財		
805	16	11	影向石	有形文化財	建造物	
806	16	12	大井八幡宮	有形文化財	建造物	
807	16	13	大井八幡宮の祭礼	無形の民俗文化財		
808	16	14	大井八幡宮の絵馬など	有形文化財	絵画	
809	16	15	大井八幡宮の参道	文化的景観		
810	16	16	阿武蔵夫誕生地・墓所	記念物	遺跡	
811	16	17	宮の馬場遺跡	記念物	遺跡	
812	16	18	塔の郷石棺群	記念物	遺跡	
813	16	19	市場神楽（大井市場信友会）	無形の民俗文化財		
814	16	20	大井最初の縄文土器	有形文化財	考古資料	
815	16	21	天長山城跡	記念物	遺跡	
816	16	22	天長山古墳跡	記念物	遺跡	
817	16	23	天長山高地性集落跡	記念物	遺跡	
818	16	24	天長山で発見された石斧	有形文化財	考古資料	
819	16	25	重地古墳群	記念物	遺跡	
820	16	26	皿山古墳	記念物	遺跡	
821	16	27	正楽寺	有形文化財	建造物	
822	16	28	条里制遺構	記念物	遺跡	
823	16	29	樋の本出土の弥生式土器	有形文化財	考古資料	
824	16	30	円光寺山経塚・経筒	有形文化財	考古資料	
825	16	31	円光寺山石棺	記念物	遺跡	
826	16	32	円光寺古墳・出土品	有形文化財	考古資料	県指定
827	16	33	円光寺穴観音古墳	記念物	遺跡	市指定
828	16	34	埴輪窯出土品	有形文化財	考古資料	
829	16	35	元寇の礎石	有形文化財	考古資料	市指定
830	16	36	荒人神社	有形文化財	建造物	
831	16	37	阿武松原	記念物	名勝地	
832	16	38	立岩	記念物	名勝地	
833	16	39	古湊の恵美須様	無形の民俗文化財		
834	16	40	鶴山	記念物	地質鉱物	
835	16	41	鶴山のグロ	記念物	遺跡	
836	16	42	森重家のタブノキ	記念物	植物	
837	16	43	湊古墳	記念物	遺跡	
838	16	44	港（湊）地区盆踊り（白河踊り）	無形の民俗文化財		
839	16	45	とび山石棺群	記念物	遺跡	
840	16	46	吉見正頼・広頼宝篋印塔	記念物	遺跡	
841	16	47	浦・後地地区の盆踊り	無形の民俗文化財		
842	16	48	三善康朝角柱碑	記念物	遺跡	
843	16	49	周鷹寺	有形文化財	建造物	
844	16	50	亀地藏	記念物	遺跡	
845	16	51	高倉様	有形文化財	建造物	
846	16	52	阿武松緑之助	その他		
847	16	53	撥石	記念物	遺跡	
848	16	54	相崎城跡	記念物	遺跡	
849	16	55	阿字碓の滝（柱状節理）の春夏秋冬・観音堂	記念物	名勝地	
850	16	56	和智東郊漢詩	記念物	遺跡	
851	16	57	弘誓寺跡	記念物	遺跡	
852	16	58	沢宣嘉卿の潜居跡	記念物	遺跡	
853	16	59	三明戸湧水	記念物	地質鉱物	
854	16	60	三明戸城（切山城）跡	記念物	遺跡	
855	16	61	本郷石棺群	記念物	遺跡	
856	16	62	本郷で発見された石斧	有形文化財	考古資料	
857	16	63	穴道政慶宝篋印塔	記念物	遺跡	
858	16	64	市道坂本橋線（沈下橋と河原の市道）	記念物	遺跡	
859	16	65	羽賀の翡翠曲玉	有形文化財	考古資料	
860	16	66	溶岩台地とくぼ地	記念物	地質鉱物	
見島 人の温かさに触れる自然と歴史の島・見島						
861	17	1	北灯台（長尾の鼻）	有形文化財	建造物	
862	17	2	観音崎（美しい風景）	記念物	名勝地	
863	17	3	かごうら（美しい風景）	記念物	名勝地	
864	17	4	ひみで海岸（美しい風景）	記念物	名勝地	
865	17	5	妙見田海岸（美しい風景）	記念物	名勝地	
866	17	6	高台からの景色（美しい風景）	記念物	名勝地	
867	17	7	観音平から眺める北灯台（美しい風景）	記念物	名勝地	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
868	17	8	福戸城址	記念物	遺跡	
869	17	9	石垣に囲まれた墓地	記念物	遺跡	
870	17	10	笠石	記念物	遺跡	
871	17	11	浪切不動尊	有形の民俗文化財		
872	17	12	観音崎 宇津観音堂	記念物	遺跡	市指定
873	17	13	見島神社	有形文化財	建造物	
874	17	14	住吉神社	有形文化財	建造物	
875	17	15	讃岐坊	有形文化財	建造物	
876	17	16	見島ウシ産地	記念物	動物	国指定
877	17	17	見島のカメ生息地	記念物	動物	国指定
878	17	18	ユリヤガイ	記念物	動物	
879	17	19	見島ジーコンゴ古墳群	記念物	遺跡	国指定
880	17	20	おしあいの館	その他		
881	17	21	見島の特産品	その他		
882	17	22	鬼楊子（大鳳）	有形の民俗文化財		
883	17	23	見島の郷土料理	その他		
884	17	24	ウニめし	その他		
885	17	25	グベ汁	その他		
886	17	26	セイ汁	その他		
887	17	27	ユニソーメン	その他		
888	17	28	チシャなます	その他		
889	17	29	フカの湯びき	その他		
890	17	30	ニナの辛し和え	その他		
891	17	31	きつまつ	その他		
892	17	32	見島の釣り	その他		
893	17	33	八町八反	文化的景観		
894	17	34	宇津の棚田	文化的景観		
895	17	35	見島のため池	有形の民俗文化財		
896	17	36	共同負債の記憶	無形の民俗文化財		
897	17	37	見島の方言	その他		
898	17	38	見島の年越しの風習	無形の民俗文化財		
899	17	39	見島の正月飾り	無形の民俗文化財		
900	17	40	バードウォッチングin見島	無形の民俗文化財		
901	17	41	麦うらし	無形の民俗文化財		
902	17	42	風揚げ大会in見島	その他		
903	17	43	見島の民謡	無形の民俗文化財		
904	17	44	ションガエー節	無形の民俗文化財		
905	17	45	共同一致の歌	無形の民俗文化財		
906	17	46	おばあちゃん達のたまり場	その他		
907	17	47	見島八十八ヵ所	記念物	遺跡	
大島 恵みの海と火山台地のヤマに育まれた元気な島						
908	18	1	大島	その他		
909	18	2	大島の古地図	有形文化財	歴史資料	
910	18	3	本村	その他		
911	18	4	赤穂瀬	その他		
912	18	5	七名塚（チンチキ堂）	有形文化財	建造物	
913	18	6	大島の七名伝説	無形の民俗文化財		
914	18	7	法華屋敷跡	記念物	遺跡	
915	18	8	屋敷神	有形の民俗文化財		
916	18	9	大島八幡宮	有形文化財	建造物	
917	18	10	大島八幡宮の六角形の宝塔	有形文化財	建造物	
918	18	11	大島八幡宮春季例祭（歳祝い）	無形の民俗文化財		
919	18	12	農神祭（虫送り）	無形の民俗文化財		
920	18	13	精霊流し（精霊様・精霊送り）	無形の民俗文化財		
921	18	14	盆踊り	無形の民俗文化財		
922	18	15	大島八幡宮秋季例祭	無形の民俗文化財		
923	18	16	大島みなとまつり	その他		
924	18	17	大師山（弘法大師）	記念物	遺跡	
925	18	18	蔵海軒	有形文化財	建造物	
926	18	19	八王子様	記念物	遺跡	
927	18	20	乗越観音堂	記念物	遺跡	
928	18	21	疫神社	有形文化財	建造物	
929	18	22	観音様	有形の民俗文化財		
930	18	23	お地藏様	有形の民俗文化財		
931	18	24	共同井戸と水神様	有形の民俗文化財		
932	18	25	カワ（水源地）	記念物	遺跡	
933	18	26	レトロな商店	有形文化財	建造物	
934	18	27	レトロな散髪屋さん	有形文化財	建造物	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
935	18	28	サルの門番（赤穂瀬前①）	有形文化財	彫刻	
936	18	29	ウサギの門番（赤穂瀬前②）	有形文化財	彫刻	
937	18	30	ウサギの門番（本村）	有形文化財	彫刻	
938	18	31	酒蔵・穀物蔵	有形文化財	建造物	
939	18	32	澤柳避難遺跡	記念物	遺跡	
940	18	33	「の」の字の石垣	有形文化財	歴史資料	
941	18	34	萩大島郵便局のポスト	有形文化財	建造物	
942	18	35	立派な石垣	有形文化財	建造物	
943	18	36	六島村役場跡	記念物	遺跡	
944	18	37	道路改修記念碑	記念物	遺跡	
945	18	38	ガンギ	有形文化財	歴史資料	
946	18	39	来人坂	有形の民俗文化財		
947	18	40	漁港の風景	文化的景観		
948	18	41	船のシンボル文字	有形の民俗文化財		
949	18	42	大敷網漁	無形の民俗文化財		
950	18	43	丸山と大島の水田	文化的景観		
951	18	44	龍の形の古木	記念物	植物	
952	18	45	第4幹線からの景色	文化的景観		
953	18	46	大島の安山岩	記念物	地質鉱物	
954	18	47	カンカン石	記念物	地質鉱物	
955	18	48	大島の石垣	文化的景観		
956	18	49	八郎兵衛落し	記念物	地質鉱物	
957	18	50	かまど	記念物	地質鉱物	
958	18	51	松島	記念物	地質鉱物	
959	18	52	1番穴・2番穴	記念物	地質鉱物	
960	18	53	潮ふき（潮吹穴）	記念物	地質鉱物	
961	18	54	海の中の火山（阿武火山群）	記念物	地質鉱物	
962	18	55	トノスとニッコウ	有形の民俗文化財		
963	18	56	ヤマの作業小屋	文化的景観		
964	18	57	ヤマからの景色	文化的景観		
965	18	58	ブロッコリー	その他		
966	18	59	葉タバコ	その他		
967	18	60	大島そば	その他		
968	18	61	ごま	その他		
969	18	62	いももち	その他		
970	18	63	萩の瀬つきあじ	その他		
971	18	64	萩のけんさきいか	その他		
972	18	65	サザエ・アワビ・ウニ（北浦のうに）	その他		
973	18	66	角寿司（押し寿司）	その他		
974	18	67	まぶりめし	その他		
975	18	68	のっぺい	その他		
976	18	69	ブロッコリーの漬物	その他		
977	18	70	磯物の汁	その他		
相島 日常とは違った、心豊かになるハートの形の島・相島						
978	19	1	相島	その他		
979	19	2	相島の地名（倭島）	その他		
980	19	3	江戸時代の相島	有形文化財	歴史資料	
981	19	4	半農半漁の相島の生活	無形の民俗文化財		
982	19	5	相島燈台	有形文化財	建造物	
983	19	6	相島八景	記念物	名勝地	
984	19	7	ライオン岩（相島八景）	記念物	名勝地	
985	19	8	通の鼻（相島八景）	記念物	名勝地	
986	19	9	大山（相島八景）	記念物	名勝地	
987	19	10	女柱（相島八景）	記念物	名勝地	
988	19	11	男柱と火崎（相島八景）	記念物	名勝地	
989	19	12	入海海岸（相島八景）	記念物	名勝地	
990	19	13	鶴の松島（相島八景）	記念物	名勝地	
991	19	14	相島港（相島八景）	記念物	名勝地	
992	19	15	神の手	記念物	名勝地	
993	19	16	観音様	記念物	名勝地	
994	19	17	相島八幡宮	有形文化財	建造物	
995	19	18	大蔵宮	有形文化財	建造物	
996	19	19	大日如来堂	有形文化財	建造物	
997	19	20	ハートの形の装飾	有形文化財	彫刻	
998	19	21	大石	有形の民俗文化財		
999	19	22	念仏講	無形の民俗文化財		
1000	19	23	大山まわり	無形の民俗文化財		
1001	19	24	港まつり	無形の民俗文化財		

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
1002	19	25	精霊ながし	無形の民俗文化財		
1003	19	26	秋祭り	無形の民俗文化財		
1004	19	27	風力発電機跡	記念物	遺跡	
1005	19	28	多目的集出荷場	記念物	遺跡	
1006	19	29	相島電気導入記念碑	記念物	遺跡	
1007	19	30	相島小中学校	有形文化財	建造物	
1008	19	31	忠魂碑	記念物	遺跡	
1009	19	32	郵便ポスト	有形文化財	建造物	
1010	19	33	相島風住居	有形の民俗文化財		
1011	19	34	葉たばこ乾燥施設	有形の民俗文化財		
1012	19	35	宮の甲水源地	有形の民俗文化財		
1013	19	36	舟津水源地	有形の民俗文化財		
1014	19	37	天水井戸	有形の民俗文化財		
1015	19	38	石垣道	有形の民俗文化財		
1016	19	39	石積みのだんだん畑	文化的景観		
1017	19	40	三中前掛	有形の民俗文化財		
1018	19	41	ツヅリ	有形の民俗文化財		
1019	19	42	アシナカ	有形の民俗文化財		
1020	19	43	ニッコウ	有形の民俗文化財		
1021	19	44	トノス	有形の民俗文化財		
1022	19	45	島の運搬車	有形の民俗文化財		
1023	19	46	葉タバコ	その他		
1024	19	47	サツマイモ	その他		
1025	19	48	焼酎イモ	その他		
1026	19	49	スイカ	その他		
1027	19	50	除虫菊	その他		
1028	19	51	ウニ	その他		
1029	19	52	ボベー（ヨメノサラ）	その他		
1030	19	53	サザエ	その他		
1031	19	54	アワビ	その他		
1032	19	55	相島の郷土料理	その他		
1033	19	56	まぶり飯（相島の郷土料理）	その他		
1034	19	57	あわもち（相島の郷土料理）	その他		
1035	19	58	粟がゆ（相島の郷土料理）	その他		
1036	19	59	いものもち（相島の郷土料理）	その他		
1037	19	60	いもけんど（相島の郷土料理）	その他		
1038	19	61	イモのつつき（相島の郷土料理）	その他		
1039	19	62	カボチャのつつき（相島の郷土料理）	その他		
1040	19	63	ヤハゼのなます（相島の郷土料理）	その他		
1041	19	64	島内の民話	その他		
1042	19	65	相島大運動会	その他		
1043	19	66	あいあいふあみーゆ	その他		
1044	19	67	相島のカスリ	有形の民俗文化財		
1045	19	68	アイちゃん・シマくん	その他		
川上 阿武川とともに生きた山里の歴史と営み						
1046	20	1	椿瀬の椿	記念物	植物	市指定
1047	20	2	椿瀬の梅林	記念物	植物	
1048	20	3	椿瀬神社・荒神様	有形の民俗文化財		
1049	20	4	椿瀬のお稲荷様	有形の民俗文化財		
1050	20	5	椿瀬のお地藏様・猿田彦様	有形の民俗文化財		
1051	20	6	旧立野小学校	有形文化財	建造物	
1052	20	7	旧八道文庫	有形文化財	建造物	
1053	20	8	横坂	その他		
1054	20	9	姥神様	有形の民俗文化財		
1055	20	10	神社入り口の碑	有形の民俗文化財		
1056	20	11	烏丸様御室	有形の民俗文化財		
1057	20	12	横坂 五輪塔婆	有形の民俗文化財		
1058	20	13	鳴海滝	記念物	名勝地	
1059	20	14	扇子落滝	記念物	名勝地	
1060	20	15	飛び石の六地藏（惣ノ瀬）	有形の民俗文化財		
1061	20	16	惣ノ瀬の荒神社	有形の民俗文化財		
1062	20	17	惣ノ瀬長者ヶ原	その他		
1063	20	18	惣ノ瀬寺床	その他		
1064	20	19	惣ノ瀬のお地藏様	記念物	遺跡	
1065	20	20	惣ノ瀬の五輪塔婆	記念物	遺跡	
1066	20	21	兜の浴	その他		
1067	20	22	神明社の祭り	無形の民俗文化財		市無形民俗
1068	20	23	中ノ原の石灯籠	有形文化財	建造物	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
1069	20	24	三休和尚建立石地藏	有形の民俗文化財		
1070	20	25	梅岳寺	有形文化財	建造物	
1071	20	26	梨羽家の墓	記念物	遺跡	
1072	20	27	梅岳寺庭園	記念物	名勝地	
1073	20	28	土肥次郎実平の祠	記念物	遺跡	
1074	20	29	銅鐘	有形文化財	工芸品	市指定
1075	20	30	若宮様	有形の民俗文化財		
1076	20	31	立野の猿田彦様	有形の民俗文化財		
1077	20	32	水神の柱	有形の民俗文化財		
1078	20	33	高岸の猿田彦様	有形の民俗文化財		
1079	20	34	京床	その他		
1080	20	35	京床の大蔵社	有形文化財	建造物	
1081	20	36	山田	その他		
1082	20	37	実相寺	有形文化財	建造物	
1083	20	38	雲谷派天井絵	有形文化財	絵画	市指定
1084	20	39	西国三十三観音霊場絵馬	有形文化財	絵画	市指定
1085	20	40	花卉図襖絵	有形文化財	絵画	市指定
1086	20	41	石造地藏菩薩	記念物	遺跡	
1087	20	42	小郷	その他		
1088	20	43	堂河内	その他		
1089	20	44	長谷	その他		
1090	20	45	長谷 観音様	有形の民俗文化財		
1091	20	46	地藏滝（長谷滝）	記念物	名勝地	
1092	20	47	相原	その他		
1093	20	48	青向け地藏（平助・権太）	有形の民俗文化財		
1094	20	49	玉泉寺	有形文化財	建造物	
1095	20	50	木造毘沙門天立像	有形文化財	彫刻	県指定
1096	20	51	毘沙門天立像脇立童子像・吉祥天女像	有形文化財	彫刻	市指定
1097	20	52	毘沙門堂内厨子	有形文化財	建造物	市指定
1098	20	53	毘沙門堂横のお社	有形の民俗文化財		
1099	20	54	お蚕さま 供養碑	有形の民俗文化財		
1100	20	55	篠場	その他		
1101	20	56	古民家 阿武酒店	有形文化財	建造物	
1102	20	57	遠谷	その他		
1103	20	58	ユズ及びナンテン自生地	記念物	植物	国指定
1104	20	59	挿し木杉	記念物	植物	
1105	20	60	おうと滝	記念物	名勝地	
1106	20	61	福昌院	有形文化財	建造物	
1107	20	62	熊谷	その他		
1108	20	63	舟戸	その他		
1109	20	64	船戸神社	有形文化財	建造物	
1110	20	65	中国電力佐々並川発電所	有形文化財	建造物	
1111	20	66	川舟（阿武川歴史民俗資料館展示）	有形の民俗文化財		
1112	20	67	筏渡し（阿武川歴史民俗資料館展示）	有形の民俗文化財		
1113	20	68	川漁（阿武川歴史民俗資料館展示）	有形の民俗文化財		
1114	20	69	養蚕（阿武川歴史民俗資料館展示）	有形の民俗文化財		
1115	20	70	川上の炭焼窯（阿武川歴史民俗資料館展示）	有形の民俗文化財		
1116	20	71	林業（阿武川歴史民俗資料館展示）	有形の民俗文化財		
1117	20	72	仙木谷	その他		
1118	20	73	笹尾	その他		
1119	20	74	笹尾 河内様	有形の民俗文化財		
1120	20	75	惣良台	その他		
1121	20	76	惣良台 神社	有形の民俗文化財		
1122	20	77	高瀬	その他		
1123	20	78	一ノ谷	その他		
1124	20	79	平家山	記念物	地質鉱物	
1125	20	80	足山	その他		
1126	20	81	鉈落滝	記念物	名勝地	
1127	20	82	大藤	その他		
1128	20	83	重堺岩	記念物	名勝地	
1129	20	84	発昌寺跡	記念物	遺跡	
1130	20	85	蟹瀬滝	記念物	名勝地	
1131	20	86	名前ナシ（蟹瀬滝の奥）	記念物	名勝地	
1132	20	87	江舟の河内神社	記念物	遺跡	
1133	20	88	野戸呂八幡宮	有形文化財	建造物	
1134	20	89	シラカシ	記念物	植物	市指定
1135	20	90	西涼山弘法大師堂	記念物	遺跡	
1136	20	91	矢櫃	その他		

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
1137	20	92	長者原	その他		
1138	20	93	長門峡	記念物	名勝地	国指定
1139	20	94	竜宮淵	記念物	名勝地	
1140	20	95	雪舟滝	記念物	名勝地	
1141	20	96	第二段魚爆	記念物	名勝地	
1142	20	97	白糸の滝	記念物	名勝地	
1143	20	98	北海洞門	記念物	遺跡	
1144	20	99	第一段魚爆	記念物	名勝地	
1145	20	100	紅葉橋	記念物	名勝地	
1146	20	101	自然百景	記念物	名勝地	
1147	20	102	下和留瀬	記念物	名勝地	
1148	20	103	上和留瀬	記念物	名勝地	
1149	20	104	佳景淵（掛の淵）	記念物	名勝地	
1150	20	105	高島洞門	記念物	遺跡	
1151	20	106	鈴ヶ茶屋	記念物	名勝地	
1152	20	107	瀬淵	記念物	名勝地	
1153	20	108	大谷淵	記念物	名勝地	
1154	20	109	舟入	記念物	名勝地	
1155	20	110	樋ヶ淵	記念物	名勝地	
1156	20	111	千爆洞口	記念物	名勝地	
1157	20	112	丁字川出会淵	記念物	名勝地	
1158	20	113	蟹瀬滝の絵（高島北海）	有形文化財	絵画	
1159	20	114	長門峡の絵（高島北海）	有形文化財	絵画	
1160	20	115	長門峡の絵（林百非）	有形文化財	絵画	
1161	20	116	長門峡島蔵園（吉田初三郎（屏風））	有形文化財	絵画	
1162	20	117	長門峡島蔵園（吉田初三郎（冊子））	有形文化財	絵画	
田万川 田万川のおたからを育んだ海彦・里彦・山彦						
1163	21	1	江崎のまるきぶね	有形の民俗文化財		国有形民俗
1164	21	2	西堂寺六角堂	有形文化財	建造物	県指定
1165	21	3	弁天様（蔵島神社）	有形文化財	建造物	
1166	21	4	長州安武郡江津浦略図（畧図）	有形文化財	絵画	市指定
1167	21	5	須佐地古墳	記念物	遺跡	市指定
1168	21	6	尻高山のたたら跡	記念物	遺跡	
1169	21	7	教専寺	有形文化財	建造物	
1170	21	8	教専寺の竜吐水	有形文化財	建造物	
1171	21	9	大蔵和上の伝説	無形の民俗文化財		
1172	21	10	松陰門下生富樫文周の墓（深江九郎の墓）	記念物	遺跡	
1173	21	11	江崎皿山焼とその窯跡	記念物	遺跡	
1174	21	12	北前船と江崎港	文化的景観		
1175	21	13	江崎港	記念物	名勝地	
1176	21	14	イワシの煮売り	その他		
1177	21	15	江崎沿岸の風景	文化的景観		
1178	21	16	吉岡 治	その他		
1179	21	17	長門ユズキチ原木	記念物	植物	
1180	21	18	前原一誠ゆかりの地	記念物	遺跡	
1181	21	19	海人の墓	記念物	遺跡	
1182	21	20	大谷家（津殿）の古文書	有形文化財	古文書	
1183	21	21	朝鮮漂流民の地藏墓	記念物	遺跡	
1184	21	22	酒樽墓	記念物	遺跡	
1185	21	23	武氏八幡宮	有形文化財	建造物	
1186	21	24	武氏八幡宮の懸仏	有形文化財	工芸品	市指定
1187	21	25	武氏八幡宮の神輿	有形文化財	工芸品	市指定
1188	21	26	武氏八幡宮の社叢	記念物	植物	市指定
1189	21	27	大江後神楽舞	無形の民俗文化財		市指定
1190	21	28	尊正寺のエドヒガン巨樹	記念物	植物	市指定
1191	21	29	三明のイトザクラ	記念物	植物	市指定
1192	21	30	平山星の城	記念物	遺跡	
1193	21	31	星の城と千人塚	記念物	遺跡	
1194	21	32	平山千人塚の一本桜（ヤマザクラ）	記念物	植物	
1195	21	33	足摺山観音石仏像	記念物	遺跡	
1196	21	34	龍鱗郷	記念物	地質鉱物	県指定
1197	21	35	平山台	記念物	地質鉱物	
1198	21	36	上の原	記念物	地質鉱物	
1199	21	37	原山台	記念物	地質鉱物	
1200	21	38	友信神楽舞	無形の民俗文化財		県指定
1201	21	39	木造釈迦如来坐像	有形文化財	彫刻	市指定
1202	21	40	紙本墨書 年徳の書	有形文化財	書跡・典籍	市指定
1203	21	41	団七踊り	無形の民俗文化財		

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
1204	21	42	J A山口阿武小川支所（旧小川村役場）	有形文化財	建造物	
1205	21	43	勝馬田八幡宮	有形文化財	建造物	
1206	21	44	塚穴古墳	記念物	遺跡	市指定
1207	21	45	妙権寺のイブキ	記念物	植物	市指定
1208	21	46	川井石棺（遺跡）	記念物	遺跡	
1209	21	47	六右衛門の顕彰碑	記念物	遺跡	
1210	21	48	叶屋の井戸	記念物	遺跡	
1211	21	49	こくしょう煮	その他		
1212	21	50	田万川沿いの田園風景	文化的景観		
1213	21	51	中世の山城群	記念物	遺跡	
むつみ			恵まれた自然地形と先人から引き継がれてきた田園風景、暮らしの証			
1214	22	1	アブサロカイト	記念物	地質鉱物	
1215	22	2	片俣念仏踊	無形の民俗文化財		
1216	22	3	大内義隆供養塔	記念物	遺跡	
1217	22	4	御舟湖の観音堂	記念物	遺跡	
1218	22	5	小国遺跡	記念物	遺跡	
1219	22	6	兵原	記念物	地質鉱物	
1220	22	7	国原	記念物	地質鉱物	
1221	22	8	御舟湖物語	無形の民俗文化財		
1222	22	9	川平溪谷と博打岩	記念物	地質鉱物	
1223	22	10	領家の弁天様	有形の民俗文化財		
1224	22	11	赤塚の墓跡	記念物	遺跡	
1225	22	12	大伝の地藏様	有形の民俗文化財		
1226	22	13	大蔵古墳	記念物	遺跡	
1227	22	14	羽月の清水池と水神様（羽月の名水）	記念物	地質鉱物	
1228	22	15	穴観音古墳	記念物	遺跡	県指定
1229	22	16	吉見正頼息女の墓	記念物	遺跡	市指定
1230	22	17	下城（陣館山）跡	記念物	遺跡	
1231	22	18	蔵目喜川	文化的景観		
1232	22	19	中ぐり石棺	記念物	遺跡	
1233	22	20	上城（要害が嶽）跡	記念物	遺跡	
1234	22	21	むつみ神楽	無形の民俗文化財		市指定
1235	22	22	道祖ヶ原遺跡	記念物	遺跡	
1236	22	23	若狭遺跡	記念物	遺跡	
1237	22	24	前尻ヶ原遺跡	記念物	遺跡	
1238	22	25	伏馬山	記念物	地質鉱物	
1239	22	26	東台	記念物	地質鉱物	
1240	22	27	伏馬山と田園風景	文化的景観		
1241	22	28	牟禮神社	記念物	遺跡	
1242	22	29	奥阿武宰判勘場跡	記念物	遺跡	県指定
1243	22	30	石州街道白坂道	記念物	遺跡	
1244	22	31	吉部市の町並み	伝統的建造物群		
1245	22	32	雲林寺	記念物	遺跡	
1246	22	33	雲林寺の鎮魂石	記念物	遺跡	
1247	22	34	吉部八幡宮のスギ	記念物	植物	県指定
1248	22	35	吉部八幡宮	記念物	遺跡	
1249	22	36	吉部市の清水池	記念物	地質鉱物	
1250	22	37	揚水施設（一号）	有形文化財	建造物	
1251	22	38	揚水施設（二号）	有形文化財	建造物	
1252	22	39	野田の火祭り	無形の民俗文化財		市指定
1253	22	40	虫枯大地蔵尊	有形の民俗文化財		
1254	22	41	八千代酒造	有形文化財	建造物	
1255	22	42	蛇淵	記念物	名勝地	
1256	22	43	大將陣山城（大將軍山城）跡	記念物	遺跡	
1257	22	44	茶臼山城（江良城）跡	記念物	遺跡	
1258	22	45	牟禮山（権現山）城跡	記念物	遺跡	
1259	22	46	岡田・江良遺跡（中世集落跡）	記念物	遺跡	
1260	22	47	千石台	記念物	地質鉱物	
須佐			幕末・明治維新と日本の近代化を支えた須佐			
1261	23	1	高山	記念物	地質鉱物	
1262	23	2	須佐湾	記念物	名勝地	国指定
1263	23	3	益田家墓所	記念物	遺跡	市指定
1264	23	4	益田館	有形文化財	建造物	市指定
1265	23	5	笠松神社	有形文化財	建造物	
1266	23	6	笠松神社石灯籠	有形文化財	建造物	市指定
1267	23	7	笠松神社鳥居	有形文化財	建造物	市指定
1268	23	8	育英館跡	有形文化財	建造物	
1269	23	9	育英館門 附 「育英館」 扁額	有形文化財	建造物	市指定

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
1270	23	10	育英館歴代学頭	その他		
1271	23	11	心光寺	有形文化財	建造物	
1272	23	12	談合岩	記念物	遺跡	
1273	23	13	大湊寺	有形文化財	建造物	
1274	23	14	松崎八幡宮	有形文化財	建造物	
1275	23	15	松崎八幡宮石灯籠	有形文化財	建造物	市指定
1276	23	16	大谷僕助	その他		
1277	23	17	南惣門跡・土塁	記念物	遺跡	
1278	23	18	西惣門跡	記念物	遺跡	
1279	23	19	高札場	記念物	遺跡	
1280	23	20	多根卯一	その他		
1281	23	21	益田家歴代領主肖像画群 附 紙本墨書益田家恒誓一幅	有形文化財	歴史資料	市指定
1282	23	22	須佐市中細見園	有形文化財	歴史資料	
1283	23	23	津田常名	その他		
1284	23	24	久原房之助	その他		
1285	23	25	久原波止場	記念物	遺跡	
1286	23	26	三蔭山神社	有形文化財	建造物	
1287	23	27	法隆寺と露兵漂着記念碑	記念物	遺跡	
1288	23	28	手塚猛昌	その他		
1289	23	29	全柳寺	有形文化財	建造物	
1290	23	30	熊野鉾山跡	記念物	遺跡	
明木			街道による人・物の交流と思いやりの中で生まれ栄えた明木のおたから			
1291	24	1	涙松跡（吉田松陰歌碑）	記念物	遺跡	
1292	24	2	悴ヶ坂	記念物	遺跡	
1293	24	3	悴坂駕籠建場跡	記念物	遺跡	
1294	24	4	鹿背隧道	有形文化財	建造物	国登録
1295	24	5	茶店跡（悴坂）	記念物	遺跡	
1296	24	6	水神様（原）	有形の民俗文化財		
1297	24	7	悴坂の石畳	記念物	遺跡	
1298	24	8	三戸石土橋	有形文化財	建造物	
1299	24	9	石積の棚田（原）	文化的景観		
1300	24	10	明木権現社跡（原公民館）	記念物	遺跡	
1301	24	11	松尾観音堂 明木七観音（第2番）	記念物	遺跡	
1302	24	12	茅葺の家（まつだ）	有形文化財	建造物	
1303	24	13	殉難三士の碑	記念物	遺跡	
1304	24	14	吉田松陰先生 短古の碑	記念物	遺跡	
1305	24	15	御蔵跡	記念物	遺跡	
1306	24	16	西来寺	有形文化財	建造物	
1307	24	17	彦六・又十郎伝	無形の民俗文化財		
1308	24	18	彦六・又十郎の碑（西来寺）	記念物	遺跡	
1309	24	19	彦六・又十郎の掛け軸（西来寺）	有形文化財	絵画	
1310	24	20	彦六・又十郎の活躍を詠う詩吟	無形の民俗文化財		
1311	24	21	法華会	無形の民俗文化財		
1312	24	22	明木図書館	有形文化財	建造物	
1313	24	23	明木図書館明城室	有形文化財	建造物	
1314	24	24	頌徳碑	記念物	遺跡	
1315	24	25	旧明木小学校校舎（牛地公民館）	有形文化財	建造物	
1316	24	26	町田梅之進自刃の地	記念物	遺跡	
1317	24	27	彦六の道の分岐点 一升谷七合目	記念物	遺跡	
1318	24	28	明木橋跡	記念物	遺跡	
1319	24	29	明木橋の橋脚の跡	記念物	遺跡	
1320	24	30	旧御高札場跡 旧春定札場跡	記念物	遺跡	
1321	24	31	萩往還・明木市の町並み	伝統的建造物群		
1322	24	32	御客屋跡（乳母の茶屋）	記念物	遺跡	
1323	24	33	御用屋敷跡（原家）	記念物	遺跡	
1324	24	34	目代所跡（大玉家）	記念物	遺跡	
1325	24	35	旧明木郵便局	有形文化財	建造物	
1326	24	36	中谷家	有形文化財	建造物	
1327	24	37	瀧口酒造	有形文化財	建造物	
1328	24	38	昔の町の地割	文化的景観		
1329	24	39	道標（上市）	記念物	遺跡	
1330	24	40	土蔵造りの家	有形文化財	建造物	
1331	24	41	藤井清	その他		
1332	24	42	瑞光寺	有形文化財	建造物	
1333	24	43	如水の筆塚	記念物	遺跡	
1334	24	44	原家	有形文化財	建造物	
1335	24	45	津守家	有形文化財	建造物	
1336	24	46	明木神社 明木八勝（旧菩山社）	有形文化財	建造物	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
1337	24	47	モミの木	記念物	植物	
1338	24	48	明木八勝園（富家雲嶺）	有形文化財	絵画	
1339	24	49	堂尾一里塚（山）跡	記念物	遺跡	
1340	24	50	御高札場春定札跡	記念物	遺跡	
1341	24	51	瀧口家屋敷	有形文化財	建造物	
1342	24	52	瀧口吉良（明城）	その他		
1343	24	53	松林桂月	その他		
1344	24	54	赤間関街道の分岐	記念物	遺跡	
1345	24	55	一升谷の石畳	記念物	遺跡	
1346	24	56	菅蓋又十郎誕生地	記念物	遺跡	
1347	24	57	茶屋跡（角力場）	記念物	遺跡	
1348	24	58	彦六・又十郎石碑	記念物	遺跡	
1349	24	59	分岐を守るお地藏様	有形の民俗文化財		
1350	24	60	彦六・又十郎三百年祭記念碑	記念物	遺跡	
1351	24	61	彦六の道	記念物	遺跡	
1352	24	62	根の迫石橋	有形文化財	建造物	
1353	24	63	五文蔵の石畳	記念物	遺跡	
1354	24	64	新切御駕籠建場跡	記念物	遺跡	
1355	24	65	旧明木図書館（下横瀬公民館）	有形文化財	建造物	国指定
1356	24	66	一里山跡	記念物	遺跡	
1357	24	67	明木八勝のうち、鞍見山	記念物	名勝地	
1358	24	68	雲雀山石畳	記念物	遺跡	
1359	24	69	一里塚跡	記念物	遺跡	
佐々並 萩往還の宿場町を中心に栄えた心のよりどころ、佐々並						
1360	25	1	吉田松陰先生 東送通過の碑	記念物	遺跡	
1361	25	2	金毘羅大権現	記念物	遺跡	
1362	25	3	吉山さん宅のお地藏様	記念物	遺跡	
1363	25	4	首切れ地藏	記念物	遺跡	
1364	25	5	石風呂（再現）	有形文化財	建造物	
1365	25	6	石風呂（実物）	有形文化財	建造物	
1366	25	7	一里塚（長瀬）	記念物	遺跡	
1367	25	8	逆修石	記念物	遺跡	
1368	25	9	吉田松陰先生史跡小公園	記念物	遺跡	
1369	25	10	氷室	記念物	遺跡	
1370	25	11	国境の碑	記念物	遺跡	
1371	25	12	正光庵	記念物	遺跡	
1372	25	13	正堂様	有形の民俗文化財		
1373	25	14	鐘馗様	有形の民俗文化財		
1374	25	15	お地藏様（長瀬）	有形の民俗文化財		
1375	25	16	お大師様 林道記念の碑	記念物	遺跡	
1376	25	17	宮島様【狩野様】	有形の民俗文化財		
1377	25	18	丸山	記念物	遺跡	
1378	25	19	掘割のお地藏様	有形の民俗文化財		
1379	25	20	大堤	記念物	遺跡	
1380	25	21	長谷（ながたに）分教跡 佐々並村立佐々並寺高等小学校長谷分校	記念物	遺跡	
1381	25	22	観音様（舞谷 矢落）	有形の民俗文化財		
1382	25	23	庚申様（舞谷）	有形の民俗文化財		
1383	25	24	人丸神社	有形文化財	建造物	
1384	25	25	観音様（舞谷 下舞谷）	有形の民俗文化財		
1385	25	26	舞谷控所跡	記念物	遺跡	
1386	25	27	舞谷集会所（舞谷分教場跡）	記念物	遺跡	
1387	25	28	庚申塚（舞谷）	有形の民俗文化財		
1388	25	29	きざき様	有形の民俗文化財		
1389	25	30	武者返しの石垣	有形文化財	建造物	
1390	25	31	えびす様	有形の民俗文化財		
1391	25	32	石仏様	有形の民俗文化財		
1392	25	33	庚申塔	有形の民俗文化財		
1393	25	34	地藏様（舞谷）	有形の民俗文化財		
1394	25	35	御前打ち	記念物	遺跡	
1395	25	36	弘法様（舞谷）	有形の民俗文化財		
1396	25	37	奥の院	有形の民俗文化財		
1397	25	38	火除様（舞谷）	有形の民俗文化財		
1398	25	39	金子さんの果樹畑	文化的景観		
1399	25	40	段七踊	無形の民俗文化財		
1400	25	41	水車跡	記念物	遺跡	
1401	25	42	競馬場跡	記念物	遺跡	
1402	25	43	観光農園 旭サンファーム	文化的景観		
1403	25	44	水神様	有形の民俗文化財		

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
1404	25	45	観音様（阿弥陀堂） 木造阿弥陀如来坐像・木造二天立像	有形文化財	彫刻	市指定
1405	25	46	六所神社	有形文化財	建造物	
1406	25	47	火除様（大下）	有形の民俗文化財		
1407	25	48	多宝坊	記念物	遺跡	
1408	25	49	庚申塚（申田彦大神）	有形の民俗文化財		
1409	25	50	五輪塔	有形文化財	建造物	
1410	25	51	陣所の横穴	記念物	遺跡	
1411	25	52	大櫓	記念物	植物	
1412	25	53	宗哲井出・宗哲の墓	記念物	遺跡	
1413	25	54	潜水橋	有形文化財	建造物	
1414	25	55	庚申塚（猿田彦大神）	有形の民俗文化財		
1415	25	56	大下岩戸神楽	無形の民俗文化財		
1416	25	57	佐々並市重要伝統的建造物群保存地区	伝統的建造物群		国選定
1417	25	58	佐々並橋	有形文化財	建造物	
1418	25	59	高札場跡	記念物	遺跡	
1419	25	60	土山豆腐店	記念物	遺跡	
1420	25	61	はやしや旅館	有形文化財	建造物	
1421	25	62	阿武秋森林組合佐々並出張所	有形文化財	建造物	
1422	25	63	畜魂碑	記念物	遺跡	
1423	25	64	かんらん淵	記念物	地質鉱物	
1424	25	65	石田理髪店	有形文化財	建造物	
1425	25	66	青水家	有形文化財	建造物	
1426	25	67	三浦酒造	有形文化財	建造物	
1427	25	68	大野家	有形文化財	建造物	
1428	25	69	安村家	有形文化財	建造物	
1429	25	70	市区公会堂	有形文化財	建造物	
1430	25	71	一里塚（市）	記念物	遺跡	
1431	25	72	貴布禰様（菅原神社）	有形文化財	建造物	
1432	25	73	道祖神（賽（さい）の神）	有形の民俗文化財		
1433	25	74	菩提の供養塔	記念物	遺跡	
1434	25	75	弘法様（市）	有形の民俗文化財		
1435	25	76	淵ヶ平の滝（市）	記念物	名勝地	
1436	25	77	淵ヶ平公園	記念物	名勝地	
1437	25	78	猿田彦と観音様	有形の民俗文化財		
1438	25	79	大平山部収林	文化的景観		
1439	25	80	避病院跡	記念物	遺跡	
1440	25	81	観音様（市）	有形の民俗文化財		
1441	25	82	荒神様（市）	有形の民俗文化財		
1442	25	83	猿田彦	有形の民俗文化財		
1443	25	84	台山	記念物	名勝地	
1444	25	85	萩往還（市）	記念物	遺跡	国指定
1445	25	86	佐々木家	有形文化財	建造物	
1446	25	87	野崎家	有形文化財	建造物	
1447	25	88	木村家（御客屋跡）	有形文化財	建造物	
1448	25	89	棚田（市）	文化的景観		
1449	25	90	ふれあい往還塾（佐々並村役場跡）	記念物	遺跡	
1450	25	91	林家（市）	有形文化財	建造物	
1451	25	92	椿家	有形文化財	建造物	
1452	25	93	大津家・三浦家	有形文化財	建造物	
1453	25	94	小林家（目代所）	有形文化財	建造物	
1454	25	95	佐々並地区古写真	有形文化財	歴史資料	
1455	25	96	土山家跡	記念物	遺跡	
1456	25	97	田中家	有形文化財	建造物	
1457	25	98	佐々並川	文化的景観		
1458	25	99	尻かけのお地藏様	有形の民俗文化財		
1459	25	100	大樫の木（ウラジロガシ）	記念物	植物	市指定
1460	25	101	棚田（深瀬・成川）	文化的景観		
1461	25	102	荒神様（深瀬・成川）	有形の民俗文化財		
1462	25	103	六本松の切株	その他		
1463	25	104	弘法大師（深瀬・成川 深瀬）	有形の民俗文化財		
1464	25	105	馬頭観音・庚申塚	有形の民俗文化財		
1465	25	106	高野嶺の太木	記念物	植物	
1466	25	107	観音様（深瀬・成川 上成川）	有形の民俗文化財		
1467	25	108	河内様（深瀬・成川 深瀬）	有形の民俗文化財		
1468	25	109	西林寺（臨済宗建仁寺派）	有形文化財	建造物	
1469	25	110	弘法大師（深瀬・成川 後畑）	有形の民俗文化財		
1470	25	111	本覚院跡	記念物	遺跡	
1471	25	112	鳴川のお地藏様	有形の民俗文化財		

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
1472	25	113	おとら淵	記念物	地質鉱物	
1473	25	114	荒神様（河内様）	有形の民俗文化財		
1474	25	115	庚申塚（深瀬・成川）	有形の民俗文化財		
1475	25	116	深成公民館	有形文化財	建造物	
1476	25	117	六地藏（深瀬・成川）	有形の民俗文化財		
1477	25	118	観音様（深瀬・成川 中の原）	有形の民俗文化財		
1478	25	119	淵ヶ平の滝（深瀬・成川）	記念物	名勝地	
1479	25	120	河内様（深瀬・成川 中の原）	有形の民俗文化財		
1480	25	121	二宮尊徳像	有形の民俗文化財		
1481	25	122	弘法様（深瀬・成川）	有形の民俗文化財		
1482	25	123	さざんかの古木	記念物	植物	
1483	25	124	荒神様（高津）	有形の民俗文化財		
1484	25	125	庚申塚（高津 開作）	有形の民俗文化財		
1485	25	126	庚申塚（高津 高津下）	有形の民俗文化財		
1486	25	127	庚申塚（高津 高津上）	有形の民俗文化財		
1487	25	128	二所神社	有形文化財	建造物	
1488	25	129	高津荒神様	有形の民俗文化財		
1489	25	130	高津公会堂	有形文化財	建造物	
1490	25	131	お地藏様（高津）	有形の民俗文化財		
1491	25	132	大いちょうの木	記念物	植物	
1492	25	133	もみの木	記念物	植物	
1493	25	134	馬頭観音様（高津）	有形の民俗文化財		
1494	25	135	権現山	記念物	地質鉱物	
1495	25	136	長高公民館	有形文化財	建造物	
1496	25	137	長高小学校運動場跡（ゲートボール場）	記念物	遺跡	
1497	25	138	五百羅漢様	有形の民俗文化財		
1498	25	139	御大師山	記念物	地質鉱物	
1499	25	140	お旅所	有形文化財	建造物	
1500	25	141	吉敷地橋	有形文化財	建造物	
1501	25	142	ダツヤ山	記念物	地質鉱物	
1502	25	143	大内義隆 大寧寺への逃走路	記念物	遺跡	
1503	25	144	ブナの木	記念物	植物	
1504	25	145	長小野里山クラブ	その他		
1505	25	146	長小野神社	有形文化財	建造物	
1506	25	147	お寮（長小野多目的集会所）	有形文化財	建造物	
1507	25	148	六地藏（長小野）	有形の民俗文化財		
1508	25	149	コノの淵の大蛇民話	無形の民俗文化財		
1509	25	150	佐々並鉦山跡	記念物	遺跡	
1510	25	151	一本松と温湯	記念物	遺跡	
1511	25	152	油の埤	記念物	遺跡	
1512	25	153	田中利三郎顕徳碑	記念物	遺跡	
1513	25	154	男岳	記念物	地質鉱物	
1514	25	155	男滝・女滝	記念物	名勝地	
1515	25	156	天神様	有形の民俗文化財		
1516	25	157	地藏様（黒ヶ谷 古ヶ原）	有形の民俗文化財		
1517	25	158	黒ヶ谷公民館	有形文化財	建造物	
1518	25	159	吉ヶ原神社	有形文化財	建造物	
1519	25	160	井上庄屋跡	記念物	遺跡	
1520	25	161	塞の神	有形の民俗文化財		
1521	25	162	分教場跡	記念物	遺跡	
1522	25	163	黒ヶ谷神社	有形文化財	建造物	
1523	25	164	地藏様（黒ヶ谷）	有形の民俗文化財		
1524	25	165	カジャ淵	記念物	地質鉱物	
1525	25	166	観音山	記念物	地質鉱物	
1526	25	167	お地藏様（黒ヶ谷）	有形の民俗文化財		
1527	25	168	小松ヶ谷の観音様&地藏様	有形の民俗文化財		
1528	25	169	猿田彦大神	有形の民俗文化財		
1529	25	170	弘法様&地藏様	有形の民俗文化財		
1530	25	171	大谷宅の弘法様と地藏様	有形の民俗文化財		
1531	25	172	子安観音	有形の民俗文化財		
1532	25	173	石垣	記念物	遺跡	
1533	25	174	落合集会所（百万遍の数珠）	無形の民俗文化財		
1534	25	175	落合の石橋	有形文化財	建造物	国登録
1535	25	176	お台場	記念物	遺跡	
1536	25	177	滝の荒神様	有形の民俗文化財		
1537	25	178	荒神の滝	記念物	名勝地	
1538	25	179	庚申塚（久年）	有形の民俗文化財		
1539	25	180	山中邸（大石家）	有形文化財	建造物	

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
1540	25	181	山田家	有形文化財	建造物	
1541	25	182	弘中食品店	有形文化財	建造物	
1542	25	183	西岸寺とイロハカエデ	有形文化財	建造物	
1543	25	184	藤谷家	有形文化財	建造物	
1544	25	185	前田家（平木）	有形文化財	建造物	
1545	25	186	地神堂	記念物	遺跡	
1546	25	187	馬頭観音様（久年）	記念物	遺跡	
1547	25	188	前田家（犬鳴）	有形文化財	建造物	
1548	25	189	佐々並市（久年）の町並み	伝統的建造物群		国選定
1549	25	190	久年公会堂	有形文化財	建造物	
1550	25	191	山田家の納屋	有形文化財	建造物	
1551	25	192	堀家	有形文化財	建造物	
1552	25	193	林家（久年）	有形文化財	建造物	
1553	25	194	三浦家	有形文化財	建造物	
1554	25	195	小川家	有形文化財	建造物	
1555	25	196	郵便局	その他		
1556	25	197	萩往還道（久年）	記念物	遺跡	
1557	25	198	庚申様	無形の民俗文化財		
1558	25	199	御戸開き	無形の民俗文化財		
1559	25	200	七草粥	その他		
1560	25	201	小正月（どんと焼き(14日)）	無形の民俗文化財		
1561	25	202	お日待ち	無形の民俗文化財		
1562	25	203	地神祭	無形の民俗文化財		
1563	25	204	節分	その他		
1564	25	205	祈年祭	無形の民俗文化財		
1565	25	206	荒神祭り	無形の民俗文化財		
1566	25	207	溝普請	無形の民俗文化財		
1567	25	208	貴布祢神社の火除け祭り	無形の民俗文化財		
1568	25	209	貴布祢神社の春季大祭	無形の民俗文化財		
1569	25	210	御大師様の接待	無形の民俗文化財		
1570	25	211	耕起・代かき	その他		
1571	25	212	六所神社春祭り	無形の民俗文化財		
1572	25	213	田植え	その他		
1573	25	214	田頭御幸	無形の民俗文化財		
1574	25	215	泥おとし	その他		
1575	25	216	五百羅漢様の掃除	無形の民俗文化財		
1576	25	217	佐々並ふさと祭り	その他		
1577	25	218	精霊流し	無形の民俗文化財		
1578	25	219	お地藏様のお接待	無形の民俗文化財		
1579	25	220	秋祭り（御立願解き）	無形の民俗文化財		
1580	25	221	稲刈り	その他		
1581	25	222	大豆の刈り取り	その他		
1582	25	223	貴布祢神社の秋祭り	無形の民俗文化財		
1583	25	224	六所神社秋季例祭	無形の民俗文化財		
1584	25	225	感謝祭、小祭り	無形の民俗文化財		
1585	25	226	佐々並おいでん祭	その他		
1586	25	227	新嘗祭	無形の民俗文化財		
1587	25	228	正月準備	その他		
1588	25	229	甘粥（あまぎゃあ）	その他		
1589	25	230	石州瓦	有形文化財	工芸品	
1590	25	231	地藏婚	無形の民俗文化財		
福栄 深い山々にいざなわれた信仰の里						
1591	26	1	羽賀台	記念物	地質鉱物	
1592	26	2	権現山	記念物	地質鉱物	
1593	26	3	金峯神社	有形の民俗文化財		
1594	26	4	黒川八幡宮	有形の民俗文化財		
1595	26	5	竜戸神社	有形の民俗文化財		
1596	26	6	宝宗寺	有形文化財	建造物	
1597	26	7	木造延命地藏菩薩立像	有形文化財	彫刻	市指定
1598	26	8	木造不動明王立像	有形文化財	彫刻	市指定
1599	26	9	平蔵地区芸能保存会の神楽舞	無形の民俗文化財		
1600	26	10	平蔵台	記念物	地質鉱物	
1601	26	11	平蔵台の雲海	記念物	名勝地	
1602	26	12	天越山	記念物	地質鉱物	
1603	26	13	東雲寺	有形文化財	建造物	
1604	26	14	正覚寺	有形文化財	建造物	
1605	26	15	願行寺	有形文化財	建造物	
1606	26	16	木造如意輪観世音菩薩坐像	有形文化財	彫刻	市指定

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
1607	26	17	木造阿弥陀如来立像(願行寺)	有形文化財	彫刻	市指定
1608	26	18	立木薬師如来像	有形文化財	彫刻	市指定
1609	26	19	木造聖観世音菩薩立像	有形文化財	彫刻	市指定
1610	26	20	坂部遺跡	記念物	遺跡	
1611	26	21	福井市の町並み	伝統的建造物群		
1612	26	22	金石山八幡宮	有形文化財	建造物	
1613	26	23	八頭様	有形文化財	建造物	
1614	26	24	金石山八幡宮のあたごさま	有形の民俗文化財		
1615	26	25	人丸神社(金石山八幡宮境内)	有形の民俗文化財		
1616	26	26	禪昌院	有形文化財	建造物	
1617	26	27	専正寺	有形文化財	建造物	
1618	26	28	半田の竈戸社	有形の民俗文化財		
1619	26	29	半田の子安観音	有形の民俗文化財		
1620	26	30	半田のお社	有形の民俗文化財		
1621	26	31	半田の恵美須様	有形の民俗文化財		
1622	26	32	木造文殊菩薩騎獅像	有形文化財	彫刻	県指定
1623	26	33	木造金剛力士立像	有形文化財	彫刻	市指定
1624	26	34	佛光寺楼門	有形文化財	建造物	県指定
1625	26	35	佛光寺の宝篋印塔	有形文化財	建造物	
1626	26	36	信盛寺	有形文化財	建造物	
1627	26	37	木造弘法大師立像	有形文化財	彫刻	市指定
1628	26	38	木造釈迦如来立像	有形文化財	彫刻	市指定
1629	26	39	木造阿弥陀如来立像(信盛寺)	有形文化財	彫刻	市指定
1630	26	40	扁額「實相山」	有形文化財	工芸品	市指定
1631	26	41	生眼八幡社	有形の民俗文化財		
1632	26	42	上野山芸能保存会の獅子舞	無形の民俗文化財		
1633	26	43	平原神楽保存会の神楽舞	無形の民俗文化財		
1634	26	44	長久寺	有形文化財	建造物	
1635	26	45	平舞台	記念物	地質鉱物	
1636	26	46	キリシタン祈念地	記念物	遺跡	
1637	26	47	鉄心寺跡・伴天連の墓	記念物	遺跡	
1638	26	48	三位一体像	記念物	遺跡	
1639	26	49	いぼ地藏	記念物	遺跡	
1640	26	50	堂ヶ市の人丸神社	有形文化財	建造物	
1641	26	51	城山の鎮守様	記念物	遺跡	
1642	26	52	西見山八幡宮	有形文化財	建造物	
1643	26	53	西見山八幡宮の神牛	記念物	遺跡	
1644	26	54	たたら師が寄進した西見山八幡宮の石段	有形文化財	建造物	
1645	26	55	長沢台	記念物	地質鉱物	
1646	26	56	黒須の石室	有形の民俗文化財		
1647	26	57	上野山八幡宮の陰陽石	有形の民俗文化財		
1648	26	58	上野山八幡宮	有形文化財	建造物	
1649	26	59	永井の守り地藏	記念物	遺跡	
1650	26	60	鍋山(宝鍋・大鍋)	記念物	地質鉱物	
1651	26	61	平原の地神様	有形の民俗文化財		
1652	26	62	平原の地神様(平原の龍神様)	有形の民俗文化財		
1653	26	63	34体の観音様	有形の民俗文化財		
1654	26	64	平原の用水路開通記念碑 と揚水施設設置記念碑	記念物	遺跡	
1655	26	65	紫雲山	記念物	地質鉱物	
1656	26	66	堀越社(堀越黄幡社)	有形文化財	建造物	
1657	26	67	小西見の小祠	有形の民俗文化財		
1658	26	68	小西見の猿田彦①	有形の民俗文化財		
1659	26	69	小西見の猿田彦②	有形の民俗文化財		
1660	26	70	小西見の猿田彦③	有形の民俗文化財		
1661	26	71	田中の猿田彦	有形の民俗文化財		
1662	26	72	田中の地藏	有形の民俗文化財		
1663	26	73	奥畑の荒神社	有形の民俗文化財		
1664	26	74	奥畑の猿田彦	有形の民俗文化財		
1665	26	75	西園寺	有形文化財	建造物	
1666	26	76	教専寺	有形文化財	建造物	
1667	26	77	永長山(法積院)	有形の民俗文化財		
1668	26	78	永長山(三十三番札所)	有形の民俗文化財		
1669	26	79	紫福八十八ヶ所霊場	有形の民俗文化財		

No.	地域 番号	文化財 番号	通称・名称	文化財種別	分類2	指定等区分
-----	----------	-----------	-------	-------	-----	-------